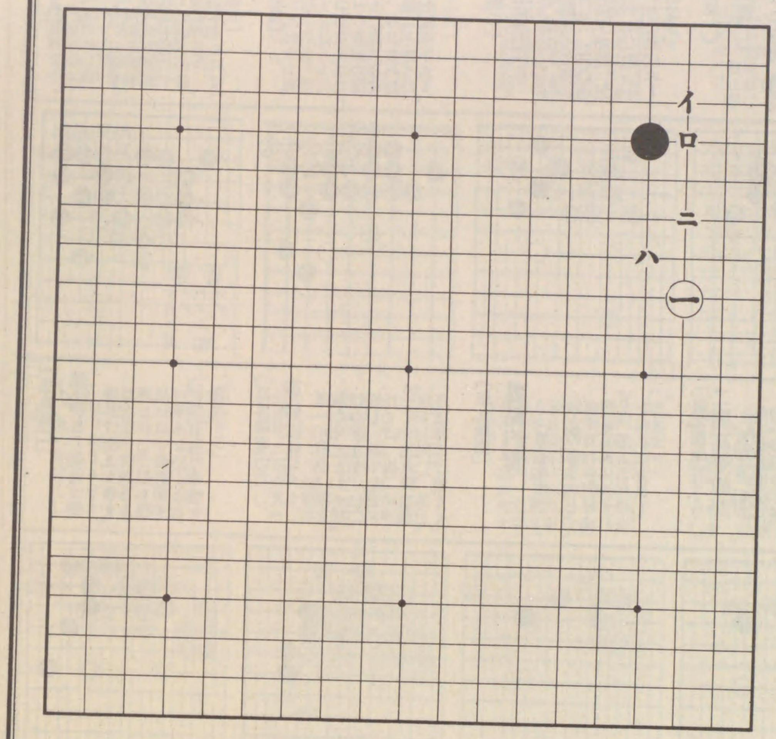
〔三九四六〕
基本原圖
白大々斜走懸り



白一と大々斜走に懸る手あり、此懸りは、イの打込には、遠くして不便の位置にあれど、ロの附には、適當の地點にあり。然し之をハの二間高懸りと同樣、ニの小斜走懸りに比する時は、イ、ロ共に及ばず。只中央經營には、ニ、或はハより優れり。

〔三九四七〕
基本圖
（第五八型）

定法
白の一の懸りに對する黒の對策には二イ或は手抜きの三法あり其の中、二の大斜走懸けは定型最も善し。

〔三九四八〕
基本圖
（第五八型イ）

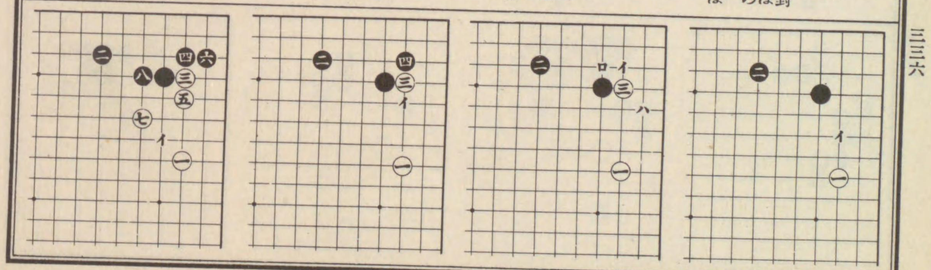
黒二の時白には三の附け、イの打込、ロの附け、イの走り、及び其の他の手段あり。

〔三九四九〕
基本圖
（第五八型イの一）

白三の時黒には四と隅を守る手と、イと白を隔て伐つ手との二法あり。

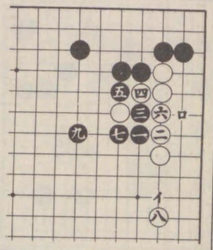
〔三九五〇〕
定石

黒四、六定型。次に白七に斜走すれば黒八の筋善し、圖の黒は緩きが如くにしてイに敵然らず後黒はイに敵の虚を衝かんとする狙ひを伏す（次圖）



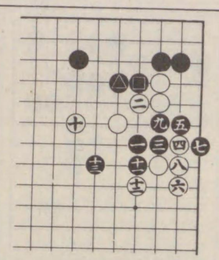
〔三九五一〕
場合の手段

黒一は黒にイ或はハとありしに後に打つ手にして早きに拓きて時は白八にして却つて黒五の手、悪しく若し征宜しければ、白ロで出れば、黒ロに切る、稍可なり。



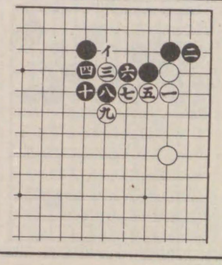
〔三九五二〕
白無理形なり

黒すでに單騎突撃して白陣の攪亂を企つ、然るに白は周章狼狽、二と曲つてAの一手を逃げ、Bの黒の堅壁に接着す、甚だ惡し。黒三と突破するに及んで、白の城砦潰亂す。



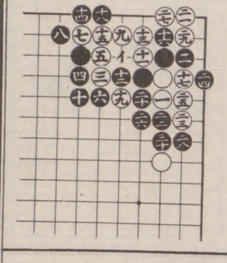
〔三九五三〕
黒利勢

白三に、輕騎を放ちて黒の動靜を偵ふ、黒四の押しは可なり。白五を八に引けば黒イにて安全。



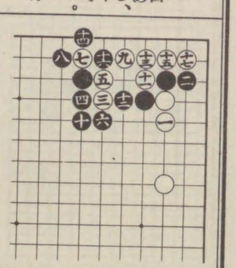
〔三九五四〕
白五に大敗す

白五大いに無理な手。白九の時、黒は十四を打たずして、單に十二、白は急所の爲、無念の三に屈す。斯くて黒十四、巧なり。



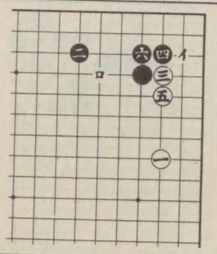
〔三九五五〕
黒優れり

十四に至つて、白も戰ひ遁れにあらざる局を看破し、打開に腐心して十時に利あり。此の形、白の隅の利は、黒の外の厚みに及ばず。



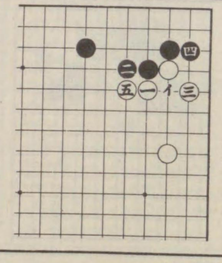
〔三九五六〕
定石

黒六に粘る手有り、隅の利はイの下りに及ばざれど、ロの方面の白の突撃には、黒は安全なり。



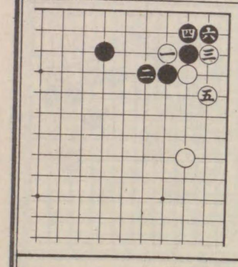
〔三九五七〕
白好まず

白一なれば黒二、次ねれば白三で四に綿と同じ又此の手をイに粘らば黒四にて善し。



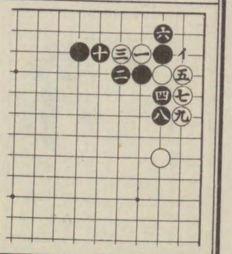
〔三九五八〕
白悪し

すはや白一と切り。あゝ凄味加はる風雲の音、殺氣滿場！人は手に汗を握つて凝視せり！而かも白には後圖策ありて遂に無く戰遂に利あらず。



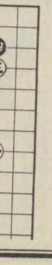
〔三九五九〕
黒堅實打易し

白三。黒は乃ち四而して六と、簡明なる捷徑を辿る。又初め白一をイに二段絞すれば、黒一に白五、白は地に低くて、四の長這を强ひらる。白悪し。



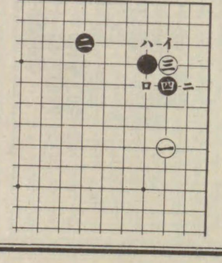
〔三九六〇〕
要點約言
（第五八型イの一）

白三に附ければ、黒四に約へて隅は安全なり。加之、黒は打易き形となる。



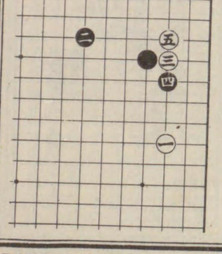
〔三九六一〕
基本圖
（第五八型イの二）

黒四は、白の一と三を隔て撃たんとする强行手段なり。此時、白のイ、ロ、ハ及びニの應けにの四あり。



〔三九六二〕
基本圖
（第五八型イの二變化）

黒四の時、白には五と行びる手あり。



〔三九六三〕
定　法

黒一と約へる手、善し。此時、白にはイとロとの手段あり。（黒一の約への變化は四〇四五圖以下にあり）。

〔三九六四〕
定　石

黒いまや六に下りぬ。此時、白は七、九と活きる手最も普通なり。黒は斯くて八に構へ、尊斯いて十に夾攻す。此形、黒攻撃を專とする場合、此一段善し。

〔三九六五〕
黒確なり

白六無理なり。而して九は、七と形に於かる。常斯なら十四を十五と守りを固うす。八までの白、自滅の外無し。

〔三九六六〕
黒可なり

白いまや六に飛び、密にふ。黒乃ち七に覗いて之を防ぎ、攻撃精神を以て九に迫撃す。

〔三九六七〕
黒厚く善し

白二は俗筋。見よ、黒三と行くるに及んで白イに切れたり。黒の缺陷緩和せらるゝ好手、白の六を誘つて七に整備す。黒の堅壘に威壓さる。

〔三九六八〕
黒確なり

黒一の手もあり、緩きやうなれど、七までの厚勢を導き堅實なり。加之、黒はイに續出す筋を狙ふ。（次圖）

〔三九六九〕
黒先劫

突如！黒一。戰雲俄に動く。白八を九なれば、黒イの劫要之、黒イの劫爭に勝つ自信の時に於いて、初めて打つべし。

〔三九七〇〕
要點約言
（第五八型イの二）變化

白五の時は、黒はイの約へ法なれど、若し外を攻めんとする場合は黒に一を攻めロ或はハの手あり。

〔三九七一〕
基本圖
（第五八型イの二）變化

白五は蒜を紛はしくせんとする手段、白として面白き策戰なり。

〔三九七二〕
定　石

黒六、八に應ければ、最も確なれど、此手、初めの黒四以下の趣意に反す。黒は強行手段に出づべし。

〔三九七三〕
參考圖

黒一、穩健なり。白は必ずしも此形に約へざるべからず。（四〇五四圖以下參照）。

〔三九七四〕
白低く、悪し

白前に強硬にロを見へ切り、黒の約變二の態度や軟弱なる態に出づ。笑ふべし。いまに酷しくロと四とに出づれば、白位なし。二、四と屆すは初めて打つべきの手なり。

〔三九七五〕
黒大に善し

白四、無理なり。黒は敵失に乘じ、七と擊つて白を敗走せしめ、また九を忽ち兵を旋して守りを固うす。八までの白、自滅の外無し。

〔三九七六〕
白ツブレ形

白十を十二に飛べば黒十一、白十四に黒イにて良し。黒十五となりし後に、白ロなれば黒ハ。又白ロをニになれば、黒ロ。何れにても黒の勝形歴然たり。

〔三九七七〕
分れ黒稍有利

白六をイと應けず、次にロの急を作りしは畑眼なり。白七では手抜きせば、黒ロに先手約へを爲すべし。又黒ロは手抜きせば、白ロを爲すべし。

〔三九七八〕
白、味悪し

白六の交換を強ひられて、白は遺しぬれば黒イの後患を貪はんとせば、意圖は諒とすべし、而かも奈何せん。

〔三九七九〕
黒厚く、善し

黒一、三は手強く、結果悪しからざれど、難じきに變化なし。生ず。難じきに用武の餘地なし。此時に於ては、白軍而かも遂に四、六を下して白の形勢を失ふ。

〔三九八〇〕
黒利勢なり

白四、六に出でても、十、五に至つては、や、大。黒の隅の實利十四までの白、ロの白、共に形薄し。黒十三は、白イの利きある所なれば、此場合善し。

〔三九八一〕
白無理形なり

白六も悪し。黒七に約へて陣容堅し。白八に引出して黒を左右に伐たんとするも、白弱卻つて黒の攻撃を受く。且つ、隅には劫殘れり（五八〇圖）。

〔三九八二〕
黒攻勢に出ず

白四、六と打つも、黒七となりて、白損なり。白十、無理至る。黒十五に攻むる形となりては黒優れり。

〔三九八三〕
黒堅實、善し

白四、手筋。白八で、イなれば黒ロに夾攻、なまじロなれば黒は伏れにイに守れば黒は白を攻立つ。なまじロの白を起して六なまじロの兵を旋して白七は内に厚堅の着なり。

〔三九八四〕
黒有利の分れ

白六なれば、黒七に善し。黒十三は切る手もあり。イと行れば、黒八を白十二、黒十三。

〔三九八五〕
中央戰となる

白四善し。黒五に尖み此形、變化いまや至難なり。兩軍死力を竭しての戰ふ。天地に至つて秋！九の嗔、形勢逆睹すべからず。

〔三九八六〕
得失時による

白八の時、黒九に粘つて六までの白を凝す。斯くて十五に至る。黒は中央の白に砲火を集中せんとしたるまでの白を、黒十三とせんとすの嗟平、戰機刻々に迫る！

〔三九八七〕
白大に優れり
彼我接戦とも分らざる時に黒の俄に元気を回復し、七の一打より白の八、九と折れたり。白勝ち決す。黒二三を取れば、白イに愈れば、白ロ。

〔三九八八〕
黒の形勢善し
白六、八の掛け、打過ぎなり。黒十五、十七、征に關係あり。（三九九四圖）に打てば、白四、二を四三に打抜くべし。その時は、隅の白死あり（次圖）。

〔三九八九〕
黒先白死
此變化の中、白四又白四を五に打つも黒四にて眼を得る手無し。

〔三九九〇〕
黒優れり
此變化の中、若し白征宜しければ、二を一に打て白勝なり。

四一ノ處 ツグ

〔三九九一〕
黒必勝の勢
白四と綽ぬは巧に數子を棄てたり。黒の城壁層々として嶮巖起し、右邊より起りて上邊に續ふ。其無限大邊の厚味や、心も言も及ぶべからず。

〔三九九二〕
黒必勝なり
白十四、大悪手なり。斯くて忽ち起る阿鼻叫喚の巷を展開し、黒は次に白の劫抛にも應ぜず、何の劫イに打抜いて大勝なり。

〔三九九三〕
黒妙手に倒る
黒三、悪しく白は傳家の寶刀、四、十一期の排つて四十一を引かば、黒二遂に四一を四に打て白一。黒四六を取り白四二を提り白イ。

〔三九九四〕
黒善し
征悪しき場合、黒は三に附け白十四と筋面を十七なれば、黒十五に綽れば、黒十五。

二五ノ處 トル

〔三九九五〕
黒好し
白十、六、止むを得ず之をイに約れば、黒ロ。（次圖）

〔三九九六〕
黒大に優れり
中央三一までの白は、根據を失つて前途多難なり。反之、黒三五の先鋒強く、黒中原戰に優位に立てり。

五八ノ處 ツグ

〔三九九七〕
參考圖
四〇六四圖以下參照
黒一に引く手あり善し。白二の時、黒も同じく三の引、手筋にして可なり。

〔三九九八〕
黒地確實なり
白四、而して黒五の抱へとなりては、白不利なる事明かなり。

〔三九九九〕
黒　勝
黒三に立つ手あり、斯く打つも黒悪しからず。

〔四〇〇〇〕
黒形勢良し
白十四の小活を餘儀なくせらるるに至つては、甚だ而白から ず。加之、◎の白は黒の堅壁に接して廊り、十六まで の白は據を失つて動くに從ひ損耗を重ぬんとす。

〔四〇〇一〕
白好し
此形白より六を利かされ、八に極めつけられ、十の當つてを打たる黒は凝形を餘儀なくせられしは、初め黒三、五の、悪手によりてなり。

〔四〇〇二〕
黒の勢善し
白二に引く手あり、次に黒三を四に約れば、四〇六四圖と同形。又黒征宜しき場合は圖の如く打つて、簡單に黒善し。黒十七、輕し。

〔四〇〇三〕
黒優勢
白十八に切りしてその一期の不覺なれ。黒十九より二七まで、◎と七を犧牲として巧に外圍を厚くす。黒の堅き白、黒の疊々近接して、戰々兢々たり。

〔四〇〇四〕
黒堅實、有利
白いまや、二、四、と打つ、同じく好まず。黒五の切り良し。白の時、黒十の堅し、十一に堅を持し、尻々として上十までの白と下◎の白とを狙ふ。

〔四〇〇五〕
黒堅實、有利
白六と綽ぬ、八と粘く。黒乃ち七の次に九と打抜きに善し。此形、得失前圖と略同じ。

〔四〇〇六〕
黒厚き形なり
黒が中を厚く打たんとする時は五、七に打つ手宜し。

〔四〇〇七〕
征に關係あり
白二、四、好まず。黒十一の次に白イと征に取られる場合は黒は五を當て、白五、六に黒七と打つべし。これまた黒利勢なり。

〔四〇〇八〕
黒必勝の勢
白八、十、と打つも黒十五ず肝に要の二子を打抜く必勝の勢なり。又白十をイなれば、黒十一、白十三、黒十二にて黒善し。

〔四〇〇九〕
黒　勝
黒一の時に白二に弛みしは大悪なり。黒三に至つては、白は刀折れ矢盡き遂に首級を敵に委ねたり。

〔四〇一〇〕
黒大に善し
白六而白し、されど、時利あらずして、白の功遂に成らず。白十をイに約れば、黒ロ白ニ黒ホ白ヘ黒ト白チとなりて、之も黒勝なり。

〔四〇一一〕白敗

白二も悪し。三に至つて黒の陣容整備す。白四の時、黒は猛然として五に撃出づ。白は悔恨、腸を断つ。白六をイなれば、黒七にて、白に手段無し。

〔四〇一二〕黒打易き形

白二は軽妙の手筋なり。されど○の切違ひ損なれば、結果は矢張り黒七、隅の堅と相呼応しの利を占めて△の白を夾攻す。白而白から

〔四〇一三〕黒善し

白四、打ずして、只六に綽る形なり。

〔四〇一四〕黒惨状を露出

あゝ、ものゝ哀れは秋そまさる。黒三、白四、斯くて黒の行く手に秋風充てり。白四以下十六まで、手筋の白が盛容は原にこの手筋の賜なり。

〔四〇一五〕参考圖

白の手段面白し

勝小野田千代太郎六段
二子　高橋重行三段
番　高橋重行三段

両氏の対局にあり。黒▣にある形。黒五は前變化の如く十に打つ手善し。

〔四〇一六〕黒嵌手に陥る

黒十五は十七に行びて徐々に攻むべし。白十八、善し。黒二三を二五なれば形。

㊀二ノ處
㊁劫トル

〔四〇一七〕白善し

黒十九、悪し。又十九を二十なれば、白二十、黒二三、白二六にて善し。白の數子を取りしも、白二八と形、最善し。

〔四〇一八〕互角の形勢

白の陣既に薄弱を暴露す。黒十五一撃を陥れんとして埋めすめ一徐攻の策を採りしは老巧なり。二縫の攻撃陣を誇る。黒は無

〔四〇一九〕要點約言

（第五八型イの二）
（第一一變）

此形、黒イは、穏健、白ハは、強手場合により佳手なり。黒單にニは、以外の手段に至りては多く黒好まず。若し右に至り

〔四〇二〇〕基本圖

（第五八型イの二）
（第三一變）

白五の二段絡の筋好まず。此時黒にイとロの應けあり。何れも結果黒善し。

〔四〇二一〕形勢互角

黒一、三、五と打て此形互角簡單なり。黒堅くなりし丈に打易し。

〔四〇二二〕黒優れり

黒三、次に五に粘る手あり。白六をイに約へなれば、黒イの八へ猶圖の如くなりとて白ロと切れば、形に、黒は不利なる場合は、白の征黒ニにて宜し。

〔四〇二三〕黒確なり

白六に曲れば、黒は七に二目提となりて、黒善し。

〔四〇二四〕黒必勝の勢

白六なれば黒七に二目を提るべし。此形白十二、黒十三となり、後、白に劫無き場合は、圖の如くなりて、白潰滅に近し。

㊀劫トル
㊁ツグ

〔四〇二五〕黒優勢なり

黒一も善し。白二をイに粘げば三九。黒六七圖と同じ。黒見に整陣を張る。黒九波乎たる右邊中原上邊一帯、黒軍の勢威や牢として抜くべからず。

〔四〇二六〕黒優れり

白二なれば、黒三、五に取るべし。黒イに打つ手もあり。黒十三確なり。

〔四〇二七〕要點約言

（第五八型イの二）
（第四一變）

白五は手筋に似たれども可ならず。此形黒はイ或はロと打つ手あり、何れによるも、黒善し。

〔四〇二八〕基本圖

（第五八型イの二）
（第四一變）

白五と二段に綽ねる手あり、手筋なり。

〔四〇二九〕定石

黒六は、イに行びる手と、斯く六に粘く手とあり。白七は手と粘く手は、結果ロに於て同じ様なれども、隅へ着手するには、七は、ロより優れり。

〔四〇三〇〕黒の形善し

黒五、軽敏の手筋なり。白六をイなれば、黒ロ。又白六はロなれども、黒イ。何れも、黒に調子を與へて、白好まず。

〔四〇三一〕黒厚く、善し

白二と引いて、黒三より七に至る。此形を望む先手に、白六と粘いで、黒に活きしも、黒に七には、掛粘ぎを許し、白の形甚だ悪し。

〔四〇三二〕白好まず

白二悪し。黒より三と當てられ、白四と粘がざるを得ず。斯くて此形を觀るに、白低くして早くも地の利を失ふ。

〔四〇三三〕黒厚壮

白六なれば、黒七に氣嶺に三の一子も生て三の躍動す。見よ、○の白接着して黒の堅陣に接着したる効力一、形は、既に其大半を失へり。

〔四〇三四〕白低く味悪し

白四、六と打つ。黒は乃ち七に綽ねて白の形を崩し、而して九の手筋を用ゆ。十一に至つて、黒厚壮。此形イ白ロ黒ハの筋あり。

〔四〇三五〕
白低し

黒一と行びる手もあり、之も黒面白し。此形次に白イに切れば、黒ロ、白ハ、黒ニ。

〔四〇三六〕
參考圖

三九六四圖以下と略同じ

白四をイに打てば黒ロ、白ハ、黒五となりて之は一層黒の外形厚し。

〔四〇三七〕
分れ得失無し

白二に綽れば黒三の應けなり。確なれば、白四を八なれば、黒六。又白四をイに粘げ、黒五、白七、黒六。

〔四〇三八〕
黒必勝の勢

白四、悪し。又白四を十一に打てば、黒五、白六、黒四にて黒善し。

〔四〇三九〕
黒必勝の勢

白十二を只十四に約れば、黒十三、白十八、黒十二、白イの時、黒はロに抱へて勢厚非なり。

〔四〇四〇〕
白優勢なり

關山利一四段
松林某子

兩氏の對局にあり。黒八は白一とある場合好まず。黒二は二六に二又黒三十は無論三一なり。

〔四〇四一〕
要點約言

（第五八型イの二變化）

以上の如く、白五は手筋なれども、次に黒にイ或はロと打たれて、此形白一の位置悪しく、白好まず。

〔四〇四二〕
要點約言

（第五八型イの一變化）

白三は、第五八型イの一ノギを主とし、白一のシ合によれば隅を破場らんとす。之に對し黒は、隅を堅くするには、イ。又白を攻むるにはロ。何れも黒可なり。

〔四〇四三〕
基本圖

（第五八型ロ）

白三は專ら隅を侵す手段、次に黒にはイとロの應けあり。

〔四〇四四〕
基本圖

（第五八型ロの一）

白一と大々斜走に定法なり。

〔四〇四五〕
基本圖

（第五八型ロの一變化）

白七は普通の應けなれど、之はイに切る手もあり。若し白七に綽れば、黒ロの二段綽にて黒打易し。

〔四〇四六〕
定　石

黒六、八は、常用の手筋、十四に至つて見るに、白一の石はイの所にて一も無くば不充分なれだけに、此圖は白面白からず。

〔四〇四七〕
白の形悪し

白いま四に粘ぎぬ。黒は猛然五と、雨を呼び風を捲き起し、て出撃す。嗟乎、人觸れなば人を斬り馬觸れなば馬を斬らん黒の勢や凄絶！

〔四〇四八〕
定　石

時に白は斯く打つ手あれども、先手に黒は外を包圍すること通の形勢にあり。て普は白悪し。黒十の掛粘善し。

〔四〇四九〕
黒優れり

白一、四も悪し。黒五の粘、一着よく、双方の切れを防ぐ、佳手なり。

〔四〇五〇〕
黒善し

白四、打過ぎなり。此形白に四の切あり、外圍黒は味悪しきも、隅は前に比して黒に利あり。

〔四〇五一〕
白潰滅の形

白十、十二大に無理。黒十七の次に白イなれば、無論黒ロ。又白イを八に劫取にて、白潰滅の勢なり。

〔四〇五二〕
黒七に潰敗す

此形白四を先にし、六の切とするに然るに黒七に提ぬ、悪し。八以下の白が攻陣、精彩に滿つ。

九粘

〔四〇五三〕
要點約言

（第五八型ロの一變化）

白七なれば、黒八と二段ぬべし。白イなれば綽ぬべし。黒ロに、白イなれば、次にハと又白ニの兩ニヲミに切れば、黒イ黒優れり。

〔四〇五四〕
基本圖

（第五八型ロの一）

白七に切る手あり。無理筋なれども、變化甚だ多し。

〔四〇五五〕
分れ黒稍有利

此形の征合にて黒の應に二種あり。若し黒征宜しく、黒は八に打つければ、又征宜しく場合に一は、白十六、惡圖の如く、黒十九、白十七、黒イに捉れば、白十四、黒ロにて持。

（以下研究）

〔四〇五六〕
黒攻合勝

白六、八に約れば、黒九にて攻合黒勝。

〔四〇五七〕
白大敗

白十四、夫れ亂れて忠臣出づとかや、危機に瀕して屬す。佳手は現る。黒七、佳し、黒十七、若しイに捉れば、白十九、黒ロ、黒十四にて持。

〔四〇五八〕
黒大に優れり

無れば兵出づるに名戰そのに故くばと敗るかや、白六以下は無理、妄動の嘱を免れず、黒三、三七、輕敵甚だ可なり

（矣劫トル）

【四〇五九】白軍大敗

白三十、無理なり。黒イと左へ一路開く、兩刃の戈、三三を望む呼、謙信公が「越山併せ得た能州の景一の感懐と、其差幾許？

（参）三三ノ處ツグ

【四〇六〇】黒厚く打易し

白二八と綽ね來る。黒二九以下の攻防、巧なり。

【四〇六一】黒好まず

黒十五惡し。黒は結局白軍塵殺の目的を遂げしも、白上面を厚くせらるゝことゝなつて形勢好しからず。勘定合つて黒や、錢足らざるの笑を如何にすべき？

【四〇六二】黒善し

黒五善し。形勢に黒常に劫を恐るべからず、斯かる白の讐隅から急に劇なる時機に入れば、斯かる白大なり。

【四〇六三】白無理なり

若し白に劫抛ありて、二に劫を返せば、黒はイ、ロの押しを劫抛に用ゐて宜し。

【四〇六四】互角の分れ

黒一と行ぶる手あり。之は前述の如く征關係による。若手なり。黒征宜しけれ（次圖）ば、黒三は次圖の如く打つも善し。

（注）二目提

（注）一目提返ス

【四〇六五】征の如何による

黒二七の時、若し前方に白の征の當る場合は、白四に約へて宜し、斯かる場合は黒一二十に惡しく、前變化一を「前變化べし。

（元）二ノ處

【四〇六六】黒勝

黒（手）以下は、黒征宜しき場合と假定しての變化。黒七の手順肝要なり。髪の際！黒は安危間一髪に勝つ、佳し。

（元）二ノ處ツグ

【四〇六七】黒必勝の形

黒白八、十惡し。十七より二三、十七より二三、手に延ば乃ち、黒二に三以下に絞り、五以下に利かす、更に白慘敗！黒數個の犧牲子は赫々たる武勳に輝く。

【四〇六八】黒勝

斯くなるも同じ。白大敗なり。

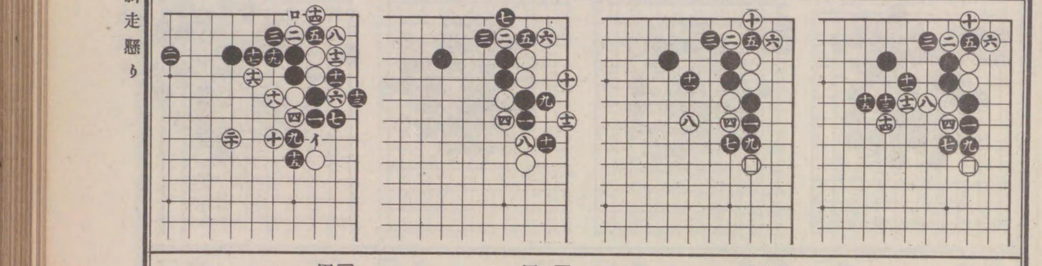
（元）二目トル

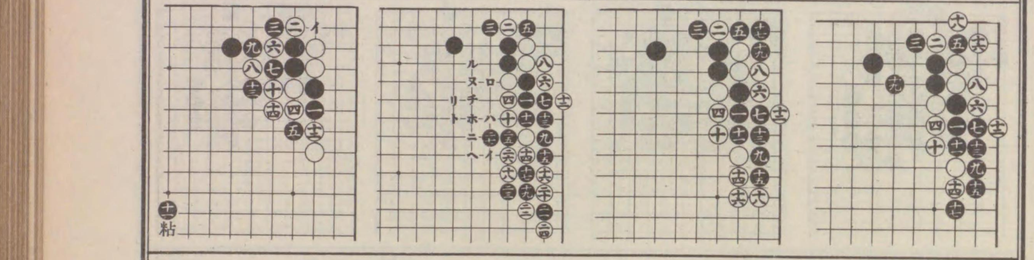
【四〇六九】黒必勝の勢

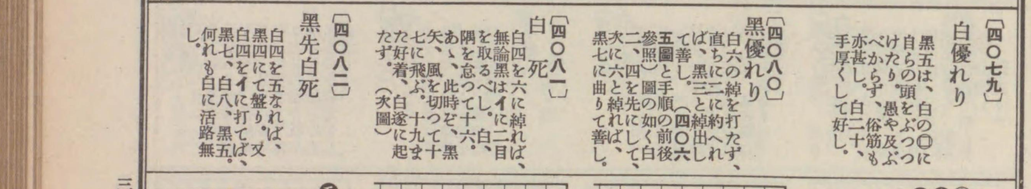
白十八、黒乃ち十九に綽ね、轉じて一以下、再轉して二七、二九と、白の二に對して黒や、將が戰場の狀、嗟乎、名持駒の天を元求むれば、之を正しく信か、信玄か？

【四〇七〇】黒大勝

若し黒が征惡しけれ（次圖）ば、白は二二を切つて勝ちなし。黒ハの結果は、黒ハを打つて後、黒イ、白ロ、黒ハにて、黒勝なり。







【四〇七一】白の委重し

白八なれば、黒九と粘り、以下十四まで相當なり。白の委重は病者の肺肝の如く、心臓は患者の肥肝の如く、歩行は、意之に反し、九まで委せず、黒の白を足下に踏んで意氣軒昂。

【四〇七二】黒の形善し

白八に打つも黒九に粘べし。あゝ八に置き浮泛なり、中央に浮泛し、死なり。斯かる急劇なる時機に際へ、一着の外勢の影響至大なり。

【四〇七三】黒却て敗る

天才と狂人とは、相距る一歩とか。何ぞ甚しく異らん。亦、巧と惡手とか。黒七は惡手。白八に約へし後、十二而して十二の妙手を打つ。

【四〇七四】黒利勢

白六と綽ねて後、八と約へるも惡し。黒十五まで悲しむべきなり、白は肝臓を碎きしとも、戰遂に利あらず。白四をイに切れば、黒ロに打抜いて勝。

【四〇七五】外勢、黒優る

白六、而して八に附けて、此場合手善。黒九に至つて眺むれば、外側十四まで駄目詰の形に威力あり。殆どの白の柵の如し。

【四〇七六】黒攻合勝

白十を十一に突當れば黒十三、白は隅との攻合の關係上十五に約へざるを得ず、黒乃ち十四の切、此時、此白、毒蛇に咬まれし如き痛苦に悶ゆ。

【四〇七七】黒勝

白十六、無理。白十八を只二十に行びる、黒二七に白二六、黒ニ白イ黒ロ白ハ黒ニ白ホ黒ヘ白二黒ト白チ黒リ白ヌ黒ル。

【四〇七八】黒陥穽に落つ

黒イの切を打たず五と綽ねる一手順惡し。後、差一生着の先手なり、差を碎きも今白二の綽ね一手俄然千金の價を破滅の淵に陥る。

【四〇七九】白優れり

黒五は、白の□に自らの頭をぶつけたり、愚や、俗筋も亦甚し、白二十、手厚くして好し。

【四〇八〇】黒優れり

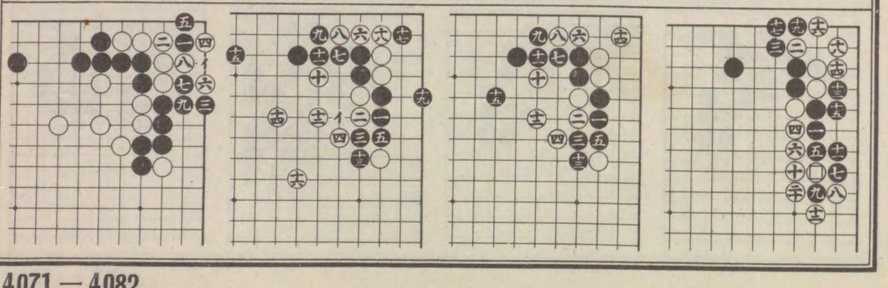
白六の綽を打へなば、直ちに二と綽出しれて善し。（次圖）四〇六と參照、手順果の前後、五圖と同の如く白二、四を先にして、次に六と綽れば、黒七に曲りて善し。

【四〇八一】白死

白四を六に綽れば、無論黒はイに二目を取るべし。白六、隅を忘つて十六、黒あゝ此時なほ切つて十九まで矢に飛ぶ、風の如く白四をイに打てば、黒七、白八、黒五。何れも白に活路無し。

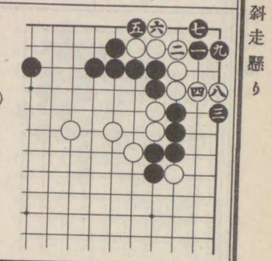
【四〇八二】黒先白死

白四を五なれば、黒四にて盤り、又白四にイに打てば、黒五。



〔四〇八三〕
黒先白死

白四なれば、黒五、七と打て死なり。

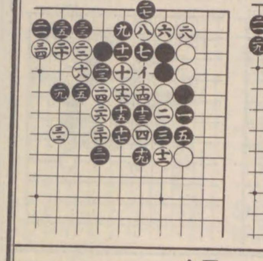


〔四〇八四〕
黒征に取る

黒十七は征關係の手なれども、固よりこの黒一は征宜しき場合と一假定して後の着手なり。（四〇六五圖參照）

〔四〇八五〕
白大敗

黒十七は二六に行くべく、次に黒十九と征に取るも勝なれど、又斯く打つも善し、黒二一妙、あゝ祖國の急を救ひしジヤンヌ・ダルクよ！



〔四〇八六〕
黒大に優れり

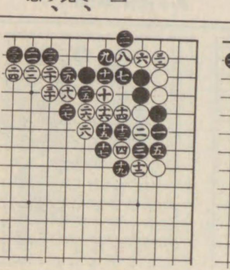
白いまや二二。黒二七の手順肝要、此手を二九に打てば、白イにて黒敗。（尤も之は征の如何によること勿論なり）

〔四〇八七〕
白三十に覆滅

白三十悪し。黒よりは既に二五、二九の七首を以て兩分さるゝた後、又此悪手を下す、敵殺戮を貫徹し、白の腹部を貫けり、白の非命を知るべきのみ。

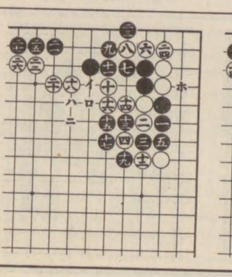
〔四〇八八〕
白悪し

白二二、黒乃ち二三に引き、二七に切て出で、二九に堅守す。此形白は隅に死あり、且つ外側も白味悪し。



〔四〇八九〕
黒善し

白二十は、黒イ白ロ黒ハ白ニにも資したる面白き手筋なれど、白二二で二五に約へる處なれば、白二手無きも亦効力無し。

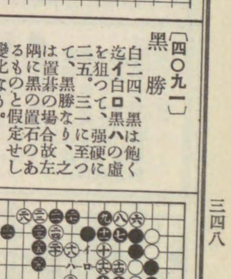


〔四〇九〇〕
白陥穽に落つ

白二二、無理なり。矢張り黒は二九をイと受れば、白は二八をイと受けんで戰ふ能はず、進んで退いて脱するも能はず、之を兵の窮地と云ふ。正に之れ境は白の地なり。

〔四〇九一〕
黒勝

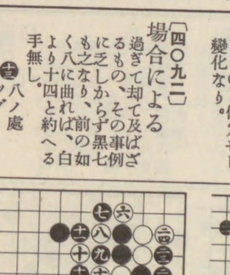
白二四、黒乞イ白ロを狙つて、強硬に三五と三一に至つて、黒勝なり、之れ置石の場合故隅に黒のあるものと假定せしものゝ變化なり。



〔四〇九二〕
場合による

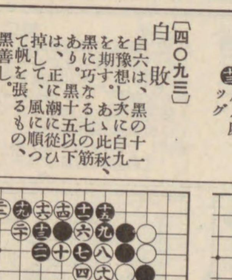
過きて却て及ばざるもの、その事例にも乏しからず黒七の如く、前へ曲れば、白より十四と約へる手無し。

士 八ノ處 ッグ



〔四〇九三〕
白敗

白六は、黒の十一を豫想して、次に白九を期す、此秋、黒に巧なる七の筋あり、黒十五以下は、正に潮に從ひて掉し、風に順ひて帆を張るもの、黒善し。



〔四〇九四〕
白手段に窮す

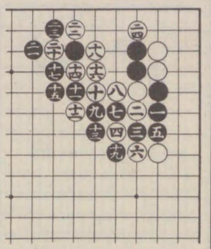
白十二、大に十三と必然。十四は捉へて十五、黒は七に綽綽たり。見渡せば、三方面の籠の鳥、拾れも氣衰ふ、殆ど收途無し、黒優れり。

士 劫トル

〔四〇九五〕
黒大勢を占む

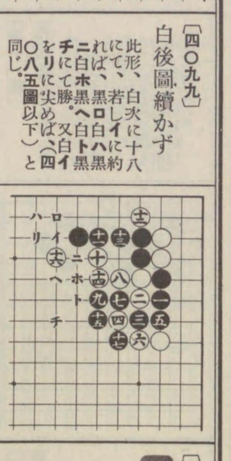
白六、無理なり。黒十一手筋、此形是より後は一手と動くに從つて妙機を生ず。

士 劫トル



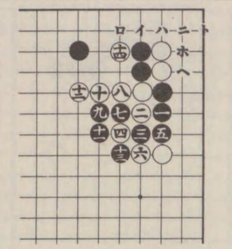
〔四〇九六〕
黒好まず

黒十一悪し。白十二斯く滾き出づべくもなし。滾ぎ出づべくもなし。黒が手段の泉、忽ち塞がる、白十四の後、黒は白ニに下り、白ロ黒ハ白ニ黒ホ白ヘ黒トと劫とする手あり。



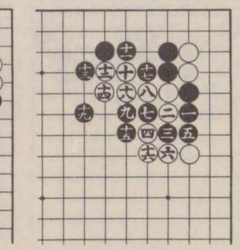
〔四〇九七〕
白十に破滅す

白十は、一見手筋に似たれども、十九に至つて白の大軍、捕虜となる。その昔、奉天の戰に「吾れ一包圍せられて退却せしクロパトキンを笑ひ得べきや？



〔四〇九八〕
黒十九の猛威

黒は十九の一打拔き、白は二四に打拔く、それは共に同じけれども、黒は細鱗の大魚の如く、白は鯨の潮を吹き、壯上げなりと云ふべし。

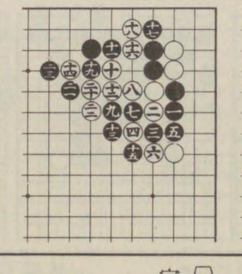


〔四〇九九〕
白後圖續かず

此形、白次に十八に約し、白イに約れば、黒ロ白ハ黒ニ白ホ黒ヘ白ト黒チにて勝、又白イを兩ロに尖めば（四〇八五圖以下）と同じ。

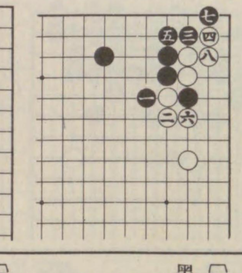
〔四一〇〇〕
黒の形善し

白十八までに黒の三子を取り、黒は左右に各一子を取るも、白の勢、黒の模、黒は朝暾の色に榮え、白は夕暾の憂色に衰を催す。



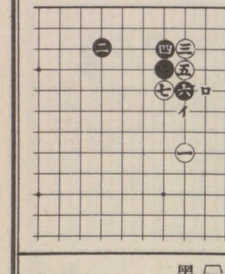
〔四一〇一〕
黒ヌルシ

あゝ、君、日本の小を以て元の大に對し、膽の太きや、相模太郎時宗が獅子吼を思はずや。然之れ反つて、三、腑小なる事に芥子粒の如きか。



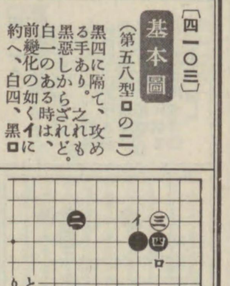
〔四一〇二〕
要點約言（第五八型ロの一）

（第一變）白七は無理、筋なれども、種々な變化あり、然し此形に於ては、白二に打過ぎなり、白十一に活れば、黒十一にカエ前圖よりも黒優れり。



〔四一〇三〕
基本圖（第五八型ロの二）

黒四に隔て、攻める手あり、之れも悪しからざれども、白一のあるは、前變化の如く、白四、黒ロと打つ方、形により見るも黒優れり。

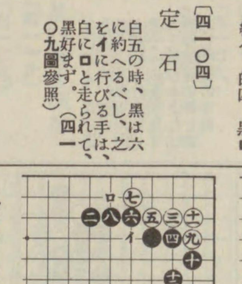


〔四一〇四〕
定石

白五の時、黒は六に約へ、之をイに行くべき手は、白ロと走られて、黒好まず（四一〇九圖參照）

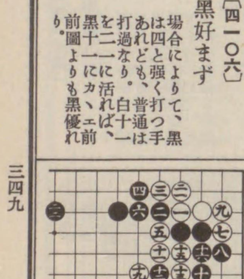
〔四一〇五〕
黒善し

此形黒先なれば、イと綽ね、白ロ、黒ハにて劫なり。



〔四一〇六〕
黒好まず

場合によりて、黒は四と強く打つ手あれども、普通は十一と打過ぎなり。白十一と黒十一に活れば、前圖よりも黒優れり。



〔四一〇七〕黒攻合勝

白十三、悪し。に、白十五に後手を喫し、黒十六に至つて、黒十二を二に結出せば、黒イ。

〔四一〇八〕黒勝

白七と引いて、黒に八の幾要を委す。白の手段宋譲の仁に異ならず。白十一を十二に下れば、黒イ白ロ黒ハ。

〔四一〇九〕白可なり

黒二、緩し。八までの形、白は、小斜走懸りの高懸りの又は二間高懸りの比し、黒壁に遠ざかれるだけ白優る。

〔四一一〇〕要點約言（第五八型ロの二）

黒四に約へれば、此形結局、白に活き、黒は外を約へ。拠斯くなるべし。後の黒の堅壁に遠かれる丈に、稍可なり。

〔四一一一〕基本圖（第五八型ハ）

白三、好まず。此變化は五三圖以下と略同じ。

〔四一一二〕黒優れり

此形、黒は一と隅より約へる手最も善し。

〔四一一三〕白無理なり

白二十と切つて出でしは、無理なり。黒は此隅二五に下りて悠々と活き得るを洞見し、二一以下神色自若として攻防の途を辿る。三三に至つて白破綻に直面す。

〔四一一四〕黒利勢なり

黒征宜しくして十一に逃出し得る場合は、以下十三と取るも、三に至る。先手脾睨を制し、白軍は悔の尾を踏むの思ひあり。

〔四一一五〕黒優れり

黒七に粘いで、白が十五方面への進出を阻む手あり。時に大に面白し。

〔四一一六〕黒堅實、善し

白二と切りぬ。白が小斜走懸りの時との錯覚とも見るべし。倒錯の症状に精神白既に呈し、十に至つて白、後手となり、且つ形重複す。

〔四一一七〕黒打易き形也

白は四と、黒の堅き方に駒を進む、あい、瓦の石に向ふが如く白悪し。黒十一に先だちて九と行びおき、勝つて兜の緒を締め慎重の手段。

〔四一一八〕要點約言（第五八型ハ）

白三好まず。黒四は此形に於ける最善の應答。於茲に白イなれば、黒ロ、又白イをハに切るも、黒ロにて、白に好手段無し。

〔四一一九〕基本圖（第五八型ニ）

白三と低く走る手あり。白一のシノぎには、此走り面白し。

〔四一二〇〕定石

黒四は外に五、イの應けあり、其中は三の白を下四辺に壓へる意味あり、最も善し。猶ほ黒十七までの形、次に白ロなれば、白ニ、黒ホ。

〔四一二一〕形勢逆睹難し

黒七、手強し、此時黒獨語すらく「白六までの小隅を除けば、普天の下、率土の演悉く是れ無しの領土に非ざるは無し」と。突如白八に反撃して黒の模様を破る。

〔四一二二〕黒優れり

白六に下れば、黒七に約へて宜し。十一に至つて、黒の一整陣堅つて詮つて、將に憫伏せんとす。

〔四一二三〕黒優勢なり

黒七の約へに、白八。黒は九に振し、次に十を以せんと一擧、白隅を塵殺す。黒十五に至つては、假令烏を鷺とも、吾れ紛ふ。黒の優勢を疑はず。

〔四一二四〕白打過の形也

白八、十、打過ぎなり。白十二との關時、黒は、係上イ又は四先手利を見て十三に躍進す。此形白若し黒イに置く筋あり。（次圖）

〔四一二五〕黒先白死

黒一は、咽喉の一突きにも比すべし。白一閃、白條忽として首命す。（五九二五圖參照）

〔四一二六〕黒善し

白は繊々として婦女子の如く、望郷の思ひ絶ゆる如く、難に進撃の好機に放イの薬を屈し、憤懣を忍びて節を盡し、既に分れたり。

〔四一二七〕白低く好まず

黒五、七と追撃壓追する手もあり。白を九なれば、黒イを九なれば、白イまたハを、黒ロなれば、白ニ、黒ホに形勝を占む。

〔四一二八〕參考圖

白二、手筋なり。斯く打てば四〇二八圖と同形なり。

〔四一二九〕黒の形善し

白二に替り、以下十二までの形、我優望すれば、彼劣勢なるも、如何も、白ロと三との交換、白ロの白、損。いはゞ前の絶壁、三は敵十を受く。

〔四一三〇〕持

白ロの危急を坐視、急ぎ、遽に救援、赴く。黒上は二の一隅に二の先手を打つ。斯く黒は厚富、白は薄弱。

〔四一三一〕
黒堅實、優勢
白いま六に斜走す。黒七以下白を壓して十三に至り、堂々たる厚みを作る。喰ひ足らざる黒は積善の家に餘慶に乏しく、白は積惡の門に餘殃に累されんとす。

〔四一三二〕
黒好形なり
白四と引き、黒に五の白の掛を許す。□の頭に受けて半死を状に落つ。假令、隅の六に活くとも、蛸が己の足を食つて生命を繋ぐの愚と異らんや。

〔四一三三〕
常形
九郎判官と時の棋聖梶原景あれ、逆櫓の論も一に白が二と退さし、黒三は小敵と見て侮らぬ堅實の構へ、之に約れば、白直にロに附け活きる手あり。

〔四一三四〕
白擬形
同じく退却するも、程こそあれ。白二と打ち黒三に四と粘さよ。これは□口と惜しさの間狹く、黒五は重複せり。黒イの手、確にして宜し。

〔四一三五〕
定石
黒此より變化す、白は分れ地に、黒は隅に十三に至り、堂々たる厚みを作る。此形三九五〇圖と略同じなれど、三、九五〇圖より黒四、白三の交換あるだけに黒稍劣る。

〔四一三六〕
白稍優れり
白六と恫愕す。猛く鷲の前の小雀の如く恐れては、忽ち九に守りを堅うす、緩し。七に至て十、白ロ、黒七、黒イ、白ロ、黒ハと逆襲すべし。

〔四一三七〕
場合の手段也
飛鳥川の淵瀬、常ならぬ世ぞ。いま黒三に切つて局機忽ち變ず、黒の志は外側にあり。普通は三の手なれど、ン抜きは白に十とボまず。

〔四一三八〕
之も一手段也
白十に粘ぎぬ、此時、黒十一は肝要の一着なり。斯て白五に至る。場合により黒イと逆襲するも宜し。

〔四一三九〕
征如何による
黒征宜しき場合は、十一までの運びを採るも宜し。若し黒の征悪しき場合は、黒ロに打つ位のものなり。然し此形黒好まず。

〔四一四〇〕
黒好形なり
白二好まず。白四は黒の六を待つ、それ迄の昔、白河法皇が、加茂川の水、双六の賽、山法師との、いわんや喰きも長し。黒五に切つて、白遂に志を得ず。

〔四一四一〕
黒厚壯なり
黒征宜しくば十三を普通十六もあれど、次に白一と打つて十三に普通斯く掛け筋面白し。嗟乎、隆々たる黒の勢威や、一望月の慶ぶこと、御堂關白の豪華を思ふ。

〔四一四二〕
黒手段に陷る
夫れ敵の謀に陷るは、兵の最悪手段。黒五は、黒の手段に陷れり。白は、黒九のイに行くも宜しく、又手抜るも時宜しきを得てるも宜し。一子を棄て二の一子を失はず。

〔四一四三〕
黒好まず
白六の時、黒七に反抗して出づ。これ、單竟、血氣旺にして思慮足らず。白に八、十と、打抜かれて黒形や悲慘。白既に堅陣、縦横の馳突が儘なり。思ふ。

〔四一四四〕
定石
黒四より變化す、夫れ千里の駒も伯樂を待ち、黒は四と備へて次に六と時機を待つ。後、白一を猛攻せんと要するなり。白七は黒五を點、次にイとロとを狙ふ。

〔四一四五〕
黒の手段面白し
白四に對して、黒は五以下白を壓す。兩軍虚々實々の神、籌數ずべし。黒七、九、十三、手筋なり。黒十一、白二二なれば、白イ。

〔四一四六〕
黒利勢なり
白は十六と馬を躍らせて黒の陣中に斬つて入る。川中島の戰に機山公に挑みくや。黒は風もかし不識庵の英此時、右邊の白堅きを棄つ。三の一子を見て輕妙なり。

〔四一四七〕
白善し
橋本宇太郎五段
六某氏子
兩氏の實戰圖。黒二は、イに受ける本手なり。此場合七に尖附ける筋最も好し。

〔四一四八〕
要點約言
（第五八型ニ）
白、三には、黒にイ、ロ、ハの應けあり。此中イ最も宜しく。ロは堅く。ハは一應隅を補つて次に一の白を攻撃せんとなり。

〔四一四九〕
基本圖
（第五九型）
前項容を整へて然る後に赴かんとする後に反し、この黒二は直ちに戈を敵に向けて、何時接戰に入ることをも辭せざるの着手。

〔四一五〇〕
定石
白三は、場合により、種々打方を異にす。

〔四一五一〕
常形
（前圖のつゞき）
之は前形に次と白一と打つて黒手抜之と次に白一と打つて黒手抜込みたる變化なり。黒四を五に退守せば、白黒六白九せにて、中の黒二子は本隊との連絡を絶たる。

〔四一五二〕
白敗北す
轉ばぬ先の杖、悔ひ前に立たず、五に輕率の一着を下して三の白遂に活きて三の白に敵に殺す。正に死を待たずしてイに行くも宜しく、又手抜るも時宜しきを得てるも宜し。一子を棄て二の一子を棄てるなり。

〔四一五三〕
黒堅實、好し
白五惡し。次に白九を、次に黒イ。白九れば、黒十に切れば、黒イ。何れも黒の隅は安全なり。

〔四一五四〕
黒善し
白一、打過ぎ。白は二、四と、蟻の出る隙も無く、堅防も無く、堅攻も強攻も利して、黒十と、右邊の白二。夫れの脚を襲ふ。しとは兵舉の教なり。

〔四一五五〕
白　死

白五、悪手なり。又四一五一圖に於て白初め五の打込、黒六となりし形にて、白一なれば、黒二にて、圖と同じ。

〔四一五六〕
黒好形

白三、五は、隅のイの筋を狙ひしも、稍重し。黒六、八、善し。即ち、共に厚イを防ぐと同時に、堅を圖り、上下の白を脅威す。

〔四一五七〕
白　死

白一は、打過ぎ。以下の白や、朝に生りてタに死するかげろふにも似たる哉！黒十の妙手にて忽ち死す。即ち、白十一を、イに打てば、黒十一、白ロ黒十四。

〔四一五八〕
劫

黒九と綿ねる手あり。隅の白は死をも、黒十、十八の加はりしたる□の白遂に駄着となれり。

（七）劫ノ處トル

〔四一五九〕
黒優勢なり

白十一。黒十二を白に手突出せば、隅は先取りなれど、窮鳥懐に入れば猟夫も之を殺すとかや。黒一、二、十四は損得よりも、只厚みを主とせし打方なり。

〔四一六〇〕
常　形

白一なれば、黒二、肝要。若し此手を、イなれば、白二、黒ロ、白ハ、黒ホ、白ニ、黒一に結、白ヘにて活。

〔四一六一〕
黒善し

黒十手強し。白十一、黒十二、恰かも馬上に取組みあひつつて落ちんとする如し。白三に、黒の右脚を絶ちしも、黒に三二と咽喉を刺さる。

〔四一六二〕
定　石

黒三より變化す、次に白四、黒四常形、五に綿込めば、黒六、良し。黒八、白十一、黒十二、恰かも馬上に取組みあひつつて落ちんとする如し。白三に、黒の右脚を絶ちしも、黒に三二と咽喉を刺さる。

〔四一六三〕
白　勝

白七に至る。接ぎ非常に酷になり。こゝに惜しむべし黒八に誤りぬ。白乃ち勇氣頓に引き、九に突當り、遂に十一に振りて、七に攻合の勝を制し、凱歌を揚ぐ。

〔四一六四〕
白善し

黒二までの堅壘に、白は寡兵を以て三と切つて入る。黒正に敵を擒破すべきなり。然るに黒四と佚みて八までの□の屈服を強ひらるゝ形に歸す。

〔四一六五〕
黒優れり

白三、五は手筋。白は、黒六の七に來るを待つ。期事魔多しとかや。黒六によりて、白の意圖は砂上の樓閣と崩れぬ。果て

〔四一六六〕
白悪し

之は四一六二圖と異り、外側黒堅きに、四一六二圖と故に、其の得失同日の論にあらず。

〔四一六七〕
黒有利の分れ

おゝ暴なる者、汝より！救出す白地獄より。男よ！粗暴なる者、黒十手強し。白十一、黒十二、恰かも馬上に取組みあひつつて落ちんとする如し。白三に、黒の右脚を絶ちしも、黒に三二と咽喉を刺さる。

〔四一六八〕
白に手段無し

流淌日夜東に流れ去りて愁人の爲に止まること能はず。往時再び來らず。何によりてか過ぎし往時を得む。あゝ、黒十敗戦の悲しさ、黒の白十に至つて上下遂に死を免れず。

〔四一六九〕
黒優れり

吾國に一片耿々愛國の熱情あり、敵が輕駕の來襲何ぞ恐れん、身を挺して國難に赴くべきの秋と、黒い敢然の四に反撃す。面白し。黒八肝要の一着。

〔四一七〇〕
白　敗

砲聲轟々、砲煙漠々！勝敗未だ明かならざるの理を以て十と白十二とを導いて黒十四と及び、黒十六と形勢を張る。無縫の好手順、春日麗かの景に好き哉！

〔四一七一〕
定　石

白三と一路深く入れば、黒四が定法。白七は小利にして悪手、黒は固めては却て十二へ下りて白十三に實に此形の要點なり。

〔四一七二〕
白に手段無し

流淌日夜東に流れ去りて愁人の爲に止まること能はず。往時再び來らず。何によりてか過ぎし往時を得む。あゝ、黒十敗戦の悲しさ、黒の白十に至つて上下遂に死を免れず。

〔四一七三〕
黒好手順なり

黒十而して十二の攻、白の十三及び十六と導いて黒十四と形勢を張る。黒が春日麗かの景に好き哉！

〔四一七四〕
定　石

黒三より變化す、次に白四、黒四常形、五に綿込めば、黒六、良し。黒八、白十一、黒十二、恰かも馬上に取組みあひつつて落ちんとする如し。白三に、黒の右脚を絶ちしも、黒に三二と咽喉を刺さる。

〔四一七五〕
黒大に優れり

右せんか左せんか、亡者は六に迷ふ。六道の辻。迷ひし白は、黒六の七に來るを待つ。期事魔多しとかや。黒六によりて、白の意圖は砂上の樓閣と崩れぬ。

〔四一七六〕
黒確なり

白一と、遠く大斜に走り、黒二と打てば、白の尖みを猶一路遠くイに打てば黒は手を抜いて宜し。

〔四一七七〕
要點約言
（第五九型）

黒二は直接白を攻む、手強し。次に、白イの應けよりは、三をロ、ハ、また三をニに打てば、黒は前變化の如く、隅を堅めながら白

〔四一七八〕
基本圖
（第六十型）

白大々斜走懸りに對する黒の變則應法

此種の黒の變則應法には、イ、ロ及び三つあり。是等の可否は、無論其局面の形勢如何による。

〔四一七九〕
參考圖

黒二は六子局以下の置碁にては面白き手段なれども、イに置石無き四、五子局以上に於ては此手好まず。

〔四一八〇〕
定石

他隅の關係にて、黒は時に二と夾撃する手あり面白し。

〔四一八一〕
黒の勢よし

白六なれば、黒七、九と白を隔て伐つ、可なり。黒十五肝要、此手無ければ、白イ、黒ロ、白ハ、黒ニ、白ホ、黒ヘ、白十九に切りシボル手あり。

〔四一八二〕
黒厚し

白二と走れば、黒三の尖附最も善し。（四一二〇圖以下參照）

〔四一八三〕
黒確なり

白に四、六、八と打たれし此形、普通黒好まず。されど、此形、黒は一隅に地を保ち且つ一及び三と打ち得たれば、黒も時に斯く打つ手あり。

〔四一八四〕
場合による

場合により黒は五、七と白を隔て攻むる手もあり。前圖攻勢、本圖は守勢、本圖攻勢、互に一得一失あり、只其局面に應ずれば可なり。

〔四一八五〕
參考圖

定石

黒二を手抜は、實戰に甚だ多し。黒四と打ち以下の變化は、一間應けの二三九四圖以下參照。

〔四一八六〕
場合による

黒二、四は、專ら隅を守る手段なり、場合による。

〔四一八七〕
黒好まず

黒二、四と、附け行ぶる定石は、此場合黒好まず。白五以下十三の□に在り、白が最好の點に至つて定石なりとも、其形勢により時に可否あり。

〔四一八八〕
參考圖

定石

二四手抜

白大々斜走懸りに黒手を抜き、白三と懸る時、黒更に手抜きして、他に打ち形。斯くて、白五に壓倒ず。八までは定石なり。

〔四一八九〕
黒確なり

白五を イ 九を ロ に打てば、又白九を黒五。黒は右を顧みず九に突出して善し。

〔四一九〇〕
黒優れり

白七、打過ぎ。黒は八に出て良し。黒イの利きを見て十に飛躍せし筋なり。白十五は手なり。また白十五は黒十五を何れも黒好し。

〔四一九一〕
常形

白一と單間飛して□の凭れを衝き、此に白イと八に流るゝが如く、將た天日の明るきを用ふるが如し。

〔四一九二〕
參考圖

白一と走りし時、黒更に手を抜くも善し。蓋し□の方綏漫にして、白の打つ次に更に一手を費すも□を取り切るを得ぬ故なり。

〔四一九三〕
參考圖

定石

白を黒一に夾攻、白二に走る。斯くて白八に至るや、烟眼なる黒は九及び十一。白餘儀なく十三に破れて、魔の劍を振つて十五以下二一。

〔四一九四〕
常形

白一と打込む。黒乃ち□の白を逐に俯瞰して二、斯く低くして七まで長這の餘儀なきに至らしむ。黒八、白九を十なれば、巧なる手順、白の黒イ。

〔四一九五〕
黒機變の好手

黒八は、此形に於ける機變の好着なり。最も善し。

〔四一九六〕
白嵌手に陷る

白十一、俗筋、甚だ惡手で、黒二十に尋いで、白イと征に取らるゝ場合は、白十九の次に黒ロ、白ハ、黒二十と打つ。（九）十ノ處ッグ

〔四一九七〕
定形

白一と一間に高くカれば、黒は手を抜くも宜しく、又打てば、黒二、次に四の飛、確なり。

〔四一九八〕
黒堅實、善し

白三と一間に飛べば、黒は四と附けて、八の白に凭れて結果、黒は同時に隅を確定し得たり。

〔四一九九〕
黒好形なり

白一と二間高懸りす。いまや、置石の黒の攻撃に對する白の砲火、前圖より更に緩し。此場合、最も宜しく、黒打つとせば、二の手最も確なり。

〔四二〇〇〕
黒優れり

白いま十一に下る。次に黒十二、四の乘石白面白しと雖も白五と綿ねれば、後に黒イを利して得る味あり。二二、二四至つて心寒々、黒は雄て意氣敵を呑む。

〔四二〇一〕
白惡し

白三、打過なり（此形大々斜走の中四一二圖以下參照）また白三を五に打込めば、黒イに約へるべし、此形も白無理なり。

〔四二〇二〕
黒確なり

白一の大斜走懸りにも、黒は手抜きが善し。また打つと如くして運ぶれば、圖の如く、黒隅を跨ぐ難攻不落の堅形にして、白を殺すの餘威及ぶ所左右の白を脅威す。

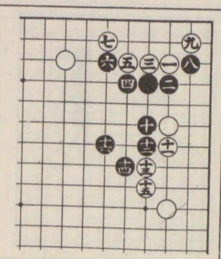
〔四二〇三〕
常形

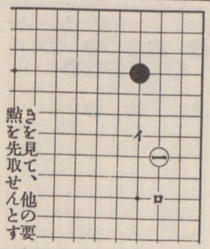
瀬越憲作七段
二子番勝篠原正美四段
當時

兩氏の對局圖
黒三着を手抜。
此分れ互角なり。

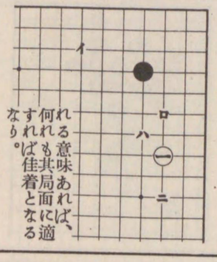
〔四二〇四〕
要點約言
（第六十型）

白一に對して、黒イ、ロの變則の打方に、手抜の三ッあり。イロは共に勢力を張らんとする時、手抜は一の懸りの隅に影響少





さを見て、他の要點を先取せんとするなり。

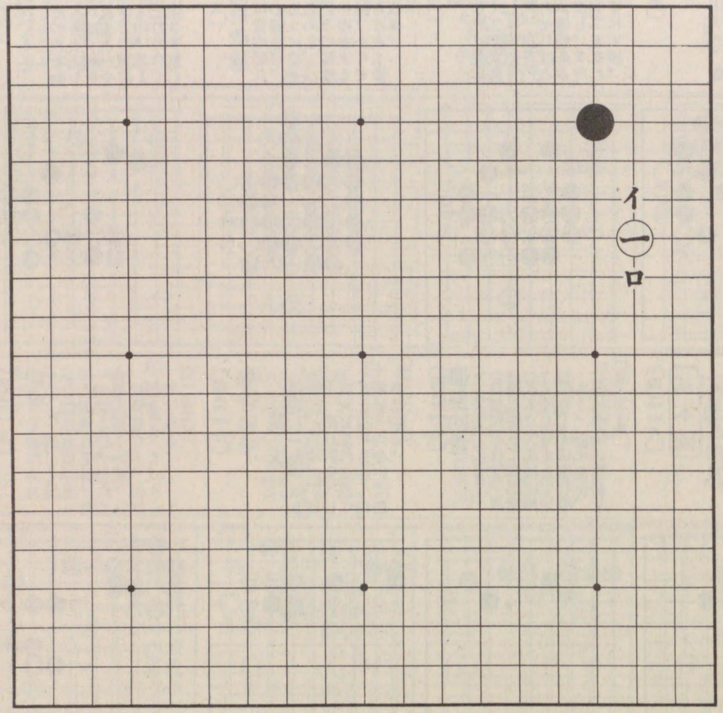


れる意味あれば、何れも其局面に適すれば佳着となるなり。

〔四二〇五〕
大々斜走懸り總評
（自第五八型至第六十型）

白一の大々斜走懸りには、イの應け最善し。定型にして其他にロ、ハ、ニあり、それぞれ異

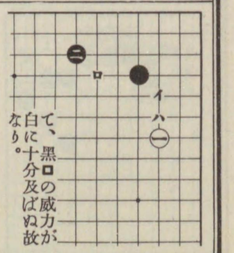
〔四二〇六〕
基本原圖
白大斜走懸り



白一と大斜走に懸る手あり。之はイとロの中間の懸りにして、對する威力はイに及ばず、また中邊に對する働きはロに劣る。されど、此中間の意味にて、石の配置を爲さんとするには、此懸り時にまた面白し。

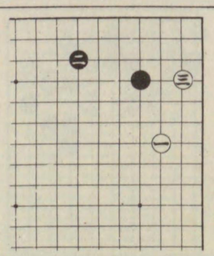
〔四二〇七〕
基本圖
（第六一型）

黒二、定法。黒二は、場合により**イ**に尖も善し。此手をロに一間應けするは、稍好ず。蓋し、白大斜走懸りの時は白遠くして、黒ロの威力が白に十分及ばぬ故なり。



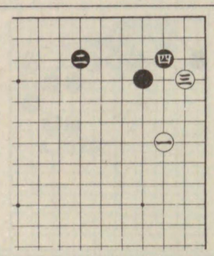
〔四二〇八〕
基本圖
（第六一型イ）

白三は自衝七分、攻撃三分の手、此形に於ける定法なり。



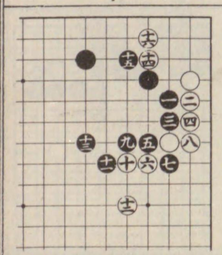
〔四二〇九〕
定石

黒四の尖み普通の應答なり。（小斜走懸りの中六五三圖以下參照）



〔四二一〇〕
場合による

黒一、三は、白を低這せしむる手にして、形より見て黒悪しからざれど、白を更に一つ低くせる大々斜走懸りには及ばず。四二七圖



〔四二一〕 **征如何による**

勝つことのみを知りて敗くることを知らざれば、禍そのの身に及ぶかや。白十二はこの誡に背きしもの。黒よ、白にうまき手無し。

〔四二二〕 **黒健闘白潰滅**

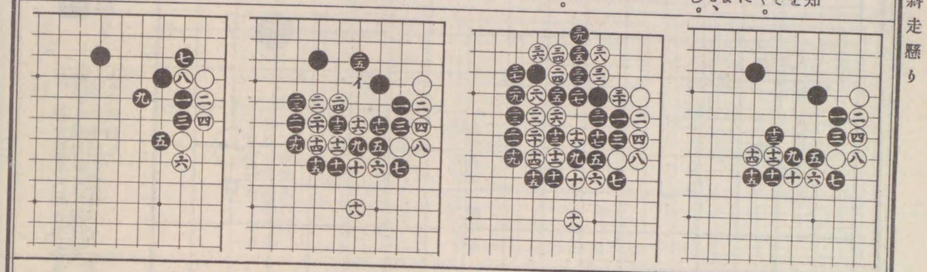
白十六は當座間に合はせの彌縫策、されど思ふに委せぬは此の世のならひ。黒十九以下の猛撃もなく潰滅。かくて白は、月も花もなみだの種。

〔四二三〕 **白敗**

白二四なれば黒一五。かくて白が落ち込みは黒暗々。白どのの深き測せやうにあれば、浮ぶのあるべくもなし。また、白二四を二五なれば、黒イにて勝。

〔四二四〕 **黒好形**

白六に引けば、黒は七、九と隅を守として善し。かく黒の委石、明澄潮として盤上に跳る。



〔四二五〕 **黒好まず**

白□にある時、黒一と突當る手は、白一に二と行られ、白て黒悪し。此形、白は何とも地せらる。黒は洒落たり。黒心うつくしきまゝ打たれて、白となるまゝ地せらる。

〔四二六〕 **場合の手**

黒若し一手抜きせば、白は二、四と附け引くべし。白六を怠れば黒にイと附けられて白ロに切る。なれば黒悪し、六に切る。

〔四二七〕 **要點約言**

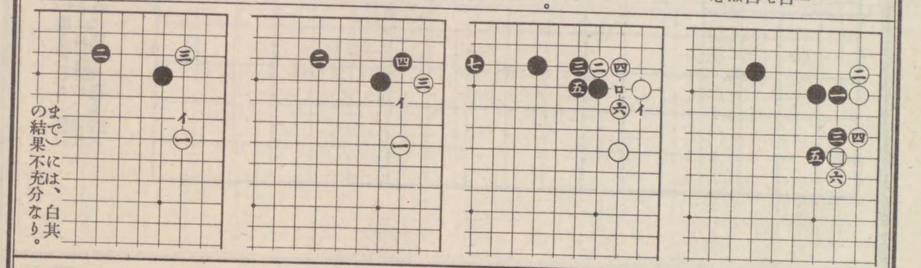
（第六一型イ）

白三に走れば、形黒なり。又黒四とするは中場合、イにせんとする手あり。黒は中央に形勢を得べし。

〔四二八〕 **基本圖**

（第六一型ロ）

白三の打込み、大斜走懸りの場合は好まず。此打込みは、白イの懸りの時は、常なれど、其他の懸りへ第五二型より第六六型



〔四二九〕 **黒善し**

黒三は肝要。白同様に十三なれば、白九。黒即ち白□の打込みを咎めて、而白かならず。

〔四三〇〕 **黒好形なり**

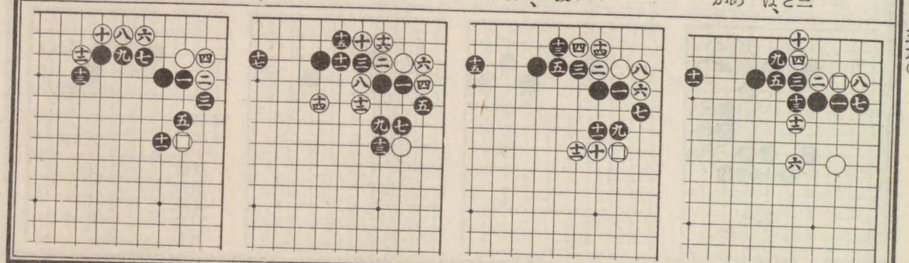
白六と緯ねしも、黒九の爲に強腹を受く。白□は十三而して十五と、黒は天地を開拓す。白非勢なり。

〔四三一〕 **白無理形なり**

白四、六、八は、權變を弄すれど、黒は好防して十七に至る。白十二にて善しを十二に至れば、白は四を八に切る。又黒（二〇四圖以下參照）黒善し。

〔四三二〕 **黒優勢**

白十一にて行びれば、黒十一にて前々圖と同じ。白略同死命。黒制したる白十二の綿ねは善し。白十三上げよりは、這のほどの後なかるべし。



〔四二三〕 **黒大に優れり**

白四に掛ぐるも、黒五、次に黒七となりて好し。（小斜走懸りの中二六九圖以下參照）

〔四二四〕 **要點約言**

（第六一型ロ）

白三と打込む手は、黒に四と約へられて、白一、或はイにある場合、其結果は何れも白悪し。

〔四二五〕 **基本圖**

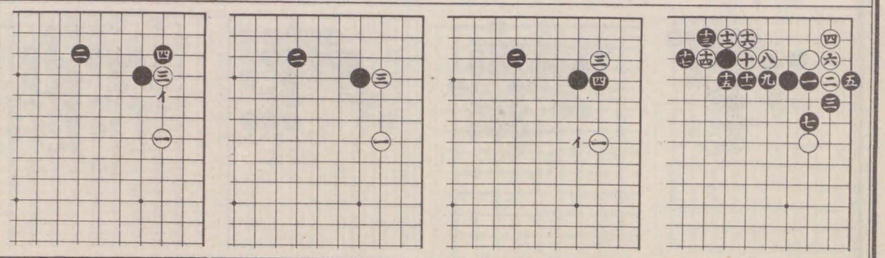
（第六一型ハ）

白三、定法。

〔四二六〕 **基本圖**

（第六一型ハの一）

白三の時、黒には四と約へて隅を守る手と、イより約へて一と三の白を隔て伐つ手とあり。



〔四二七〕 **定石**

黒四、六、穏健。斯く打てば、此一隅の形まり、紛乱の禍根絶えて、黒打易し。

〔四二八〕 **互角の分れ**

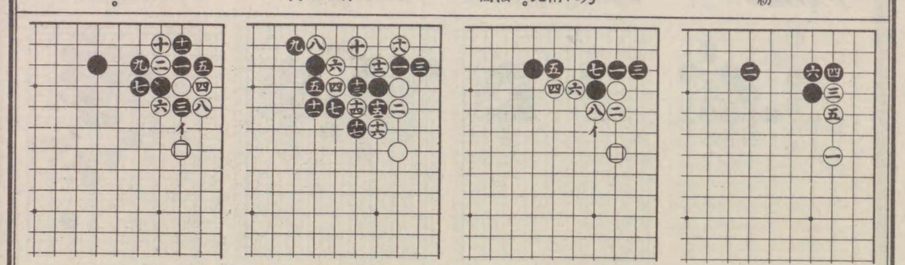
黒三好まず。白乃ち利して四に進撃、黒の形稍精彩を缺く。五三圖以下參照。黒五、白イ、此形は黒面白からず。

〔四二九〕 **白有利の分れ**

黒五、白六と約へ込むに及び、左右の白は相呼應して氣煙萬丈、遂に八に至て攻合白勝となれり。

〔四三〇〕 **黒確なり**

白の友軍イに無く、黒二は打過ぎなり。此形三三八圖以下難しき變化無く、簡單に黒勝なり。



〔四三一〕 **黒大に善し**

白六、誤れり。黒は七に粘りで次に八と拡げ、白は自ら自縄自縛に陥る。白二は黒の非勢より前圖より一層望みなき失意の底に沈みけり。

〔四三二〕 **黒勝**

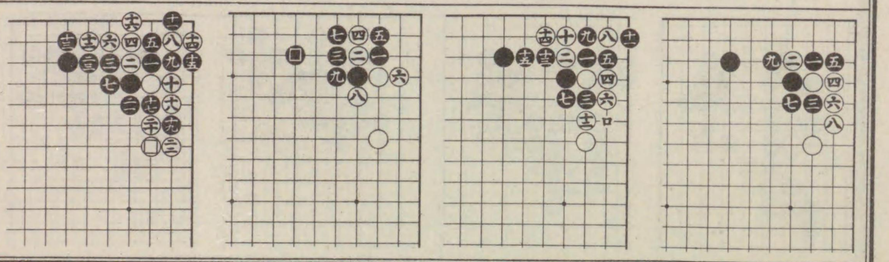
溢の名手が獲に赴くとも何事をかなし得べき？凡そ事、時と所を得ざれば、成り難し。場合を得ず。

〔四三三〕 **黒堅實打易し**

黒三、五も一策。蓋し、場合によつて二以下の方に白が七の白を取通路を取らんとする時は、黒は□の遊撃隊をしてこれを激へ撃たしめんとするなり。

〔四三四〕 **白敗北せり**

黒七善し。黒十七、十九、肝要。之に命に運めよつて安し。白切へ始めて黒が違ひ。照三七四二圖以下參照。白□と二に（ある白相違にて變れり）



〔四二三五〕
黒堅實且利勢

黒十一を直ちに十四と三なれば、白十五イ黒十七白十六ロ黒十八白十四目粘、白ニ。黒は隅の白三子を取るも形の悪し。

〔四二三六〕
黒の勢荘重也

信泫、謙信、元就等が、天下の覇主、武勲が邊境に止りし故なり。白十二、十四は中央に志ざす得たる手段なり。白十三、十七の縦断を遂げしむ。白悪し。

〔四二三七〕
黒　勝

黒十三の時白は前圖に懲りて十四に防ぎしも、黒は十四に五、衰れ、桐一葉と既に落ちて、白は初めて秋の空。又ふ向かふ十五を十三にて、十九にて攻合は黒敗。だけの白は黒敗。

〔四二三八〕
黒　勝

白十二、来る。黒イに取れば、白ロにて四二、三五圖打ち、白の勢大いになりて振ふ。攻合の手筋。

〔四二三九〕
黒必勝の勢

白八、十は、恰も狂人の如し。剣華目ふが如し。覚束しきもあれど、白は山吹の花ざかりの一つだに生ぜず。斯くて白〇等、悉く悪手と化しぬ。

〔四二四〇〕
参考圖

白〇と〇の連絡時に危からんとするも此秋に於て、白一、四と、その間隙を、黒乃ち二、撃つ、確なり。黒六と轉ぜしは意味九阜の如く深し。（次圖以下）

〔四二四一〕
場　合

黒六と粘き白に七と盤らせては、此方と面黒に毫末も殘らず。餘段の妙機を見合せば、白ロ、黒ホなれば白ヘ。黒ホなれば白チ黒ホ白イ黒ト、白ヘ。

〔四二四二〕
場　合

黒は隅を先手に約くへんとする時、斯て、二目を初めて手宜し。白五を抜き。又若し、打つと、黒イ。

〔四二四三〕
黒打易し

白一なれば、黒二にて、隅の地確定、黒打易し。

〔四二四四〕
黒確なり

白七を九に押せば、黒七。又白七をイに切れば、黒十、白ロ、黒三、にて別段隅に難しき變化無し。

〔四二四五〕
要點約言
（第六一型ハの一）

此形白イに引く手、定型なり。ロの切打過。ハとニは何れも、黒を堅くして白好まず。

〔四二四六〕
基本圖
（第六一型ハの二）

黒四は強手段、其應答を了解すれば、黒而白し。次に、白はイ、ロ、ハ、ニの、四つの手あり。

〔四二四七〕
定　石

白五の時、黒にイの隙あり。六とイの願けにして外勢厚くなり。反之、白は確に多く、且つ結果も不充分好まず。

〔四二四八〕
黒善し

白三に飛べば、黒四、六以下の振替りにて善し。黒は正に双を敵の喉元に要したる形。白の厄迫を受けて薄氷を踏むの思あり。

〔四二四九〕
黒厚壮善し

白五の大に、黒六又は七の執れに切るも、白はその原則を取るが如し。白七、悪し。黒八は、征宜しく、無論イに抱へるべし。

〔四二五〇〕
白　勝

白〇の場合は、黒二の下の大斜走懸りは無理なり。上の立に妙着つに危地を脱して勝つ。

〔四二五一〕
黒甚だ窮す

黒八は、白九に善しなれば、白十をイに打て、二目なれば、白ロ黒ハ白十三に至つて、黒ホなれば白ヘ。又黒ホなれば白チ黒ホ白イ黒ト、白ヘ。

〔四二五二〕
要點約言
（第六一型ハの二）

白五なれば、黒イにて、形厚く善し。白イを之は如何にロに下れば、黒ロに抜き。白化するも黒好結果を得ず。

〔四二五三〕
定　石

白いまや五と下りて結ぬるも、結果はこれまた白好まず。

〔四二五四〕
黒優れり

白は前圖の分れ意に滿たざる所あり、乃ち茲に九と打抜きを試む。而かも黒かくべし、悲しむべし、封を喫ず。黒の外勢厚壮なり。

〔四二五五〕
黒　勝

白十九打過なり。尤も白征宜しき場合は、斯く打つ手あり。斯かる場合は黒は、次圖の如く打つべし。

〔四二五六〕
黒善し

七の所は扇子の要なめ白が孟の底、七と之を占めたる手順善し。黒八、強手段。黒十八、と先に附越す手順肝要なり。

〔四二五七〕
形勢互角

白七の約へを先手にキカシ得れば此形は四二五三圖よりも白可なり。

〔四二五八〕
黒優れり

白七甚だ無理なり。白十五、十七は、最上の手筋、絹、爛眼を奪ふに利あり。天時白遂に萬解の恨を呑みぬ。六ノ處。

〔四二五九〕
黒先征
白は二五の手順を失せり。黒二六白二七の時、黒が二、三十と自を揉みし、正に千里前無しき疵あり。尤も征悪き場合は黒の前圖の如く打つて善し。

〔四二六〇〕
黒陥穽に落つ
白十七、黒十八の交換あれば黒は前々圖の如く打つべし。圖の如くなりては、白に二九の劫抛あり。黒は二一の劫抛ち一撃血を吐く思ひ。㊂劫トル

〔四二六一〕
黒勝
白十五に打つも、黒は十六にて宜し。黒十八、二十と、札幌之介が八方破れの剣法を用ひし天晴れなり。

〔四二六二〕
黒勝勢
白十五なれば、十六にて宜しけん。白は十七なれば、黒二イを羽搏ひ締めの鬼手、白は咽喉を抑へられて進退谷まる。

〔四二六三〕
白に手段無し
古の挙賢は日に三たび省みしとか。白は自省を忘れて敵の包囲線を突破す。黒二一崩を打つて潰走す。

〔四二六四〕
黒善し
黒二二、要黙。大に白イなれば、ロ。又白イなれば黒ロなれば、黒イ。何れも黒善し。

〔四二六五〕
征黒勝れり
白十九なれば黒二十、火に白イ黒ロにて勝。若し黒征悪しき場合は次圖の如く打つ手あり。

〔四二六六〕
黒必勝の勢
前圖。黒二八の征悪しきを見て二十、二二は、手筋なり。黒二十を二四となれば、㊀二八ノ處ッグ㊁二一ノ處ッグ㊂三目トル

〔四二六七〕
白大敗
白若し粘らば二七を四二に、時に以て圖の手順を経て黒勝。四四と為り黒手、白四五を大悪手、白ら首を絞りぬ。㊀二八ノ處ッグ㊁二一ノ處ッグ㊂五二ノ處ッグ

〔四二六八〕
黒確なり
黒は二で三に切る前変化の紛糾を避けて、二、四と、打ちぬ。黒の足ど り着実、且つ簡明なり。

〔四二六九〕
要點約言（地）
（第六八型ハの二）白五と二一段に綰れば、黒ロに（黒ハ）と、白ロ白イ黒ニと（黒ハ種）と変あり。前者は隨つて起り。後者は確にして無事の分れ。

〔四二七〇〕
參考圖
白一に綰れば、黒二と切る。これ以下四三〇圖と同じ。

〔四二七一〕
黒優れり
白一は、㊀が黒の直壓を被るだけ大々斜走懸り三九圖より白も一層悪しく、黒二、四、十二、黒十一、白は一以下及び㊀の白は氣息奄々たり。

〔四二七二〕
黒大に優れり
白十一を二一なれば黒十二、白十二、黒十三、白十四、黒十五、白ロ黒天覆地翻の形、黒は四イ圖の如くとも敗せざるの勢。

〔四二七三〕
形勢互角
唉乎、一歩の後手に黒萬斛の恨を呑む。黒十一手順を失す。白は一手にて廻顧の勢。黒は八、九、十と蓋し手筋なり。白を寃枉ひ眼は鈎の如く非なり。白軍の形勢漸く好調を得て二一に至る。

〔四二七四〕
黒の勢稍可也
白は駿馬に鞭を當てゝ七に驅す。黒は八、十と蓋し手筋なり。白の所を寃枉ひ眼は鈎の如く非なり。白軍の形勢漸く好調を得て二一に至る。

〔四二七五〕
形勢互角
黒八。白乃ち九と當て十一と取る。斯くて白は十五まで寛々として花を友とする如き月、餘蒔を示し、十七に邊を開きぬ。白惡しからず。

〔四二七六〕
場合による
黒八は、白を隔て伐つ場合面白し。即ち、黒は十以下中の白を攻めて、右の自然に十四までの厚富を築き、左は十六に頗る爽たる飛翔を遂ぐ。

〔四二七七〕
黒善し
白七は本末を誤り惡し。黒八善し。白は九、十に延るも、命策を誘じたるも、此形は、隅にて劫なり。黒イ

〔四二七八〕
黒利勢
白九をイ黒ロ白十八と粘げば、黒ハ、白ニ、黒ホと、先づ白陣容を整ふ。後、黒ヘに綰れば、隅の白死なり。

〔四二七九〕
黒利勢
黒十四堅實を期す。尤も此手を抜くも、白は十四手を黒ロとなる位も十四に先せられ、白に利かせ、十四のれを手ば、黒二、白は行動、自由なる故なり。

〔四二八〇〕
黒優勢
白七、九と下りしも、黒十に至つて白は唯是れ一と三の池中の蛟龍檻中の獅虎、何等為すことを得ず。此形、黒堅實、打易し。

〔四二八一〕
振替は黒優る
白五、斯くて㊀の黒の白の間に、微なる妙機に搖す。黒乃ち如かず。絶つに白六、而して時に黒は内に劈物のたる覇氣を藏し八。

〔四二八二〕
黒有利の分れ
白九、七は㊀の黒に衝撃を與へず、単に縦断せしのみ、俗なり。黒に八を抱へたる全く戦ふ。白損なり。

〔四二八三〕
要點約言（玄）
（第六一型ハの二）

白三には、黒四と外より約へる手、一に打抜くも白の□以下の白に援軍到、黒は不背に大事を託す。

〔四二八四〕
要點約言（黄）
（第六一型ハの二）

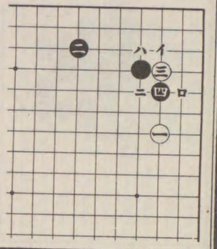
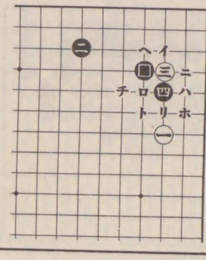
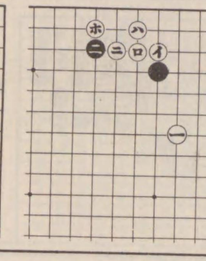
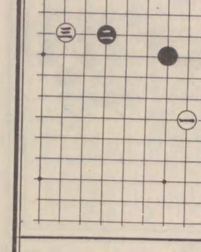
一、白イは、黒ロ。二、白イをハは、黒ニ白イ黒ホ。三、黒イに白又ヘは、黒利勢。四、白ロに切れば、黒ト白チ黒リにて、此形白悪し。

〔四二八五〕
基本圖
（第六一型ニ）

本型イ、ロ、ハの部以外の手段。白(イ)(ロ)(ハ)(ニ)(ホ)など打つ變化は、小斜走懸り五二圖以下と略同じく何れも白可ならず。

〔四二八六〕
基本圖
（第六一型ホ）

白三、定法。これは八九九圖小斜走懸りの場合と其意味略同じ。

〔四二八七〕
定　石

白五に打込めば、黒六と肝要なの時へ黒が十と輕く外し、白十一と次に黒十二と白の手段位を、占む。黒の手段位や、毫も緩滯の跡を止めず。

〔四二八八〕
定　石

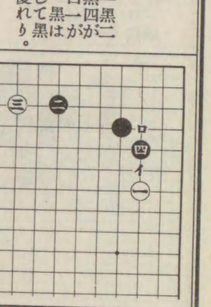
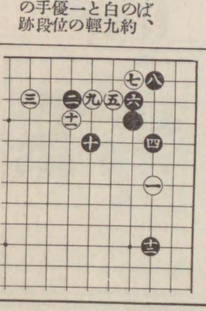
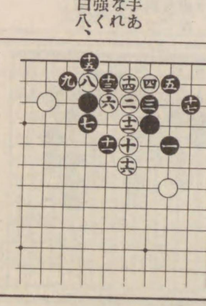
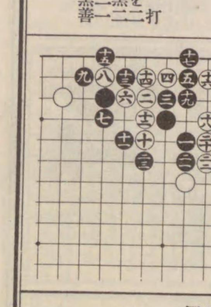
圖の如く白一黒二白三には、黒四が定石にあり。若し白一が四をロと而して黒の形は前者優れり。

〔四二八九〕
場合の變化

黒七と行びる手あり。形は危險なれども、時に手強くして面白し。白八、十手筋。

〔四二九〇〕
黒　勝

白十六、十八、打過ぎ二に打てば、黒二十、白イ、黒一にて、同じく黒善し。

〔四二九一〕
黒悪し

黒十一、好手に非ず。黒十七悪し。黒二手は非に二、三に應けるの外無し。

〔四二九二〕
白手順を誤る

白八手順悪し。黒十一の次に白十二ねると、黒十三、十五と應に十綿るも、白の形は瘦狗の如く、黒は肥馬の如し。

〔四二九三〕
黒優れり

黒十七に至つて、白はや、黒の壓力に、あはゆるめかよろしく征宜しめか白十八。を□なれば、黒十五しは、無論イに取るべれんと。

〔四二九四〕
黒善し

白六ば、前圖の如く白イが通形。白十一の右邊に時、黒は下攻の轉回、耳を夾むの以て利を收めし。黒十七、白ハ、黒ニと、白の腹中に叉を擬せんとす。

〔四二九五〕
黒敢然挑戰す

黒九は、後に十三と粘り、形好まざれど、次に十五に出撃を試み。正に勇敢なる心得なり。

〔四二九六〕
黒甚だ優勢

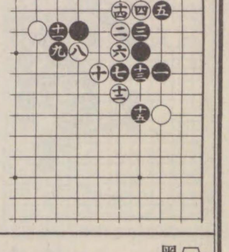
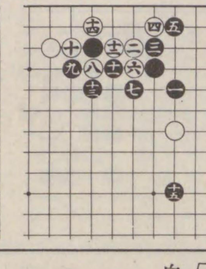
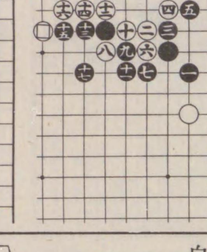
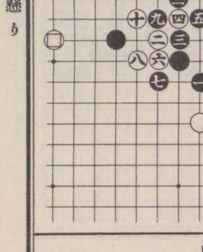
白十、十二、いはゆる乞食盤りとはこれを云ふて、いる手筋は如何なる場合にも悪し。

〔四二九七〕
黒優れり

いま左の白□は、前圖より一路遠し。黒の手段また自ら異るべし。此時、白九に十七までの厚富を築く。

〔四二九八〕
黒確なり

白止むなく八に曲りしも、黒九、十一に打抜くも白の□以下の白に援軍到、黒は不背に大事を託す。

〔四二九九〕
黒形クズル

己の肉を斬らせて敵の骨を斬るの如く、劍法の心得なり。これ、黒三は之と相去るを遠しとなすみ。初心の手に至つて、黒の形崩る。

〔四三〇〇〕
白有利の形

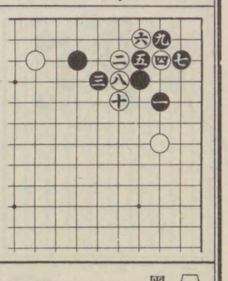
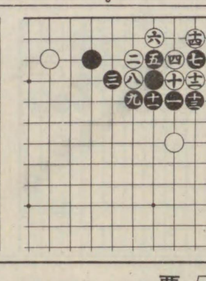
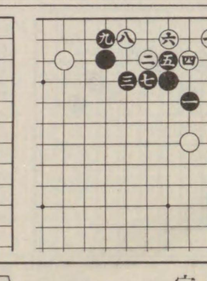
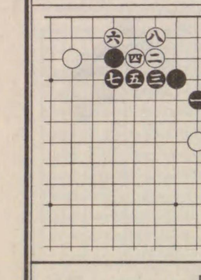
黒前圖の戰跡に堪えず、思ひ切つて、いま九と約ゆ。而も、白に十四まで黒の實を利を食はる。

〔四三〇一〕
白善し

黒既に一まで三着を費して永久的堡壘を築きて、而も白二以下の馬蹄も白に十四まで黒の領域を蹂躙せられて、黒の地も遺憾の罪、今や尺寸ならず。黒緩漫の罪、正に死に當る。

〔四三〇二〕
黒緩し

處世の道、起伏常無し。黒三、五、譽れば、人生を甘く見よ。白に八のまかで緩と盤。黒は不損で平、黒に十三、白に至る。此隅、十三、白に着手後悔一生ならず。全局に足らず。

〔四三〇三〕
黒好まず

嗟乎、風は光り月は霽る、手筋に棄ゆる白十二。此の輕快を見よ！九〇圖打込みの形善し。

〔四三〇四〕
要點約言（天）
（第六一型ホ）

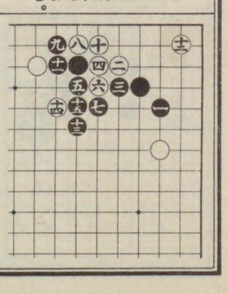
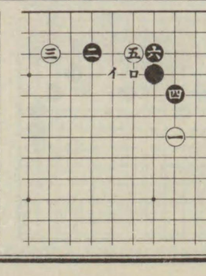
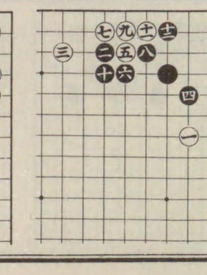
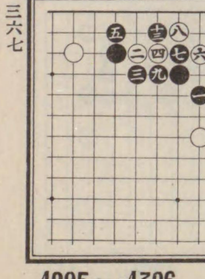
白五までは定型。次に黒は六と隅を守る手最も善し。黒六をイ或はロは、白に隅又は邊を破られて黒不利なり。

〔四三〇五〕
定　石

白五と打込みし時は、以下十二、此定型なれど、結果は黒の形、堅固打易となる故に悪し。

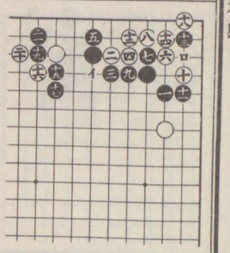
〔四三〇六〕
黒形厚壯なり

白四に悪し。此一に乗じ、黒下に強て、硬腰を寒から、敵を蹂躙つて、善しむ。此隅、黒十三、白に至る。更に着手後悔一生ならず。全局に甘んぜざるの活となす。

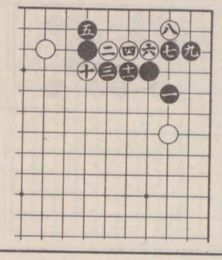
〔四三〇七〕
黒優れり

白イの切りによつて黒に眼にもの見せず呉れんか、白十八を十九に作戒。粘れば黒ロにて、白は閊死の外無し。



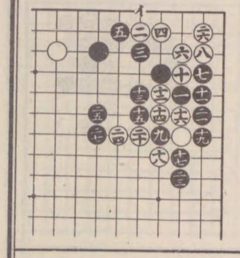
〔四三〇八〕
白に手段無し

白六悪し。黒七、九は、急所なり。白十と切つて最後に一縷の望を繋ぎしも、黒より十一と致命の弾厭を受けては、遂に同生の途絶ゆ。



〔四三〇九〕
黒大に優れり

白四好まず。此手は、五に打つ位のもの、されば黒四にて、四三五圖と同じ。白十を十八、黒十九に綿れば、前々圖と異曲同工。



〔四三一〇〕
黒の勢善し

随つて出づ黒が神籌鬼策！黒十九も善し。白二六を手抜けば、黒イで白に無し。（三）ツグ九ノ處

〔四三一一〕
黒確なり

手筋に泥みて未だ精神に把握せざるも、何ぞ名人達人の見得べき？白四は手筋なれども黒を固むる故に白ロに下らず、黒は九を隔てて十に攻むるも而白し。

〔四三一二〕
要點約言（地）

（第六一型ホ）

黒四の時、白五の手で、イ或はロと打込む手あり。イなれば、黒ハ。又白ロの打込なれば、黒ニの尖附けにては、何れも黒善し。

〔四三一三〕
定石

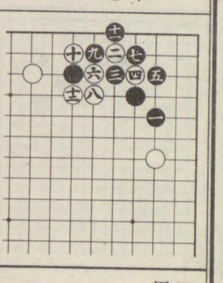
白五、七、共に正着。實戦には斯く應揚に敵に迫らず、配石する場合最多し。

〔四三一四〕
常形

白一、而して三。尋いで白五に附けて十一に至つて白は左の白を固めんとする場合面白し。

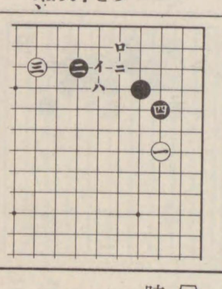
〔四三一五〕
黒形甚だ善し

白七は、輕佻なるダンディにも譬ふべきか、打過ぎなり。黒十二に至り、白形崩るれば黒ロ。又白イに急戦すべし。



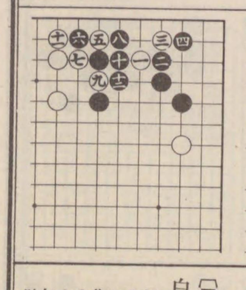
〔四三一六〕
時に黒面白し

黒六と綿出す手あり。此手段は、白七が十二、十八と、黒左邊の白地を侵削せんとする場合に善し。



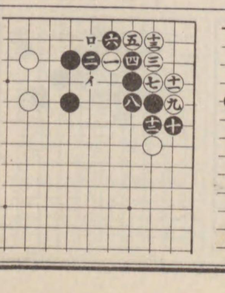
〔四三一七〕
可否環境次第

黒十六は、イと打つ手もあり。圖の黒十六、十八は堅きも手なれど、右隅薄くなり、二一の附け境の如何にず。可否は環境の如何による。



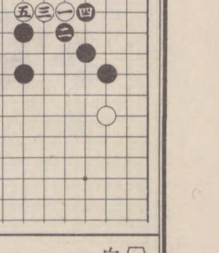
〔四三一八〕
白活

黒二、好まず。猶此手を、イ或はロ種に打つなど化あり。（参照）四三三變白儀以下、黒八は餘白地岡太を無し。踏む。



〔四三一九〕
常形

白一手筋、面白し。（六〇五四圖打込の變化參照）黒二、確なり。

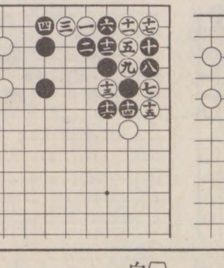


〔四三二〇〕
白面白し

黒四の手あり。斯くて、白は萬策盡きて、止むに止まれず、五以下と思ひしに、黒十九も善し！黒二六を手抜けば、白イで無し。

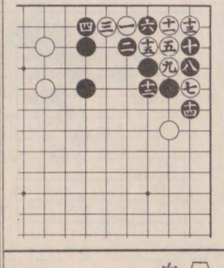
〔四三二一〕
白有利の分れ

黒十二、悪し。白は十三、順七に帆を揚げて十一に至る。白は春の花に驕り、黒は秋の風に悲しむ。



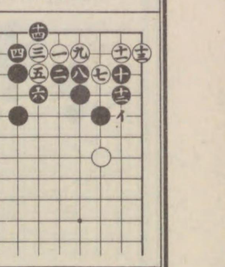
〔四三二二〕
白活

黒十二に粘く。白乃ち十三の要衝に先手を打ち、尋で十五に活く。今や黒敗戦の跡歴々、見るも傷心の種ならざるは無し。



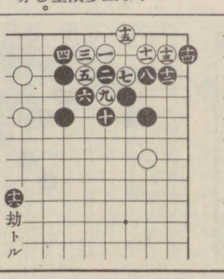
〔四三二三〕
白再蹶に斃る

白五は、前圖の如く單に七へ斜走するも悪し。十二に尖みて九、黒九、白イと打つも、黒の一手白九を取つて活。若し黒九をイなれば、白九にて活。



〔四三二四〕
白悪し

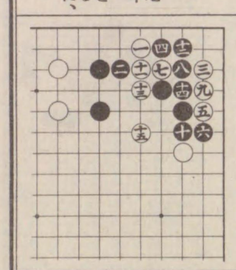
白七は悪手。白十五に至つて劫活なれど、黒は外形堅固、例へば良灣多く海岸線の長き堡塁の邊際間もなく白三子も亦用武の途無し。



劫トル

〔四三二五〕
白手段無し

白三は黒二好まず。黒の失着に喜び過ぎて、白三も亦輕卒に跼蹐ぬ。黒四の羽に及んで締めを喫するとし、白三は他に手段無し。（次圖）



〔四三二六〕
白善し

天から降つたか地から湧いたか、卒然十三の要衝に下る白三、五、七の警着！服すると相應ずる妙手段にて、黒は左右隅の白が靈も叫び、路傍の石木も亦覚醒す。

〔四三二七〕
白可なり

黒八なれば、白九。時に白十の嗟乎、白が切黒十の名劍の鋒芒燦たり。黒十一粘るも、形なれば、尤も斯くすれば、白イにて活。

〔四三二八〕
黒無難の形

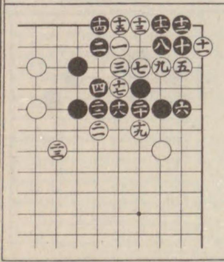
黒四なれば、白五。次に、黒六を九に粘れば、白は六に粘れいでも一の白眠れる俄然目覚めて活も動を起す。即ち、黒イの時白ロにて活。

〔四三二九〕
白活

黒四なれば、白五にて、此形白に死なし。又黒四をイに打てば、白ロにて活なり。

〔四三三〇〕
至難の形勢

黒二、四、俗筋に似たれど、手強き意味ありて時に面白し。此形、隅の白は死なれど、白は外面包圍の勢をなす。



〔四三三一〕
形勢互角

蜂の巣をつゝきし如く混乱せる前圖の難局を忌避して黒は十二。蓋し堅實の手段なり。白イに活きる手を十三に活きれば、黒ロ、白十三、黒十四。

〔四三三二〕
白　活

黒六悪し。白七となり、以下は白にイの粘のキク形なれば、白に死無し。

〔四三三三〕
白劫活

黒六、如何。矢張りイに下るも筋なり。圖は劫なれど、黒も其形堅固ならざれば結果黒好まず。

〔四三三四〕
分れ白有利也

黒單に八。斯くて白黒共に前圖より一目多く空けり。黒は六の爲に此處も、斯くて又逆に白にも利する痛しとは是か？痛しとはなり。

〔四三三五〕
白死す

一以下白は、身、中に在りて、敵心驚かせる前圖も、此形、敵の音に波心驚かく。況して此時接近を避すべし。白五は一瞬、首足處を異にすれば、黒六善し。白遂に死す。

〔四三三六〕
白に手段なし

白七なれば、黒八に縛て、白死なり。

〔四三三七〕
黒優れり

白一と打込む手あり。專ら隅を破らんと專する場合、斯く打つ事あれど、結果黒に外れを厚くせざれる故に白悪し。

〔四三三八〕
劫材の數次第

黒は前圖と異りて白乃七にて劫なり。此結果は黒の劫抛、兩劫共に因る、多きも少きも即ち此劫材の多きも勝たむ。

〔四三四〇〕
要點約言（黄）

次に、白七は手筋、斯かる形は白常に而白し。之に對し黒イは堅固、ロは緩し。更に白ニは場合に手強く、ハは場に因る手、普通は打よる過ぎなり。

〔四三四一〕
基本圖（第六一型ヘ）

前項變化と略同じ白イロ或はハに打つ手あり。ロはイ、ハは二、四、三、八、九、圖、以下と、一略同じ。

〔四三四二〕
基本圖（第六一型ト）

白三の朝子、而白し。

〔四三四三〕
定　石

白一と大斜走懸りの場合には、黒四。此手を下は白ロ、黒ハ、白ニとなりて、黒イに打つ以圖の尖み確なり。此時は、白イに打つ以圖の形稍拙し。

〔四三四四〕
黒確なり

黒十一をイに逃げ出され、白十一を有る手あり。白潰れるは白の形なり。故に白二、四は如何も、征の如何を見て後に打つべし。黒十一は先方に征アタリを嚴しく打つも善し。

〔四三四五〕
黒の運び堅實

白六に綽上げれば、黒七に打抜いて、白十外勢黒善し。白十六に打つも黒十五にて圖の形と略同じ。

九ノ處
三ノ處
ロッグ

〔四三四六〕
黒の勢善し

思ひきや、黒九に切らんとは！黒十一。白十に粘げ、前々圖と同じ。

十ノ處
三ノ處
ロッグ

〔四三四七〕
白の形好まず

白四に引けば、黒五に行き、以下黒九となりて善し。

〔四三四八〕
黒堅實なり

白四は俗手。黒五、七は整形し、尋いで攻つて、白十一は優劣を調子を求めて、斯く動くは、軍の風を利し流に乗るが如し。黒巧なり。

〔四三四九〕
黒大に善し

所謂タの兩附け、悪手なり。黒五、七、堅一は及び獨立行黒五は既に得るを以て、八と綽ねる手も宜し。（四三五圖）

〔四三五〇〕
黒確なり

白二、然らば十まで必然も、尤も邊に夾まれる右の次十一と粘ぎしは白五は時に手なれど、直に白を以て粘く手もあり。

〔四三五一〕
黒堅實なり

白若し上邊を顧みずして二に拓けば、黒は三、而して五と、隅邊に堅を加ふべし。

〔四三五二〕
要點約言（第六一型ト）

白三には、黒は四が最も善し。又白三をイなれば、ロ。又白イを黒四。

〔四三五三〕
基本圖（第六二型）

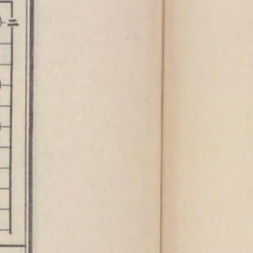
黒二に尖む手あも、偏狭の觀あれども、隅を確にせんとする時、又は一の白を攻めんと時に妙案なり。

〔四三五四〕
定　石

黒二、四は先づ退いて後、四は大飛躍を試みんとする時に面白し。白機を見るべし。白イに白を攻めは六でイにある手も黒三五八圖。白七、四手筋なり。

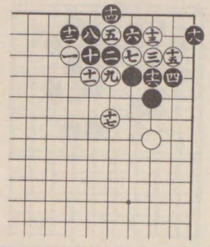
〔四三五五〕
黒確なり

黒六は、七と外から約へて、外を厚くする手もあり。



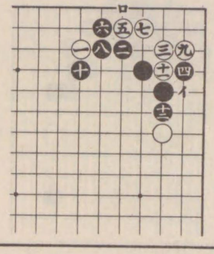
〔四三五六〕
白に手段無し

白七と切りしは、その決意眉宇に漲つて物凄きものあれど、黒すた幸にも逡巡せず断然八に抱へて、白に手段なし。



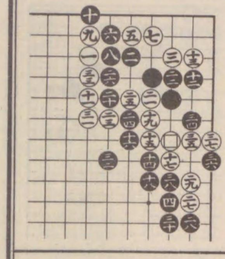
〔四三五七〕
黒厚く善し

黒六と外から約へるも手あり。之は隅を破らるゝも、外形厚くなりて宜し。猶隅の白は、白イの先手利き、黒若しイの手を抜けば、白黒ロの結に活無し。



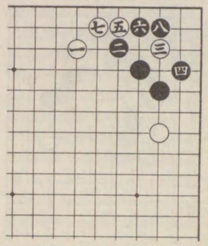
〔四三五八〕
白は總て無理

白直ちに三と打込めば、黒は此の地に如き丸弾れは用無しと、吾は四に斯くて白十三外以下凡て無理。



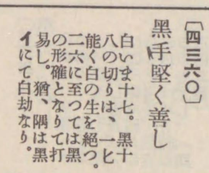
〔四三五九〕
白敗北せり

白十五、而して十七と切る。之は念所、黒十八の約へには二に至つては二一まで一の駄目詰まり。白は、敵の重石に陥る。白二三をイなれば、黒は無論ロ。



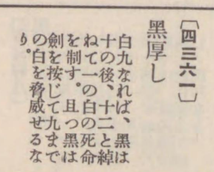
〔四三六〇〕
黒手堅く善し

白いま十七。黒十八の切りは、一ヒ二に至つては黒の形。確となりて打易し。猶、隅は黒イにて白劫なり。



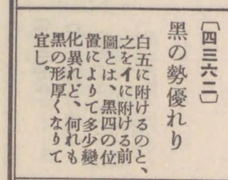
〔四三六一〕
黒厚し

白九なれば、黒は十の後、十二と綿ねて一の白の死命を制す。且つ黒は剣を按じて九までの白を脅威せるなり。



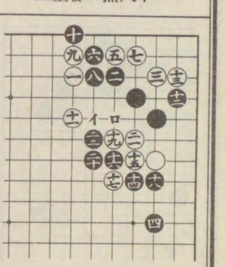
〔四三六二〕
黒の勢優れり

白五に附けるの之をイに附けるのと、圖とは、黒四の位置によりて多少變化黒の形厚くなりて宜し。



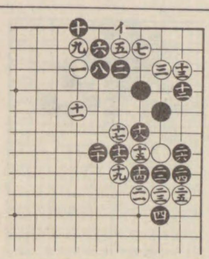
〔四三六三〕
常形

白五は、面白き手筋なれど、黒に六と守られては、別に隅に手無し。白七の次に、黒に白イに附れば、黒は四三六一圖の如く打て宜し。



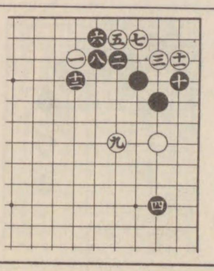
〔四三六四〕
場合の手段

白三なれば、黒四と夾撃すべし。黒四れは、初めに黒が隅を尖んで隅を堅くせし時の、豫定の行動なり。



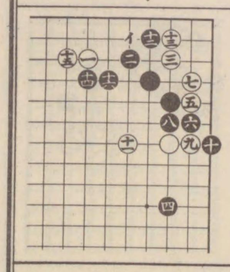
〔四三六五〕
場合の手段

白一なれば、差當り白よ隅に厳き手無れば、黒は二と夾撃すべし。又白一を或はイに打ち時も、黒は二に打つべし。其は意と略同じ。



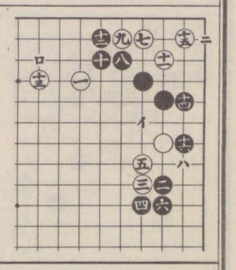
〔四三六六〕
黒善し

白五打過ぎ。黒十二に盤る手順となりては、黒に些の不安無し。却て三の白三子は波間の浮ム如き草を失へて、其據處を化は四三一四圖（以下参照）。



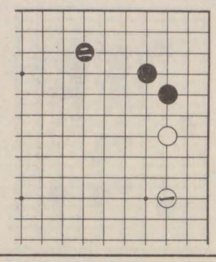
〔四三六七〕
白薄し

白既に十一。黒動もすれば妄動、敗れ易の悲しみ。黒十二、確なり。白十三を又白イなれば、黒ロ、黒ニにて勝。



〔四三六八〕
常形

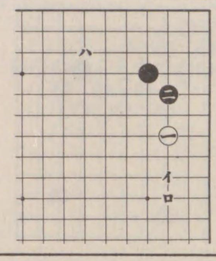
白一に守れば、黒二に拓いて其形を整ふ（以下四二八七圖以下と同じ）。



〔四三六九〕
要點約言

（第六二型）

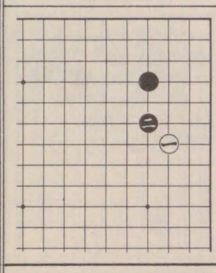
黒二は、以上變化の如く、或は時機にイ或はロに白を攻めんとする手段にして普通はハに拓く形優れり。



〔四三七〇〕
基本圖

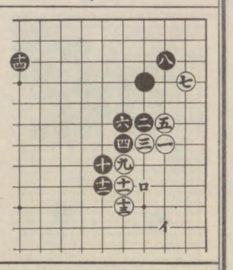
（第六三型）

黒二と打つ手あり。最も急所にして、特殊の形勢にありては、此手段面白し。



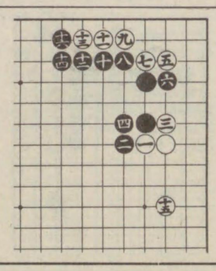
〔四三七一〕
定石

黒二と打てば、以下四まで、双方必然の着手。黒十四と白九をイに打つも、白九又黒十四の方面に打てば、黒ロと強く攻立てる形。



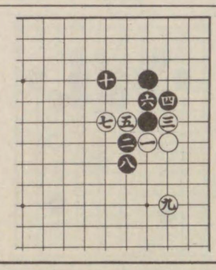
〔四三七二〕
形勢互角

黒十六は、隅の白を薄くせしむるのみならず、一着能く黒をして九鼎大呂の重きに居らしむ。



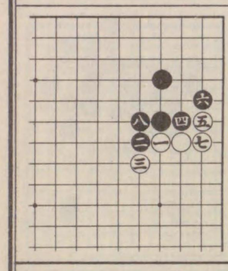
〔四三七三〕
常形

黒四に約へて強く戦ふ手もあり（附定石の中二一九七圖以下参照）。



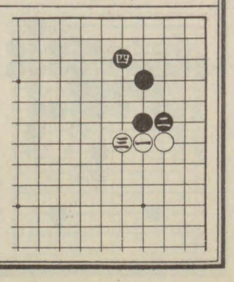
〔四三七四〕
黒の形善し

白三なれば、黒四に約へるも形なり（二間高懸り三八四七圖以下参照）。



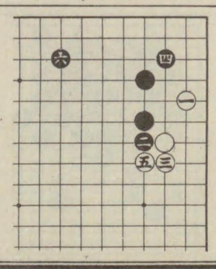
〔四三七五〕
場合の手段

只隅を堅く守る時、黒は二に約へ、次に四に尖む手善し。



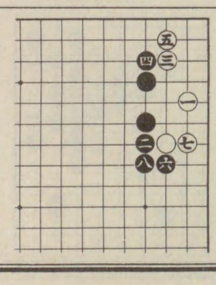
〔四三七六〕
黒可なり

白一に走れば、黒先づ二に押し、次に四と隅を守る。白一の走りは、低き手にして、好まず。



〔四三七七〕
黒優れり

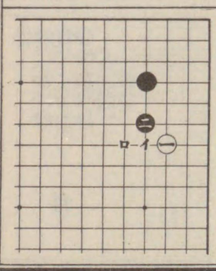
白三と来る。黒乃ち四に一叩して直に六に轉じ八に中原に厚壮の成果を收め、盛んなる哉、黒が颯爽たる英風！



〔四三七八〕
要點約言

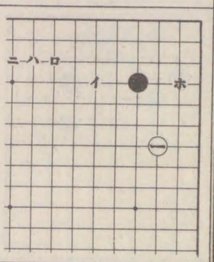
（第六三型）

黒二もあり、白イなれば、黒ロと直接白に當りなるが、形勢を占めんとす、此手段時に面白し。



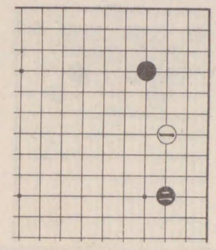
〔四三七九〕 **基本圖**（第六四型）

黒二には前型の外に、イロハニなどあり、此中イは白にホと走られ、ロハニは、凝形。（三〇〇五圖以下）



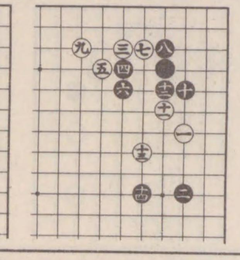
〔四三八〇〕 **基本圖**（第六五型）

黒二と夾む手あり。之は小斜走懸りの三間夾と同様、實戰に多く見る圖なり。



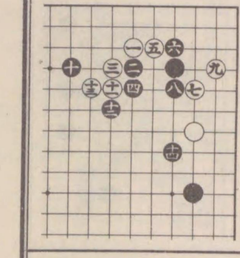
〔四三八一〕 **定石**

白三と兩懸りすれば、黒四、六の附行、定法なり。白九、黒十、共に堅實なり。



〔四三八二〕 **黒優れり**

白七、九、面白からず。黒は邊隊の些事を顧みず、十の大場に白の虚を衝き、以下十四まで白の苦しみを完封して、白を轍鮒の苦しみを嘗めんとす。

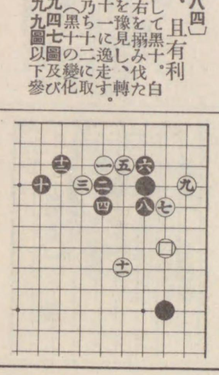


〔四三八三〕 **黒大に優れり**

白十三、打過ぎ。白十七をイとなれば、黒ロ白ハ、黒ニにて、攻合の時、黒勝。白十九まで黒二十二に綿込みの度宜しきを得たり。白甚だ窮す。

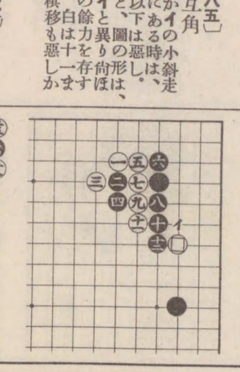
〔四三八四〕 **黒確、且有利**

既にして黒十。白は左右を窺み伐たるゝを豫見して逸走す。黒は乃ち十一に逸じて十二の變化取る。黒十一九四七圖及び四五九九圖以下參照）



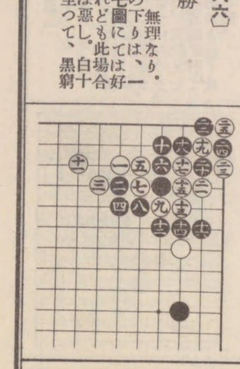
〔四三八五〕 **形勢互角**

白□がイの懸りにある時は、以下□の形は、白は□はイと異動の餘力を存ますほど活動の餘地なるの故、白は十一も惡しからず。黒十二に至つては、白好手なれども、此場合は白十一に好手なれども、此場合は白十一にて五に至つて、黒窮す。



〔四三八六〕 **白劫勝**

黒八、無理なり。黒は下るより一七圖にては一好手なり。



〔四三八七〕 **白　勝**

白十五と曲るに及んで、黒は七轉八倒の苦しみ。乃ち八の一策。而も此手は下す手筋に似たれど却て惡手なり。

〔四三八八〕 **白　勝**

黒十六。白は十七、十九と手數を伸ばし、轉じて二一以下疾風迅雷、黒も白も至るに至る。尤も白征宜しくば、十九で直ちに二一、黒二二、白イにて、白大勝。

〔四三八九〕 **白優れり**

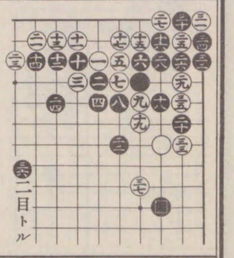
白二一の二段綿ねは佳着なり。尤も此形、黒十六を十九の時も變化略同じ。黒三四で他に劫抛す。白は斷然劫抛れば打抜きにて、必ず優勢なり。

〔四三九〇〕 **此形黒好まず**

黒十に切る。前圖は黒十五に下るより二五に打つ筋なり。（五二五四圖參照）

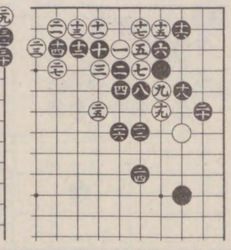
〔四三九一〕 **形勢不明**

白三、黒三四に取れば、白は三五に先手の利を占めて、黒七に衝いて出づ。嘵乎、圖の黒に二以下砂塵の風雲を捲いて襲ひ來らんとす。



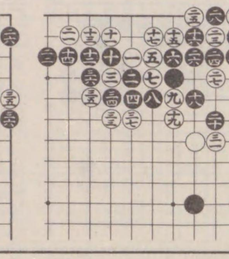
〔四三九二〕 **白味善し**

白二三の時、黒は此方面を放棄して二四に右の邊の領有を固うす。白乃ち二五に一撃して、形厚壯になり。



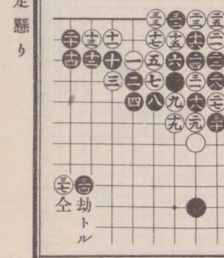
〔四三九三〕 **黒手段に陷る**

黒二二は、短見の嘸を免れず。忽ち白は二三以下三一まで、黒は利を得、更に三軒に長鞭を三七に至るべし。黒の形勢振はず。



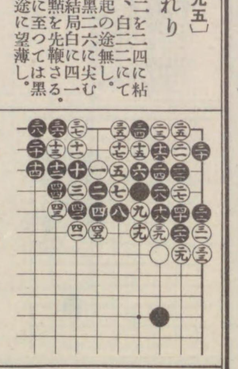
〔四三九四〕 **黒却て敗す**

女の白きあしを見て墮ちやすい！黒は久米仙人に白二十一まで屠らんとし、白は二六に三七を誤る。黒二六は窮寇を追ふの兵法に背く。二六は二七にて兩活とすべし。



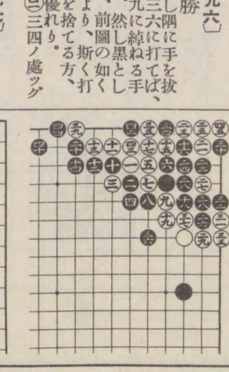
〔四三九五〕 **白優れり**

黒二、二を二四に粘げば、白は三五にて黒再起の途を無からしむ。黒六に尖むの要點を先にさるゝ。白四五に至つては黒の前途に望薄し。



〔四三九六〕 **白　勝**

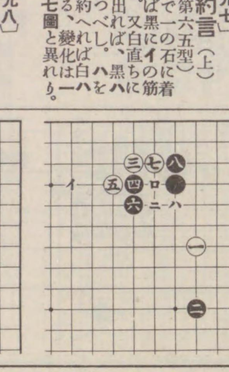
黒若し出手を拔いて三六に打てば、白三九に抜る手あり。然し黒として、前圖の如くなるよりは、斯く打つて隅を捨てる方、寧ろ優れり。（四三四ノ處ッグ）



〔四三九七〕 **要點約言**（上）

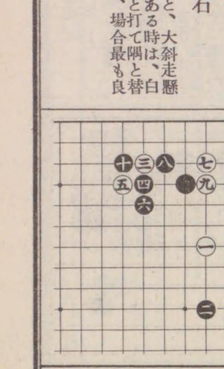
（第六五型）

白一と、大斜走懸は、黒イで一石に筋着。白手せば黒ロの直ちに又白ロと打つべし。黒ハを切に約れば、白ハ一七圖と異れり。



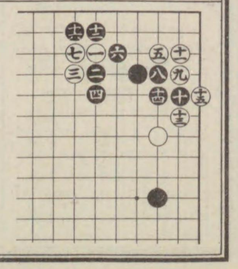
〔四三九八〕 **定　石**

白一と、大斜走懸は、時には七と打てる隅と替るも良し。手、場合最も良替白懸



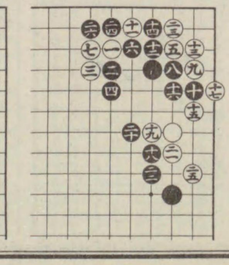
〔四三九九〕 **黒善し**

白七場合を得ず。此形、黒十に約へる手善し。（四七二三圖參照）



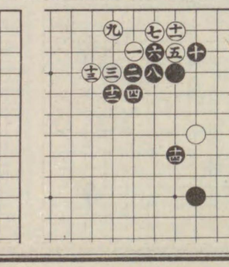
〔四四〇〇〕 **黒大に優れり**

白十一、十三はボ筋、再び打つより、黒優る。十八の完封を喫す。白三子以下の白一子を離れ魚の如し。苦しとも苦し。



〔四四〇一〕 **白悪し**

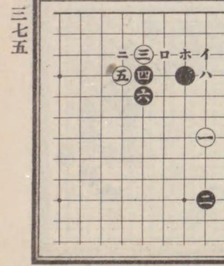
白五の定石も場合を得ず。黒は十四と掛けるに至つて、吾が世の春を謳歌せり。（四七〇八圖以下參照）



〔四四〇二〕 **要點約言**（中）

（第六五型）

黒六の時、白ホに、黒イなれば、黒ロ白ハニにて盤面常形、又白のイを黒ホにも、何れも白好まず。



〔四四一四〕

基本原圖

白一 間高懸り

白一と、高く一間に懸る手あれど、之は場合の手なり。普通は次に黒イと應けられて、此懸りは、あまり星に近く、且つ其位置、第四線にありて、隅への手段も、前四種の懸りに比すれば甚だ乏しく多く白好まず。

〔四四一五〕

基本圖

（第六六型）

白一には、黒二善し。蓋し、鞠躬に加應けて之、及ぶ白カ近きを爲二の威力嚴しき故なり。

〔四四一六〕

基本圖

（第六六型イ）

白三、定法。此時黒には四とイとあり。意味は二三九四圖以下略同様。特に一間高懸りに二六四二は黒四、確にして且つ威力あり。

〔四四一七〕

定石

白五を六に拓けば、黒イ（二五八五圖參照）又白五をロ或はハに拓くも、その變化は圖と同じ。黒六、要點。

〔四四一八〕

黒の勢確なり

白三なれば、黒四、此二着は共に定法。白七を先にしてヌに九にノゾケば、黒は十に粘ぐべし。

〔四四〇三〕

定石

白三なれば、黒四、次に六と行びる手最善し。又白三をイとカへルも其變化は圖と略同じ。

〔四四〇四〕

白大敗

白五、七無理なり。白二三で二四と征に取らるゝ場合は、黒は十四にて四四〇七圖の如く打つべし。

〔四四〇五〕

白に道路無し

黒二八の時、白二九と打つも、白は同じく袋の中の鼠なり。又白二九を三三に綿れば黒三十白三一黒三四。

〔四四〇六〕

黒勝

黒十八の時、白十九に馳む。黒乃ち次に白二十、黒二一に切る。黒の勝、前圖より更に簡明。

〔四四〇七〕

黒善し

黒征悪しき時は、十四と打つべし（三圖前參照）。黒二六、二八と、自重す。此形、上下の黒堅く、二七及び二九まで白の二石薄弱、黒の金局を壓す。

〔四四〇八〕

黒勝

白十七に約へれば、黒は十八に綿ねて勝なり。黒二十より二八に至る善戰、また初心の學ぶべき所多し。此形、次に白イならば、黒ロ白ハ黒ニ。

〔四四〇九〕

白に手段無し

白二五に綿れば、黒二六に打欠いて善し。三十までの結果、次に白イなれば黒ロの切。又白イをハなれば、黒イにて眼有眼無とる。

〔四四一〇〕

黒利勢

白イの押を打たず、直に三と打込む時は、黒は六、八と二段に綿ねる手宜しく、此分れ黒有利有勢なり。

〔四四一一〕

黒の形勢善し

白十九に至つては、人或は一目の不安を感ぜむ。一抹の不安も黒しては二十の佳手を下して二に地歩を定む。中央の白影薄く、隅の石も未だ活きず。

〔四四一二〕

要點約言（下）

（第六五型）

白三（或はイ）黒は高く打てば、當然ロに打ち、黒はハ、黒ニと打つ筋なり。次に白ホに打込めば、黒ヘに約へ、白を隔て戰つて宜し。

〔四四一三〕

大斜走懸總評

自第　至第　型

白一の大斜走懸りに、常形イ、ロは堅く、ハは嚴し。ニは攻手なり。猶ほ外に種々手段あれど、其意味は、略前の小斜走懸りの場合と同じ。

〔四四一九〕黒確なり

黒白七を先にすて乃ち八に極め、尋いで十。黒十四、白十五と、十重くした後の黒十六と堅守す。山雨将に到らんとして風楼に満つ。

〔四四二〇〕黒優れり

白三、五、勇を奮つて進み場合を得ず。黒より六、八と伐たるゝに及んで、□の白既に麾軍無効に近し。

〔四四二一〕黒厚し

白十一に押せば、黒イ、白十二、黒十三時、白十四に上り下実の白は猛然起つて黒、是よ薄し。反之、白十三時、黒十四と拔いて他の好点を選び打つて宜し。

〔四四二二〕黒の形整へり

黒六と、先づ隅の守りを固ふするも黒善し。黒十にて九と略同じ。

〔四四二三〕黒厚く必勝也

瞼平、黒雀が鴻鵠の志を知らざるの嘆き。今ぞ知らざるの小一事に非ず。十三邊目は十邊阪の泥みと、鴻鵠の十六に不抜の厚富を築く。

〔四四二四〕黒大に打易し

白三、五、白がせめて□の無きに非ず。恰かも老翁の腰の伸びざるが如し。黒七隅既に治れるに至つては、黒形さだかならず。

〔四四二五〕黒優れり

白五は無謀、甚だ惡し。黒八、黒イなれば、白は隅と地となるべく、黒イなれば、白は隅と地となるべく、黒は猶ほ打つ。變化白は三四を七に四六圖、又變化白は三四を四八六圖以下參照。

〔四四二六〕常形

白一なれば、黒二に打つ。黒以下參照、黒は内心如夜叉にして菩薩外面如夜叉。

〔四四二七〕要點約言（第六六型イ）

此形、黒四の尖み、鋭くして最善。之は白一のイにあるも、黒は攻守共に便あり。

〔四四二八〕基本圖（第六六型ロ）

黒四と夾撃す。手段亦可なり。（二三九四圖以下參照）

〔四四二九〕基本圖（第六六型ロの一）

黒四の時、白は五のカケと飛イの共に定型あり。

〔四四三〇〕定石

白七と單間して密に白イの狙ひを伏す。黒も亦八に守ると雖も、白十と守る。梨よつて之を防ぎ、次に於ける圍菊の枝にも比すべく、其腹蠡を見るべし。

〔四四三一〕黒打易し

白六と倭し來るも黒好防して陣容堅實の白は猛然起つて奮撃せば、白或は紛砕せん。

〔四四三二〕白の形整はず

白四、六と先手を取り轉じて八と此手段には一時を過ぎず。堅實の着手と相去る遠しと雖も三に至つて白十三と薄きこと、幽霊の如し。

〔四四三三〕形勢互角

白二は通常無理筋なれど、斯く白□あるに一間高懸に手段あるは、黒五に白は石を叩いて七と、黒橋を堅實に足どりて筋を期す。白八、手筋なり。

〔四四三四〕黒確なり

白十一に粘げば、黒十二に白の二見たる二を捉へて白を居ばイと出づるに至らんとす。黒は次の機綿ねて十三へ參照ぬ。戰機正に熟せり。

〔四四三五〕白陥穽に落つ

此形は一例を示せしに過ぎざるも、二に要するに二九の邊に黒石あれば、白死れ、三一に白を持たず、二は燭を行くが如き嘲を免れず。

〔四四三六〕黒大に善し

白十八肝要の前尋に白十四若しイにて白十八と、黒十七と守れば、白十六の時、黒イなれば、白過ぎ。黒三と二六、打掛して黒五に仕切て白一獲を喫せり。

〔四四三七〕黒利勢

□より始まれる堅呼相の黒、公に七進應しつゝ鐵壁を貫くとするも、之を阻止せんとする白は、惡し。

〔四四三八〕中央の戰なり

白いま、勢ひ込んで四に切、斷し來るも、黒は勇あり此秋、白は五づゝ至つて死決しくも戰に出づるに、斯殊戰雲低迷、勝敗の決、將に中原に在り。

〔四四三九〕黒稍可なり

白八なれば、黒は守り。黒十二の一と押し、白十二の時、黒十三に當て白を餘なく、十四に粘るが愚の白を愚化せしむる手段善し。

〔四四四〇〕白惡し

白六と、上より當てしは惡し。黒九に至つては、右の白は、既にて氣息奄々の白の類勢挽回の途無し。

〔四四四一〕黒有利の分れ

白十に一飛びぬ。此秋黒一と切り三而も十五、黒十一あゝ水溜らぬに至つて冴えゝ！十七は振替り、黒有利なり。

〔四四四二〕黒確なり

前圖まで見し白イの覗きも、結果黒惡しからざれど今之を頑はしくも避ひたるとして、黒一に至つて一段たるを失はず。赤一段たるを附けぬ、赤一に附けぬ。

〔四四四三〕黒地確定す

白二の結出は多岐なれど、果は黒悪地にかゝらず。黒三は守地の手段、斯く打てば黒確なり、然し若し力戦に出でんとする時は、黒は三で四に約ゆる手善し。

〔四四四四〕黒稍有利

黒五、而して七と打ちし手順最も善し。白八に約ゆれば、黒は八に割つて出づ。Ⓐと重圏の白は乃ち敵の重圏に落ちむ。

〔四四四五〕黒堅實白有利

黒三と約へる手あり。白四を五に粘げば、黒も亦四に粘いで完璧を成し、且つ左右の白に不可抗的な威厭を及ぼす。

〔四四四六〕黒勝

白十二、而して十四と迫り来る。黒先づ十五と一急に一手に急に一手に急に一手に

〔四四六七〕白嵌手に陥る

白は前圖イの綿ぎを粘ねて二十。黒乃ち踊躍して二、二三に出撃す。白が九仮に斷けたり。

㊀三一ノ處

〔四四六八〕白攻合勝

二二に至つて黒は今更らの如く駄し、急遽二三に道路を取ぬれど白は勝算既に無く早く成れるも、即ち白二四にて、黒遂に活きず。

〔四四六九〕白軍大勝

黒今や十九。白二二の先手に押して遂に二十に中の黒を屠なり。白二十は肝要なり。

〔四四七〇〕黒好まず

黒九、十一。白十二に至つて中の黒三の石は、骨を埋む異郷の空。黒は其形を見るに、黒は斯之より得る處少し。

〔四四七一〕黒の勢善し

白四の手順、悪し。黒十五と行びる切に先だち、十三と誘ひしは、宜し。白十四に打抜き優勢。

〔四四七二〕要點約言（第六六型ロの二）

白五には、黒六は必然。白七にイなれば黒はロにて好形に打つ手あり、又白七でハに此形種々なる變化を生ず。

〔四四七三〕基本圖（第六七型）

實戦では、斯く三と邊に地の利を占めて、後徐に手段を爲す場合最も多し。

〔四四七四〕參考圖

定石白五には、黒は四が定法。此後黒はイの打込み（以下）又白よりはロの打込み（以下參照）を狙ふ。

〔四四七五〕參考圖

此一間高懸りは、白より後、隅に手段を爲さんとするに、其位置も不便なり。白一、黒二、白三以下の變化は、四四二〇圖以下參照。

〔四四七六〕常形

白一に對しては、黒は二の尖みが確なり。蓋し黒二は韓信が股をくぐるの類か、いま屈するも後イに打込んで勇戦を試みんとす。

〔四四七七〕黒確なり

黒二と、敵のハヅを衝いて出づ。黒が脾肉の嘆に堪えず出ずして斯く積極的策戦に出ずるも亦可なり。黒六、堅實を期す。

〔四四七八〕黒有利の分れ

黒六、強手なり。斯く打てば隅に多少の手段は遺れど、結果に於て黒優るる。白七、九以下時機早く、十八まで黒を堅くして結果却つて黒を堅くしめたり。

〔四四七九〕黒優れり

之は六一八圖に見る邊への打込の形と、結果と略ゝ同一の石が持込みとなれる丈黒善し。

〔四四八〇〕白敗北

白十一は、前に進路無き袋小路へ足を入れしに異ならず。黒より十二と唯一の出口を塞がれ白は遂に死す。又白九をイに引けば黒九。

〔四四八一〕白死

黒十二、白は既に必死なり。乃ち白十三。十五の後れて黒十六。十八以下二二の鬼手あり、嗚呼此一隅、いや白軍の伏屍累々たり。

〔四四八二〕活路無し

愚か黒や白には頭の堅きを試む。白の豫期の壁にはよりて黒の十、十一に至ほつて二二に覆れ、二二の見事に鳥山に至つて白は恥一片の煙と化し果てぬ。

〔四四八三〕白辛うじて活

白九以下、白は十七と辛うじて活きも、爲に黒は鐵かん岩か層々として重る縄然たる勢容相を成す、白肌なる黒も慄然として攻立つの威なきや？

〔四四八四〕黒勢大に振ふ

之も白は僅に活きを得たれど、黒は外側に十、四に十六の外の鐵壁を築き、白の馬蹄に蹂躙せられたり。

〔四四八五〕白悪し

白三によつて黒の四を導き、白は自ら外勢をば、泥土に委し。三は悪手なり。三は卑んぬ。即ち隅の地を破られんとする特殊の段の破形勢にては此手無きに非ず。

〔四四八六〕白の形悪し

白一、黒二、以下十に至つて白はロポットカクの如く、既に其生氣無く、又堅實味を失へり。

〔四四八七〕白打過の形

黒四は、十一と手もあり。若し黒㊀無論無しは、白十八と約して善し。黒は十一にて至つて、黒は鳴らして敵を攻立つ。白打過ぎの形なり。

〔四四八八〕黒厚壮なり

既にして黒十六に至る。白の㊀には牛臨の状態。之に死の黒は嶺たる嶺は既に白の一觸のみ。

〔四四八九〕黒優れり

白五、七。此時、黒は優位に立つて而かも騙らず八に尖んで堅を持す。

〔四四九〇〕白善し

竹田逸子三段
九子某氏

黒七は手筋にして、之の善き時にあれど、此場合は悪し。白八、十以下叱呼して縦横斬撃す。（次圖）

十二ノ處 ㊀打カウ

〔四四九一〕
黒優れり

前圖にて、白六の時、黒七、九善し。黒十三、手強し。此時に白イなれば、黒劫提、白ロ、黒劫結、白ハ、黒ニにて黒善し。

〔四四九二〕
要點約言（第六七型）

此形白イなれば、黒ロ。白ハ黒ニ。白ホ黒ヘなれば、黒イを直に打込めば何れも黒善し。或はホ、又は黒イと結果は何れも黒善し。

〔四四九三〕
基本圖（第六八型）

白一の應手は、圖の如く、此他の應け方、即ち拔きなどは、何れも黒好まず。

〔四四九四〕
黒味悪し

黒一、三、好まず。六に至つては、白強堅を誇る。反之、擊陣を誇る。イの打込み、又はロの侵略手段等、何れも黒好まず。種々なる意味遺れり。

〔四四九五〕
黒好まず

黒一、三と打つも、隅の守備不完全なり。白の旗を映えとしてその英風を仰ぐ。

〔四四九六〕
白善し

黒五、大場なり。されど、髪を容れず。白六に突撃す。蛸平、急所の一撃に、黒は地の利を失へり。

〔四四九七〕
形勢互角

黒一、三。黒に力戰を辭せざる勇あらば、時に二、二の要點を許し、二、三の後手形勢互角。

〔四四九八〕
黒面白からず

黒十五をイなれば、白十五、黒二十八。黒二十の要點を許し、二、三の後手形勢互角。

〔四四九九〕
白善し

黒二、三、打過ぎ。此攻劫提り先劫なれば、白善し。白十を三に打て三、三に白三、十六黒三、七にて白宜しからず。㊟劫トル

〔四五〇〇〕
黒敗

黒二、三、白二、二、五、打過ぎ。白二八に至つて、勝敗既に決す。次に黒イなればロ、又黒イをロなれば黒ハ。

〔四五〇一〕
白可なり

黒十四、三なれば、白十四、斯くて白は、馬首を廻して二。黒九の要點の後手、已む無し。

〔四五〇二〕
形勢互角

黒十九の約善し。白乃ち二、二、而して黒二を活かして二、四と活くれば、黒敗。白イを二、四にて押し戰ふも手もあり。

〔四五〇三〕
互角の分れ

黒一、三、好まず。六に至つては、白強堅を誇る。反之、擊陣を誇る。イの打込み、又はロの侵略手段等、何れも黒好まず。種々なる意味遺れり。

〔四五〇四〕
白の勢善し

黒十一、十三。是に於て白は十四と三目して棄てしは巧妙。白の勢外六に至つては完璧。黒九までの外勢も亦なり。三、子は歸す。柯不遇を嘆く。

〔四五〇五〕
白優れり

黒は小心翼々で十九に取りぬ。急ぐも緩に至つては、二六に甚だ赤し。二、二、隅の中の如く、黒は棄石家の振舞ひ、黒甚だ拙し、ツゲ六ノ處黒はず。

〔四五〇六〕
白優る

黒は九と、戰はずして旗を捲いて退守す。緩しく。黒十に缺く志に闕けて二に外勢と至つて黒地と白勢とを比較するに、白優れり。

〔四五〇七〕
白に手段無し

白九の綽ねを打たずして、直ちに六、八と切る。黒九。斯くて黒は守備全し。白一の定型。

〔四五〇八〕
要點約言（上）（第六八型）

黒二、白三而して四と化多く。黒は手筋に變ず。黒二、白三、黒ロ、又は白ハの粘ぎ、何れにても、其形黒好まず。

〔四五〇九〕
白稍利勢なり

黒一の夾みは、白二の小斜の走又は二間高懸りの場合は高可なれど、白一は黒の場合は、白の場合より嚴しく、黒好まず。

〔四五一〇〕
白打過の形

白八と引出す手あり。其形普通は無理なれど、力闘以て隔てる時は、此手段好形、佳手なり。

〔四五一一〕
黒優れり

白いま十の弱石を放置して、乃ち白の虚に乘じ、二、七に衝撃は、黒二、三にて形勢を與へ、三、一に戰ふ。黒勝たざる無きの概あり。

〔四五一二〕
黒善し

白二の二間高懸り、好相呼と應し、乃ち一に出擊す。白四なれば、黒五。白十なれば、白一に、至つて無用の一着と、化せり。

〔四五一三〕
參考圖

猶白二を、イ、ロ、ハなどに打つ變化は、五、四一圖以下參照。

〔四五一四〕
互角の分れ

白二なれば、黒三に應けて善し。此形、白の外勢厚く、黒も亦、隅の地確定す。先づ互角の分れなり。

〔四五一五〕
黒善し

黒は征宜しければ、七と綿ねる九なれば、共時白八を、時黒イ、白ロなれば黒ハ、白の時、黒ホと征を出る。（十四ノ処）

〔四五一六〕
黒善し

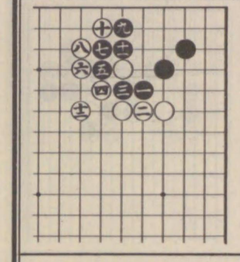
一片黒が稜々の気骨を見るべし。黒は十九で低く三十七にて、這せしも、既に根據白のみの綿なりしを、破りイの綿出すも含む。（一粘）

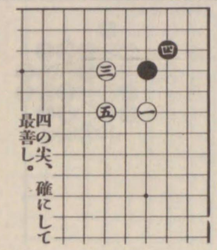
〔四五一七〕
参考図

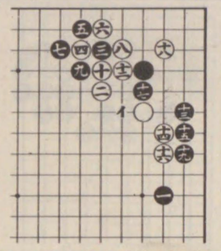
定石抜きの形白に一、三と兩他りさゝるゝ形は、黒の兩翼と異りて、既に斯く三と打れたれば、以上は、黒は白から厚くせらるゝ。

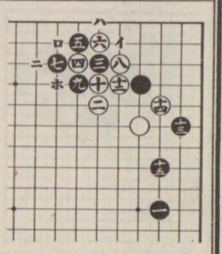
〔四五一八〕
白厚壮

黒先手にて一、結果、三は隅に得をしたれど、外を厚くせらるゝ。形勢の如何によるべし。









四の尖、確にして最善し。

〔四五一九〕
場合による

白先手なれば、に尖む手あれば、。黒一に二の走り善し。一は後手なれども、白十外勢厚し。

〔四五二〇〕
黒面白し

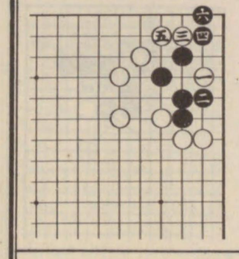
白三と綿出しれば、黒四と綿出れば振、裄つて善し。此形黒多少の味殘れにて黒多し。既に黒にして至る。見る圓の手談を、圓滑の停滞脱毫末も凝固の跡無し。

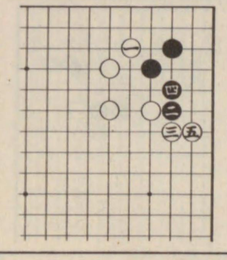
〔四五二一〕
場合の手段

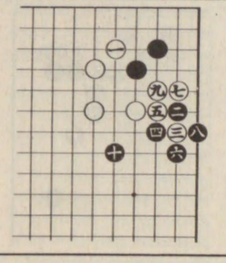
黒二、四と打てば、先手なれども時に黒。白は斯く下るも、善し。白五に手を抜いて活。（次圖）

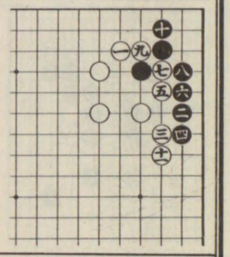
〔四五二二〕
黒活

白一を先にして、次に白三に附ければ、黒は四と隅より約へて活。









〔四五二三〕
黒活

又白一の附けを先に、黒二と外かられば、白九を約へて宜し。白十二なれば、黒一、黒十、白十一、黒イ。

〔四五二四〕
参考図

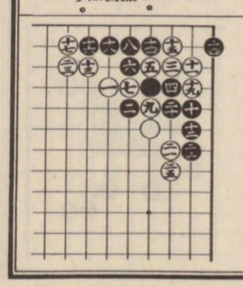
白此變化勝四五〇九圖以下と同じく、只黒に石の有無の違ひ、黒六、八の無理、ロに打つべし。

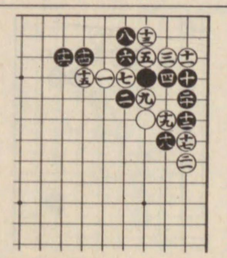
〔四五二五〕
黒敗

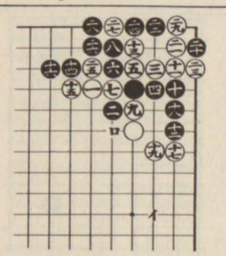
黒十八と綿出すも、白十九、二と打一隅の變。白十九で白勝。化は前圖と同じ。前圖よりは白一手に、否、十九に駄目のツマリ居るだけ白猶可なり。

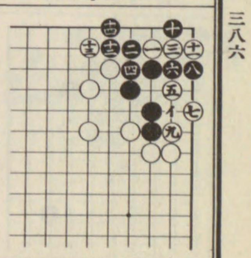
〔四五二六〕
白優勢

黒十と尖む手あり。此結果など攻合、隅外圍白黒勝れなる故に優大勢は白に利あり。









〔四五二七〕
参考図

黒の應法場合に適せず

五子某氏は、黒㋑の時、白一と見て二と強。硬に附しは善し。されど、黒四は場合を得ず。（次圖）

〔四五二八〕
黒の形勢善し

白三を六なれば、黒イ、白五、黒三。又白五と綿ねる手をロに切れば、黒五に打つて覘し。何れも黒㋺を活躍せしめし手段なり。

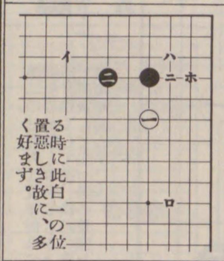
〔四五二九〕
要點約言（下）

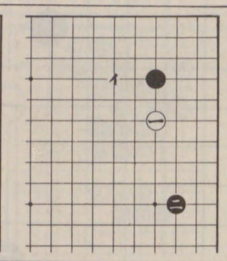
白一の懸りに、黒二と夾む手は前の小斜走、二は等の懸抜く手は、二間と異りて、白イと兩懸りさる形となりて黒面白からず。

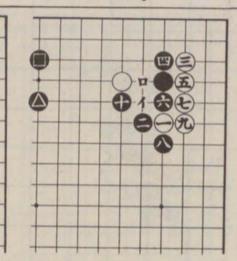
〔四五三〇〕
一間高懸總評

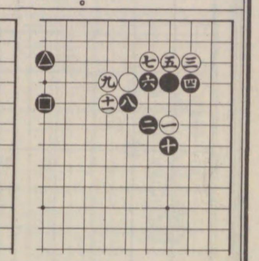
（第六八型）
（自第六六型至第六六型）

白一は黒二と一間高懸りの應手宜し。次に白イなれば、結局此形となり、白ハ、ニ、ホなど隅に着手する時に此一の位置悪しき故に、多く好まず。



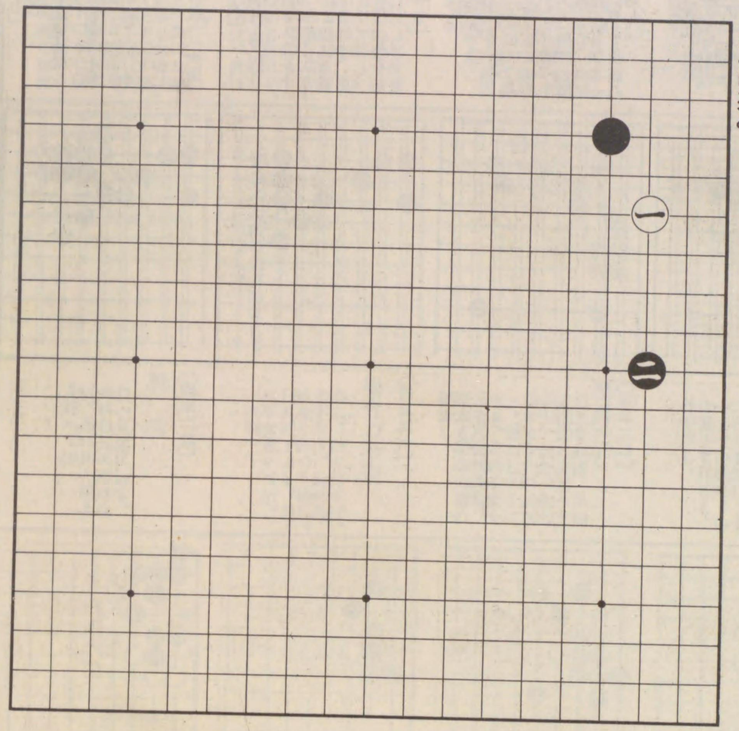






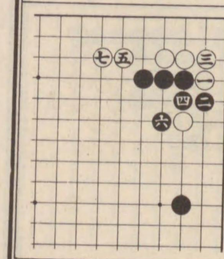
〔四五三一〕 **基本原圖** **白小斜走懸りに對する黒三間夾み**

黒二の三間夾は攻守何れにも用ひられ、且つ手段に富み、實に置碁變化の神髄とも稱せらる。前の黒イ、或は其他に應けて、先づ置石を堅くし、後、徐ろに攻守の策を講ぜんとするのと異り。之は隅を開放して先づ邊の要點を占む、白黒の手段は之によりて其精彩を發揮せんとす。



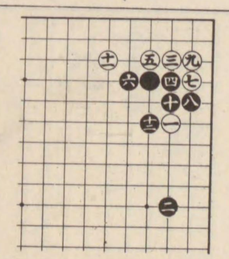
〔四五三二〕 **基本圖** (第六九型)

白三は黒の夾みを輕く替る手、三間夾の中の種々なる變化の中、最も堅實なり。猶三は、外にイロハニ等の手あり。



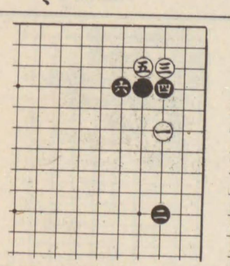
〔四五三三〕 **基本圖** (第六九型イ)

黒四、必然の手。此手を五に約へれば、白に四と引かれて、黒二の夾撃の效力を減ず。黒六、正着なり。



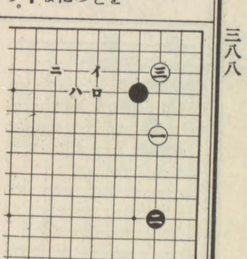
〔四五三四〕 **定石**

實戰に最も多く見る形なり。黒十二、穩健實、此線は實に此形の要點なり。



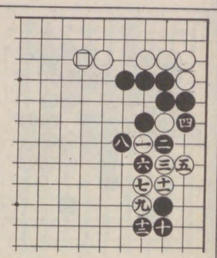
〔四五三五〕 **常形**

白既に六と備へて弊陣を張る。白七は黒の陣容に對抗せんとするも、黒これを堅うせしめて守る。然し黒としては次の八は手を抜いて他に轉じて宜し。



〔四五三六〕 **白稍打過の形**

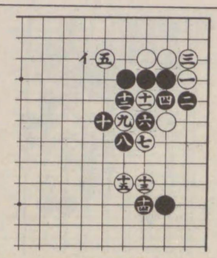
此形、白一と綰れば黒は二と切り取つて善し。蓋し上方□までの白空き故、黒は斯く堅固第一の手段を選びしなり。



〔四五三七〕 **黒善し**

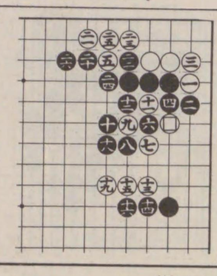
白イに備へず直ちに七と戰端を開けば、黒更に覆ひ被せて八の策戰を取る。白九に、黒十と打つは常用の手筋。

十 六ノ處二目トル



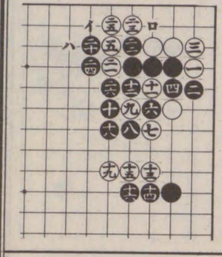
〔四五三八〕 **白無理なり**

黒十六に押すも善し、黒二十の手筋、妙、何と痛烈なる！同望すれば、白は□の一子を辛うじて逃出せしも、白は形勢を損じ、目的を遂げて、七二目粘



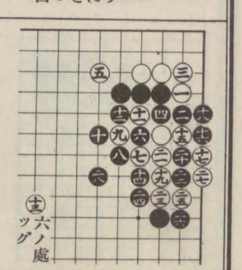
〔四五三九〕 **黒優れり**

白二一を二五に下れば、黒四、又白三を二四なれば、黒五白イ黒ロ白ハ黒二六にて白軍潰滅の形。七二目粘



〔四五四〇〕 **白大敗**

白十三、大惡手。白の圍子、石正に一氣に屠るべしと、黒は大上段に振りかぶつて、十四に切り下す。あゝこの狹隘の地、且つ周圍は皆な敵、白遂に悶死す。

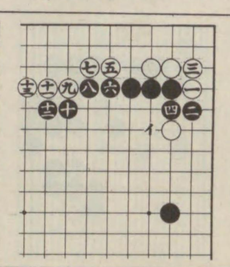


〔四五四一〕 **白利勢なり**

黒六は六以下十三に至つては、少からざる反白地、確定せりと雖も、之を盛んなりと雖も、中の黒の厚みは未だ確定的に非ず。形勢、黒不利なり。

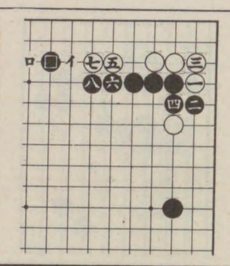
〔四五四二〕 **場合の手段也**

黒□或はイ、ロなどにある場合は、黒は六、八に押す手善し。



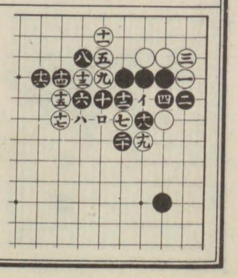
〔四五四三〕 **互角の形勢**

黒六に斜走して、大に七と八を兩睨みに蓋して、筋なり。場合によりて、斯く打つも善し。



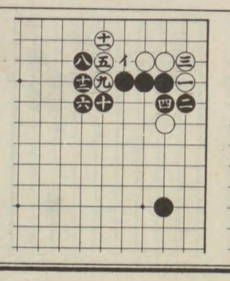
〔四五四四〕 **黒可なり**

白七に戰雲を捲き起して競ひかゝれる黒八の意圖を挫いでは、黒六の反撃に出でんとするイの次に、白ロなれば、黒二の次に、又白イなれば、黒ロに行れば、黒ハ。此形黒善し。



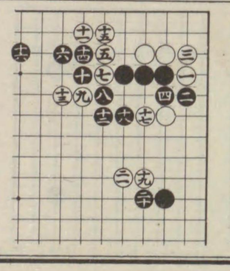
〔四五四五〕 **黒厚し**

白九をイなれば、黒十二、又、白九を十一に下れば、黒九に約へる形なり。



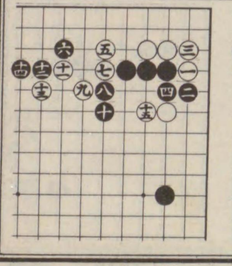
〔四五四六〕 **黒の形好まず**

黒六と打つ手も無うはあらねど、之は抑も初めの三間反すの意相反す、白七にの意は黒は隣虎の勢も、其無理なりし。二一に至つて、黒は前途多難。



〔四五四七〕 **黒好まず**

いま黒十に行びて隱忍す。而かも白は機に乘じて十一、遂に十五に十三、嗟乎、白軍の意氣頗る昂れり。



四五四八　白確なり

前々圖の如くなりて白の面白からざる場合は白七、九と、飛出すも白軍の棋歩あり。着實、漸を追つて勝を收めんとす。

四五四九　白攻合勝

夫れ粗暴は勇のみ。黒十、十二は粗暴なつて三三に潰滅す。黒遂に至る。白十九、二一、手順善し。白二九巧なり。

四五五〇　白勝

白二五肝要、之を二七にて打てば、黒二五にて白頓死す。白二七の時、黒いよ〳〵攻め來る。二八より轉向して三一は佳手、白は遂に此一隅の戰、勝を得たり。

四五五一　白攻合勝

白十七は殉烈、右十九の雷撃と、左十八の征場合は（征悪しき）二五を脱む。白に粘くも白三を三に詰て、攻合同じく白勝。

四五五二　定石

黒一手抜く、十二は手を抜く事もあれど、黒多く好まず。白は早天に雲霓を見し、が如く勇み立ち、以下馬踏憂々、十三を揚げて十九に鞭進す。

四五五三　場合による

白十一、十三と、綽行びる手あり。十六に至つて、中の白は稍薄きも觀あるも、上邊の白利勢なれば、之も大勢白悪しからず。黒十四は正着なり。

四五五四　黒有利の形也

先番　關田正義　五段
勝　呉清源　四段當時

四五五五　場合の手段也

先番　村島義勝　五段
勝　關山利一　四段

四五五六　要點約言

（第六八型イ）

黒六、正着。次に白イ、黒ロ、白ハ、黒ニを忘れば、其時、黒ヘに白は直ちにトと攻め。且つ上隅を堅くす。此形は、黒多く好まず。

四五五七　基本圖

（第六九型ロ）

白五の時、黒にの綽ねと白の綽ねとあり。此中のは打過。は稍緩し。

四五五八　黒好まず

黒一、打過き。白六、手筋。黒七を八に下れば、白七に黒惡し。（星）間に夾三九六三圖。此形四五三圖に比較する四一と白八との變換に黒白に利あり。

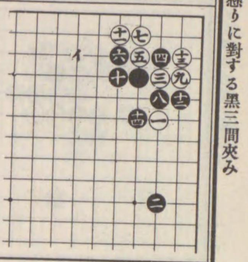
四五五九　白善し

白六に切る手あり。斯く打つも可なり。黒九にて白イに取らるゝ場合は白八はロに打つべし。次々圖以下參照

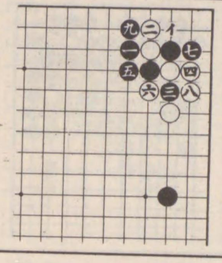
四五六〇　黒敗勢歴然

黒十七を二十に飛ばば、白イ、黒ロ、白ハ、黒ニ、白ホ、黒ヘ、白ト、黒チ、白リ、黒ヌ、白ルと二十一に黒チなれば、白ヌ、黒リなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと六十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと六十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと六十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと六十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと六十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと六十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと六十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと六十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと六十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと六十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと七十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと七十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと七十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと七十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと七十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと七十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと七十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと七十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと七十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと七十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと八十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと八十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと八十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと八十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと八十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと八十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと八十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと八十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと八十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと八十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと九十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと九十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと九十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと九十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと九十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと九十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと九十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと九十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと九十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと九十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百二十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百二十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百二十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百二十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百二十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百二十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百二十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百二十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百二十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百二十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百三十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百三十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百三十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百三十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百三十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百三十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百三十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百三十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百三十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百三十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百四十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百四十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百四十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百四十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百四十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百四十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百四十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百四十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百四十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百四十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百五十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百五十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百五十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百五十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百五十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百五十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百五十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百五十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百五十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百五十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百六十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百六十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百六十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百六十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百六十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百六十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百六十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百六十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百六十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百六十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百七十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百七十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百七十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百七十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百七十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百七十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百七十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百七十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百七十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百七十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百八十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百八十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百八十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百八十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百八十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百八十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百八十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百八十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百八十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百八十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百九十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百九十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百九十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百九十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百九十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百九十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百九十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百九十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと百九十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと百九十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百二十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百二十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百二十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百二十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百二十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百二十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百二十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百二十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百二十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百二十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百三十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百三十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百三十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百三十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百三十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百三十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百三十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百三十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百三十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百三十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百四十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百四十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百四十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百四十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百四十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百四十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百四十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百四十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百四十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百四十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百五十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百五十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百五十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百五十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百五十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百五十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百五十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百五十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百五十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百五十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百六十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百六十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百六十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百六十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百六十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百六十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百六十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百六十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百六十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百六十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百七十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百七十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百七十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百七十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百七十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百七十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百七十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百七十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百七十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百七十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百八十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百八十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百八十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百八十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百八十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百八十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百八十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百八十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百八十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百八十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百九十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百九十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百九十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百九十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百九十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百九十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百九十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百九十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと二百九十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと二百九十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百二十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百二十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百二十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百二十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百二十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百二十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百二十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百二十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百二十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百二十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百三十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百三十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百三十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百三十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百三十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百三十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百三十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百三十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百三十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百三十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百四十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百四十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百四十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百四十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百四十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百四十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百四十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百四十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百四十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百四十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百五十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百五十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百五十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百五十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百五十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百五十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百五十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百五十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百五十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百五十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百六十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百六十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百六十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百六十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百六十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百六十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百六十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百六十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百六十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百六十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百七十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百七十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百七十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百七十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百七十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百七十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百七十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百七十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百七十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百七十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百八十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百八十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百八十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百八十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百八十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百八十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百八十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百八十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百八十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百八十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百九十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百九十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百九十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百九十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百九十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百九十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百九十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百九十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと三百九十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと三百九十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百二十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百二十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百二十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百二十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百二十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百二十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百二十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百二十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百二十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百二十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百三十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百三十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百三十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百三十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百三十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百三十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百三十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百三十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百三十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百三十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百四十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百四十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百四十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百四十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百四十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百四十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百四十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百四十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百四十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百四十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百五十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百五十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百五十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百五十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百五十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百五十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百五十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百五十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百五十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百五十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百六十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百六十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百六十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百六十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百六十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百六十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百六十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百六十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百六十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百六十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百七十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百七十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百七十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百七十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百七十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百七十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百七十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百七十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百七十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百七十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百八十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百八十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百八十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百八十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百八十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百八十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百八十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百八十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百八十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百八十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百九十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百九十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百九十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百九十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百九十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百九十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百九十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百九十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと四百九十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと四百九十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百二十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百二十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百二十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百二十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百二十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百二十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百二十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百二十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百二十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百二十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百三十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百三十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百三十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百三十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百三十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百三十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百三十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百三十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百三十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百三十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百四十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百四十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百四十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百四十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百四十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百四十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百四十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百四十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百四十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百四十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百五十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百五十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百五十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百五十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百五十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百五十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百五十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百五十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百五十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百五十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百六十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百六十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百六十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百六十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百六十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百六十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百六十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百六十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百六十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百六十九に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百七十に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百七十一に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百七十二に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百七十三に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百七十四に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百七十五に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百七十六に黒ワなれば、白チ、黒リを白ヌと五百七十七に黒チなれば、白ワ、黒ヌを白ルと五百七十八に黒ワなれば、白チ、黒リを白

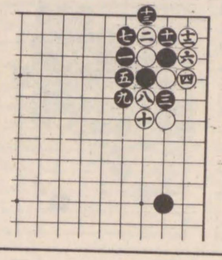
〔四五七二〕
定　石
黒は㋑の應け無き場合、此の切遂ひに對しては八、十と粘ぐ手簡明且つ良計なり。



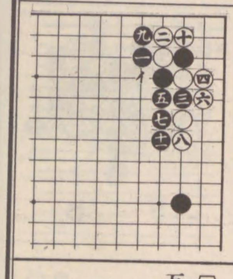
〔四五七三〕
黒確なり
白六を八なれば、黒㋑、又白九を七なれば、黒八を㋑なれば、黒八を㋑以上のとなりて、其何れも黒可なり。



〔四五七四〕
黒優れり
此形、黒は二目提りの替りに白は一目提りて得失無けれど、外の厚みは、黒遙に優れり。



〔四五七五〕
白利勢なり
黒五は前圖の如く㋑に粘ぐべし。黒五、或は其他の手段は何れも紛叫の手段にして、黒の爲に採らず。



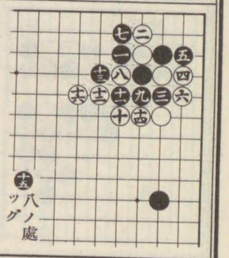
〔四五七六〕
白面白し
黒五惡し。征宜しく㋑は白は十と取つては十大勝と惡き場合は白十征一と計なり。

〔四五七七〕
白優れり
黒五も惡し。白十四の險要を扼すに及び黒の四子は駄目詰めりの意味あり。三子尚ほ餘命を存して黒に一抹の不安を與ふ。

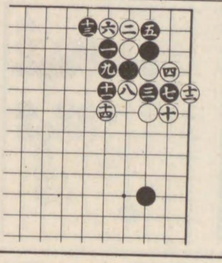
〔四五七八〕
白善し
此形四五、七二圖より白善し、四五七二圖を起して黒ロと動を、白㋑と活なりたる時に、次に黒八に打ちて盤上の如く黒は四子を取られたり。

〔四五七九〕
互角の分れ
黒五も好まず。九、十一の外勢順黒善し。此結果黒優れど、白は隅を持ち、且つ先手を得たり。形勢互角

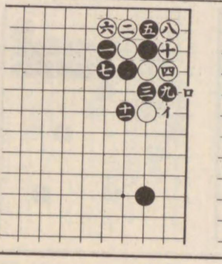
〔四五八〇〕
白面白し
之は四〇四圖とは變化異れり、黒十に、白は二の點に石を無き故に、四に二と曲りて十六と曲りまでを導く、白鋭鋒を見るべし。



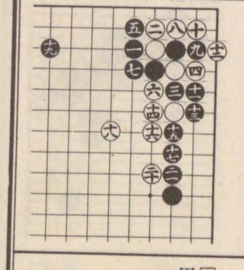
〔四五八一〕
黒手段に敗る
黒十五惡し。亳末の機微を捉へて十六、十八と掛けて此處に劫を殘したるまゝ黒は向ほ二、二隅に一、四着なくば、中央まで活きず、たゞ焦眉の急を告ぐ。



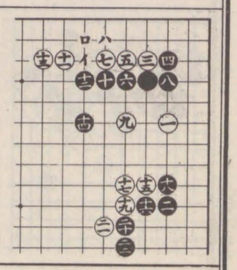
〔四五八二〕
白大利の形
嗟乎、黒七は、武田勝頼か平維盛か、唐愚隣むべし。二圖は、白㋑と活動を起して黒ロと領域に反し九迄の黒を奪ひ取る方に催定せしめ、白に十に至つて之を屠るに九に疵を憂さしめ、白は黒七と當て白に八、首尾一貫して白大勝を得たり。



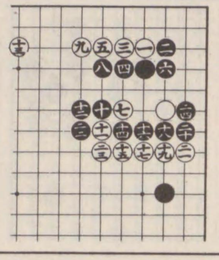
〔四五八三〕
黒　敗
黒七と當て白に八、九に至つて之を屠るに疵を憂さしめ、白は黒七と當て白に八、首尾一貫して白大勝を得たり。



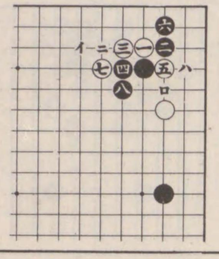
〔四五八四〕
定　石
白三より變化すれば、白三に附け、黒四と切れば、白五を八、五一圖以下と同じ、白十三を十四に飛べば、黒はイ、白ロ黒ハ。



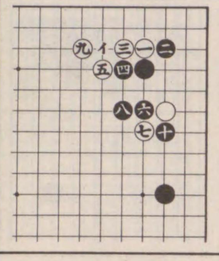
〔四五八五〕
形勢互角
白九、善し。黒十、白十一と黒十二と附け行けば、黒は何れも實なり。白十三を十五となれば、黒十三。



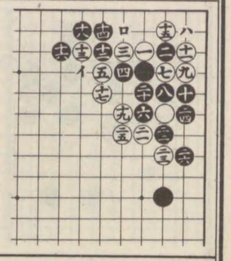
〔四五八六〕
白に手段無し
黒六、八と打てば變化簡明に手段の餘地無し。即ち白イなれば、黒ロ又白イをハなれば、黒ニ。



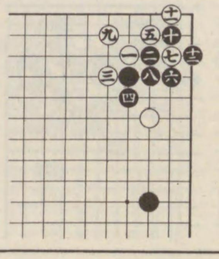
〔四五八七〕
黒確なり
白五の時、黒六、八に附け行けば、白十の切りと黒の策戰を見たる凡ならず。十に至つて黒の形堅固にして盤石の如くにして不安なし。



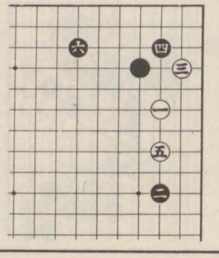
〔四五八八〕
黒の形勢善し
白七、打過ぎなり。黒十二、手強し。八、次なれば、黒十七、白イ、黒十五、白ロ、黒ハ。



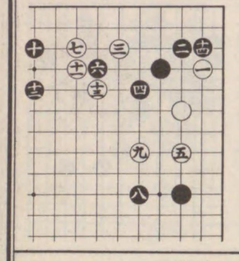
〔四五八九〕
白薄し
白いまや、三、五と必死なり。黒堅く受け流して柳に風と四、六に打つ巧なり。是に至つては、イ及びロ何れも桃移簡明、結果亦黒優れり。



〔四五九〇〕
常　形
白三なれば、黒は四に應ける一手、而して此交換は如何なる場合にも、黒堅くなりて善し。



〔四五九一〕
黒善し
黒六以下、攻防悉く法に適ふ、殊に十の約束に至つては、四の値正に千金、一着能く此黒を泰山の安きに居らしむ。



〔四五九二〕
要點約言（上）
（第六九型ハ）
白三、五に、黒イ白ロ黒ハ、ニ黒最も善し。又白ホを五と黒なれば、又黒三なれば、四白イ黒ホ、又黒ニに、白ロに走れば黒四善し。

〔四五九三〕
要點約言（下）
（第六九型ハ）
黒二と二三間夾みの形に對して白直ちに隅へ手段するにイ、ロハ及びニ此中何れも場合の着手なり。

〔四五九四〕
基本圖
（第七十型）
白三と小斜走りに、兩ありする手あり。之は置碁の定型にして、前の白イの打込みと、白三は、自ら異る。白三は、自ら異る星の黒を逆撃せんとする場合善し。

〔四五九五〕
基本圖
（第七十型イ）
此形、黒は、四、六の間接に附け行く、四は白三を攻撃す、四の定型なり。白打ち、若し時は、四をイに附ける時は、白の一固くなりて黒二の效力減ず。

【四五九六】
基本圖（第七十型イの一）

白七、黒八は普通の應答、然し七では、イ、八、ロ又はハなどに打つ手もあり。

【四五九七】
基本圖（第七十型イの一の化）

白九、定法、然しイロハニなどの手段もあり、何れも手筋にして、皆白ホの出切りを含む。

【四五九八】
定石

黒十二、十四の手順肝要。（參照）黒十六一段落なり、然しイに尖む手もあり。

【四五九九】
黒優れり（前圖のつゞき）

若し白手を拔けば、黒は一と急攻す、此勢用の手筋、特に佳手なり。

【四六〇一】
大勢黒に歸す

白十四なれば黒は十五、以下十九に先手にて轉ずる處、白は必ず十七に跳ぬるを要す、但し黒イの約束をのがしては、黒は十七にて大勢イ。

【四六〇二】
黒必勝の形也

白六、黒乃ち七に網陣を張る、白が運命發々乎として危き處、以下白は必死に活路を求めたれど、黒は得々として八に活ハ、爲に黒の外勢は厚壯無比、白手段の餘地無し。

【四六〇三】
常形

白八はイに拓く手も有り、黒九の大切の處、白若しイに拓かば、黒ロへ引きて白ホ黒ト、白や落日の悲運、如何ともする能はず。

【四六〇四】
定石

黒十六に尖み、白十七の時、黒十八に綽ねるも定石なり、然し黒は前圖の如く、十六をイに下る方、ロの狙ひあり、黒優れり。

【四六〇五】
黒悪し

白八の時、黒イの綽を怠るは悪し、見よ！忽ち白より十と襲はれて黒は眼と地とを失ひ、今や散地を潰走せんとす（一八五八圖以下參照）

【四六〇六】
白稍優れり

黒はイの下り無きに拘らず、七と挺進して白を擊つ、果敢なりとはいへ、果竟打過ぎなり、白は老熟の技、感ずべし。

【四六〇七】
白可なり

黒十一、打過ぎなり、十二、十四、而して十六と綽ねば、鋒芒鋭きこと利鎌の如し、若し誤って黒十七と二に、白イ黒ロの大厦覆る。

【四六〇八】
黒善し

白十は、緩し、白十二は安物の攻、か、少しも利かず、黒十三の下りイとロを見る、秋毫も怖れず。

【四六〇九】
白大に利勢

黒七、九は、俗筋、損甚し、斯くて黒イより又は十と衝く隙は權花一朝の夢と消え失せぬ、黒は常用の手筋、黒十一はロと綽ね、何よりも先づ隅の安全を圖るべし。

【四六一〇】
定石

黒十四の時、白は更に敵の連絡を分斷して敵地を擴大すると共に、白が三、七を伸ばす、黒の二子を棄つる行動、此形、豫定の行動、白面白し。

【四六一一】
白優勢

黒十三而して十五打過ぎなり、黒十九以下は、黒二三と征ひられざる場合に取られざるも、斯くなる形なれば、黒の形勢振はず、白十六ノ處ッグ

【四六一二】
形勢互角

黒十九は、白のイの疵を補はむ意味ありて普通は不味なれど、此場は合止めざれば、黒は手筋を得ず、白ロに二三切らば黒ホ、白ニ

【四六一三】
場合による

黒十九と打つ筋もあり、次に黒二一、二七蓋し手筋なり、二三、二五、さればこそ白ロも又た此分れ、互角なり。

【四六一四】
白稍可なり

黒七、同じくばイに下つて二子を取る方優る、此形は、次に白ロの要點となる故なり、黒十三、十五なれば、白十六に拓くべし。

【四六一五】
黒凝形

黒七、惡し、猶白四を十五に掛ぐる變化は一八七〇圖參照。

【四六一六】
白の勢善し

黒十九は、白のイの疵を補はむ意味ありて普通は不味なれど、此場は合止めざれば、黒は手筋を得ず、白ロに二三切らば黒ホ、白ニ

【四六一七】
黒可なり

白二惡し、黒乃ち三に下つて隅の廣きを致し、兼ねて二までの白の眼を奪はんとす、形は稍似たる も、前圖は實質は雪壤の差あり。

【四六一八】
要點約言（第七十型イの一變化）

白九、黒十は共に置碁三間夾みの定法なり、此形は黒は隅を狙ひ、白は隅を固めて後白を攻めんとす。

【四六一九】
基本圖（第七十型イの一の化）

白九に尖む手あり、低き手なれど、此手は先づ邊を占めて根據を奪つて之を攻めんとす、手段深刻なり。

九、十の點、兩軍虚實の驅引最も苦心を要する處なり。

〔四六二〇〕 **定　石**

白九なれば、黒十白のナラビ確實、之にて白手段の餘地なし。黒十二の筋前全く、黒は如斯形に於ては、常に斯く打て先づ白の陣形を崩すべし。

〔四六二一〕 **黒確なり**

黒七肝要、斯く打てば隅は安全なり。白十六に附ければ、黒十七にて善し。黒二一、手筋（一八七三圖以下參照）

〔四六二二〕 **黒打易き形也**

白十二、十四と包圍すれば、黒乃ち十五、十七に逆撃。此大事の秋に、白十八、二十と打過ぎをなす、十八は三一に附ける位のもの。（六劫トル）

〔四六二三〕 **黒優勢**

白十と、脅威す。黒は◎の黒を看取し、◎の小勢を捨てゝ一の大に就く、形勢之に反して黒善出切白は◎の變化は四五九九圖參照。

〔四六二四〕 **黒堅實必勝勢**

白二、低くして惡し。黒七と伐ち、而して七と肉薄す。五、黒の形勢振ふ。白十二を十三なれば、黒十二、白十九、黒イ。白眼形を失ふ。

〔四六二五〕 **分白裂の姿也**

白八、打過。又白八を九、或は十二に打てば、黒は十七にて、黒の形好し。既にして黒二三、嗟乎、痛ましき哉、白の敗墟や。累々四散、白に形勢回復の手段無し。

〔四六二六〕 **黒確なり**

白いまや一。黒乃ち劍を按じて三に肉薄す、意氣既に敵黒九の手順善し。白十をイ黒ロと伐れば、白ニ黒ホ白ヘ黒十。白イなれば、黒十

〔四六二七〕 **黒必勝の勢**

白六に打てば、黒は狀勢を大觀して七より十三を導き、窮す。白六を若しイなれば、黒十にて白死。

〔四六二八〕 **黒厚し**

白二と一路狹く守る。白六を九なれば、黒六にて、前圖と略同じ。猶形種々變化あれど、要するに黒に三のて所を占據せられては、便ならず。白は、進退共に

〔四六二九〕 **黒の形整はず**

黒一、三俗惡し。一は無論二筋惡し。又三は一只五に粘ぎ、白六、黒七、と打つ方、後に黒イに打つ二の一目を切提る手殘りて宜し。

〔四六三〇〕 **白輕し**

黒一の筋好まず。白二、四と劫を殘し、白九を放棄せず。而も向ほ四五の手段輕妙。黒七の生動す、白は後患々々あり。爲に憂色深し。

〔四六三一〕 **要點約言**（第七十型イの一變化）

白九は低き手にて、普通好まず。夾に黒は、イロハの筋を見て、先づ十手の結果は何れも黒善し。

〔四六三二〕 **黒好まず**

黒十三稍打過。白十八は手筋。二三に至つて黒利した如きも、白は二四と溯す中央の原頭、黒薄きを奈何せん。

〔四六三三〕 **定　石**

白九なれば、黒十、次に十二と一撃する手も可なり。此形勢、黒十六、十八厚くして宜し。黒二二確なり

〔四六三四〕 **黒善し**

白四の意味は、略前圖と同じ。白十二、十四無理なり。黒少しも慌てず十五、而して十七白ロ黒ハにて白を屠らんとす、黒鋭烈なり。

〔四六三五〕 **白無理形なり**

黒は◎と相牽して、五、斯く黒が優勢と綽なる所以。白六と無理なるは無理なり。黒十三、果然、七と鋭く切り込む。黒十七と押して後に押す手順善し。

〔四六三六〕 **形勢互角**

味方のグルーシーか、敵のグルーシーか、その來る先後にナポレオンが興敗の關早き黒七に向ほ四五の手段輕妙。黒七要點に來る、黒優勢を失へり。

〔四六三七〕 **黒大に善し**

白三、暴なり。黒十は兩刃の戈、乃ち黒にはイ白ロ黒ハと白ニ黒ホとイに附け、白遂に黒七と急襲す。黒十二の鰻要に着く。

〔四六三八〕 **黒甚だ優れり**

白二好まず。爲に◎の白を愚化し、黒の先手を喫して更に五と約へを啖ふ。笑ふべし。白四を或はイに打てば、黒は十六に打つて子を切取つて善し。子

〔四六三九〕 **白面白し**

白一、隅に偏して惡手。遲るゝ時は、黒九を十八に押せば、白ロに飛ぶ形なり。

〔四六四〇〕 **黒好まず**

黒十三稍打過。白十八は手筋。二三に至つて黒利したる如きも、白は二四と溯す中央の原頭、黒薄きを奈何せん。

〔四六四一〕 **要點約言**（第七十型イの一變化）

白九の走り低きため、黒に十と附け、白十一の時に黒十二と急襲に強攻を受く。白多くは好まず。

〔四六四二〕 **基本圖**（第七十型イの一變化）

白九は、二の石に接ぐを求めつゝ遙に出切りを望む。黒イの手筋に見て、白は妙機を孕めり。甚だ妙善し。

〔四六四三〕 **定　石**

白十一、白を持ちては堅過ぎる樣なれど、此約へ正着なり。黒十八へ打つ穩健なれば、之に大場あれば、他に手を拔くも宜し。

〔四六二〇〕 **定　石**

白九なれば、黒十白のナラビ確實、之にて白手段の餘地なし。黒十二の筋前全く、黒は如斯形に於ては、常に斯く打て先づ白の陣形を崩すべし。

〔四六二一〕 **黒確なり**

黒七肝要、斯く打てば隅は安全なり。白十六に附ければ、黒十七にて善し。黒二一、手筋（一八七三圖以下參照）

〔四六二二〕 **黒打易き形也**

白十二、十四と包圍すれば、黒乃ち十五、十七に逆撃。此大事の秋に、白十八、二十と打過ぎをなす、十八は三一に附ける位のもの。（六劫トル）

〔四六二三〕 **黒優勢**

白十と、脅威す。黒は◎の黒を看取し、◎の小勢を捨てゝ一の大に就く、形勢之に反して黒善出切白は◎の變化は四五九九圖參照。

〔四六二四〕 **黒堅實必勝勢**

白二、低くして惡し。黒七と伐ち、而して七と肉薄す。五、黒の形勢振ふ。白十二を十三なれば、黒十二、白十九、黒イ。白眼形を失ふ。

〔四六二五〕 **分白裂の姿也**

白八、打過。又白八を九、或は十二に打てば、黒は十七にて、黒の形好し。既にして黒二三、嗟乎、痛ましき哉、白の敗墟や。累々四散、白に形勢回復の手段無し。

〔四六二六〕 **黒確なり**

白いまや一。黒乃ち劍を按じて三に肉薄す、意氣既に敵黒九の手順善し。白十をイ黒ロと伐れば、白ニ黒ホ白ヘ黒十。白イなれば、黒十

〔四六二七〕 **黒必勝の勢**

白六に打てば、黒は狀勢を大觀して七より十三を導き、窮す。白六を若しイなれば、黒十にて白死。

〔四六二八〕 **黒厚し**

白二と一路狹く守る。白六を九なれば、黒六にて、前圖と略同じ。猶形種々變化あれど、要するに黒に三のて所を占據せられては、便ならず。白は、進退共に

〔四六二九〕 **黒の形整はず**

黒一、三俗惡し。一は無論二筋惡し。又三は一只五に粘ぎ、白六、黒七、と打つ方、後に黒イに打つ二の一目を切提る手殘りて宜し。

〔四六三〇〕 **白輕し**

黒一の筋好まず。白二、四と劫を殘し、白九を放棄せず。而も向ほ四五の手段輕妙。黒七の生動す、白は後患々々あり。爲に憂色深し。

〔四六三一〕 **要點約言**（第七十型イの一變化）

白九は低き手にて、普通好まず。夾に黒は、イロハの筋を見て、先づ十手の結果は何れも黒善し。

〔四六三二〕 **黒好まず**

黒十三稍打過。白十八は手筋。二三に至つて黒利したる如きも、白は二四と溯す中央の原頭、黒薄きを奈何せん。

〔四六四一〕 **要點約言**（第七十型イの一變化）

白九の走り低きため、黒に十と附け、白十一の時に黒十二と急襲に強攻を受く。白多くは好まず。

〔四六四二〕 **基本圖**（第七十型イの一變化）

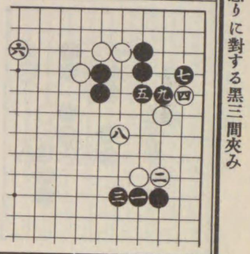
白九は、二の石に接ぐを求めつゝ遙に出切りを望む。黒イの手筋に見て、白は妙機を孕めり。甚だ妙善し。

〔四六四三〕 **定　石**

白十一、白を持ちては堅過ぎる樣なれど、此約へ正着なり。黒十八へ打つ穩健なれば、之に大場あれば、他に手を拔くも宜し。

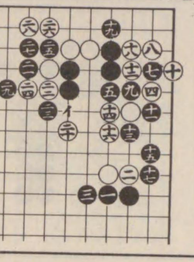
【四六四四】
場合による

黒七は、中の位よりも隅の守備を主とする場合に善し。黒九、隅を確にすると共に八までの白に對して爪牙を磨く。



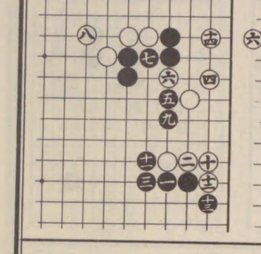
【四六四五】
黒優れり

白八、早し。以下兩軍殊死奮闘、遂に二七に至つて黒優勢なり。白十を若し十一なれば、黒十に下り四六二一圖の如くなりて隅は安全なり。



【四六四六】
征如何による

白二二。白二六を二七なれば、黒は二六。白二八と打つて黒九は征に取られ、又黒九に得場合は、十の黒を二に三に実に一は二のものなれど、斯くても猶ほ黒優る。

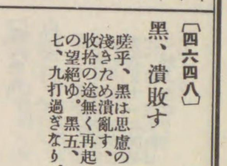


【四六四七】
黒不十分也

黒五、七は、何となく躓悪しき手なり。五は六を正着とす。

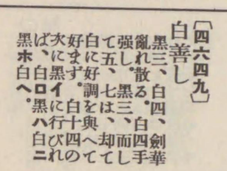
【四六四八】
黒、潰敗す

曉乎、黒は思慮の浅きため潰滅す。牧拾の途無く再起の望絶ゆ。黒五、七、九打過ぎなり。



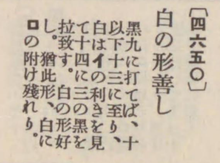
【四六四九】
白善し

黒三、白四、剣華亂れ散る。黒三、白四手強し。黒三、而して五、七は、却て白に好手なり。調を與へて四の次に黒イ、白ロ、黒ハ白ニ、黒ホ白ヘ。



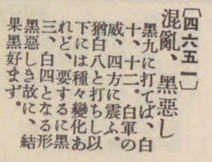
【四六五〇】
白の形善し

黒九に打てば、以下十三に至り、十白はイの利きを見て拉す。白の形好し。猶此形し難けれど、白ロの附け殘れり。



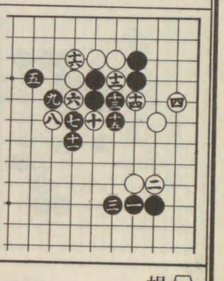
【四六五一】
混亂、黒悪し

黒九に打てば、白十、十二、白軍の威、四方に震ふ。猶白八は種々變化あり以下に、要するに黒形悪しき故に、結果黒好まず。



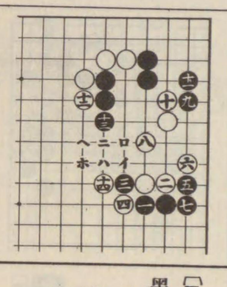
【四六五二】
場合による

黒五の行び切り、善し。白十二に至つて此一帯の兵塵、一先づ鎮まるに、形勢を觀望するに、白に四の切りある故に、此形の可否未だ明かならず。



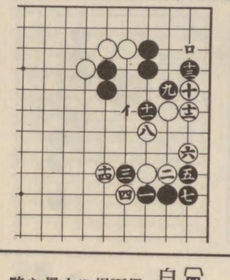
【四六五三】
黒確なり

黒九に飛ぶ手あり。白十、黒十一、此時白イの切りを見て十二に轉じたるは善し。



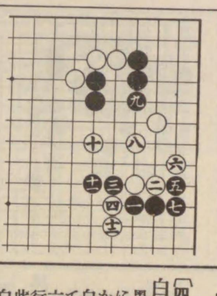
【四六五四】
白の勢優れり

黒五。白は乃ち六、而して八の好形を捉ふ。又黒五を九に尖附れば、白八、黒七、白十一、黒八、白二と、白十二の形となりて、圖の略同じ。



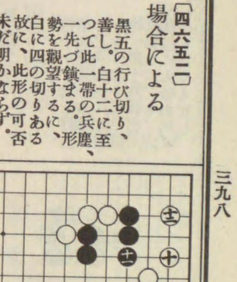
【四六五五】
白優れり

黒卒然、三の守備に赴く。狂か吾れ之を怪しむ。狂か吾れ之を壓す。白四の黒崩れを受けて、白八、次に十の白宜しく厚くして六、行び時、此形黒イなれば白はロ。黒イなれば



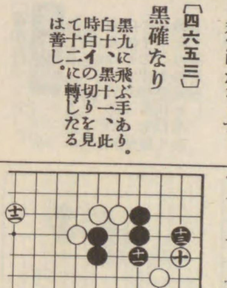
【四六五六】
形勢互角

國亂れて忠臣現はる。難に當つて好着出ず。白二好着にして二は、此手に着て、白十二の形となり、黒優に抜け得たり。



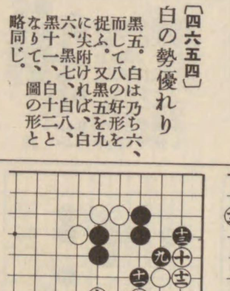
【四六五七】
定石

白十一と綽ぬる手あり。之は二の手は二の異なり。黒十二、十四定法、切れば、白十二にて四六、四九圖以下と同じ。



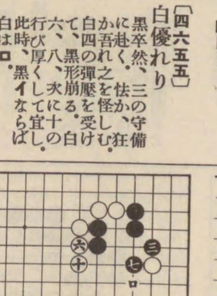
【四六五八】
黒稍優れり

黒十三痛烈にして白の肺肝を衝く。黒十七を宜しく、征して十八に出る手あり。



【四六五九】
白軍大に振ふ

黒七通形なれど、此場合白を利かせる手あり。黒好まず。十一に拓き、形なり。十二は雄心落々、白威、既に全局を風靡す。

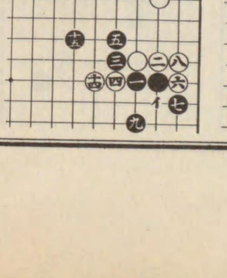


【四六六〇】
場合の手段也

白六、而して八の筋し。時に其だ強くして面白けれども、右に置き、黒の星の下に石あり。場合は稍打つて黒の渦なり。（四六六打右は黒九圖參照）

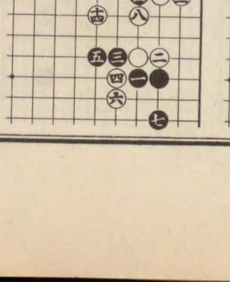
【四六六一】
黒稍優れり

黒五に綽ぬる手あり。白は斷然六の切り出し、黒十七、善し。白二粘げば、黒二、二に四、二八の切あり、黒優る。



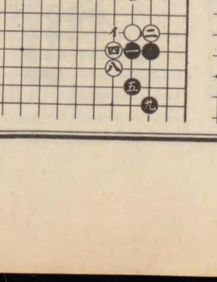
【四六六二】
白稍好勢なり

黒七を八なれば、白七に切つて略同じ。九圖と錯綜に遭ひ、夫れば利かず。黒十五は餘りにも多事の秋、此手凡無策に過ぐ。



【四六六三】
白嵌手に陥る

その昔竹中重治は奇計を好んで奇勝を博せり。黒十五面白多く、變化多し。白これに應じて、曉乎、黒に奇勝を博せらる。



【四六六四】
形勢互角

國亂れて忠臣現はる。難に當つて好着出ず。白二好着にして、二は、此手に着て、白十二の形となり、黒優に抜け得たり。

【四六六五】
劫、黒不利

初めなれば白十二を十三に、黒十四に手段無く、黒十を打つて宜し。白二粘げば、黒二、二に四、二八の切あり、黒優る。

【四六六六】
黒好まず

黒が隅の地と下邊の經營を專念する場合には、十五、十七と打つて白は二分されば、且つ白先なれば、此分れ黒好まず。

【四六六七】
黒嵌手に陥る

退いて守る者は遂に敗れ、攻むる者は永の平和に元の豐家に、其家の少からず。黒一に退いて取り、白二に應じて十一に惡しく、白十二に倣つて黒の腐を奪ふ。

【四六四四】
場合による

黒七は、中の位よりも隅の守備を主とする場合に善し。黒九、隅を確にすると共に八までの白に對して爪牙を磨く。

【四六四五】
黒優れり

白八、早し。以下兩軍殊死奮闘、遂に二七に至つて黒優勢なり。白十を若し十一なれば、黒十に下り四六二一圖の如くなりて隅は安全なり。

【四六四六】
征如何による

白二二。白二六を二七なれば、黒は二六。白二八と打つて黒九は征に取られ、又黒九に得場合と、十の黒を二に三に実に一は二のものなれど、斯くても猶ほ黒優る。

【四六四七】
黒不十分也

黒五、七は、何となく躓悪しき手なり。五は六を正着とす。

【四六四八】
黒、潰敗す

曉乎、黒は思慮の浅きため潰滅す。牧拾の途無く再起の望絶ゆ。黒五、七、九打過ぎなり。

【四六四九】
白善し

黒三、白四、剣華亂れ散る。黒三、白四手強し。黒三、而して五、七は、却て白に好手なり。調を與へて四の次に黒イ、白ロ、黒ハ白ニ、黒ホ白ヘ。

【四六五〇】
白の形善し

黒九に打てば、以下十三に至り、十白はイの利きを見て拉す。白の形好し。猶此形し難けれど、白ロの附け殘れり。

【四六五一】
混亂、黒悪し

黒九に打てば、白十、十二、白軍の威、四方に震ふ。猶白八は種々變化あり以下に、要するに黒形悪しき故に、結果黒好まず。

【四六五二】
場合による

黒五の行び切り、善し。白十二に至つて此一帯の兵塵、一先づ鎮まるに、形勢を觀望するに、白に四の切りある故に、此形の可否未だ明かならず。

【四六五三】
黒確なり

黒九に飛ぶ手あり。白十、黒十一、此時白イの切りを見て十二に轉じたるは善し。

【四六五四】
白の勢優れり

黒五。白は乃ち六、而して八の好形を捉ふ。又黒五を九に尖附れば、白八、黒七、白十一、黒八、白二と、白十二の形となりて、圖の略同じ。

【四六五五】
白優れり

黒卒然、三の守備に赴く。狂か吾れ之を怪しむ。狂か吾れ之を壓す。白四の黒崩れを受けて、白八、次に十の白宜しく厚くして六、行び時、此形黒イなれば白はロ。黒イなれば

【四六五六】
形勢互角

國亂れて忠臣現はる。難に當つて好着出ず。白二好着にして、二は、此手に着て、白十二の形となり、黒優に抜け得たり。

【四六五七】
定石

白十一と綽ぬる手あり。之は二の手は二の異なり。黒十二、十四定法、切れば、白十二にて四六、四九圖以下と同じ。

【四六五八】
黒稍優れり

黒十三痛烈にして白の肺肝を衝く。黒十七を宜しく、征して十八に出る手あり。

【四六五九】
白軍大に振ふ

黒七通形なれど、此場合白を利かせる手あり。黒好まず。十一に拓き、形なり。十二は雄心落々、白威、既に全局を風靡す。

【四六六〇】
場合の手段也

白六、而して八の筋し。時に其だ強くして面白けれども、右に置き、黒の星の下に石あり。場合は稍打つて黒の渦なり。（四六六打右は黒九圖參照）

【四六六一】
黒稍優れり

黒五に綽ぬる手あり。白は斷然六の切り出し、黒十七、善し。白二粘げば、黒二、二に四、二八の切あり、黒優る。

【四六六二】
白稍好勢なり

黒七を八なれば、白七に切つて略同じ。九圖と錯綜に遭ひ、夫れば利かず。黒十五は餘りにも多事の秋、此手凡無策に過ぐ。

【四六六三】
白嵌手に陥る

その昔竹中重治は奇計を好んで奇勝を博せり。黒十五面白多く、變化多し。白これに應じて、曉乎、黒に奇勝を博せらる。

【四六六四】
形勢互角

國亂れて忠臣現はる。難に當つて好着出ず。白二好着にして、二は、此手に着て、白十二の形となり、黒優に抜け得たり。

【四六六五】
劫、黒不利

初めなれば白十二を十三に、黒十四に手段無く、黒十を打つて宜し。白二粘げば、黒二、二に四、二八の切あり、黒優る。

【四六六六】
黒好まず

黒が隅の地と下邊の經營を專念する場合には、十五、十七と打つて白は二分されば、且つ白先なれば、此分れ黒好まず。

【四六六七】
黒嵌手に陥る

退いて守る者は遂に敗れ、攻むる者は永の平和に元の豐家に、其家の少からず。黒一に退いて取り、白二に應じて十一に惡しく、白十二に倣つて黒の腐を奪ふ。

〔四六六八〕
白大に優勢也

黒十五を**イ**或は二一なれば、白十六にて宜し。黒十七をロとなれば、白十七、**イ**と絞つて二十。攻合黒敗なり。

〔四六六九〕
黒善し

四子某著
氏者

黒■に置石のある場合は、白十七は一考を要す。白十九は**イ**、黒ロ、白二十と打つ方、善し。

〔四六七〇〕
定石

白十三に尖む手あり。此形は黒十四の應け最も良し。

〔四六七一〕
黒稍可なり

白十と邊陬に迫る。黒乃ち之を順ずして十一の高所に飛躍す。白十二棋歩勇健なり。黒三なれば白十四に至つて白形勢を得たり。（四五九九圖以下參照）

〔四六七二〕
黒利勢なり

放心過粗も亦甚し。白六は誤も亦甚し。（四六七六圖と比較參照）黒即ち叱呼して七、而して十三に至つては、白茫然として十一、以て後車の戒とすべし。

〔四六七三〕
白軍惨敗す

白八に粘るも、黒は九、十一以下鬼神も避くべき勇猛心を振つて殊死戰、二五に至る。又初に白六を九れば、黒勝なり。黒六にて善し。

〔四六七四〕
白面白し

黒五形勢を知らず、前圖の如く十一に打つべし。行切りの時は白六の嗟乎、旭光曉の雲を破つて出づるの概あり。白の英風に覿者、案を拍つて三嘆す。

〔四六七五〕
白可なり

黒十一は、網に落込む兎かや、十二、十四と、而して十六と、劫爭開始より劫替りまでの波瀾の如き白が流麗の手段、奴す。べし。

大 劫粘

〔四六七六〕
場合による

黒七なれば白も好調を得。此形黒は中央に浮石あれど、二五に盤り形有れば先づ互角ならん。

土 劫トル
三 九ノ處ツグ

〔四六七七〕
白大に優れり

白二十の時、黒は意氣沮喪して二黒の形勢卽ち一瞬にして傾く。二六に至つて、白は邊より中原に蜿蜒萬里の鐵壁を築けり。

土 劫トル

〔四六七八〕
白の形善し

黒一、悪し。白に二、四、六、爲に好形を與ふ。白八は、右下邊の星の黒に手段として五まで手段もあり。伐つ

〔四六七九〕
黒悪し

黒いま三、白卽ち四に黒の根據を奪ふ。黒八に至つては、黒既に眼形を得たり。白之を失ひ、黒の非勢、言はずして明かなり。

〔四六八〇〕
白の勢善し

黒五と斥崎を放つ。白は乃ち上隅の黒四子を凝視しつゝ、六に押出す。十八に至つて白善し。形勢を得たり。

〔四六八一〕
黒敗す

白六に突出して、十を上下の手順面白し、七、八なれば白九、黒十一なれば白七、黒十三なれば白十五に至つて白善し。

〔四六八二〕
黒好まず

黒三も、其形無理なり。黒五を六に黒イの時、白十七に白十七をイなれば、白十七の兩天秤。

〔四六八三〕
白優勢なり

黒三、五も、好まず。黒三の時、白十一に凡粘せず四の五を強誘い、尋で黒の断點に六に到す。外勢、白優れり。

〔四六八四〕
白厚みあり

黒一と願みて他を言ふの態、調子悪しく惡手なり。黒三を四に引けば、白十一の時、黒は四及び■の、又は十二に打つべし。

〔四六八五〕
要點約言（上）

（第七十型**イ**の一變化）

白九と打ちし時、黒十では**イ**、ロ及びハの應けあり。ロは定型にて、白好形、白ニにて、白得イと押されて黒悪し。

〔四六八六〕
要點約言（下）

（第七十型**イ**の四變化）

次に黒十との時、白**イ**とロとあり、白**イ**なれば少しく、黒ロなれば、黒**イ**を白ハの黒の綿。又は白をホのハに

〔四六八七〕
基本圖

（第七十型**イ**の一變化）

黒八の時、白九で前揭以外の手段に、白④或は㋑に突出す手あり。

〔四六八八〕
定石

白九は、亂々の波瀾を起さんとする、面白き手筋なり。黒十は、他に**イ**或は十一四なるの手段あり。何れも相當成果を擧げ得べき其中、十一最も堅し。

〔四六八九〕
黒善し

既にして黒十二に至る。白一まで稍手薄し、黒奮闘すれども、必ずや其の頭上に勝利の榮冠を輝かむ。

〔四六九〇〕
黒利勢なり

白五、黒乃ち六に切るの一手なり。黒の禍時、白九と黒十に曲る。黒の形なり。黒不

〔四六九一〕
黒打易し

白九に約へれば、黒は十而して十二、又、黒十一に切り、白十、黒十一。二取る手もあり。（四六一〇圖以下參照）

〔四六九二〕白無理なり

白外よし五。黒手抜して白十六と取られては堪へら㊀と、黒六に綿ぬ。白九を十一なれば黒イ。次に白十一なれば、黒十二を十六白ロ。黒九、白十七黒十九。

〔四六九三〕黒の形善し

黒二の時、白四黒イの交換無く、直ちに白三と附け、黒乃ち四と附けて白三をロ或はハに打つも、黒は四に打つて宜し。

〔四六九四〕定石

白九と上邊に備へる手あり、此形へ黒は十に尖附けて隅を固くす、黒堅実打易し。（此變化附定石の中、一八四〇圖以下參照）

〔四六九五〕定石

白九に突出し來れば、黒は十と外へ一の白と、四、六のし、黒二の子と振替つるべく、黒は鵜根絶滅、打易し。

〔四六九六〕黒六に蹉躓す

黒六、嗟乎此一着に黒、忽然として敗を招く。白七は名手、半死の白も脈々生動を擬す。黒腹中に外し、白十一に突出せば、黒ホに振替つて黒善し。（以下の變化は四六六七圖以下參照）

〔四六九七〕形勢黒振はず

黒二、打過ぎ。三切つて訊歌白に揚れば、黒四をイなれば、白五黒六白七の後、白はロの切りと取ると、ハの切りとを見る。白善し。

〔四六九八〕白手段面白し

三子 某 瀬越憲作七段 氏

兩氏の實戰局。黒十六は十七に切る參照（一八七五圖）べしと、黒二四以下、手筋なれど場合に適せず。

〔四六九九〕要點約言（第七十型イの一）（第五變化）

白九でイなれば、又黒はロなれば、黒向ほイをくり返して黒ニに突出せば、振替つて黒ホ善し。

〔四七〇〇〕要點約言（第七十型イの一）（全）

黒八までは、置碁の定型。白九で、イは正着、ロとハは變化に富み面白き手段、ヘは稍緩く、トは打過ぎ。

〔四七〇一〕基本圖（第七十型イの二）

黒六の時、白に④及び㊀の手あれど、黒二の三間夾みある場合は、白の此手好まず。

〔四七〇二〕定石

白七には、黒は八の最も善し、（三間夾）の場合は、特に（黒）此手は普通善し、約へる形へ一七五イ一七〇圖以下參照）なれど、此場合は白一への攻めを含みて善し。

〔四七〇三〕黒確なり

黒十二をイに切れば、白ロ（次圖）、黒十四、大勢の釣合上要點なり。

〔四七〇四〕黒利勢に非ず

白十一の時、黒十二と敵の伏線内に跳り込む、狂か、暴か、妄か非ざれば、黒十二まで、白の二子を取つて却て黒の外勢薄し。

〔四七〇五〕黒優れり

白は邊陲の小事に拘泥して五、七、黒は首を廻して八、十の要點を占む。

〔四七〇六〕黒善し

白三に粘げば、黒は無論四に尖むべし、又白三をイに當れば、黒ロにて次々圖と同じ。

〔四七〇七〕要點約言（第七十型イの二）

白七なれば、黒は次に白イ、或はロに粘ぐも黒ハ、此形一の白が弱くなる故に、黒善し。

〔四七一〇〕黒堅し

黒十に打てば確なり。白十一大なり、白若し此切を打たざれば、黒は或る時機にイに約へて宜し。

〔四七〇九〕場合の手段也

いろ〳〵變の道にはあらねど、黒は八以下押しの一手で進む、蓋し、專ら中央の位を主とせる黒二二の手段なり、手抜か、或ほイに取る手も宜し。

〔四七〇八〕定石

白七は前項九の尖みと略同意にして、多く白好まず、此形丈で見れば、二〇〇七圖定石と同じなれど、只白一と、黒二との交換ある丈に白惡し。

〔四七一二〕黒優れり

黒十と打つ手あり。白十一以下十五と直ちに◎の道路を取りしは尚機早なり。白十五、黒二五、甚だ無理。黒二六は勇能可なり。

〔四七一五〕黒軍鐵堅の陣

嗟乎、曉の如き敏！夜の如き鈍！威も威も甚し、黒八と打抜かれて、白ロの一手惡化せり。

〔四七一四〕黒不可なり

未だ白ロの活動する手ある間は、黒が斯く十と約へる手惡し、四一イ圖の如く黒十の形と、双方の死活關係に非常の差あり。

〔四七一三〕黒優れり

白十一は小利に眩せり、惑むべし、賢子、既に大勢に後に、堂々十二に至つて黒の威、四の陣容を張る旺んなり。

〔四七一二〕白大敗

既にして白二五に失す、而も更に二七に再せり、白の大敗、三故ある哉。白三一をイなれば、黒はロ白ハ黒ニにて勝なり。（三二ノ處 ッグ）

〔四七一六〕
黒味悪し

白○のある場合、黒二、四は、不可。白はイを狙つて五。黒六をイに粘げれば白ロと交換して、此形黒好まず。

〔四七一七〕
要點約言（下）
（第七十型イの二）

白七に附ければ、黒八の形治まり、且つ、白一の一着、餘りに黒の堅き處に近くにあり、此形白好まず。

〔四七一八〕
基本圖
（第七十型イの三）

白七と「三ノ三」に打つて、替る手だ善し。白、時に甚だあり。

〔四七一九〕
定石

黒十まで定石。此形は實戰に最も多く見る圖なり。

〔四七二〇〕
黒確なり

前圖參照。此形白一なれば、黒二に打つべし。若し黒二を手抜すれば、白イ黒ロ白ハ黒二白ホ。

〔四七二一〕
黒一、要點

此形、黒は時機を見て一と迫る手、善し。白若し手抜きせば、黒乃ち鋭を執つてイ。次に白ロニなれば、白ハ黒ホと、黒は白の眼形を奪つて攻む。

〔四七二二〕
白好まず

黒のイを防ぎし白二は常用の手なり。黒三は、劫の工合にて、六でも宜し。白四、六は、時機尚早。斯くては白ロ一白機し、假令劫に勝つて一と粘くも、黒は

〔四七二三〕
定石

白九、古來打ち來りし定石にして、此形は白面白し。突如！黒十六に挺進して白を驚駭せしむ。蓋し、黒十六、十八は手筋なり。

〔四七二四〕
常形

先手を取らんとするには、黒は十一に打つて宜し。然し、前圖の如く打てば、黒厚壮なら一失あり。互に一得

〔四七二五〕
場合による

白十は重き筋なれど、強ひて此手あんとするには、黒十一を十四にて前と同じ。白十一にて以下、黒十三手段あり、其中圖は黒最も堅し。

〔四七二六〕
白の形好まず

白十二、十四、時機向早。黒十五と約へ込まれて、無憖遣る方無し。白は憖濫を呑んで止むなく十六に粘く。

〔四七二七〕
黒稍利勢

白六なれば、黒は無論七に約へて宜し。此形、白四と交換あり、其れ丈に、此分れ黒に利あり。

〔四七二八〕
分れ白に利あり

黒五悪し。白に六と粘がされて黒七に粘がざるを得ず、白乃ち易々として八に盤る。白軍今や隅を占領せり。

〔四七二九〕
定石

黒十二、十四は古來の定石なれども、此圖は形より見るに、黒に贅意を表し難し。

〔四七三〇〕
白面白し

黒九、白いま、十而して十二の飛、剣尖相摩して十八に至れるは、外形に角なれど、只黒は互イの邊に疵あり。白面白し。（四七三六圖參照）

〔四七三一〕
白可なり

黒十三以下十七に切るか、雲か山か呉か越か、戰機動いて局面緊張す。此時、白十八の斜走二に至つて、黒の形勢一等を輸す。

〔四七三二〕
場合による

黒九に曲り十一、十三と連押の後、十五を旋して十五に衝きしは手筋なり。遂に三十に至る。雨軍の外勢共に厚壮なり。

〔四七三三〕
白善し

黒十三に急撃す。十三は遂に打過ぎたるを免れず。外勢の置き場合の外勢厚きは、黒無理なり。

〔四七三四〕
黒志を得ず

白八、而して十も、宜し。黒十一以下十五までと、斯く外勢の厚くなりし時は、黒に十七の筋あり。されど之も白十八に外すも、黒は志を得ず。

〔四七三五〕
黒可なり

黒は十一以下謀ること多日、乃ち十七に攻む。而も白や庸凡、十八の普通に應ず。十八以下の猛攻、黒二一に天震地動く。正に黒優れり。

〔四七三六〕
黒死

（前圖のつゞき）凛烈、氷霜の如きもの實に九一に至つて、黒遂に活きず。即ち外は包圍され時は、此形黒危險なり。十三ノ處

〔四七三七〕
定石

黒は、時に八と約へるに手あれど、白は九と普通に損して、黒十四、十六、而して十八、順序善し。

〔四七三八〕
黒優勢

嗟乎、機一瞬！忽ち九、似谷底に轉落す。白十悪し。黒十一の切りに、七の一子は生氣頓に躍動せり。

〔四七三九〕
白打過の形也

黒十四以下十八、打過ぎ。黒二一、二三は一石鳥を撃つ。左右の白に至つては、二三以下の石弱く大勢黒優る。

〔四七四〇〕黒不利なり

日暮一たび移らば一日再び晨なり。黒七に好機を逸して復た來らず。白既に八に至つて黒イに白ロなれば、白乃ち安んじて十。

〔四七四一〕場合による

白六と掛ぐ手あり。黒九はイにても宜し、また堅く打たんとする時はロに掛ける手もあり。

〔四七四二〕白稍利勢

圖の七に至つて黒が白の○を征に取り得る場合は黒三と打つ手もあれど、稍白に利あり。（四七五〇圖參照）。

〔四七四三〕要點約言（上）

（第七十型イの三）

白七面白し。次に黒の應けにイとロとあり。イは常形、ロは白に多くの場合黒不利なり。

〔四七四四〕要點約言（下）

（第七十型イの三）

白九では、イとロとあり。イとなれば、黒ロの切りに双方無事の分れ。又ロなれば、黒イ、白ハとなりて種々變化あれど此形白面白し。

〔四七四五〕基本圖

（第七十型イの四）

黒六の時に、白に㋑及び㋺の手あり。ロは場合の手なれど、イは手筋にして面白し。

〔四七四六〕定石

黒十四を十五に打てば、白イにて七三四圖と同じく、又黒十四なれば、白十五、十七と打つべく、此形は四七二三圖に比して面白し。

〔四七四七〕白可なり

白一黒四の交換ある形に黒は十二に襲ひ來る。白乃ち十三、十五、十七。いや白は十七の左に、厚くして可なり。（四七二四圖參照）

〔四七四八〕普通黒好まず

黒は、白のイを嫌ひ、退いて四にひくとあり。イとなれば、ロの切りに無事の分れ。又ロなれば、黒イ、白ハとなりて種々變化あれど此形白面白し。

〔四七四九〕場合による

黒六と切る、㊀の邊にかけて黒の志碕。白七、六の切りは、通常の形勢にては、黒として打過ぎなり。

〔四七五〇〕白優れり

勝橋本宇太郎三段當時　先番鈴木秀子三段當時

兩氏の實戰圖。（白星打つ場合は、征宜しき形）白八と打つ手あり。黒九、一考を要す。

〔四七五一〕黒稍可なり

前圖の變化、白と黒と替れり。白七に打てば、黒八に綿込んで隅と替りて宜し。

〔四七五二〕黒打易き形

白十一に切る手あり。黒十二以下一氣に押し切つて十。八に至り更に二十。黒の封土も大なれど、白の外勢も亦厚し。

〔四七五三〕征に關係あり

征宜しく、黒十二は十五。白十二黒十四。白イ。黒十六。今や兩軍の優劣は、征の第一ハ黒ロ白ニ黒ホ白ヘ黒ト白リ。（黒チ白リ。）

〔四七五四〕互角の分れ

黒若し征に取られる時は、卽ち十四、十六と結んで勝ちなれど、黒二までに白の五子を屠るも、白は外勢厚く互角の分れ。

〔四七五五〕黒稍優れり

いま、白双十三に閃く。黒乃ち十四、十六、而して十八に抱ふ。黒は左に堅寒、右は㊀の堅腸、陣容堅實なり。

〔四七五六〕互角の形勢

白は三に粘りて待機す。黒イ、愚なるが如きも甚だ面白し。能ある鷹は爪を隱す、刮目して待つべし。白三の含める種々なる變化を。

〔四七五七〕白可なり

白五は、「三ノ三」のイの打込に比して、隅の利は小なれど、外勢優る。嗟乎、吾れを知る者は吾れをして白たらしめよ。イよりも寧ろ五を執らん。

〔四七五八〕白優勢なり

黒いま六、八と、守隅に汲々たり。維盛の怯、憐むべし。斯くて、黒大勢に後る。白は十三に先手打抜き、十三虹の如き氣を吐く。

〔四七五九〕黒悪し

黒四、常形なれども、此場合は白に五と打込まれて悪し。

〔四七六〇〕場合による

黒四に約へたり。白乃ち跼躍して五に切る、意氣旺んなり。白五はイに打込む手もあり。（四七二三圖以下參照）

〔四七六一〕白稍優れり

黒は兵双相接するのとき甲を棄てゝ走るの類か、黒四と退守す、血に飢うて、遂に二の一目を打抜けり。

〔四七六二〕白の勢優る

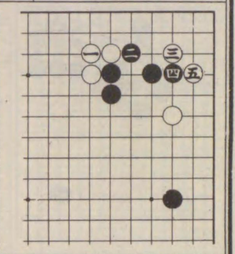
征宜しく、白は勿論十三で十四に取つて善し。相接して戰、紘々遂に猶ほ二に至るべく、白にはイとハザマを衝く手あり。

〔四七六三〕白面白し

薄か尾花か、白双は黒暗闇の中に閃いて亂れ散る、風一過、亂れ撃つの跡鎭まりて望回數子を失ひ、白は大勢却て優ひしも優るゝ勿ッグ

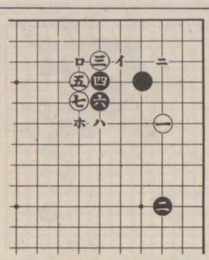
〔四七六四〕
參考圖

白一に粘く手あり。斯く打てば、黒は二の約へにて、四七二三圖以下の變化と同じ。



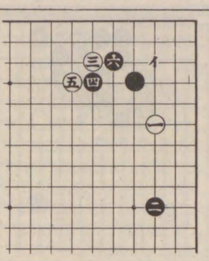
〔四七六五〕
要點約言
（第七十型イの四）

白七に押せば、黒イ白ロ黒ハ白ニの定型に歸す。若し黒ハをホと絡れば白ロに粘く妙着あり。白に妙機雲の如く生ず。



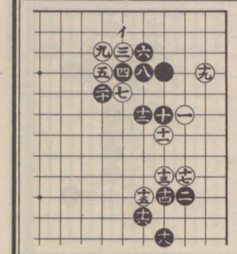
〔四七六六〕
基本圖
（第七十型ロ）

黒六に約へ込む手あり。白よりイに替らゝ（四七一八圖以下）を避けし手段にして、時に此手可なり。



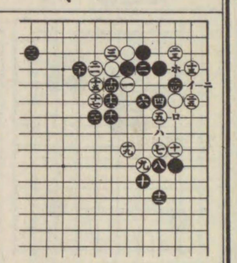
〔四七六七〕
定石

白九は、外にイ、二十及び十二の手あり。黒二十手强し。



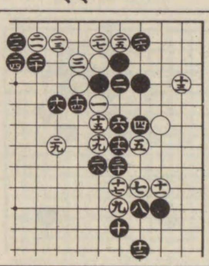
〔四七六八〕
形勢互角

白十五、十七、穩かなり。白二五をイとなれば、黒ロ白二五黒ハ、又圖の形、黒はイ、白ニ、黒ホにて活あり。



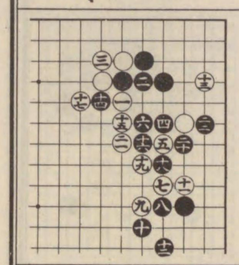
〔四七六九〕
白四分五裂す

白十五、甚だ無理なり。黒十八、白十九上の時、黒二十の龍攻、更に二八、虎撃、十三の攻撃頭、嗟乎、白いまや滿身創痍を蒙る、再び起ち難し。



〔四七七〇〕
白潰滅す

白二一、三、四、二六乃ち黒は二、四、二六と利かせて、次にイに打ちて勝を制す。二八初め白十九をイなれば、無論黒はロにて善し。



〔四七七一〕
黒稍利勢

白十七、黒十八に劍を按じて進む、此時、白十九上、二一勢を張りては黒二十の形、白は十五の無理に事無きを得たり。

〔四七七二〕
常形

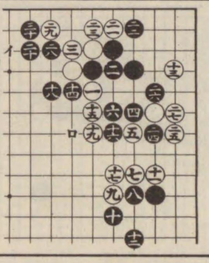
白十三に行びたり。今や上邊の關門、一日も防備を忽せにすべからず。乃ち黒十に下して四の鐵桶の備を爲す。

〔四七七三〕
黒確なり

黒十に曲つて後十二と綿くる手もあり、斯くすれば、黒は十四と守る手順を得て隅は確なり。

〔四七七四〕
黒、罠に落つ

あゝ、花の顔で隠したる毒蛇の陷穽！黒十二は之にか、りぬ。白三、十一、又黒十五、手筋！白はイに四を取れば、黒七にて、黒の愚形甚し。



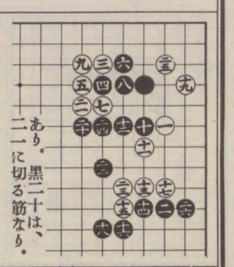
〔四七七五〕
黒善し

黒㊀に三間夾みの時、白七は惡し！見よ圖の如く八と交換せしめ、黒は既に堅固となり、黒は十二、十六と充分外を強くなり、黒は十二、十六と充分外を強打つ事を得たり。

〔四七七六〕
互角の形勢

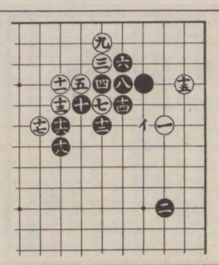
瀬越憲作七段初段
三子 菊池次郎當時勝

兩氏の實戰圖。若し右下邊に黒石のある場合は、白十七に黒十八の手あり。黒二十は、二一に切る筋なり。



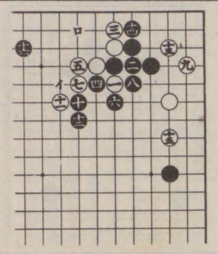
〔四七七七〕
定石

白九。黒は無論十に切るべし。白十一、三を十四なれば、黒イ行、白十六、十八の綽手厚く、して最も善し。



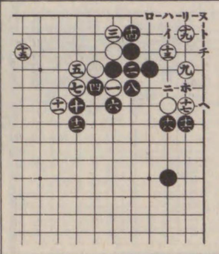
〔四七七八〕
黒厚し

白十三、黒十四、白十五。此時、黒は十六へ追り進む、蓋し要點なり。白イロの間隙、今や黒が指呼の間にあり。



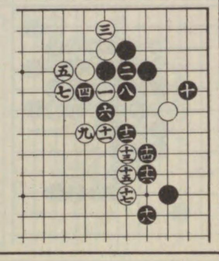
〔四七七九〕
黒優れり

白十五。黒乃ち長驅して十六、十八を可なり。白十九を手抜きせば、黒十一、九白イ黒ロ白ハ黒ニ白ホ黒ヘ白ト黒チ白リ黒ヌにて劫。



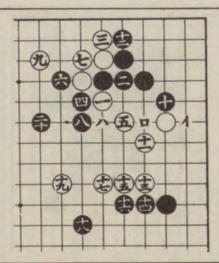
〔四七八〇〕
場合による

白九と、大上段に大刀を振翳す。黒は隅の堅實を圖て、青眼の構へ、大上段は形勢を得たり。



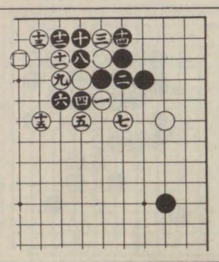
〔四七八一〕
黒の勢善し

白五、打過ぎに下れば、白十一、黒ロ、白十一、黒ハ、黒いま二十に堅甲の備をなす。上下の白爲に影薄し。



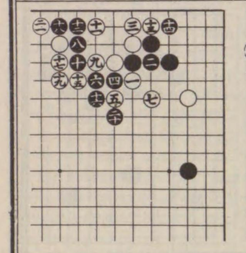
〔四七八二〕
白優勢

白㊀にある場合、之は實戰に多く見る形、黒四手順惡し、斯かる場合は、四は八を先にすべし。



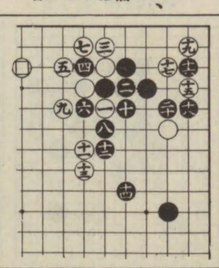
〔四七八三〕
白　勝

黒八は手筋なれど此場合白から、白は强硬に下り、十一、十三と、圍二に至つて出づ。黒一を衝いて、黒斷腸の思ひあり。



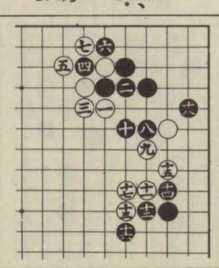
〔四七八四〕
黒確なり

白㊀を望み見て、黒は四を正にタイミリ・ヒットの威あり。飮爲に下るの俗手にして好手筋なれど、此場合左斯く振替れど、此場合左斯く白堅き故、斯く善し。



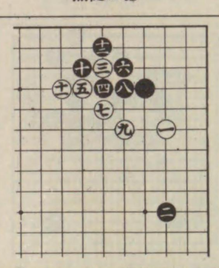
〔四七八五〕
黒確なり

白三に粘げば、黒は四、六の後、八、十と附行すべし。既に白守十三、黒は十八を守す。隅乃ち急を要す、最も急を要す、隅乃ち、黒は十六と、先手を取つて十八に備ふ。



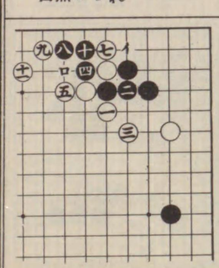
〔四七八六〕
定　石

白九、十一の手あり。二と三間夾にある形には、穩健なる着手なり。黒十二、良し。



〔四七八七〕
白手厚し

黒六を手抜きすれば、白は七に下り二目に乘て、黒シボ手善し。黒八を十なれば、白イ黒ロ。



〔四七八八〕白大に善し

勝浦原繁治三段
先刈谷嚴雄初段
兩氏の實戰圖（白星打の過）十黒一、打の常形に依るべし。

（参劫トル）

〔四七八九〕要點約言（上）（第七十型ロ）

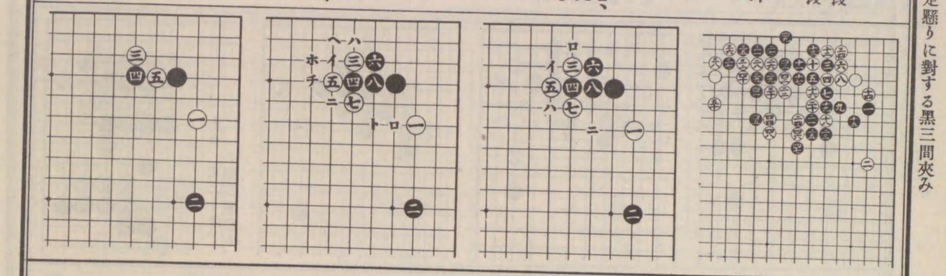
黒六なれば、白七、黒八は當然、白九ではイロハ及びニとあり（二一五）七圖以下參照）其諸圖には、黒二と無し。白一變化自ら異る。

〔四七九〇〕要點約言（下）（第七十型ロ）

白九でイなれば、黒ロ、白九でハなれば、黒ニ、又、白ニなれば、黒イ、白ホ黒ハ白ヘの時、黒ロ最後に白九をトなれば、黒イ白チ黒ハ。

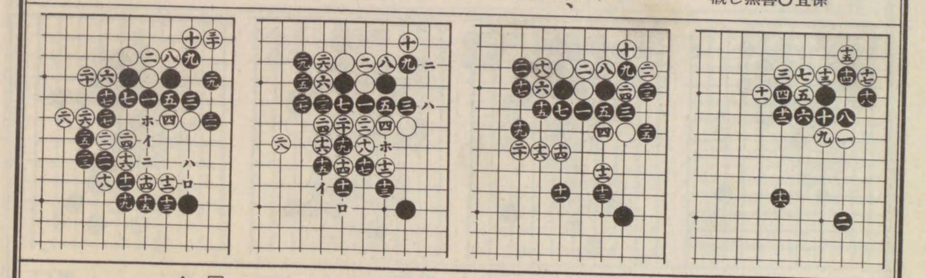
〔四七九一〕基本圖（第七十型ハ）

白五に綽込む筋あれど、黒合の場合には三間夾みの好結果を得ず。



〔四七九二〕定石

此變化は征に關係あり、若し黒征宜しき時は四〇〇圖の如く打つて善し。黒八好手、黒十六は鷲鳥羽撃して天空を覆ふの概あり、善し。



〔四七九三〕黒優勢なり

黒十一の時、白十二、十四と動きしは時機尚早に、至つて惡しく、遂に二五に失ふ。白形勢を十七なれば、白十六を十論十六、黒は無

〔四七九四〕黒優れり

白十六を十九に行びイ、黒ロにて前圖と略同形。白二、黒二、白ニ、黒ホにて二二、白ニ、黒イ。白三一なれば、黒ロ白ハ黒イ。

〔四七九五〕白大敗

白十二以下は甚だ惡手、白二は打過ぎ、イに粘く位のものなり、白ニ黒ホ。

（二十四ノ處）

〔四七九六〕黒優れり

白六、黒七、黒は乃ち七の要點に行び、白八を十五に押せば、黒は十五に約へ、黒九は十七に押せば、白十六、黒イ。（三一圖以下）黒十五は要點。

〔四七九七〕白敗戰

白六、八、甚だ無理せば、白十七に押び、後ち黒十七に行びて、黒九の切りを生ず。此圖、白は企つる所取り拉か悉く黒に衰れるを止め、洵に形勢不明なり。

〔四七九八〕黒外勢善し

白十、黒十一を十二に下れば、前圖と略同じ。白十六に押せば、黒イ、白十六、黒ロ之も白惡し。

〔四七九九〕白薄し

白六、八も、打過なり。黒十一善し。白十八に切れば、黒イ、白ニ、黒ハ、白ニ、黒ロ之も白惡し。

（大粘ぐ）

〔四八〇〇〕白甚だ窮す

黒三の次に、白にイと征に取られぬ場合は、黒は一、三と打つて簡單に黒好し。

〔四八〇一〕白要石を失ふ

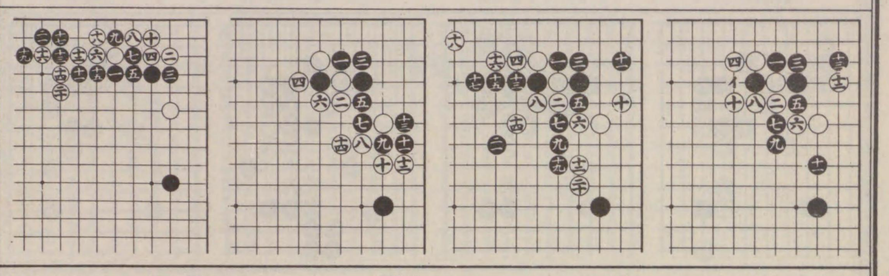
曰十、十二と、右邊を救援せしも、黒十三に出ることとなりて白は收拾の途無し。二一に至つて白遂に屆す。

〔四八〇二〕白優れり

白に四と征に取られる場合は、黒の切り善し。白八一、黒三と打つて簡單に三と打つて黒好し。

〔四八〇三〕外の白薄弱也

白二と卒然隅を衝きしは、尚早なり。黒三を七、白三、黒六となれば、四七九圖と略同じ。黒十一、手筋なり。



〔四八〇四〕白薄弱なり

初め白三を十三に綽れば黒六、十形は白一と黒二と交換するだけに白惡し。（四七六圖白以下參照）黒十三、黒六、白五を八なれば黒十。

〔四八〇五〕黒優れり

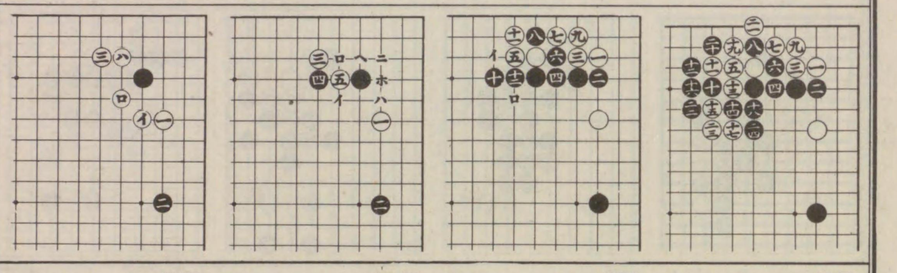
黒十はイに附ける筋もあれど、此場合打過なり。即ち、黒イに尋いで白ロと十二黒十一となれば、黒は暗夜に星地の中を徘徊するが如く、甚だ無氣味なり。

〔四八〇六〕要點約言（第七十型ハ）

白五には、黒イ、黒は白ロ、黒ハ、又黒イ、白征宜しき時は、黒イで次に白ニ、黒ヘなれば、黒ホ、白ヘ形白好まず。其白ニ黒黒イ、

〔四八〇七〕基本圖（第七十型ニ）

白三の時、黒は㋑或は㋺の應手あり。何れも初心者には見て正着なれど俗手にして正着に非ず。



〔四八〇八〕黒場合を得ず

黒雲を失ひし鮫龍や木の魚を得んが如く凡そ事、處を得ざれば、成し難し。所を得ず、惡しく、以て強ひて遂に弱く下却せり。白四は手なり。

〔四八〇九〕稍黒味惡し

夫れ兵毫の機微の間に激變を捉ふ、厘の間に明暗を決するは蓋し黒十一の如きか。此手を十八に切れば、白十七、黒イ、白ニ、黒ロ之も白惡し。

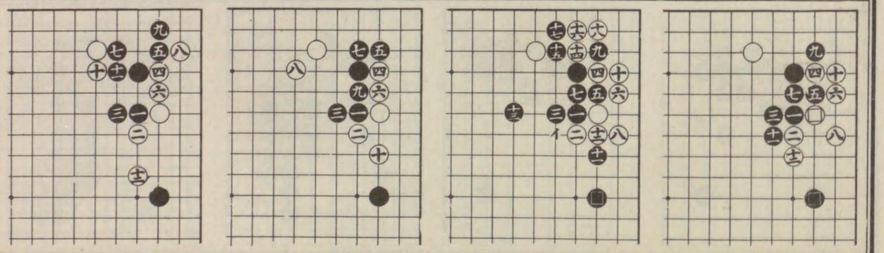
（大粘ぐ）

〔四八一〇〕黒凝形なり

黒五なれば、白六と尖み、次に八と尖みて九に出切りを狙ふ。白今直ぐ九に出れば、黒は筋はなけれど、九と十と交換を得ざるなり。

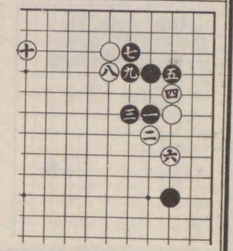
〔四八一一〕黒損なり

曰目な鸞親心。吾れ數へ來るも黒の七の手は、黒七の手は、白三より鋭し。烈んの爲に白先利か、黒八の手は、黒七、黒の心の損甚だ大なり。何の場合にも惡し。



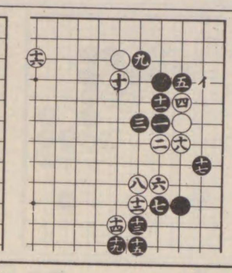
〔四八一二〕
互角の形勢

白四常形に泥む、五に附ける筋なり。白六、黒七共に堅實善し。



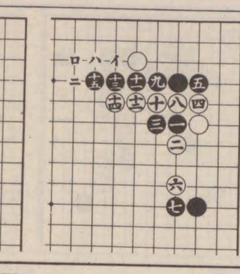
〔四八一三〕
黒面白し

白四で六は、後に白イの斜走を狙ふ意味にて、手筋なれども、白四黒五の後に至つて白六は好まず。



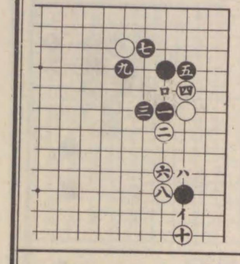
〔四八一四〕
黒悪しからず

白八の時、黒十と約へて戰ふ手あれども、黒九に弛め振替りに出でゝ、結果黒悪しからず、白十四をイなれば、黒ロ、白ハ、黒ニ。



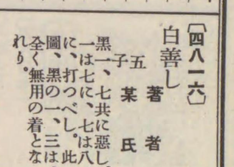
〔四八一五〕
白稍可なり

黒七緩し。斯く打てば、白は先づ八と押すべし、黒九、をイなれば、白ハ。



〔四八一六〕
白善し

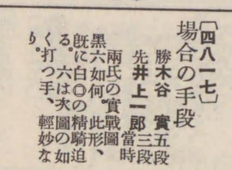
五子、七共に悪し。黒一は七に、七は八に、打つべし。此圖、黒の一、三は、全く無用の着となれり。



〔四八一七〕
場合の手段

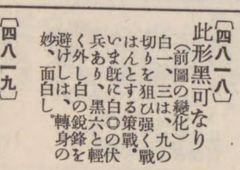
勝木谷 實五段
先井上一郎 當三段

兩氏の實戰圖、此形、既に白〇の六は〇の如く打つ手、輕妙なり。



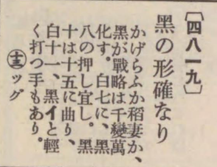
〔四八一八〕
此形黒可なり

（前圖の變化）白一、三は、九の切りを狙ひ強く戰ふ手なれども、既に白〇の策戰、兵あり、黒六との輕く外し白の鋭鋒を避けは、轉身の妙、面白し。



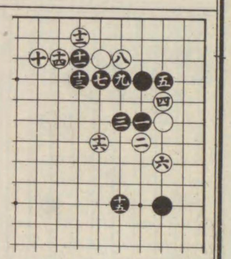
〔四八一九〕
黒の形確なり

かげらふか稻妻か、黒萬化すが如く戰略七に、變ず、黒八の押し宜しく、黒十は十一に曲り、白十一と打つ手もあり、輕妙なり。（土屋ッグ）



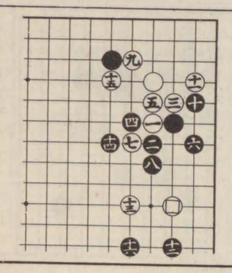
〔四八二〇〕
白陋穽に落つ

白九重き筋なり。黒十の奇撃、猛鷲の羽撃して波鳥を搏つ概あり、手强し、白十五はイに綽ねる位のもの。



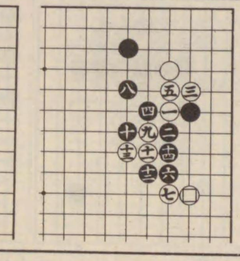
〔四八二一〕
黒稍優る

白七に切るも、黒は八と上より押す手、輕く且つ確なり。



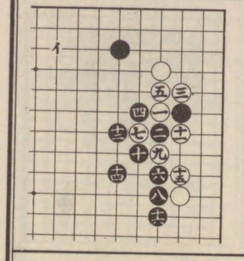
〔四八二二〕
古風の定石

黒四は支那の古代の對局に屢見る手なれど、白に「五の要所を衝かる」此形黒拙し。



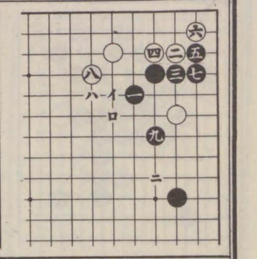
〔四八二三〕
白善し

黒五も亦、惡し。六、而して、八、十と綽行びを打つに至つては、白は既に堅甲利兵の備へ、反之、黒の陣は未だ必ずしも堅ならず、白の威、堅断然、黒に優る。



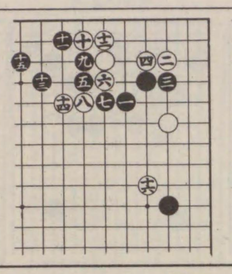
〔四八二四〕
白可なり

白八、確なり。然し此手は附け、黒ロ、白ハイと打つも宜し。又白八では、直ちにニと逃げる手もあり。



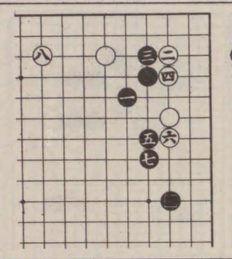
〔四八二五〕
黒形無理なり

黒五、打過ぎ。果然、白は六以下、鋭を執つて出撃す。十六に至つては、名將の馬上に劍を按ずるの概あり。黒いや苦戰を免れず。



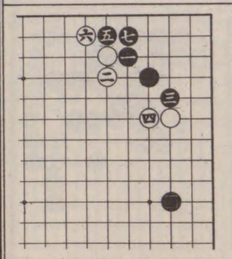
〔四八二六〕
白利勢

黒三に約へれば、白に四と盤果著しく黒の效なし。本圖白二と相應じて、四より約へるべし。



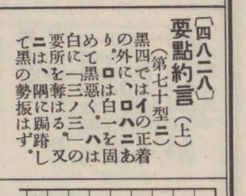
〔四八二七〕
黒狹く悪し

黒既に●にあり。然るに黒は退歩、守、沒々として風の音に肝を消すの怯ふに堪へたり。笑



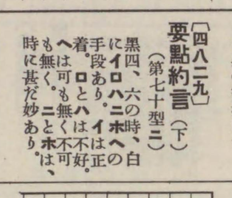
〔四八二八〕
要點約言（上）

（第七十型ニ）
黒四では、イの正着の外に、ロハニあり。ロは固めて黒悪く、白一、三ノ一、又白に一三ノ二の要所を奪はるゝ、ニは、隅に蹈跨して黒の勢振はず。



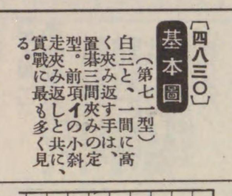
〔四八二九〕
要點約言（下）

（第七十型ニ）
黒四、六の時、白に手段イロハニホへの着あり。イは不好。ロは無くハは可も不可も無く、ニとホは、時に甚だ妙あり。



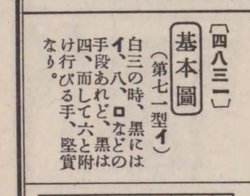
〔四八三〇〕
基本圖

（第七一型）
白三と、一間に高く夾み返す手は、定置、三間夾みの定型。前項イの小斜走夾みと共に、實戰にも最も多く見る。



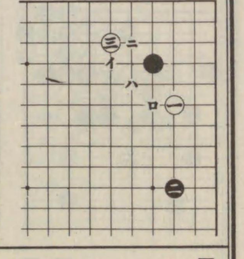
〔四八三一〕
基本圖

（第七一型イ）
白三の時、黒にはイ、ロなどの手段あれど、黒は四と附して六、而して四、六に打ち行くべき手、堅實なり。



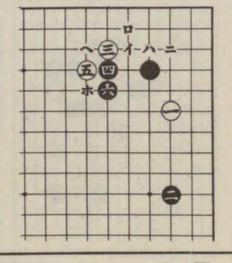
〔四八三二〕
定石

此形は、白三と夾も多く見る定石なり。黒十は、キマリ手。所謂返せし圖の中、最



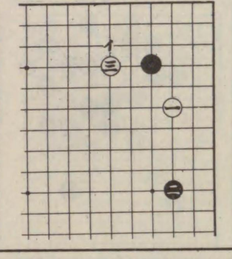
〔四八三三〕
黒優れり

白直ちに一と打つ手は無理なり。黒四、六善し。黒十は、イと行びるもあり。（次圖參照）



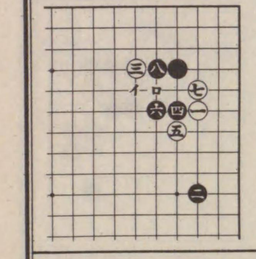
〔四八三四〕
白形甚だ無理

白十五、打過。尤も此形、黒より四、六と打たれ以上、黒二、白苦戰なり。二の次に白イなれば、黒ロにて白死。



〔四八三五〕
白浮腰まづし

白五、七、無理筋なり。遂に二一迄の白、據を失つて、東西の悲命を免れず。猶泊の如き形、黒ホイ白ロ黒ハ此利きを含んで、黒はトと切る手あり。



〔四八三六〕 黒善し

若し白、□の邊にある場合は、白一と打つ手あり。斯かる場合には、黒二、四確なり。黒十二は、十三に取るも宜し。

〔四八三七〕 場合の形なり

白一なれば、黒は手を抜いて宜し。又堅く打たんとするには、次に黒イと打つべし。又白一を□に打つも、其意味は圖と略同じ。

〔四八三八〕 場合の手段

黒二、四と打つ手あり。白五、手筋。黒六は、イに約へて、白を隔て戰ふ手もあり。

〔四八三九〕 場合による

黒八、十は、通常薄き形にて、面白からざれど、此場合、黒悪しからず。黒十二、白は乃ち十三以下疾呼して出づ。白十九、二一、手筋なり。

〔四八四〇〕 黒優れり

黒既に●にある時、●に飛びしは無理なり。黒乃ち一、二と飛びて、白よりかる場合には、黒十二は、十三に取るも宜し。斯く附ける筋は悪し。遂に白は一目抱へとなりて、其勢、黒は遠く白に及ばず。

〔四八四一〕 黒形確定せり

白十五に來る時や、黒は十六、十七の交換によつて白を重からしめ而して白十八、黒いまや虎視々々、右イ或は左ロに鋏を伏せたり。

〔四八四二〕 黒打易し

白一悪し。黒二要點。黒八に、白一と飛びて黒の矛盾を衝く。反之、鐵堅にて未だ形治まらず。白は、ロにて、黒二と活きる位のもの。

〔四八四三〕 ウソ手の一例

白□にある時、黒一は悪し。突如、天地晦冥！黒四、四顧瀆音にも心穏かならず。

〔四八四四〕 白可なり

黒五以下、善し。然し、黒既に四に一に失して、白よりかる虚に乗ぜられては、斯く好まず。形勢至つて難なり。

〔四八四五〕 白有利の分れ

黒五。すは擾亂！野の末、機滿ちて彼方へ渡りぬ。白十、佳手なり。十四に至つて白軍に勝算ありと新興の氣漲る。

〔四八四六〕 黒、最悪の形

之は、初心者の非き例の一なり。最も悪しき形なり。十一に至つては、黒は敗決に一戰に既にせりといふも過言にあらじ。白征悪しき場合は、十一と

〔四八四七〕 黒好まず

黒一と約へて專ら隅を守る。時に此手段なきにあらねど、普通は好まず。蓋し、白の□が好點となる故なり。

〔四八四八〕 白善し

此形、黒一と附ける筋は悪し。遂に白は一目打抜黒は一目抱へとなりて、其勢、黒は遠く白に及ばず。

〔四八四九〕 白優れり

黒いまや三。六まで黒十三を白は包圍せば、白イに尖殺を孕んで死を免れず。

〔四八五〇〕 白利勢

黒三に引きぬ。白は絶好のチャンス、四に隅を取りしは拙し。黒七を取りイには抱へれば、白七黒白八。

〔四八五一〕 參考圖

白稍有利の形
勝小杉丁四段
先番瀬川晃雄初段
兩氏の實戰圖へ白星打の圖。

黒七、好まず。

〔四八五二〕 要點約言（第七一型イ）

黒四以下九まで、實戰に多く見る形なり。此中、黒六を若しイなれば、白ロ、又黒八をハなれば、白ロにて何れも黒悪し。

〔四八五三〕 基本圖（第七一型ロ）

黒四は、白の三に接ぎ、以下呼應して二の一を攻撃せんとす。此手段、強ひて變化を求めんとするも、時に黒の嫌はあれど、白し。

〔四八五四〕 參考圖

四八二五圖と略同じ。白一と黒の□を一と跳ぐ、輕快の三を一と三の要所を襲ふ。黒二、常形なり、さ、白四、此場合は四八六〇圖以下によるべし。

〔四八五五〕 白優勢

數を突いて蛇、毛を吹いて傷を求む、黒十と白の二子を取りしも、十一に至つて、黒形勢を損ず。

〔四八五六〕 白可なり

黒十四に飛べば、白十五、十七に打て善し。白二、黒二、共に要點なり。

〔四八五七〕 參考圖

黒稍有利の分れ
先番井向井男四段
勝井上一郎四段

黒四は、白の三に接ぎ、以下呼應して二の一を攻撃せんとす。此手段、強ひて變化を求めんとするも、時に黒の嫌はあれど、白し。

〔四八五八〕 黒有利の分れ

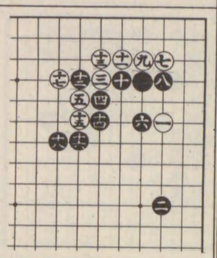
白三は通形なれど、此場合は三で四に、黒四、黒一、着能く黒は其形を確保せり。

〔四八五九〕 黒の勢確なり

既にして十八に至る。熟々觀望するに、外勢は四に互角なるも、磐石の黒軍が左右の白を攻む、根據を占むるに一に拘撃の機、刻々に白を迫れり。

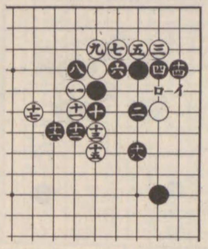
〔四八六〇〕
定　石

黒四、次に六の筋あり。面白し。



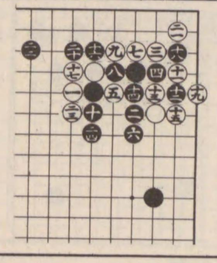
〔四八六一〕
黒稍優れり

白十三・黒は一躍せば形勢を失はんとす。黒十四深淵に臨む勢にて、危機既に去る。白十一より四を急れば、四黒イ白ロの筋あり。



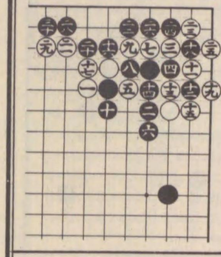
〔四八六二〕
中の白薄し

いま白五は用ふ、權變の策を。黒六が如くして而も大牢の滋味あり。二四に至つて、中央の白は孤軍無援なり。



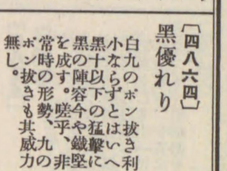
〔四八六三〕
黒善し

曉乎、淺慮悔ひを遺すものの、事例にこしからず。白二の淺慮、黒一二の淺慮、二四の猛攻に至つては、中央の白は何處にか歸すべき。（七ページ）



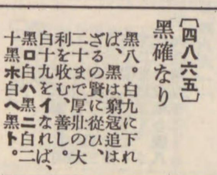
〔四八六四〕
黒優れり

白九のポン抜きは利小ならずとはいへ、黒十以下の猛撃に、黒の陣容を成す。容易ならず、曉乎、非常時の形勢、九のポン抜きも其威力無し。



〔四八六五〕
黒確なり

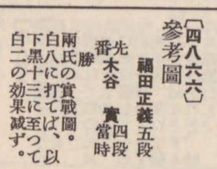
黒八・黒は白九に下れば、白十以下黒十三に至つて、白二の効果減ず。



〔四八六六〕
參考圖

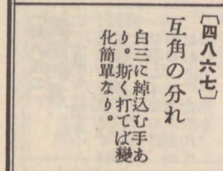
先　木谷實四段
番　勝　鶴田正義五段

兩氏の實戰圖。白八に打てば、以下黒十三に至つて、白二の効果減ず。



〔四八六七〕
互角の分れ

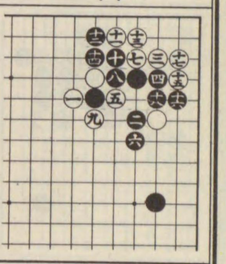
白三に綿込む手あり。斯く打てば變化簡單なり。



〔四八六八〕
參考圖

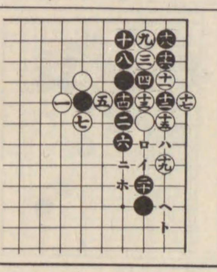
林　有太郎　六段
先　橋本宇太郎　五段
番　勝

（白星打の形）黒十一は時機を見るべし。早けれれば白を堅くして惡し。



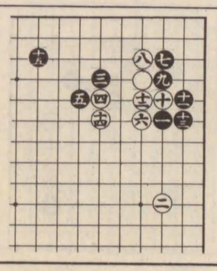
〔四八六九〕
黒稍可なり

白三は、黒に四と立つて好調を與へ、黒四手強く惡し、黒十九と弱き、闘志滿幅。白意氣天を衝く。黒は輕く捌く心得善し。（九ページ）



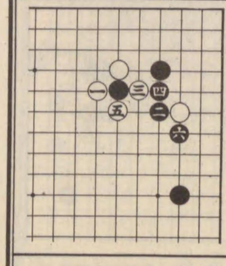
〔四八七〇〕
白敗北

白七は、故意に駄目詰めりの惡手に赴くもの。白十三、十五と取るも、黒十四、白は十六の辣手に、黒は十八と悲涙に喞ぶに至つて黒勝なり。（十二ページ）



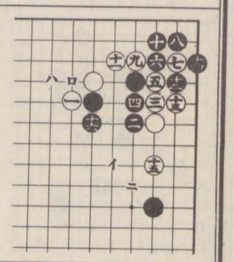
〔四八七一〕
黒の勢優る

白十三・黒乃ち十四。白二の利を見て十二の一手段を劫にして十九と劫を打ち、之によりて善き白辛うじて活きに就くを得るも、依然として黒勢は優る。



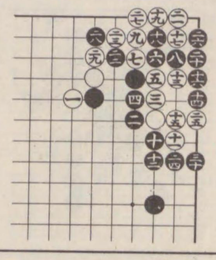
〔四八七二〕
黒の策戰奏功

白三、五・黒六、白四の二段約へ、善し。次に白十六、黒イなれば、又白の切。黒ロに粘げば黒ニ。白ハをイに打込めば、黒ハ白ホ黒ヘ白ト黒チ。



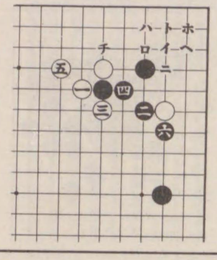
〔四八七三〕
白潰敗す

白七惡し。曉乎、簿を帷幕の中に運らして勝を千里の外に決せし張良の謀、黒の八之に類する、か。黒十四、善し。攻合遂に黒勝となれり。



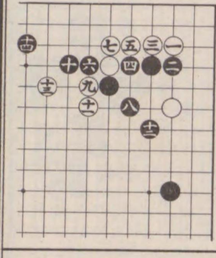
〔四八七四〕
黒稍利勢

白三と綽れば、黒四、白五、黒六、斯くて右邊の黒地略確定せり。又次に白イに打込めば、黒ロ白ハ黒ニ白ホ黒ヘ白ト黒チ。



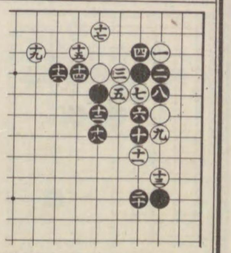
〔四八七五〕
形勢互角

白一と、直ちに隅へ打込みしは、形平凡なれど、烈々の闘志を藏す。見よ、鋒芒に切つて燦と輝く此形、外勢白優れる時は、外勢白面白し。



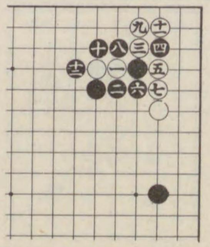
〔四八七六〕
白苦戰

白三なれば、黒は必べし。四に約へ込むし、若し黒五に打たば白四を劫りとなりて黒の形惡し。黒六、八、手強し。



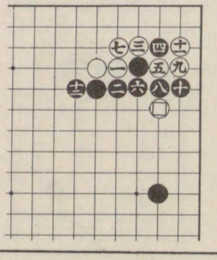
〔四八七七〕
黒優れり

白一惡し。黒二、次に白三と綽れば、黒四の二段約へ、曉乎、黒可なり。黒の意氣凛然、滿を絞つて進み擊つ。



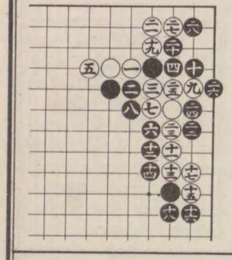
〔四八七八〕
黒善し

白七。乃ち黒は八、十、十一の二。白〇一子直面す、此動かべからざる鐵壁に敵軍の認むべき手活もの毫末も無し。



〔四八七九〕
白に利あらず

白三の切り、打過ぎなり。黒何せん、體撲拔き屈せん、體撲拔き屈して兩軍死力を竭して戰ふ。變化至難なれども、結局黒凱歌を揚ぐ。



〔四八八〇〕
黒優れり

白一・黒二、白三・黒四、白五・黒六、白七・黒八、白九・黒十、白十一・黒十二、白十三・黒十四、白十五・黒十六、白十七・黒十八、白十九・黒二十、白二十一・黒二十二、白二十三・黒二十四、白二十五・黒二十六、白二十七・黒二十八、白二十九・黒二十、白三十一・黒三十二、白三十三・黒三十四、白三十五・黒三十六、白三十七・黒三十八、白三十九・黒四十、白四十一・黒四十二、白四十三・黒四十四、白四十五・黒四十六、白四十七・黒四十八、白四十九・黒五十、白五十一・黒五十二、白五十三・黒五十四、白五十五・黒五十六、白五十七・黒五十八、白五十九・黒六十、白六十一・黒六十二、白六十三・黒六十四、白六十五・黒六十六、白六十七・黒六十八、白六十九・黒七十、白七十一・黒七十二、白七十三・黒七十四、白七十五・黒七十六、白七十七・黒七十八、白七十九・黒七十、白八十一・黒八十二、白八十三・黒八十四、白八十五・黒八十六、白八十七・黒八十八、白八十九・黒九十、白九十一・黒九十二、白九十三・黒九十四、白九十五・黒九十六、白九十七・黒九十八、白九十九・黒百、白百一・黒百二、白百三・黒百四、白百五・黒百六、白百七・黒百八、白百九・黒百十、白百十一・黒百十二、白百十三・黒百十四、白百十五・黒百十六、白百十七・黒百十八、白百十九・黒百二十、白百二十一・黒百二十二、白百二十三・黒百二十四、白百二十五・黒百二十六、白百二十七・黒百二十八、白百二十九・黒百三十、白百三十一・黒百三十二、白百三十三・黒百三十四、白百三十五・黒百三十六、白百三十七・黒百三十八、白百三十九・黒百四十、白百四十一・黒百四十二、白百四十三・黒百四十四、白百四十五・黒百四十六、白百四十七・黒百四十八、白百四十九・黒百五十、白百五十一・黒百五十二、白百五十三・黒百五十四、白百五十五・黒百五十六、白百五十七・黒百五十八、白百五十九・黒百六十、白百六十一・黒百六十二、白百六十三・黒百六十四、白百六十五・黒百六十六、白百六十七・黒百六十八、白百六十九・黒百七十、白百七十一・黒百七十二、白百七十三・黒百七十四、白百七十五・黒百七十六、白百七十七・黒百七十八、白百七十九・黒百八十、白百八十一・黒百八十二、白百八十三・黒百八十四、白百八十五・黒百八十六、白百八十七・黒百八十八、白百八十九・黒百九十、白百九十一・黒百九十二、白百九十三・黒百九十四、白百九十五・黒百九十六、白百九十七・黒百九十八、白百九十九・黒二百、白二百一・黒二百二、白二百三・黒二百四、白二百五・黒二百六、白二百七・黒二百八、白二百九・黒二百十、白二百十一・黒二百十二、白二百十三・黒二百十四、白二百十五・黒二百十六、白二百十七・黒二百十八、白二百十九・黒二百二十、白二百二十一・黒二百二十二、白二百二十三・黒二百二十四、白二百二十五・黒二百二十六、白二百二十七・黒二百二十八、白二百二十九・黒二百三十、白二百三十一・黒二百三十二、白二百三十三・黒二百三十四、白二百三十五・黒二百三十六、白二百三十七・黒二百三十八、白二百三十九・黒二百四十、白二百四十一・黒二百四十二、白二百四十三・黒二百四十四、白二百四十五・黒二百四十六、白二百四十七・黒二百四十八、白二百四十九・黒二百五十、白二百五十一・黒二百五十二、白二百五十三・黒二百五十四、白二百五十五・黒二百五十六、白二百五十七・黒二百五十八、白二百五十九・黒二百六十、白二百六十一・黒二百六十二、白二百六十三・黒二百六十四、白二百六十五・黒二百六十六、白二百六十七・黒二百六十八、白二百六十九・黒二百七十、白二百七十一・黒二百七十二、白二百七十三・黒二百七十四、白二百七十五・黒二百七十六、白二百七十七・黒二百七十八、白二百七十九・黒二百八十、白二百八十一・黒二百八十二、白二百八十三・黒二百八十四、白二百八十五・黒二百八十六、白二百八十七・黒二百八十八、白二百八十九・黒二百九十、白二百九十一・黒二百九十二、白二百九十三・黒二百九十四、白二百九十五・黒二百九十六、白二百九十七・黒二百九十八、白二百九十九・黒三百、白三百一・黒三百二、白三百三・黒三百四、白三百五・黒三百六、白三百七・黒三百八、白三百九・黒三百十、白三百十一・黒三百十二、白三百十三・黒三百十四、白三百十五・黒三百十六、白三百十七・黒三百十八、白三百十九・黒三百二十、白三百二十一・黒三百二十二、白三百二十三・黒三百二十四、白三百二十五・黒三百二十六、白三百二十七・黒三百二十八、白三百二十九・黒三百三十、白三百三十一・黒三百三十二、白三百三十三・黒三百三十四、白三百三十五・黒三百三十六、白三百三十七・黒三百三十八、白三百三十九・黒三百四十、白三百四十一・黒三百四十二、白三百四十三・黒三百四十四、白三百四十五・黒三百四十六、白三百四十七・黒三百四十八、白三百四十九・黒三百五十、白三百五十一・黒三百五十二、白三百五十三・黒三百五十四、白三百五十五・黒三百五十六、白三百五十七・黒三百五十八、白三百五十九・黒三百六十、白三百六十一・黒三百六十二、白三百六十三・黒三百六十四、白三百六十五・黒三百六十六、白三百六十七・黒三百六十八、白三百六十九・黒三百七十、白三百七十一・黒三百七十二、白三百七十三・黒三百七十四、白三百七十五・黒三百七十六、白三百七十七・黒三百七十八、白三百七十九・黒三百八十、白三百八十一・黒三百八十二、白三百八十三・黒三百八十四、白三百八十五・黒三百八十六、白三百八十七・黒三百八十八、白三百八十九・黒三百九十、白三百九十一・黒三百九十二、白三百九十三・黒三百九十四、白三百九十五・黒三百九十六、白三百九十七・黒三百九十八、白三百九十九・黒四百、白四百一・黒四百二、白四百三・黒四百四、白四百五・黒四百六、白四百七・黒四百八、白四百九・黒四百十、白四百十一・黒四百十二、白四百十三・黒四百十四、白四百十五・黒四百十六、白四百十七・黒四百十八、白四百十九・黒四百二十、白四百二十一・黒四百二十二、白四百二十三・黒四百二十四、白四百二十五・黒四百二十六、白四百二十七・黒四百二十八、白四百二十九・黒四百三十、白四百三十一・黒四百三十二、白四百三十三・黒四百三十四、白四百三十五・黒四百三十六、白四百三十七・黒四百三十八、白四百三十九・黒四百四十、白四百四十一・黒四百四十二、白四百四十三・黒四百四十四、白四百四十五・黒四百四十六、白四百四十七・黒四百四十八、白四百四十九・黒四百五十、白四百五十一・黒四百五十二、白四百五十三・黒四百五十四、白四百五十五・黒四百五十六、白四百五十七・黒四百五十八、白四百五十九・黒四百六十、白四百六十一・黒四百六十二、白四百六十三・黒四百六十四、白四百六十五・黒四百六十六、白四百六十七・黒四百六十八、白四百六十九・黒四百七十、白四百七十一・黒四百七十二、白四百七十三・黒四百七十四、白四百七十五・黒四百七十六、白四百七十七・黒四百七十八、白四百七十九・黒四百八十、白四百八十一・黒四百八十二、白四百八十三・黒四百八十四、白四百八十五・黒四百八十六、白四百八十七・黒四百八十八、白四百八十九・黒四百九十、白四百九十一・黒四百九十二、白四百九十三・黒四百九十四、白四百九十五・黒四百九十六、白四百九十七・黒四百九十八、白四百九十九・黒五百、白五百一・黒五百二、白五百三・黒五百四、白五百五・黒五百六、白五百七・黒五百八、白五百九・黒五百十、白五百十一・黒五百十二、白五百十三・黒五百十四、白五百十五・黒五百十六、白五百十七・黒五百十八、白五百十九・黒五百二十、白五百二十一・黒五百二十二、白五百二十三・黒五百二十四、白五百二十五・黒五百二十六、白五百二十七・黒五百二十八、白五百二十九・黒五百三十、白五百三十一・黒五百三十二、白五百三十三・黒五百三十四、白五百三十五・黒五百三十六、白五百三十七・黒五百三十八、白五百三十九・黒五百四十、白五百四十一・黒五百四十二、白五百四十三・黒五百四十四、白五百四十五・黒五百四十六、白五百四十七・黒五百四十八、白五百四十九・黒五百五十、白五百五十一・黒五百五十二、白五百五十三・黒五百五十四、白五百五十五・黒五百五十六、白五百五十七・黒五百五十八、白五百五十九・黒五百六十、白五百六十一・黒五百六十二、白五百六十三・黒五百六十四、白五百六十五・黒五百六十六、白五百六十七・黒五百六十八、白五百六十九・黒五百七十、白五百七十一・黒五百七十二、白五百七十三・黒五百七十四、白五百七十五・黒五百七十六、白五百七十七・黒五百七十八、白五百七十九・黒五百八十、白五百八十一・黒五百八十二、白五百八十三・黒五百八十四、白五百八十五・黒五百八十六、白五百八十七・黒五百八十八、白五百八十九・黒五百九十、白五百九十一・黒五百九十二、白五百九十三・黒五百九十四、白五百九十五・黒五百九十六、白五百九十七・黒五百九十八、白五百九十九・黒六百、白六百一・黒六百二、白六百三・黒六百四、白六百五・黒六百六、白六百七・黒六百八、白六百九・黒六百十、白六百十一・黒六百十二、白六百十三・黒六百十四、白六百十五・黒六百十六、白六百十七・黒六百十八、白六百十九・黒六百二十、白六百二十一・黒六百二十二、白六百二十三・黒六百二十四、白六百二十五・黒六百二十六、白六百二十七・黒六百二十八、白六百二十九・黒六百三十、白六百三十一・黒六百三十二、白六百三十三・黒六百三十四、白六百三十五・黒六百三十六、白六百三十七・黒六百三十八、白六百三十九・黒六百四十、白六百四十一・黒六百四十二、白六百四十三・黒六百四十四、白六百四十五・黒六百四十六、白六百四十七・黒六百四十八、白六百四十九・黒六百五十、白六百五十一・黒六百五十二、白六百五十三・黒六百五十四、白六百五十五・黒六百五十六、白六百五十七・黒六百五十八、白六百五十九・黒六百六十、白六百六十一・黒六百六十二、白六百六十三・黒六百六十四、白六百六十五・黒六百六十六、白六百六十七・黒六百六十八、白六百六十九・黒六百七十、白六百七十一・黒六百七十二、白六百七十三・黒六百七十四、白六百七十五・黒六百七十六、白六百七十七・黒六百七十八、白六百七十九・黒六百八十、白六百八十一・黒六百八十二、白六百八十三・黒六百八十四、白六百八十五・黒六百八十六、白六百八十七・黒六百八十八、白六百八十九・黒六百九十、白六百九十一・黒六百九十二、白六百九十三・黒六百九十四、白六百九十五・黒六百九十六、白六百九十七・黒六百九十八、白六百九十九・黒七百、白七百一・黒七百二、白七百三・黒七百四、白七百五・黒七百六、白七百七・黒七百八、白七百九・黒七百十、白七百十一・黒七百十二、白七百十三・黒七百十四、白七百十五・黒七百十六、白七百十七・黒七百十八、白七百十九・黒七百二十、白七百二十一・黒七百二十二、白七百二十三・黒七百二十四、白七百二十五・黒七百二十六、白七百二十七・黒七百二十八、白七百二十九・黒七百三十、白七百三十一・黒七百三十二、白七百三十三・黒七百三十四、白七百三十五・黒七百三十六、白七百三十七・黒七百三十八、白七百三十九・黒七百四十、白七百四十一・黒七百四十二、白七百四十三・黒七百四十四、白七百四十五・黒七百四十六、白七百四十七・黒七百四十八、白七百四十九・黒七百五十、白七百五十一・黒七百五十二、白七百五十三・黒七百五十四、白七百五十五・黒七百五十六、白七百五十七・黒七百五十八、白七百五十九・黒七百六十、白七百六十一・黒七百六十二、白七百六十三・黒七百六十四、白七百六十五・黒七百六十六、白七百六十七・黒七百六十八、白七百六十九・黒七百七十、白七百七十一・黒七百七十二、白七百七十三・黒七百七十四、白七百七十五・黒七百七十六、白七百七十七・黒七百七十八、白七百七十九・黒七百八十、白七百八十一・黒七百八十二、白七百八十三・黒七百八十四、白七百八十五・黒七百八十六、白七百八十七・黒七百八十八、白七百八十九・黒七百九十、白七百九十一・黒七百九十二、白七百九十三・黒七百九十四、白七百九十五・黒七百九十六、白七百九十七・黒七百九十八、白七百九十九・黒八百、白八百一・黒八百二、白八百三・黒八百四、白八百五・黒八百六、白八百七・黒八百八、白八百九・黒八百十、白八百十一・黒八百十二、白八百十三・黒八百十四、白八百十五・黒八百十六、白八百十七・黒八百十八、白八百十九・黒八百二十、白八百二十一・黒八百二十二、白八百二十三・黒八百二十四、白八百二十五・黒八百二十六、白八百二十七・黒八百二十八、白八百二十九・黒八百三十、白八百三十一・黒八百三十二、白八百三十三・黒八百三十四、白八百三十五・黒八百三十六、白八百三十七・黒八百三十八、白八百三十九・黒八百四十、白八百四十一・黒八百四十二、白八百四十三・黒八百四十四、白八百四十五・黒八百四十六、白八百四十七・黒八百四十八、白八百四十九・黒八百五十、白八百五十一・黒八百五十二、白八百五十三・黒八百五十四、白八百五十五・黒八百五十六、白八百五十七・黒八百五十八、白八百五十九・黒八百六十、白八百六十一・黒八百六十二、白八百六十三・黒八百六十四、白八百六十五・黒八百六十六、白八百六十七・黒八百六十八、白八百六十九・黒八百七十、白八百七十一・黒八百七十二、白八百七十三・黒八百七十四、白八百七十五・黒八百七十六、白八百七十七・黒八百七十八、白八百七十九・黒八百八十、白八百八十一・黒八百八十二、白八百八十三・黒八百八十四、白八百八十五・黒八百八十六、白八百八十七・黒八百八十八、白八百八十九・黒八百九十、白八百九十一・黒八百九十二、白八百九十三・黒八百九十四、白八百九十五・黒八百九十六、白八百九十七・黒八百九十八、白八百九十九・黒九百、白九百一・黒九百二、白九百三・黒九百四、白九百五・黒九百六、白九百七・黒九百八、白九百九・黒九百十、白九百十一・黒九百十二、白九百十三・黒九百十四、白九百十五・黒九百十六、白九百十七・黒九百十八、白九百十九・黒九百二十、白九百二十一・黒九百二十二、白九百二十三・黒九百二十四、白九百二十五・黒九百二十六、白九百二十七・黒九百二十八、白九百二十九・黒九百三十、白九百三十一・黒九百三十二、白九百三十三・黒九百三十四、白九百三十五・黒九百三十六、白九百三十七・黒九百三十八、白九百三十九・黒九百四十、白九百四十一・黒九百四十二、白九百四十三・黒九百四十四、白九百四十五・黒九百四十六、白九百四十七・黒九百四十八、白九百四十九・黒九百五十、白九百五十一・黒九百五十二、白九百五十三・黒九百五十四、白九百五十五・黒九百五十六、白九百五十七・黒九百五十八、白九百五十九・黒九百六十、白九百六十一・黒九百六十二、白九百六十三・黒九百六十四、白九百六十五・黒九百六十六、白九百六十七・黒九百六十八、白九百六十九・黒九百七十、白九百七十一・黒九百七十二、白九百七十三・黒九百七十四、白九百七十五・黒九百七十六、白九百七十七・黒九百七十八、白九百七十九・黒九百八十、白九百八十一・黒九百八十二、白九百八十三・黒九百八十四、白九百八十五・黒九百八十六、白九百八十七・黒九百八十八、白九百八十九・黒九百九十、白九百九十一・黒九百九十二、白九百九十三・黒九百九十四、白九百九十五・黒九百九十六、白九百九十七・黒九百九十八、白九百九十九・黒千百、白千百一・黒千百二、白千百三・黒千百四、白千百五・黒千百六、白千百七・黒千百八、白千百九・黒千百十、白千百十一・黒千百十二、白千百十三・黒千百十四、白千百十五・黒千百十六、白千百十七・黒千百十八、白千百十九・黒千百二十、白千百二十一・黒千百二十二、白千百二十三・黒千百二十四、白千百二十五・黒千百二十六、白千百二十七・黒千百二十八、白千百二十九・黒千百三十、白千百三十一・黒千百三十二、白千百三十三・黒千百三十四、白千百三十五・黒千百三十六、白千百三十七・黒千百三十八、白千百三十九・黒千百四十、白千百四十一・黒千百四十二、白千百四十三・黒千百四十四、白千百四十五・黒千百四十六、白千百四十七・黒千百四十八、白千百四十九・黒千百五十、白千百五十一・黒千百五十二、白千百五十三・黒千百五十四、白千百五十五・黒千百五十六、白千百五十七・黒千百五十八、白千百五十九・黒千百六十、白千百六十一・黒千百六十二、白千百六十三・黒千百六十四、白千百六十五・黒千百六十六、白千百六十七・黒千百六十八、白千百六十九・黒千百七十、白千百七十一・黒千百七十二、白千百七十三・黒千百七十四、白千百七十五・黒千百七十六、白千百七十七・黒千百七十八、白千百七十九・黒千百八十、白千百八十一・黒千百八十二、白千百八十三・黒千百八十四、白千百八十五・黒千百八十六、白千百八十七・黒千百八十八、白千百八十九・黒千百九十、白千百九十一・黒千百九十二、白千百九十三・黒千百九十四、白千百九十五・黒千百九十六、白千百九十七・黒千百九十八、白千百九十九・黒千二百、白千二百一・黒千二百二、白千二百三・黒千二百四、白千二百五・黒千二百六、白千二百七・黒千二百八、白千二百九・黒千二百十、白千二百十一・黒千二百十二、白千二百十三・黒千二百十四、白千二百十五・黒千二百十六、白千二百十七・黒千二百十八、白千二百十九・黒千二百二十、白千二百二十一・黒千二百二十二、白千二百二十三・黒千二百二十四、白千二百二十五・黒千二百二十六、白千二百二十七・黒千二百二十八、白千二百二十九・黒千二百三十、白千二百三十一・黒千二百三十二、白千二百三十三・黒千二百三十四、白千二百三十五・黒千二百三十六、白千二百三十七・黒千二百三十八、白千二百三十九・黒千二百四十、白千二百四十一・黒千二百四十二、白千二百四十三・黒千二百四十四、白千二百四十五・黒千二百四十六、白千二百四十七・黒千二百四十八、白千二百四十九・黒千二百五十、白千二百五十一・黒千二百五十二、白千二百五十三・黒千二百五十四、白千二百五十五・黒千二百五十六、白千二百五十七・黒千二百五十八、白千二百五十九・黒千二百六十、白千二百六十一・黒千二百六十二、白千二百六十三・黒千二百六十四、白千二百六十五・黒千二百六十六、白千二百六十七・黒千二百六十八、白千二百六十九・黒千二百七十、白千二百七十一・黒千二百七十二、白千二百七十三・黒千二百七十四、白千二百七十五・黒千二百七十六、白千二百七十七・黒千二百七十八、白千二百七十九・黒千二百八十、白千二百八十一・黒千二百八十二、白千二百八十三・黒千二百八十四、白千二百八十五・黒千二百八十六、白千二百八十七・黒千二百八十八、白千二百八十九・黒千二百九十、白千二百九十一・黒千二百九十二、白千二百九十三・黒千二百九十四、白千二百九十五・黒千二百九十六、白千二百九十七・黒千二百九十八、白千二百九十九・黒千三百、白千三百一・黒千三百二、白千三百三・黒千三百四、白千三百五・黒千三百六、白千三百七・黒千三百八、白千三百九・黒千三百十、白千三百十一・黒千三百十二、白千三百十三・黒千三百十四、白千三百十五・黒千三百十六、白千三百十七・黒千三百十八、白千三百十九・黒千三百二十、白千三百二十一・黒千三百二十二、白千三百二十三・黒千三百二十四、白千三百二十五・黒千三百二十六、白千三百二十七・黒千三百二十八、白千三百二十九・黒千三百三十、白千三百三十一・黒千三百三十二、白千三百三十三・黒千三百三十四、白千三百三十五・黒千三百三十六、白千三百三十七・黒千三百三十八、白千三百三十九・黒千三百四十、白千三百四十一・黒千三百四十二、白千三百四十三・黒千三百四十四、白千三百四十五・黒千三百四十六、白千三百四十七・黒千三百四十八、白千三百四十九・黒千三百五十、白千三百五十一・黒千三百五十二、白千三百五十三・黒千三百五十四、白千三百五十五・黒千三百五十六、白千三百五十七・黒千三百五十八、白千三百五十九・黒千三百六十、白千三百六十一・黒千三百六十二、白千三百六十三・黒千三百六十四、白千三百六十五・黒千三百六十六、白千三百六十七・黒千三百六十八、白千三百六十九・黒千三百七十、白千三百七十一・黒千三百七十二、白千三百七十三・黒千三百七十四、白千三百七十五・黒千三百七十六、白千三百七十七・黒千三百七十八、白千三百七十九・黒千三百八十、白千三百八十一・黒千三百八十二、白千三百八十三・黒千三百八十四、白千三百八十五・黒千三百八十六、白千三百八十七・黒千三百八十八、白千三百八十九・黒千三百九十、白千三百九十一・黒千三百九十二、白千三百九十三・黒千三百九十四、白千三百九十五・黒千三百九十六、白千三百九十七・黒千三百九十八、白千三百九十九・黒千四百、白千四百一・黒千四百二、白千四百三・黒千四百四、白千四百五・黒千四百六、白千四百七・黒千四百八、白千四百九・黒千四百十、白千四百十一・黒千四百十二、白千四百十三・黒千四百十四、白千四百十五・黒千四百十六、白千四百十七・黒千四百十八、白千四百十九・黒千四百二十、白千四百二十一・黒千四百二十二、白千四百二十三・黒千四百二十四、白千四百二十五・黒千四百二十六、白千四百二十七・黒千四百二十八、白千四百二十九・黒千四百三十、白千四百三十一・黒千四百三十二、白千四百三十三・黒千四百三十四、白千四百三十五・黒千四百三十六、白千四百三十七・黒千四百三十八、白千四百三十九・黒千四百四十、白千四百四十一・黒千四百四十二、白千四百四十三・黒千四百四十四、白千四百四十五・黒千四百四十六、白千四百四十七・黒千四百四十八、白千四百四十九・黒千四百五十、白千四百五十一・黒千四百五十二、白千四百五十三・黒千四百五十四、白千四百五十五・黒千四百五十六、白千四百五十七・黒千四百五十八、白千四百五十九・黒千四百六十、白千四百六十一・黒千四百六十二、白千四百六十三・黒千四百六十四、白千四百六十五・黒千四百六十六、白千四百六十七・黒千四百六十八、白千四百六十九・黒千四百七十、白千四百七十一・黒千四百七十二、白千四百七十三・黒千四百七十四、白千四百七十五・黒千四百七十六、白千四百七十七・黒千四百七十八、白千四百七十九・黒千四百八十、白千四百八十一・黒千四百八十二、白千四百八十三・黒千四百八十四、白千四百八十五・黒千四百八十六、白千四百八十七・黒千四百八十八、白千四百八十九・黒千四百九十、白千四百九十一・黒千四百九十二、白千四百九十三・黒千四百九十四、白千四百九十五・黒千四百九十六、白千四百九十七・黒千四百九十八、白千四百九十九・黒千五百、白千五百一・黒千五百二、白千五百三・黒千五百四、白千五百五・黒千五百六、白千五百七・黒千五百八、白千五百九・黒千五百十、白千五百十一・黒千五百十二、白千五百十三・黒千五百十四、白千五百十五・黒千五百十六、白千五百十七・黒千五百十八、白千五百十九・黒千五百二十、白千五百二十一・黒千五百二十二、白千五百二十三・黒千五百二十四、白千五百二十五・黒千五百二十六、白千五百二十七・黒千五百二十八、白千五百二十九・黒千五百三十、白千五百三十一・黒千五百三十二、白千五百三十三・黒千五百三十四、白千五百三十五・黒千五百三十六、白千五百三十七・黒千五百三十八、白千五百三十九・黒千五百四十、白千五百四十一・黒千五百四十二、白千五百四十三・黒千五百四十四、白千五百四十五・黒千五百四十六、白千五百四十七・黒千五百四十八、白千五百四十九・黒千五百五十、白千五百五十一・黒千五百五十二、白千五百五十三・黒千五百五十四、白千五百五十五・黒千五百五十六、白千五百五十七・黒千五百五十八、白千五百五十九・黒千五百六十、白千五百六十一・黒千五百六十二、白千五百六十三・黒千五百六十四、白千五百六十五・黒千五百六十六、白千五百六十七・黒千五百六十八、白千五百六十九・黒千五百七十、白千五百七十一・黒千五百七十二、白千五百七十三・黒千五百七十四、白千五百七十五・黒千五百七十六、白千五百七十七・黒千五百七十八、白千五百七十九・黒千五百八十、白千五百八十一・黒千五百八十二、白千五百八十三・黒千五百八十四、白千五百八十五・黒千五百八十六、白千五百八十七・黒千五百八十八、白千五百八十九・黒千五百九十、白千五百九十一・黒千五百九十二、白千五百九十三・黒千五百九十四、白千五百九十五・黒千五百九十六、白千五百九十七・黒千五百九十八、白千五百九十九・黒千六百、白千六百一・黒千六百二、白千六百三・黒千六百四、白千六百五・黒千六百六、白千六百七・黒千六百八、白千六百九・黒千六百十、白千六百十一・黒千六百十二、白千六百十三・黒千六百十四、白千六百十五・黒千六百十六、白千六百十七・黒千六百十八、白千六百十九・黒千六百二十、白千六百二十一・黒千六百二十二、白千六百二十三・黒千六百二十四、白千六百二十五・黒千六百二十六、白千六百二十七・黒千六百二十八、白千六百二十九・黒千六百三十、白千六百三十一・黒千六百三十二、白千六百三十三・黒千六百三十四、白千六百三十五・黒千六百三十六、白千六百三十七・黒千六百三十八、白千六百三十九・黒千六百四十、白千六百四十一・黒千六百四十二、白千六百四十三・黒千六百四十四、白千六百四十五・黒千六百四十六、白千六百四十七・黒千六百四十八、白千六百四十九・黒千六百五十、白千六百五十一・黒千六百五十二、白千六百五十三・黒千六百五十四、白千六百五十五・黒千六百五十六、白千六百五十七・黒千六百五十八、白千六百五十九・黒千六百六十、白千六百六十一・黒千六百六十二、白千六百六十三・黒千六百六十四、白千六百六十五・黒千六百六十六、白千六百六十七・黒千六百六十八、白千六百六十九・黒千六百七十、白千六百七十一・黒千六百七十二、白千六百七十三・黒千六百七十四、白千六百七十五・黒千六百七十六、白千六百七十七・黒千六百七十八、白千六百七十九・黒千六百八十、白千六百八十一・黒千六百八十二、白千六百八十三・黒千六百八十四、白千六百八十五・黒千六百八十六、白千六百八十七・黒千六百八十八、白千六百八十九・黒千六百九十、白千六百九十一・黒千六百九十二、白千六百九十三・黒千六百九十四、白千六百九十五・黒千六百九十六、白千六百九十七・黒千六百九十八、白千六百九十九・黒千七百、白千七百一・黒千七百二、白千七百三・黒千七百四、白千七百五・黒千七百六、白千七百七・黒千七百八、白千七百九・黒千七百十、白千七百十一・黒千七百十二、白千七百十三・黒千七百十四、白千七百十五・黒千七百十六、白千七百十七・黒千七百十八、白千七百十九・黒千七百二十、白千七百二十一・黒千七百二十二、白千七百二十三・黒千七百二十四、白千七百二十五・黒千七百二十六、白千七百二十七・黒千七百二十八、白千七百二十九・黒千七百三十、白千七百三十一・黒千七百三十二、白千七百三十三・黒千七百三十四、白千七百三十五・黒千七百三十六、白千七百三十七・黒千七百三十八、白千七百三十九・黒千七百四十、白千七百四十一・黒千七百四十二、白千七百四十三・黒千七百四十四、白千七百四十五・黒千七百四十六、白千七百四十七・黒千七百四十八、白千七百四十九・黒千七百五十、白千七百五十一・黒千七百五十二、白千七百五十三・黒千七百五十四、白千七百五十五・黒千七百五十六、白千七百五十七・黒千七百五十八、白千七百五十九・黒千七百六十、白千七百六十一・黒千七百六十二、白千七百六十三・黒千七百六十四、白千七百六十五・黒千七百六十六、白千七百六十七・黒千七百六十八、白千七百六十九・黒千七百七十、白千七百七十一・黒千七百七十二、白千七百七十三・黒千七百七十四、白千七百七十五・黒千七百七十六、白千七百七十七・黒千七百七十八、白千七百七十九・黒千七百八十、白千七百八十一・黒千七百八十二、白千七百八十三・黒千七百八十四、白千七百八十五・黒千七百八十六、白千七百八十七・黒千七百八十八、白千七百八十九・黒千七百九十、白千七百九十一・黒千七百九十二、白千七百九十三・黒千七百九十四、白千七百九十五・黒千七百九十六、白千七百九十七・黒千七百九十八、白千七百九十九・黒千八百、白千八百一・黒千八百二、白千八百三・黒千八百四、白千八百五・黒千八百六、白千八百七・黒千八百八、白千八百九・黒千八百十、白千八百十一・黒千八百十二、白千八百十三・黒千八百十四、白千八百十五・黒千八百十六、白千八百十七・黒千八百十八、白千八百十九・黒千八百二十、白千八百二十一・黒千八百二十二、白千八百二十三・黒千八百二十四、白千八百二十五・黒千八百二十六、白千八百二十七・黒千八百二十八、白千八百二十九・黒千八百三十、白千八百三十一・黒千八百三十二、白千八百三十三・黒千八百三十四、白千八百三十五・黒千八百三十六、白千八百三十七・黒千八百三十八、白千八百三十九・黒千八百四十、白千八百四十一・黒千八百四十二、白千八百四十三・黒千八百四十四、白千八百四十五・黒千八百四十六、白千八百四十七・黒千八百四十八、白千八百四十九・黒千八百五十、白千八百五十一・黒千八百五十二、白千八百五十三・黒千八百五十四、白千八百五十五・黒千八百五十六、白千八百五十七・黒千八百五十八、白千八百五十九・黒千八百六十、白千八百六十一・黒千八百六十二、白千八百六十三・黒千八百六十四、白千八百六十五・黒千八百六十六、白千八百六十七・黒千八百六十八、白千八百六十九・黒千八百七十、白千八百七十一・黒千八百七十二、白千八百七十三・黒千八百七十四、白千八百七十五・黒千八百七十六、白千八百七十七・黒千八百七十八、白千八百七十九・黒千八百八十、白千八百八十一・黒千八百八十二、白千八百八十三・黒千八百八十四、白千八百八十五・黒千八百八十六、白千八百八十七・黒千八百八十八、白千八百八十九・黒千八百九十、白千八百九十一・黒千八百九十二、白千八百九十三・黒千八百九十四、白千八百九十五・黒千八百九十六、白千八百九十七・黒千八百九十八、白千八百九十九・黒千九百、白千九百一・黒千九百二、白千九百三・黒千九百四、白千九百五・黒千九百六、白千九百七・黒千九百八、白千九百九・黒千九百十、白千九百十一・黒千九百十二、白千九百十三・黒千九百十四、白千九百十五・黒千九百十六、白千九百十七・黒千九百十八、白千九百十九・黒千九百二十、白千九百二十一・黒千九百二十二、白千九百二十三・黒千九百二十四、白千九百二十五・黒千九百二十六、白千九百二十七・黒千九百二十八、白千九百二十九・黒千九百三十、白千九百三十一・黒千九百三十二、白千九百三十三・黒千九百三十四、白千九百三十五・黒千九百三十六、白千九百三十七・黒千九百三十八、白千九百三十九・黒千九百四十、白千九百四十一・黒千九百四十二、白千九百四十三・黒千九百四十四、白千九百四十五・黒千九百四十六、白千九百四十七・黒千九百四十八、白千九百四十九・黒千九百五十、白千九百五十一・黒千九百五十二、白千九百五十三・黒千九百五十四、白千九百五十五・黒千九百五十六、白千九百五十七・黒千九百五十八、白千九百五

【四八八四】白悪し

白二一。黒は「ヘタの早や中手」を避けて、尋常に二四、二二、正攻法。蘯かた白が非命、誰か一掬の涙無きを得んや。

【四八八五】互角の分れ

風滿帆、舟流れに乗るの意氣、颯爽たる白の武者振りを見よ。黒十一善し。十二、十四にて白を屠り得し。此變化白面白し。

【四八八六】黒攻合勝

白十九、悪し。黒二十善し、此手にて白イと、包圍する手を失へり。

【四八八七】白窮す

白五。黒六と約へで八に據り、右尋と左九を見るる。黒巧なり。既にして黒十二、而かも白が窮の狀、憐むに堪えたり。

【四八八八】要點約言（上）（第七一型ロ）

黒四は變化の手段、面白し。白五では、イロ及びハあり。イは常形。ロは種々變化の機を孕み。ハは黒にニと約へられて、白好まず、

【四八八九】要點約言（下）（第七一型ロ）

次に白五と綽ねし時に、黒にイとロの附けあり。イは白にハの筋あり。イは黒はロに附ける筋面白し。

【四八九〇】基本圖（第七一型ハ）

黒四に突當る手あり。イは黒の附けの波瀾を求めんとする、萬丈の形勢ありては、可なり。

【四八九一】定石

白五は、イに飛ぶ手もあり。黒十、十二の綽行び厚して善し。

【四八九二】形勢互角

白三の飛を打つて、次に五と隅に打込む手もあり。

【四八九三】黒堅實打易し

白三と應けて、黒に四、六の好調を與ふ。愚や及ぶべからず。所謂、敵の手に附くとは之等を云ふなり。

【四八九四】黒の形優れり

白五に至つて、周章、三の失を挽回せんとす。而かも、黒六の蒼蒼、十日の菊、時既に去れり。

【四八九五】黒稍味悪し

黒二は、六に附ける方善し。黒八。白は後にイに衝いてロの出切りを狙ふ筋あり。想へば、白の□は黒にとつて獅子身中の蟲と云ふべし。

【四八九六】黒軍不敗の陣

白一は、黒に二、四の好調を與ふ。悪しと雖も八に至る。黒既に隅に不安無く、秋毫も亦た憾なし。外勢

【四八九七】黒の勢確なり

白一と一間に飛ぶ手あり。黒二、善し。黒六は弦が高鳴りして飛ぶの勢ひなり。この黒の包圍陣に、白は衰れ十五までの蟄を強ひらる。

【四八九八】黒確なり

白い十一。乃ち黒は十二、而して十四。可なり。蓋し十四の點は彼我眼形の關係最も緊要の點なればなり。

【四八九九】黒軍乘勝の勢

白七、九。黒は十、十二と、五の敵に凭れつゝ、また九まで四に至つて、黒益ゝ十、堅實なり。

【四九〇〇】黒、確固不拔

白八の要所を黒は卽ち八に奄れば、白窮す。白十一を黒十二に、黒十三を白十四に、又黒十五。白十六に黒イ。一黒ニ。

【四九〇一】黒堅し

白い十三に引き、五に走る。黒は乃ち十二等の先手を利きを含んで六よりの側撃す、佳手なり。

【四九〇二】黒善し

初學者の對局を見るに黒は白イの綽を恐れて十の綽を打たざる事あり。蓋し劫勝負は別として、十勢ひ此一手なり。

【四九〇三】白、殄滅す

匹夫辱しめらるれば、劍を拔きて起ち、身を挺して鬪ふ。此は大勇と爲すに足らざるなり。白三には匹夫の勇、白四に至つて□の遂に道路無し。

【四九〇四】黒攻合勝

白一なれば、黒十二にてイにツケルも、黒ロ、白ハ、黒ニとなり、此交換、白五以下の攻合の手數に影響無し。

【四九〇五】黒攻合勝

勝敗既に決す。然かも、白は七以下、雪辱の意氣に燃えて、力戰維れ努む。されど時已に遲し！白九をイに或は十二にて打つも、黒は十一にて勝。

【四九〇六】互角の形勢

此手段、白は征宜しき場合に限り、打ち得る形なり。黒十六の分れとなりて互角の形勢。

【四九〇七】要點約言（第七一型ハ）

黒四の突當りに面白し。白五で、イロ及びハあるは、イなれば、ロにても、ロなれば、イにても、ニ。ニと強く綽ねして善し。

〔四九〇八〕 **基本圖**（第七一型ニ）

白三の時、黒は二と相呼應し、尋で四に攻め、尋いで六に衝いて出れど、黒は無理形なれづ。力戰の覺悟

〔四九〇九〕 **定石**

白七に當てし時、黒に八と九とあり。八は次圖以下、又九は三一六五圖以下にあり。

〔四九一〇〕 **黒堅し**

白七、九。而して遙に應ず。黒は之を看破して十、確なり。猶此形は白イの切の劫は四イ〇二圖參照されたし。

〔四九一一〕 **黒利勢**

白九、十一、打過なり。黒十二、八まで七の手順の中に切れば、黒は二十白十七、黒二二、白ハ黒劫提にて善し。

ならば此手段も亦、黒面白し。

〔四九一二〕 **黒優れり**

白十一。乃ち黒十六、七を擊ち左を伐ち水も漏さぬ黒の攻も擊も善して、黒二十は手筋、イをや狙ふ。大勢いまや黒に歸す。

㊀劫トル ㊁同

〔四九一三〕 **參考圖** 白可なり

二子堰 憲太郎 三段
番勝 久保松勝喜代 六段

兩氏の實戰圖。黒十四は、強く十九もあり。

〔四九一四〕 **黒確なり**（前圖の變化）

黒八と力戰に出づ。白九なれば、黒十に一叩、白を十一に低きに就かしめて黒十二。要點なり。黒十八、

〔四九一五〕 **劫替り黒善し**

白九に劫を挑む、而して十一を劫材として、十二に劫を得たり。此時、黒は替劫を得ざれば、白十三に劫を取れば、黒十三。

㊀劫トル ㊁同

〔四九一六〕 **黒緩し**

黒は㊁と相應じて□の白を夾擊す。意氣も無く、一、三、五。黒は堅きれど、稍緩し。

〔四九一七〕 **白分裂の姿**

驟りて破れしもの、桶狹間の今川義元のみならんや。白二は意驕るまでの結果となりては、左右の白弱く、且つ隅の白にも、猶多少の手段あり。

〔四九一八〕 **白利勢なり**

黒一に尖む、白は乃ち一擧に「三ノ三」の要塞を拔けり。形勢黒に利あらず。白十はイと絡ねる手もあり。

〔四九一九〕 **要點約言**（第七一型ニ）

黒四、六は、次に白イ黒ニ白ホ黒ヘの替りとなる。先づ此形の不利なれば、特殊の場合の外は惡し。

〔四九二〇〕 **基本圖**（第七一型ホ）

黒四を手拔きの場合

白三の時、黒は他方面に焦眉の急を告ぐる所ある場合の外は、此處を手拔きすべからず。

〔四九二一〕 **黒隅屠らる**

黒二、惡し。白乃ち敵の虚に乘じて、三以下一擧にして黒隅を陷る。（四九一七圖と比較參照）白十五、善し、之をイなれば、黒ロの手あり。（次圖）

〔四九二二〕 **白攻合勝**

白二、善し。若し白二を四なれば黒、白イ、黒七、白十三の打拔きの威力大なれば、此形黒惡し。

〔四九二三〕 **黒まづし**

黒いま八、十、十二、十四。されど、白十三の打拔きの威力大なれば、此形黒惡し。

〔四九二四〕 **白優れり**

黒二と打ちし變化は下（三一〇圖以下）辛うじて活きたれど、白は外圍の形勢を擅にせり。

〔四九二五〕 **白優れり**

黒二。白三、五の迫擊。白三、黒六にて、七なれば白六にて、黒隅全部を攻めんとす。白九まで、黒止むを得ずんば、白十、黒斯くへ、一目を打拔かれては黒惡し。

〔四九二六〕 **白善し**

白は一もあり。此時、黒は㊀を輕く見て、二を手拔きし他に轉ずるも善し。黒八をイなれば、白ロ黒ハ白ニの筋あり。

〔四九二七〕 **黒敗戰**

白七の筋あり、面白し。黒二。白二六、黒イなれば白ハ果ニロ。圖の結果は白ホ。黒嵌りに似た適當に若し黒ロの劫材あれば、白ロ黒ハイ白ニの筋あり。

〔四九二八〕 **白善し**

白は一もあり。此時、黒は㊀を輕く見て、二を手拔きし他に轉ずるも善し。黒八をイなれば、白ロ黒ハイ白ニの筋あり。

〔四九二九〕 **要點約言**

黒四で白ロ黒ハ、白ニ黒ホ）、ヘ、ホ、ト及び黒イ（第七一型全部）は、手拔きの五法あり。イは變化の手段。ヘ、ホ、トは定型の手段。好まず。

〔四九三〇〕 **基本圖**（第七二型）

白四と二間に兩懸もする手あり。之も置碁三間夾の定型なり。

〔四九三一〕 **基本圖**（第七二型イ）

白三と二間に高く兩懸りすれば、黒は四に附けるか、又はイに尖むべし。其何れも黒惡しからず。

七ノ處 ツグ

〔四九三二〕
定　石

黒八は隅を防衛すると同時に、イの切りを狙ふ。堅實にして且つ良着なり。

〔四九三三〕
黒堅し

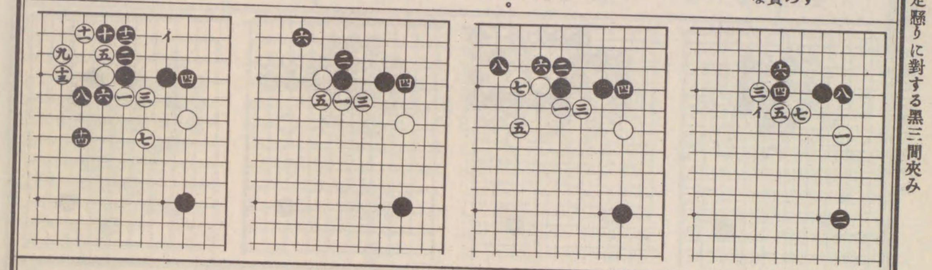
白一を二なれば、黒は以下同形。白一圖と四七。白五、穩健なり。黒八は、手抜きして他に轉ずるも宜し。

〔四九三四〕
黒確なり

白五なれば、黒は六に斜走する筋なり。此一着は、隅の守りを兼ねて白の根據を奪ふ、可なり。

〔四九三五〕
場合による

白五は豪宕落々の意氣見るべきも、時に打過ぎとなる。黒十は、肝要の絆ぎなり。（次圖）



〔四九三六〕
黒損なり

白六の急襲は手筋。黒悚然として五手抜す。堅實は勿論なるも、或は十に打てば白イに十三、黒窮す。

〔四九三七〕
白利勢

黒六を十四、白イ。又黒六を九に飛べば、白十の間隙を利して白は直ちに十三、黒窮す。

〔四九三八〕
黒の形崩る

黒十六、白の術中に落つ。旣にして白十九、二一。白外勢は例の如しと雖、天の如くなるも云ふべし。又黒十六を十七なれば、白ロ。

〔四九三九〕
定　石

白七手筋。黒八善し。黒十の時、白は直ちに五を逃出す手無し（次圖）然し黒ロとして抱へる時、機に乘じて絶つ意味あり厚く善し。

〔四九四〇〕
白分裂の惨狀

悲しき哉白七に失す。爲に黒より八に突出されて遂に十六に至る。四分五裂か、支離滅裂か、白の惨狀には、サタンも尙ほ眼を蔽ふべし。

〔四九四一〕
場合による

黒いま十二。此形は外勢に厚みを加へ、白は地取りをなし、黒は厚壯を得。專一とする局面には、此手段を選ぶも可なれど、普通好まず。

〔四九四二〕
白の無理甚し

白は十一、十三と、兹にま た無理を重ぬ。嗟乎、天罰踵を旋さずとかや、二十に至つて白は大損のため悄然たり。

〔四九四三〕
黒善し

白五と打てば、黒は先ず穴を出、此處に一目を取るべし。斯くなれば、黒の姿形愈〻堅實なり。

〔四九四四〕
黒稍優れり

白五と、尖めば、黒は六を十一に、約へ、白イ、黒十、白六、黒七と強く打つも宜し。白十一に切る手あり。

〔四九四五〕
黒稍利勢なり

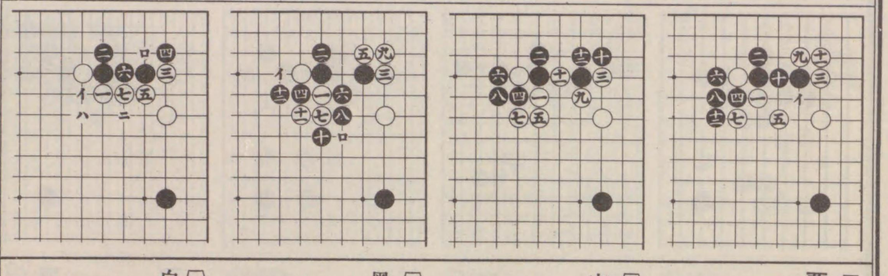
白五に行びれば、黒は六に取る。夫に白七の當を打たずして只九と綽れば、黒は大勢の掌握を志して七の厚利に就くべし。

〔四九四六〕
白三子據無し

白九を十に行れば、黒イ白ロの時、黒九の切り。又、白イなれば、黒七に綽込め、白ハ。何れも白の形好し。

〔四九四七〕
黒の形好まず

黒四、惡し。前圖の如くイに切る筋なり。黒六をロなれば、白ハ。又ロを七に、黒六、白ニ、根據を失つて中有に迷ふ。



〔四九四八〕
要點約言（上）（第七二型イ）

白五、黒六は當然なり。白七でイなれば黒ロ。又白イにて結果惡しからず。

〔四九四九〕
定　石

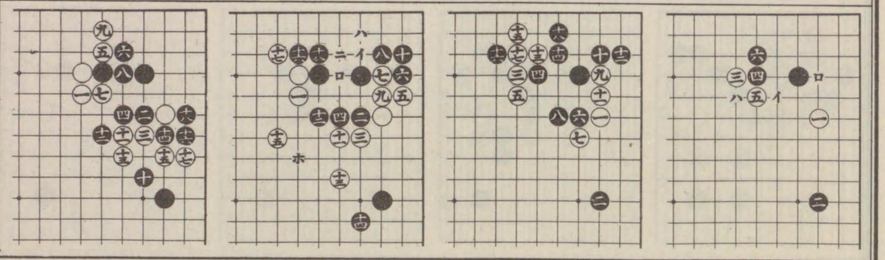
黒四の時、白は五或は六に打つも一策なり。黒六、白を左右に隔て、伐つと共に接使の間自ら黒隅を固む。常用の形なり。

〔四九五〇〕
黒打易し

白十一をイなれば、黒ロ白ハ黒ニにて、白に手段無し。斯くて黒は白ホに擊を機を待つ。堅にして鋭なり。

〔四九五一〕
白應手に窮す

白五。乃ち黒六、八。黒四と、相照映して二、形甚だ好し。啐！白九に失す。白十に致命傷の一擊。白七轉倒。黒四、苦しみなり。



〔四九五二〕
黒厚し

白十一をイなれば、黒十八、白ロ、又白十一に押し、黒十二白十六、黒十八、白十一と走れば、黒ホと附けて善し。

〔四九五三〕
黒可ならず

黒十惡し。白十一は、黒手筋。黒稍乘ぜられし形なり。夫に黒十二をイなれば、白十七黒ロ白ハ。

〔四九五四〕
定　石

白五と下れば、黒は六の約へ善し。黒八の附けは、白左右に隔てを前項の此と同じ。擊つ。其意味同じ。

〔四九五五〕
黒四白を刺す

白三に對する黒四は要。白五を六な れば、黒イ白ロ黒ハ。（四九四〇圖參照）十八まで の一着、よく白の勢力を兩分せり。

〔四九五六〕
白の形悪し
白七の時、黒は八、十と取り、白の十三に對する。十四の十が好調を導く。黒精妙の手段、以て範とすべし。

〔四九五七〕
黒可なり
白三に打つも、黒は先づ四と絡べし。四の黙は、実に左右の白の、勢力消長の要衝なり。

〔四九五八〕
黒優れり
白三。黒は旣に●の備あり、乃ち、黒は念襲すると如ずと、四、六に突破す。白五をイと突破すれば、黒ロ。（四九三二圖）

〔四九五九〕
白重圍に陷る
白五而して七、悪し。黒此に乗し、十二と隅を固め、延いて十四に完包せしは、巧なり。假令白圍中に活くとも、斯かる形は白必ず悪し。

〔四九六〇〕
要點約言（下）（第七二型イ）
黒四の時、白イに行けば、白イをハと約へ、次に黒はイとロの筋を見るべし。

〔四九六一〕
基本圖（第七二型ロ）
黒四の尖みは、白の勢を隔てると共に、イの打込みを防ぐ、佳着なり。

〔四九六二〕
定石
白五、穩當なり。黒六手厚しとなれば堅實にして、黒は打易き形となるなり。

〔四九六三〕
互角の形勢
黒二と尖む手もあり。黒四、黒イ白ロ黒五。黒七を導き打て、白の八。黒が守進退、法に適へり。

〔四九六四〕
黒確なり
白一に守ければ、黒ニに尖附けるし。白三に行くも、一、三の距離狭くして、白の形重複す。黒四、堅實。

〔四九六五〕
黒優れり
白五を十に走れば、黒十二。又白五を六に打てば、黒五。何れの形も黒善し。

〔四九六六〕
黒堅實
白三を四に下れば、黒イ白ロ黒三。白ハに打込めば、黒四で白ハに絡んで變化し、此白ハ以下の變化は前圖と同じの。黒は十四は、他の要所を選ぶも宜し。

〔四九六七〕
白甚だまづし
白一、三なれば、黒は二、四。見よ、黒●の威、八に紿の●反之、白の輝く。黒六は黒の密着して苦境にあり。瀕死の黒甚だ善し。

〔四九六八〕
黒確なり
實戰三子の稽古碁にあり。白一、三、而して七と打込み、し手段面白し。然して五まで黒十六の應酬も堅實。三子の置碁としては、黒打易し。

〔四九六九〕
要點約言（第七二型ロ）
白三には、黒四と尖む手あり。此四と白三が圖の二間は高懸りの時に限りて特に善し。

〔四九七〇〕
基本圖（第七二型ハ）
白三の時、黒イ、黒ロ、白ハ、黒ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト、白ハ、黒ロ、白ハ

〔四九八〇〕白大に悪し

白二八輕卒。爲に、黒二九の先手約へを生じ、延いて黒は三三に因つて三五と三七の兩着を下し得たり。前圖に比して黒一層優る。

〔四九八一〕形勢互角

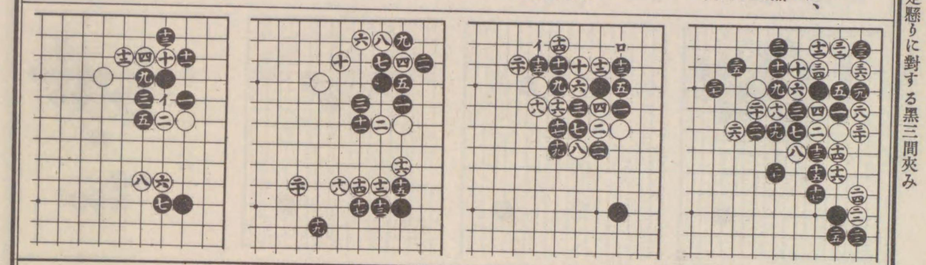
白十二、十四は轉東郷鑑隊の敵前同運動か、普通は無き筋なれど、此場合白四十九をイなれば、白ロにて、黒窮す。

〔四九八二〕黒善し

黒五は普通愚形にして惡手なれど、此場合白四の活動を制限する意味あり、甚だ善し。

〔四九八三〕黒確なり

黒九も愚形なれど前圖と同じく白のイの筋を防ぐ、此場合面白し。



〔四九八四〕白薄し

白十二、打過ぎ。黒より十三を喫つては白勢頓に非なり。白十八を十九に切れば、黒十八、白イに切絞つて白潰れ。

〔四九八五〕黒好形

白十なれば、黒十一以下十七までと運ぶ。同望するに、一の一子を棄てゝ盤の一角を、白は、黒四の一着あり、黒割合に善し。

〔四九八六〕黒堅きに過ぐ

黒は◉のある爲も拘らず◉の白を攻撃と隅を守る一、三、専ら闘志の見るべき無し。即ち隅に偏し過ぎたり、黒好まず。（三〇七〇圖以下參照）

〔四九八七〕黒隅に偏す

黒一は、高手にも亦心者にも用ひらるゝ手にして、時に妙なることあり。されど、普通は、（前圖と同じ意味）黒好まず。（三〇六〇圖以下參照）

〔四九八八〕中原の戰なり

黒一の手は緩弱なるが如くなれど、斯く三、五と出切る實際なりとすれば、黒十七、二三は、他に種々手段あり、場合によると。

〔四九八九〕場合による

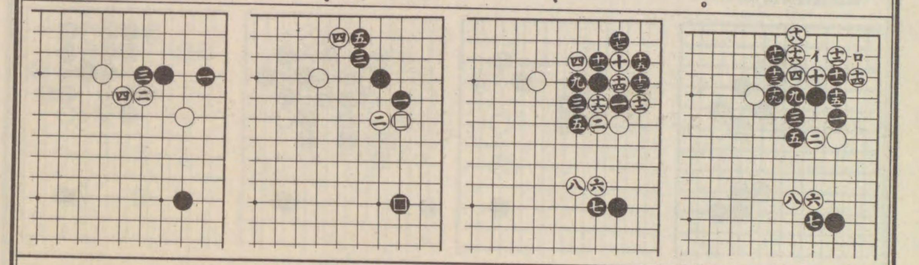
黒一は勿体ゐたる志を内に抑ゆる白の二の時、蛟龍の雲を得たるが如くに三に出、猛然として黒は、白に擊せり。但し三は、黒の擊かゝる手も補ひをなす又は◉をなすもあり。

〔四九九〇〕白優れり

黒一怯手なり。白二善し、此手を三にて黒は二と同じ。四九五圖の北鎖黒十一は可なり。

〔四九九一〕黒犬に優れり

白四、六、打過ぎなり。（四九二圖參照）白二六を四、黒三なれば、白三、黒イ、白三、黒ロと突出して黒の形善し。



〔四九九二〕白善し

黒◉の白を挟撃せしに、白○は一に附けて◉を堅くす。黒、首尾前段の着手後れ。（小斜走兩懸り四七〇八圖及び四八〇圖參照）

〔四九九三〕黒善し

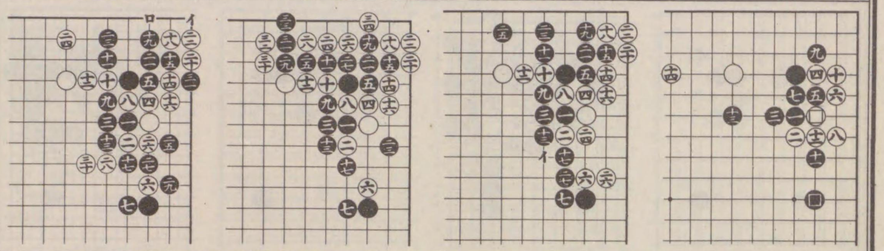
白六、八、打過ぎ。此秋、黒は、斗の如く、十一に一十三に撃ち、黒最も善し。白十四を十七なれば、黒イ。

〔四九九四〕黒、罠に落つ

夫れ滅びに入る黒は、戻しとかやなるが二三は好點なるも、白イ黒ロに打込み、白イ黒ロに斜走し、黒乃ち二五に凱歌を奏す。

〔四九九五〕白敗北

白二二を二三と附ければ、黒は二二に打込み、白イ黒ロに斜走して凱歌を奏す。



〔四九九六〕白利勢なり

白十の出切りに、黒は吃驚仰天氣も轉動、忽卒として十一。黒、斯くて、白六の一子は功に合はせ、隅の黒二子は遂に死す。（三七五圖以下參照）。

〔四九九七〕要點約言（第七二型ハ）

白三の時、黒イと（黒ロ白ハ黒ニ）は強手。（黒ロ白ハ黒ホ）は強堅。黒ヘは強堅。黒トは低く。の意。ハは意味矛盾す。

〔四九九八〕基本圖（第七二型ニ）

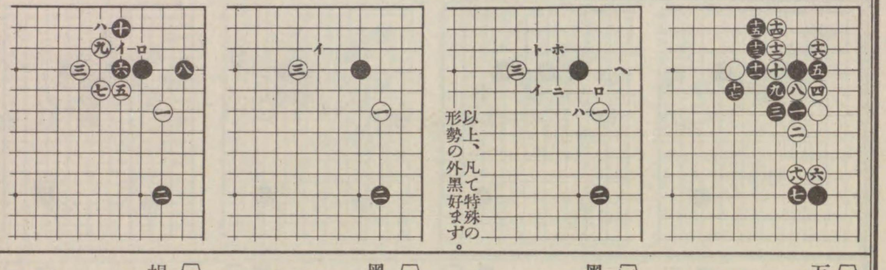
黒四を手抜きの場合

黒四で他に轉じる場合もあり。三のイと、白に好き鋭鋒あり、白の鋭鋒緩ければ、黒の手抜きも時に面白し。

〔四九九九〕定石

四手抜

白五なれば、黒六、次に八に守る手定型なり。黒十の次に白イと打てば、黒は手を抜いて宜し。



〔五〇〇〇〕互角の形勢

黒十、十二、十四は、穩健にして確實。十六まで目つの黒の棋移は、日本の對米所謂、軍備の如く、攻むるに充分なる備へなるに足らずといふべきか。

〔五〇〇一〕黒稍優れり

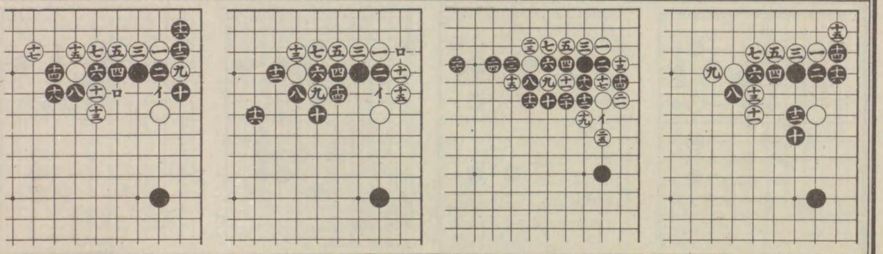
白九は、後の十三の盤りを狙ひ手、結果白は目的を遂げて非勢を招けり。黒二四は、イに切る手もあり。

〔五〇〇二〕黒の形善し

白二、斯かる形と場合には、黒十二を白イ、黒ロと打つべし。（前圖と略同形）

〔五〇〇三〕場合による

黒若し斯かる形となりて不利なる場合には、黒十三、白イ、黒ロと打つべし。（前圖と略同形）



【五〇〇四】黒破局の形

七子 某 喜多文子 五段
氏

兩氏の對局圖。黒八、ヌルシ。黒十六、筋違ひ。イに掛け粘りべし。黒十七と打ち、白ロ、黒十八と取る形なり。

【五〇〇五】常形

勝 瀬越 憲作 七段
二子 加藤三七一 三段
番

兩氏の對局にあり。

【五〇〇六】白敗

（前圖の變化）

白十一なれば、黒十二の手宜し。白十三、十五と、無理なり。又白十三をイに粘げば、黒ロ、白十八、黒二九、黒ハ二。

【五〇〇七】要點約言

（第七二型ニ）

白三、ニ間高懸りに對しては、黒は手を拔くも宜し。此時、白イなれば、黒ロ、白ハ、黒ニ。又白ホに打込めば、黒ロと行ひて宜し。

【五〇〇八】要點約言

（第七二型全部）

黒四では、イロハニホ又は手拔きなどの手段あり。此中イロは最も善く、ハホは場合の手段。手拔は、時に可否なり。

【五〇〇九】基本圖

（第七三型）

白三と大斜走に兩懸りするは、イ或はロの兩懸りに比して、變化に乏しき憾あれど、之れ亦一手段たるを失はず。

【五〇一〇】基本圖

（第七三型イ）

白三の時、黒四は唯一の應答なり。蓋し、黒の左翼に迫りつゝ、二の白を凝視せり。白五は、必然の應けなり。

【五〇一一】基本圖

（第七三型イの一）

黒六、常形。然し此手は外にイとロとあり。イは五〇二圖以下、ロは四九五圖以下參照。

【五〇一二】黒堅し

白三を九に走れば黒三、白の◎交換は白に利あり。故に此交換は弱くなる故ず。黒十は兩軍垂涎の地なり。先んじて之を得る者は、局面の覇を制す。

【五〇一六】黒利勢

白一、三、打過ぎなり。此形、黒の二目取りと白の一目取りとの交換は、黒ロなれば、白イ、黒ニなり。又白ホに打込めば、黒ロと行ひて宜し。

【五〇一七】黒優れり

白十一、十三と打つも、黒十二、十四と打つも、此場合は手拍子の感を免れず。二十に打つ筋なり。白十九では、二十、黒イ、白ロの形。

【五〇一八】黒有利の分れ

白三と二段續すれば、此場合黒は四、六と取る手筋なり。（二六四六圖以下比較參照）

【五〇一九】黒有利の分れ

白三と二段續すれば、此場合黒は四、六と取る手筋なり。（二六四六圖以下比較參照）

【五〇二〇】至難の形勢

白一ヶ所十一と轉同し來るも、黒十二、十四と打つべし。白十二、十五、手筋。二戰線廣漠千里には亘り形勢至難なれど、大勢は依然として黒に利あり。

【五〇二一】黒打易き形也

白三なれば、無論黒は四に續ける筋なり。（二八九四圖以下參照）

【五〇二二】黒可なり

白一ヶ所十一と轉同し來るも、黒十二、十四と打つべし。白十二、十五、手筋。二戰線廣漠千里には亘り形勢至難なれど、大勢は依然として黒に利あり。

【五〇二三】白無理形

黒十二の時、白が十四に黒の二を征に取り得る場合と、黒十以下十四と行ひ、黒ホ、白ニ、黒ト、白ニ。

【五〇二四】場合による

黒の二目、征に取らるゝ場合と雖も、黒は貰利を專一とするには圖の如く打つも宜し。

【五〇二五】劫爭の形

白五なれば、黒は無論イに劫爭さるゝも、白劫抛棄なれば、黒穴と打つべし。尤も、白がロに切つて爭ふ場所多きも、黒は穴をハに粘くの外無し。

【五〇二六】基本圖

（第七三型イの二）

白五の時、黒にイ、ロの應けあり。イは次圖以下、ロは四九五五圖以下參照。

【五〇二七】黒強硬手段

黒一而して三は、混戰亂鬪の局面となるも、黒を持つては強に過ぎ無理筋なれど、外勢黒優れる時は、此手段も黒面白し。

【五〇一三】黒確なり

白九の時黒イに切れば、白ロ、黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト、白チ、黒リ、白ヌ、黒ル、白ヲ。卽ち、却て白を固むることゝなり、黒惡し。白ロ肝要の一着なり。

【五〇一四】黒厚く且利勢

白五、七と、隅を侵せば、黒は八の白は、孤軍、路絶えたり、いま卽ち嚢中の鼠、白重圍に泣かむ。

【五〇一五】黒可なり

白三、而して五、七と、右邊を堅くすれば、黒乃ち轡を揚げて八に白を夾撃す。

【五〇二二】定石

黒十は、隅の守りを堅うすると同時に一の白の根據を奪ふ、善し。

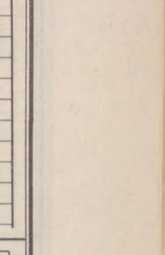
〔五〇二八〕 **黒劫勝**

白が、この劫石を取られては、みすみす弱びて黒の眼を奪はんと無理なり。已に知らざるも、敵の亦宜なるを知らざるも、敗るゝや必せり。黒九も、イ白ロ黒二六も、黒は棋路平明。

(二)劫

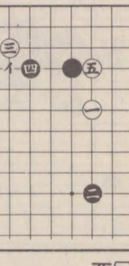
〔五〇二九〕 **黒善し**

白いま六、而して八、此時、黒は佳手なり。白十二に下れば、黒イ白ロ黒ハ。



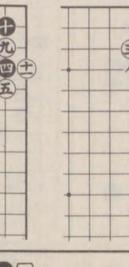
〔五〇三〇〕 **白利勢**

黒七を十に打てば、白イ黒ロの時、白ハの秘手あり。白八にてニなれば、白イ以下の手段、乍ち黒踠躍して十、蓋し此一劫は、刻下唯一の好黙なり。



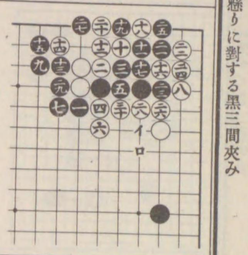
〔五〇三一〕 **白稍可なり**

黒五、不利と雖も、以て左の連絡を謀るに同時にイの缺陥は、巧なり。黒十で十一に、好し。白八を忘れば、白十四、黒イ白ロ黒ハ、黒ホの筋あり。



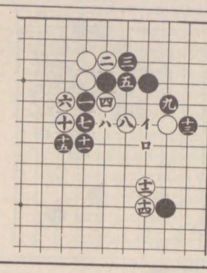
〔五〇三二〕 **參考圖**

黒一の時白イに切れば、黒ロに四九五八圖又白イを九ハに綿ければ同じく四三七黒ロにて四三七圖以下と同じ。何れも黒の形宜し。



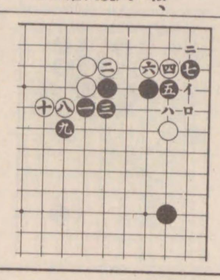
〔五〇三三〕 **基本圖**（第七三型イの三）

黒六の尖附を先にし、白イなれば、黒ロと行びるも、急攻手段、之あるも黒一策たるを失はず。



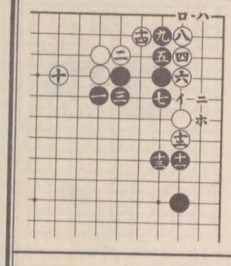
〔五〇三四〕 **形勢互角**

白六と打つて先づ黒の根據を奪ふ手宜し。此黙は眼に影響し、且つ得失より見るも其だ大なり。黒九、十一段に綿ねし手一段善し。



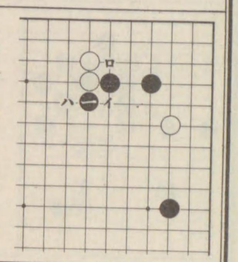
〔五〇三五〕 **黒優勢**

白五を七に打つも黒は八に曲り、白五黒六に出て圖の形、次に白イなれば、黒ロ白ハ黒ニなれば、又白イをニとなれば、黒イ。



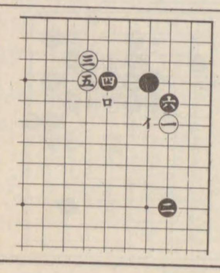
〔五〇三六〕 **黒打易し**

白いま十三、十五、而乃ち中央に據つて絶佳の地勢を善し、つて黒二三の次に白イなれば黒ロにて白イをハなれば黒イ。



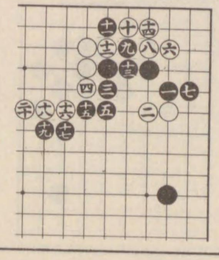
〔五〇三七〕 **常形**

白二と綻れば、黒は□の白に三の打を加ふ。白四を、白四、黒ロ、六以下の變化は六一九八圖以下と同じ。



〔五〇三八〕 **白薄し**

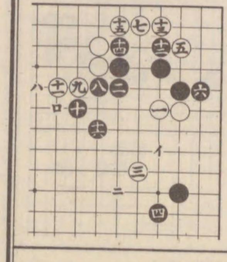
白二、四は、黒を堅くする手なれば、白は先手を取合の場外打んとつべからず。黒七の味を含み暫く手抜きすは、白八、黒ハ、イ或はロを宜し。



〔五〇三九〕 **黒形輕し**

大礎重雄四段
先勝村島義勝二段
當時兩氏の對局圖。

白十二、如何。矢張りイに先んで、大きく黒を包圍すると形に出づべし。

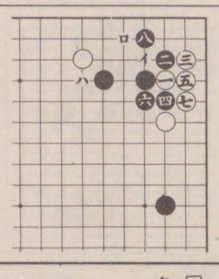


〔五〇四〇〕 **基本圖**（第七三型ロ）

白イの押を打たずして、其或は結局に着手するは、他より黒イの押しを打たるゝ形となりて、白好まず。

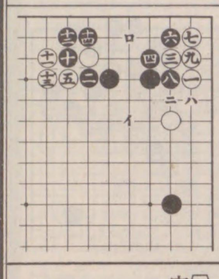
〔五〇四一〕 **黒堅し**

白五をイの變化は、五〇一九圖以下と略同じ。黒六善し。白七に劫と九にて黒七の次に断然ロに打抜くに如くべき、黒なりニは白のハを防ぐ、堅し。



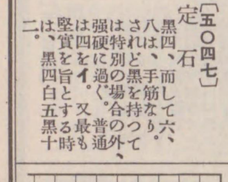
〔五〇四二〕 **黒の形善し**

黒四、六、善し。比較參照〈二九、〇五圖〉に白七をイに切れば、黒七白ロ黒ハ。



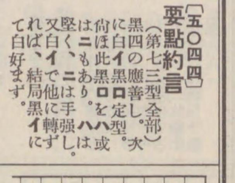
〔五〇四三〕 **黒確なり**

白一をイ或はロと打つも黒二の押し、又白一に打つも黒二、黒ハ、白ロ、黒ニ、白ロの時、黒同じく二の押しにて善し。



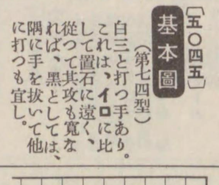
〔五〇四四〕 **要點約言**（第七三型全部）

黒四の應善し、白イ此黒ロを定型、ハ或は黒ロを尋常なり。ニもあり。ニは手強し。又白イで他に轉ずれば、結局黒イにて白好まず。



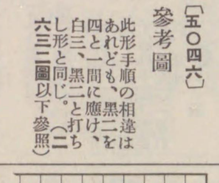
〔五〇四五〕 **基本圖**（第七四型）

白三と打つ手あり。これは、イロに比して置石に遠く、從つて其攻も寛なれば、黒としては、隅に手を抜いて他に打つも宜し。



〔五〇四六〕 **參考圖**

此形手順の相違はあれども、黒二を四と一間に應け、白一に黒三、四と打ち、二形と同じ。〈二六三二圖以下參照〉

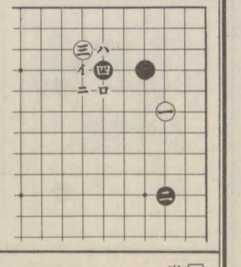


〔五〇四七〕 **定石**

黒四、而して六、八は、手筋なり。さは特に黒を持つては強硬に過ぐ。合の場外、普通に黒イ又最も堅實を旨とする時は、黒四白五黒十二。

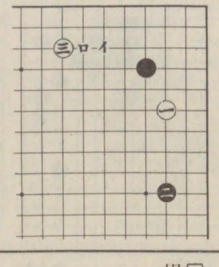
〔五〇四八〕 **常形**

白直ちに一髪の間に捉へもの、機敏なり。黒十は、白戰機を一の附もあるべく、次圖白二、四をロなれば、黒ハ白ニの時、黒は同じく二。



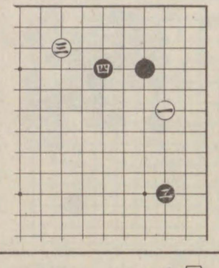
〔五〇四九〕 **場合による**

黒十九に附けて、下の二目を取つて取るの手あり。黒二、三替つて白イを二四に行れば、白二五、白二に黒二惡し。白二に黒は、手を抜い（六十九ノ處）て善し。



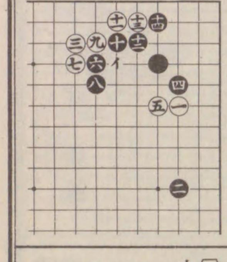
〔五〇五〇〕 **白寄せ劫**

白一を先にすれば、黒二一では種々手段あり。若し四以下の白を攻めんと又白三を先にすれば、黒四、白一、黒五。



〔五〇五一〕 **中央戰黒稍可**

黒四、手筋なり。八は、特に黒を持つて強硬に過ぐ。合の場外、普通に黒イ又最も堅實を旨とする時は、黒四白五黒十一。



〔五〇五二〕白窮す

黒十三は、白が六の後に白イと盤の一着を要する意味を消す、肝意の一着。白十四は黒十七なれば、黒ハ白ニで黒リ。黒ホなれば、白ヘ黒ト白チ。

〔五〇五三〕黒の形善し

兵は活術にして死學には非ず。あらぬもの迄を十二より十六の發見の跡乎。白が氣味なし、殊に白が無策も甚しき哉！

〔五〇五四〕黒甚だ悪し

五子　某著　氏者

黒十四は退守に過ぎて、悪し。白は十五の好着を得たり。黒二は、三一に絡ねる筋なり。

〔五〇五五〕場合による

白四、六、八、戰敷いて木を進むが如く、十七が人を撮むが如く激しく、白は稍無理なれど、局面の紛叫は、形勢にては互角以下參照（三〇八七圖）

〔五〇五六〕黒確なり

白四、六と二段に綿れば、黒七、九に打つて善し。黒いま、十九と進び、執つて迫り、白若し手抜きせば、黒イ白ロ黒ハにて風雲急を告ぐ。

〔五〇五七〕黒優勢

隅を庶く取らんと過ぎなり。黒十三、肝要。白十五の手順、白十八、黒イ二なれば、黒優勢。（五六ノ處ッグ）

〔五〇五八〕黒可なり

白十二に當附けるも無理なり。黒は形勢十分なり。十七にて黒劫材ある場合に適當の一層黒優れり。（劫トル　劫粘）

〔五〇五九〕黒鐵桶の構へ

黒は外勢の關係上攻勢に出るも、其結果の效少き時は、圖の如く一手善し。隅を確保する三とは、此變化參照（三〇六九圖以下參照）

〔五〇六〇〕參考圖

黒は四か、又は全然隅に手を拔く場合あり。此際白に五、六、イ或はロと打つて善し。而して圖の如く白、五、七と切逃げし變化は、黒四五七二圖の如く打つべし。

〔五〇六一〕黒確なり

黒イに飛無き形

白一なれば、黒は無論二より約へ、白三と黒四と行びて善し。黒八は廣く打たんとなれば、イに行びる手もあり。

〔五〇六二〕常形

白一なれば、黒は輕羅の袂を飜し、輕さの身體にて二と白の肩を衝く時に、一まで白の意味を晦む、攻守兩善なり。（五〇四七圖參照）

〔五〇六三〕互角の分れ

白三と打つ手あり。白鋭き意味ありて面白し。黒六、八と替る手確なり。

〔五〇六四〕場合による

家康が三形に於て信玄に大敗せしは、敵の鋭鋒なり。黒六、八は亂戰を求めて白の鋭形、然も中央の形勢厚き場合は、黒可なり。

〔五〇六五〕黒堅し

黒二、四堅實を旨とす、黒を持つては圖の如くなるも黒充分なり。白五をイに飛べば黒ロ。

〔五〇六六〕常形

白一、此手は白□の形（四九圖）と略同意味なれど、只圖の形は、後に黒ロに出切るの手あるだけに稍優る。

〔五〇六七〕常形

白一之は、斜走時の常形（一四、十二に絡めて十四、十六、十手段巧なり。白二邊の次に着手は宜しく、又イに取るも確なり。）黒之は、斜走の求めて二、十一、十三、十段の三形、黒イは常形、黒ロ白ハイは強く手抜きは他の好點に先鞭し、隅は白の手段を俟つて輕く凌がんとす。

〔五〇七〇〕黒善し

白五と綰込みを先にし來る、黒乃ち掛下るべしと、白十一早し、イの善び。黒十八の善びなり。白ロ又ニに打つ、黒ハ又白ロなれば黒ホ。

〔五〇六九〕黒の形善し

白三、ヌルシ。白五をイに切れば、黒ロ白ホ黒ニ白ト黒チとなりて。黒優勢。

〔五〇六八〕黒利勢

白二一、無理。白二、六に約し、黒二に三と、黒一、二、十、白イ、黒二九、白ロ、黒ハ、白ホ、黒ニ、白ヘ、黒ト、白チ。

〔五〇七一〕要點約言（第七四型）

黒四では白ニイ、（及び黒ロ白ハイ）は常形、黒ニは強く手抜きの三手段あり。白ロを攻める手、白ハイ黒ニ白ロ又白ロなれば黒ホ。

〔五〇七二〕基本圖（第七五型イ）

白三の手は奇計手段、敵の意表に出でんとするものにして、時に奇功を奏すべし。

〔五〇七三〕定石

白三と大斜走に掛ける手は、互先大斜定石と同形なるも、其位置一路高き丈に、其變化も多少異れり。（互先三間夾大斜定石參照）

〔五〇七四〕黒打易し

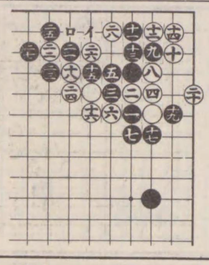
黒一以下七まで、此形の定型なり。白十八をイは二。一に打てば黒十八。又白十八を黒十九に附ければ、白ロ、黒十八に何れも黒善し。

〔五〇七五〕黒十七に破滅

黒十七、無理なり。白二十肝要の一着。（五〇七九圖參照）白二、八を三三に打て敗（尋いで白ニ、黒イにて白ロ黒ハなれば、黒九、白二甚だ妙。

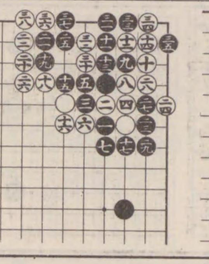
〔五〇七六〕 黒敗

白三十は三一に飛び、黒三十一白イと打つ手あれど、次に黒ニにて白は形崩る、故ホに打てば白三七、黒四十、白四一にて白勝。



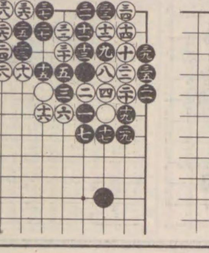
〔五〇七七〕 黒敗

黒一三をイに粘げば、白ロ黒二六白二五にて、此攻合も白勝なり。



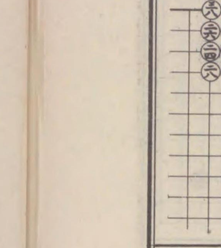
〔五〇七八〕 攻合白勝

白二四の肝要なる所以は、若し此手を黒二七に打てば、白二四白卸して白敗戦となるなり。（次圖）



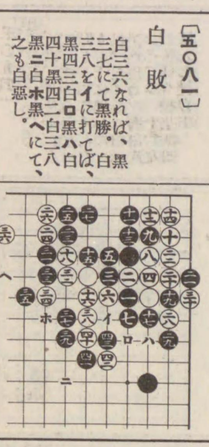
〔五〇七九〕 白二十に潰ゆ

白二十悪し。悲き哉此一豚に萬鮮の涙を呑み、黒二七善を攻合は白二十にあるのとは、一二一子の相違あり。



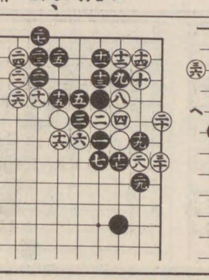
〔五〇八〇〕 白苦戦

白三八を三九に行びれば黒イ白ロ黒何處までも行びて、又白四十をヘにて、同じく白は苦戦を免れず。



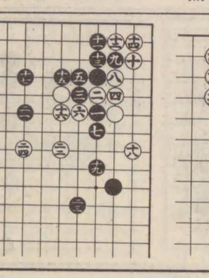
〔五〇八一〕 白 敗

白三六なれば、黒三七にて黒勝。白三四を イに打てば、黒四三白ロ黒四十黒四二白三八ニにて、之も白悪し。



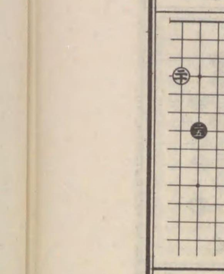
〔五〇八二〕 白可なり

此圖は、黒十七に約へし、形の正しき変化。黒ロは過ぎの爲に白より打つ痛烈骨を刺す十八、二一の二段約すへを咲ふ。此形、黒のにあらざるは、偶然振はざるなり。



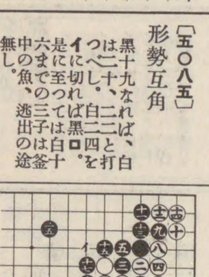
〔五〇八三〕 黒稍優れり

鹿を追ふ獵師山を見ずとか、十二に專心二三して十六まで悟の白弱き果、白を無理なり。



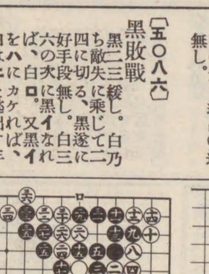
〔五〇八四〕 形勢互角

黒十七の時、白が悠然十八と運んで敵の一の狙ひは外柔蓋し内剛にして、甚だ貧なるもの、黒十七は二一を正着とす。



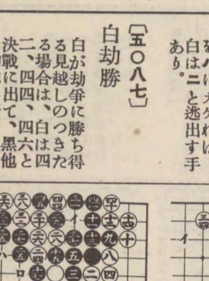
〔五〇八五〕 形勢互角

黒十九なれば、白は二十、二二と打つし。白二四をイに切れば、是に至つては白十六までの三子は白中の魚、逃出の途釜無し。



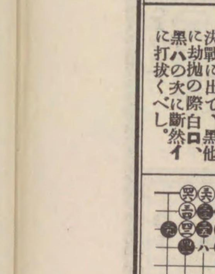
〔五〇八六〕 黒敗戦

黒二三緩し。白乃ち敵に乗じて二四に切る、黒遂に好段無し。白三六の夫れば、白ロ。黒イなれば、白をニと逃出す手あり。



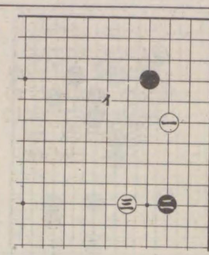
〔五〇八七〕 白劫勝

白が劫争に勝ち得る見越しの上、白は二四、四六と決戦に出て、白六は四他に劫抛の際白ロ、黒ハの夫に斷然イに打抜くべし。



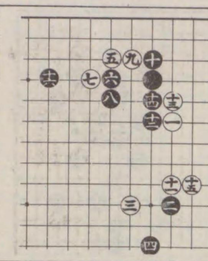
〔五〇八八〕 基本圖（第七五型ロ）

白三も、前項白イと同じく奇計手段なり。黒の意表に出でんとするも、白時に面白し。



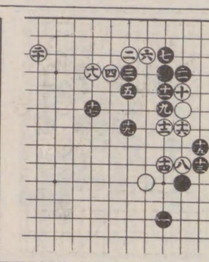
〔五〇八九〕 定 石

白三は四との交換によつて上面の形勢に査し、五の兩ハを一層有力なる策となしめんとする策なり。十六以下は四五九九圖參照。



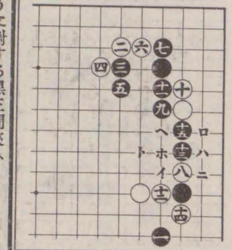
〔五〇九〇〕 黒善し

白十二に至つて始めて黒十三と打ち、乃ち、十六は佳し。白重複の感あり。其の目の時、その上隅にある白八が看取して黒が隻敏と固めしは善し。



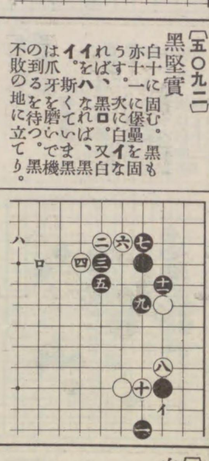
〔五〇九一〕 黒確なり

白は前圖の重複に懲りて十二に至つて黒此時十三の突撃は果敢にして善し。白十四を十五なれば黒ホに白イ、黒トニ白イ、十二を引けば白ロ黒ハ。黒イに十五白ロは



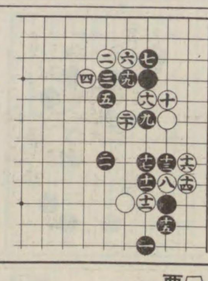
〔五〇九二〕 黒堅實

白十に固む。黒も亦一に傚つて白イを固むるを待つ。黒機を見て白イなれば、黒ロなれば、黒イなれば、黒ハなれば、黒は牙を磨いで白の到る地に立てり。



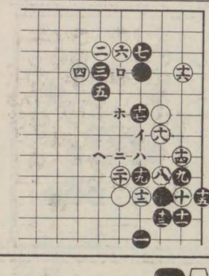
〔五〇九三〕 種々變化あり

白十の時、黒は九の先鋒と相呼應して十一に綿出す。強硬手段を持つては事を好まず。此一二となる面白し。黒以下は應變の策あり。



〔五〇九四〕 黒手段に陷る

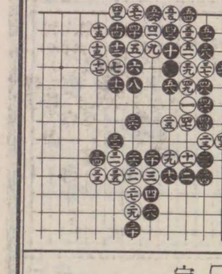
黒九、此場合好まず。黒十九兵機に暗し。白二巧に黒ハを黒ホなれば、黒ニ白ロ、猶白八をイ、ロ、十六なども打つ變化は四五七圖以下



〔五〇九五〕 白大に善し

著者 四子某氏

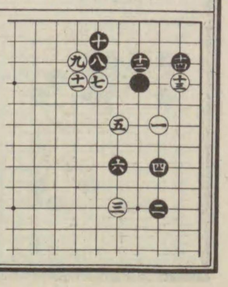
の對局にあり、黒十二は損を先にせる手もあり、黒四以下は誤算、共に悪し。（先）劫トル



〔五〇九六〕 白優れり

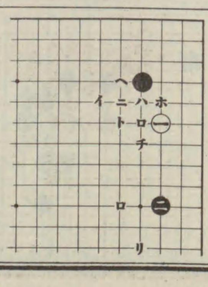
先番 盛汪大有年 漢

兩氏の對局、黒四五の低き着より形よりも白一に着いて、白五。既に一等を輸せり、黒八、十二に、後々たる黒の氣骨を認む。



〔五〇九七〕 要點約言

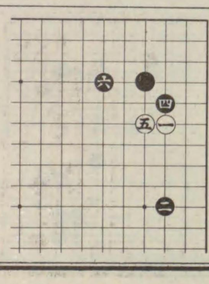
白イなれば黒ロ、黒ロなれば白ハ黒ニと白ホ黒ヘと白トの斜定石の定型にチと高く掛れば、黒は悠然リに應けて善し。



〔五〇九八〕 基本圖（第七六型）

（三間夾、白手抜）

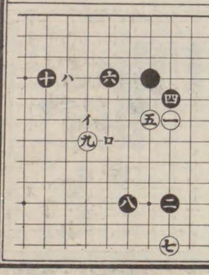
（變化）白三を抜いて、他に手を實戦には、白イなれば、黒ハ。又白ロなれば、黒十。



〔五〇九九〕 定 石

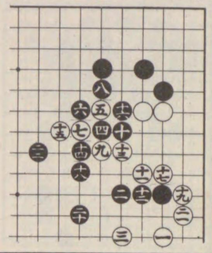
白九は打つもあり、打つ場合甚だ多し。場合は、黒の四、六定型なり。

白は(三)手抜(三)或はロに打つ場合は、黒ハ。又



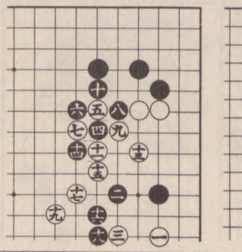
〔五一〇〇〕
黒優れり

白三と飛びしは、無謀なり。果然、黒四の佳手に遭つて苦戦す。白五、七、手筋なり。白九の時、黒二一に約へるは稍〻打過なり。（次圖）



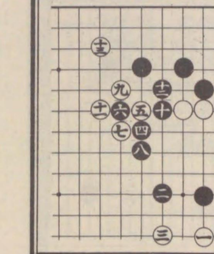
〔五一〇一〕
白攻合勝

黒二十、二一打過。白若し征宜しく二五を二六、白一層優る。黒二四を白二七時黒ハに切るれば、以下三一となりイ白ロ黒二四白二あれど、これも黒好まず。



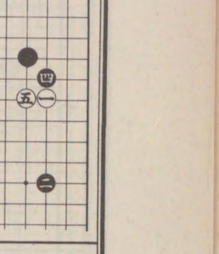
〔五一〇二〕
形勢互角

黒八は、十より當に白は九、十の爲好調を恵まず、悠々と鼻歌交りに天地に出るを得たり。



〔五一〇三〕
白善し

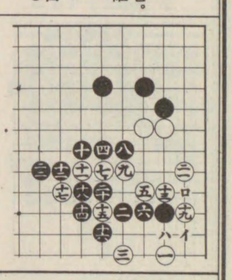
黒八一面白からず。此形、黒有利に似たれど、白が威力一ボンの大なる加之、黒の二目上邊右邊の白も利なり。



五ノ處粘

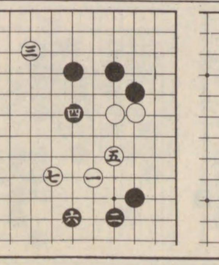
〔五一〇四〕
黒優勢

既にして白五、七。黒八、十、穏健確実なる手順なり。白十五、黒十七の手順を以てイに約へ、白ロ、黒ハ、白二、黒二十に、れば、五一〇圖と略同じ。



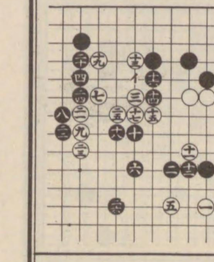
〔五一〇五〕
白俄然敗勢

白十三、悪し。黒十四に至つて、白痛哭すれども及ばず。要するに此形、白三は無理、黒より四とかけら白に良計無し。



〔五一〇六〕
常形

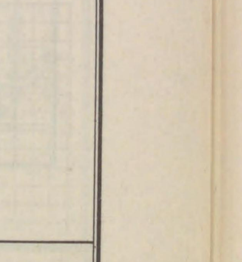
白一の大斜走は、三間夾み尖附の常形なり。（猶此變化一間應けの中二五七圖以下にあり）



〔五一〇七〕
黒厚し

林有太郎六段
二子番勝
井上一郎三段
當時

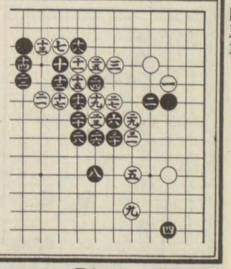
黒十は、次に黒十四、白十五、黒十七、白十六、黒イの筋を狙ふ。故に白此防ぎを兼ねて十三。



〔五一〇八〕
白有利の分れ

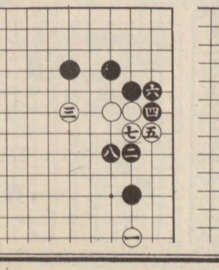
勝 加藤信七段
先番 井上一郎四段

黒十如何。三一まで地の分れは、白の地は既に確定し、白の中の黒の厚み、未だ定まらず。黒悪



〔五一〇九〕
場合の手段

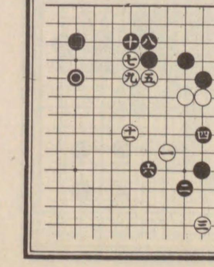
黒二と廣く飛ぶも手なり。然し此手は黒此一着にて白を包圍し得る場合。黒六以下十まで外好まず。黒六は、●の間の薄味を補ふ。



〔五一一〇〕
場合による形

（黒●にある形）

黒が二と打ち、次に四、六は、黒●上隅にある場合、上邊の地を守り、手なれば二も、爲に弱に招き、以下の黒の大勢に遅るゝなどの嫌あり。

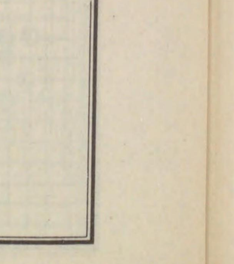


〔五一一二〕
白面白し

二子番
二目勝
鈴木知清五段
安井知得八段

（黒●にある形）

黒四、六如何。四、六に、又六か、圖七には行くべき形黒低く好まず。



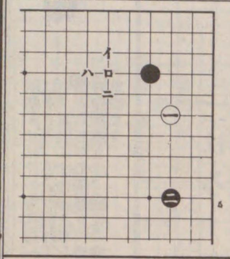
〔五一一五〕
三間夾み總評

（自第六九型至第七六型）

以上の如く、三間夾なれば、多種多様の變化あり。此中白イ黒ロ白ハ黒ニ最善く、此形定石とも云ふを得べし。

〔五一一四〕
要點約言（下）

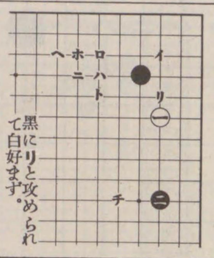
此中イは隅と替る手ロは定型ハは緩なれど、ニに比しと稍〻策なり。ホとヘは、一場合の手段なれども、チは變化あり。手抜は、稍〻無理筋。



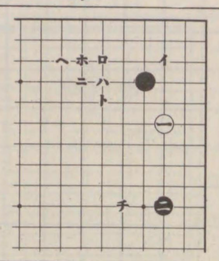
〔五一一三〕
要點約言（中）

（第七六型）

黒二の三間夾は攻守兩樣の手段なり。次に白の應けに以下チまでと、イ抜とあり。

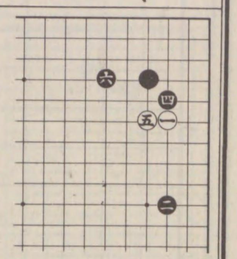


黒にリと攻められて白好まず。



〔五一一二〕
要點約言（上）

白三を抜けば、（第七六型）黒は手抜すべし。此と無論四。此と六は互先。三間夾の場合と同樣、黒位に優勢の地を保ち、且つ隅に地を得。可なり。

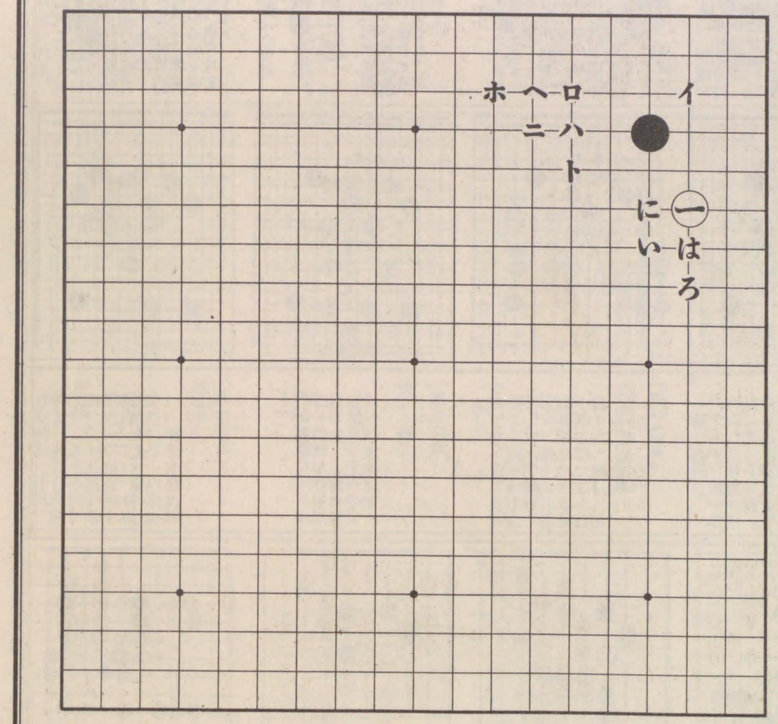


〔五一一一〕
要點約言（第七六型）

白三を抜けば、（第七六型）黒は手抜すべし。此と無論四。此と六は互先。三間夾の場合と同樣、黒位に優勢の地を保ち、且つ隅に地を得。可なり。

〔五一一六〕

基本原圖 白兩懸り



兩懸りには、一方は白**一**、**いろは**又は**に**と、他方は白**イロハニホヘ**又は**ト**との、各一つ宛即ち二つが種々なる組合せとなつて現はるゝが、其中、實戰には白(一)と**ロ**と兩懸りが最も多し。蓋し、前譜記によるの他の種々なる形の兩懸りに於ては黒が簡單に治まり得るに反し、白一と**ロ**の兩懸りは、變化の機を多分に含み、從つて白として最善の形なる故なり。

〔五一一七〕

基本圖

（第七七型）

(二)手抜

白三と「三ノ三」に打込む手は、前の黒**イロ**又は**ハ**との異の夾擊のある形と「三ノ一」に打込むより「三ノ三」に打込まれし時の必然の應答なり。（四五圖三、三五圖三、三六圖三、三八圖參照）

〔五一一八〕

常形

黒一以下九までは、白よりの「三ノ三」に打込まれし時の必然の應答なり。（四五圖三、三五圖三、三六圖三、三八圖參照）

〔五一一九〕

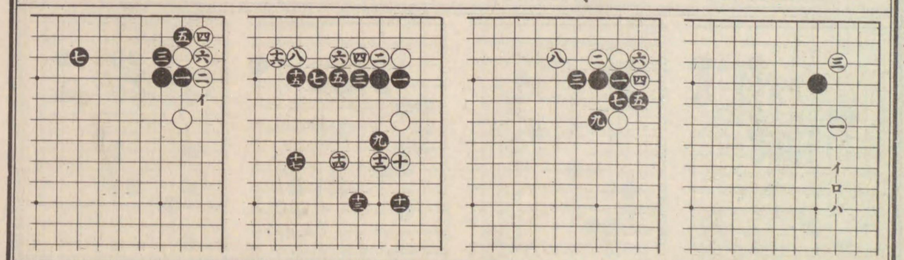
黒優勢

白四、六以下の本圖は、前圖九の如く痛烈なる絡ざるを蒙らざる黒に於て十七、必ず黒優勢の要點なり。

〔五一二〇〕

常形

黒三は**イ**と約へるも善し。猶白が、打込みし、變化は、前へ打込まれし時の必然の應答なり。（四五圖三、三五圖三、三六圖三、三八圖參照）



〔五一一二〕

基本圖

（第七八型イ）

(二)手抜

双方、一三と懸る手。白一斜走に懸る手。之は前掲の場合と同様、三、二、一と夾む場合と同じく、白として最善の手段なり。

〔五一一三〕

基本圖

（第七八型イの一）

(二)手抜

黒六では、他にイもあり。六は常形、イは隅を固めた後ち徐に攻勢に出でんとするに前の附定石の中にある變化と略同意味。

〔五一一四〕

定石

(二)手抜

白十一をイ或はロハなどは、何れも四六一二圖以下と略同様。但し九でニホ又は此形にては白好まず。

白九ではイロ又はハもあり。其要領は三間夾の中に善し。

〔五一一五〕

黒善し

白六と挟く拓けば、黒七と絡ぬに左。但し、黒七攻の白を夾ぬに九へ。

白イと、黒ロの交換に無しは、黒七攻の綿ねに左。

白が、六又はイに限るは、其の他の場合は白のロなる故黒悪し。

〔五一一六〕

白潰滅す

白十二、甚だ無理。如何くジャンヌ・ダルクは出ずや、ガンベッタは出ずや！白十八の時黒十九、二一に至つて、白三一に劫材無し。

〔五一一七〕

黒大に優れり

白いま十八、二十。乃ち黒は二三に至つて善し。二子を取つて二に回が、天の雄圖既に空し。黒必勝の勢なり。

〔五一一八〕

白苦戰

白十八以下、死守して戰ふ。

白は大厦既に傾く、一木能く支ふべきに非ず。白辛うじて活きるも、白は外圍の厚壯、黒の爭覇の餘地無し。

〔五一一九〕

黒有利の分れ

黒十三は十七に切り、白十八黒十六、白二と打つ手を、白十三と打つ手なども十六に曲ずして活きるも、白は外圍の厚壯、黒の爭覇の餘地無し。

〔五一二〇〕

黒有利の分れ

白八、黒十一に粘げば、白十二、黒十四、白十三、黒十五、白十二、黒ロとなつて圖の形と同じ。

〔五一二一〕

黒可なり

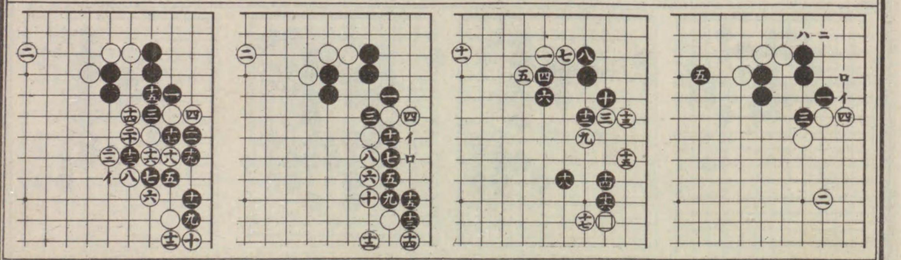
本因坊跡目秀策七段
二子嚴崎健造三段
當時勝

(二)手抜、白ロにある形、白十五窮策、止むを得ざるに出づ。

〔五一二二〕

黒善し

白イと、黒ロの交換に無しは、黒七と打つて善し。之は後白ハに約ねるも、黒ニと約へるも、黒故なり。（前圖參照）



【五一三三】**基本圖**（第七八型イの二）

白九と狹く拓く。一間に拓く手あり。一此手はイの邊に白石のある場合止むを得ざる手にて、普通は狹きに過ぎ緩し。

【五一三四】**定石**

㊀手抜

白九と二間に拓けば、黒十、十二、又白十は無論、十一に打つて善し。

【五一三五】**白善し**

白一と堅くある時に、黒二の附け好まず。白三、五は機變好着なり。

【五一三六】**黒優れり**

白は六までの前衛に戰を得るも、七に利を失ひ形勢忽ち逆轉す。黒八、白十は敵の意表に出て驚駭せしむ。黒九は白十一に尖めば、黒五を豫期せし白七は、油斷も亦甚し。

【五一三七】**黒勝**

白十三に切れば、黒十四。白の十五は、黒は素より覺悟の前なり。黒六、白七。黒は無十一の邊に、黒は無二、六の劫材あり。白七、黒ロも善し。白黒イ、黒ロも善し。

【五一三八】**黒敗北す**

黒四、六、八大に無理。白奮撃して五に守りを固う。黒イ白ロにて、一十三に至り、十五より十三に至り、黒萬策盡く。此時黒イなれば白ロ。又黒イをハなれば白ニ。黒イ白ホ黒ヘ白ト。

【五一三九】**基本圖**（第七八型イの三）

㊀手抜

白九、常形。又九は猶一路庸く。イに拓く手もあり。

【五一四〇】**定石**

㊀手抜 此手を黒十善しなれば、黒イ白ロにて、一十一と適當の形となり、最も故に此場合黒十一。白十一を。好まず。白ハなれば黒十一。

【五一四一】**黒厚し**

白"三、五、黒六、"疾呼して敵の隙に衝い"て白七"引"こか入"り、五は應手に強"し"、一べ"か"ら"ず"佳手なれる蓋し所以なり。

【五一四二】**黒の形善し**

白九と奔馬の勢を以て突破し來る黒乃ち二四の先手を含んで十六に至る。黒若し征くば、黒の陣形整然たり。曲弛め十六に至る。十八を イに優勢。

【五一四三】**黒優れり**

白七を十一に"三に走れば、黒七"、又白此手を只九に尋ぐ"附け"れば黒十一に取つて勝なり。

【五一四四】**白善し**

勝井上一郎四段
先苅部榮三郎二段

（兩氏の對局。白星打の形）

【五一四五】**白味悪し**

先番鈴木秀子四段
勝小杉丁四段

（兩氏の對局。白十二は十五に攻め白イに逃げるも筋なり。此形黒よりロと綰ぬる筋あり、白惡し。

【五一四六】**黒善戰**

三子某氏
黒十六、面白し。黒二十と肉彈戰を挑み、機を捉へて十九まで白を取らんと包殺せんと脅かす。黒の氣鋭、讓の如し。

【五一四七】**互角の分れ**

二子番
勝鈴木知清三段
奥貫智策五段
當時

黒八、黒としては態度にあらざるも其膽略を見るべし。

【五一四八】**形勢互角**

白一と更に廣く拓けば、黒は二或は三何れに打つも善し。黒五に至つても、猶ほ白三を打込むに手あり。イに尖むる時は、前圖にあり。

【五一四九】**黒大に優れり**

白九は、黒を十一に應けさせて白イの注文なれど、黒十二、惡善し。黒十八に至つて、黒中原に憚を懐く。咆哮して萬生を伏せしむ。黒善し。

【五一五〇】**基本圖**（第七八型イの四）

㊀手抜

白九の手あり。黒十の下は、イは確實。ロは三間夾と同形、隅の守りよりも白一への攻撃を先にせしなり。

【五一五一】**定石**

黒十一㊀堅實なり。黒十四は、イの打込を狙ひ、戈を進めて敵壘に迫りて可なり。（一八參照）ざ"た"黒十四はロに切る手もあり。

【五一五二】**常形**

黒二と三間に夾撃する手は、攻守兩樣だ善し。此變化は（一西洋綺譚）と稱するも"し"て惡しと見る"も"よし、白は黒を愚化し如くなれど、低く且つ斷然多し。

【五一五三】**參考圖**

（白◎にある場合）黒は◎を重複せしめんとして四を五に約へる手あり。（二一五八圖以下參照）黒八、十、定型なり。

【五一五四】**白稍可なり**

黒二、筋違ひなり。又初白一の尖を イに走れば、黒二と白ロと輕快に運ぶべし。

【五一五五】**黒の形好ます**

黒十、好ます。此手は十七に突當り、白イ黒十一と打つべし。白十一と敵の虚を伐つて十九に至るの辛棘、白十此形、白一の刺す、沿天の勢を示す。

【五一五六】**白悪し**

白十一以下九まで"は所謂「西洋綺譚」と稱するも"し"て惡しと見る"も"よし、白は黒を愚化し如くなれど、低く且つ斷然多し。

〔五一五七〕
黒確なり
参考圖
白一と慕進し來る、黒二確な手もあり、又は三にて白惡し。（四六九五圖參照）へば、黒七にて白惡し。

〔五一五八〕
白稍有利なり
黒一而して四もあり、此形は尤も、黒八の征の宜しき場合に限る。黒十四確なに稍緩し、此手は嚴しくイに當て白ロ。黒ハと打つ筋あり。（次圖）

〔五一五九〕
白術中に陷る
黒十四、十六に殺到す、可なり勢や、積水を千仞の察に決する如し。白二七無理なり、四四に押し、黒三六、白三十と飛ぶ位のものなり。（二十四粘）

〔五一六〇〕
黒大に優れり
白十七、黒乃ち十八と當て二十に堅むる。甲を誘て二十一に本圖黒の五子死せしも雖も、黒が堂々たる厚勢は蓋し、その犧牲の子の英靈なり萬世に芳を傳へん。

〔五一六一〕
黒優れり
白九、十一と打て攻合ひ、十二と回すれば黒厚に致し、十六、尋で十四を擴げて厚の翼を壯を加ふ。白遂に雄形勢を失へり。

〔五一六二〕
互角の分れ
白五以下十一に綿く手善し。此形、黒城を築く、黒厚し。此隅、黒は打つ多少の味遺れり。

〔五一六三〕
參考圖
（二）手抜
白九、十一の形には種々變化あれど、要するに黒は十二と振替りに出て面白し。

〔五一六四〕
參考圖
本因坊秀哉名人
二子 藤田豊次郎四段

〔五一六五〕
要點約言（第七八型イの四迄）
（二）手抜
白九ではイロハニホヘなどの手段あれど、其變化は、前附定石一八五八圖及び三間四五九七圖以下と同じ。

〔五一六六〕
參考圖
（二）手抜
黒四、六とイに附行びし時、白にイ又はロもあり。此二手は何れも、黒がハの三間夾みにある形と異りて、白面白から。

〔五一六七〕
黒善し
白○にある時に、白一と附ける。定石を、選ぶは惡し。見よ、白○に黒の堅には餘りに近接せる形となれり、蓋し白が用兵の錯誤に因る。

〔五一六八〕
黒可なり
白一惡し。抑も黒イの三間夾みあるも、イ場合は黒の八に至つて、稍乏し。今やの效ロもあり。此二手は何れも、黒がハの三間夾みにある形と異りて、白面白から。即ち黒三間夾の四七、二三本圖黒可なりに北して。

〔五一六九〕
黒善し
白五、七惡し。白十一に拓けば、黒は十二に馬を躍らせて白に逼るあり。此間、白の功名、刮目又黒は待つべし。或る時機に抜く手善し。イと打

〔五一七〇〕
基本圖（第七八型ロ）
（二）手抜
黒六もあり。五及び六圖及び以下略同。様な時など、白一に黒は又イ、多少無き時は、ある時と變化異れり。

〔五一七一〕
定石
（二）手抜
黒既に十四と堅守す、今後の憂は無し。乃ち長鞭を進ませて十六に迫り、雨か、風か、戰機將に熟せんとす。

〔五一七二〕
黒善し
白いまや九、黒は遺れ唯一の好盤蓋しに要撃す。時に八十と見て、は、双方は九十と合ひに大場なり。黒攻力の形勢既に一等に至る、二の白を輸す。

〔五一七三〕
黒好まず
本因坊秀哉九段
勝
三子 柴田獣庵三段
兩氏の打棋。黒イ、白七、黒は切るべし。（イ、次圖）黒十の手抜惡し、定石の如く打つべし。（五一七一圖）。

〔五一七四〕
黒善し
白三。此時、黒四は虚へ乘の機敏なり。白五を穴なれば黒イに得たりと打つ、其時白七なれば、六の白愚化二一〇圖以下參照。

〔五一七五〕
常形
白三なれば、黒は無論四に切つて善し。（二一七〇圖參照）然し下參圖は○の白ある故本圖の白六を七に押すに手無し。

〔五一七六〕
定石
（二）手抜
白十三の拓を必要とはせ、白は九、十と打つべし、尤も此一善し、十二、十三或はイと手もあり。ツメル手

〔五一七七〕
黒確實且有利
白五、七は、思慮未だ定らざる血氣の勇なり。打過ぎたるを免れず。黒八の尖附手筋善し。（次圖參照）

〔五一七八〕
黒大に優れり
白九惡し、一豚忽ち白の形勢崩る。黒十六に打抜くや、白は左右に弱石を生ず。見よ黒は一石を殺すなつて堅強黒一の白瓦に向ふ如く。

〔五一七九〕
黒の勢善し
白九と綿れば、其時黒十と切るは此形、隅の黒は活。反之、左右の白は未だ治まらず。二十と壓するに治まらんでは、形勢既に白を去る。

〔五一八〇〕
場合の手段
勝 前田陳爾四段
先番 小杉丁四段
兩氏の對局圖
黒十と切つて、左五を伐ち、右九を脱むで攻撃精神烈々火の如し。

〔五一八一〕
要點約言
（第七八型ロ）
二手抜
白九では、イロハ此形の變化は、前掲附定石竝に三間夾に於けると略同樣なり。

〔五一八二〕
基本圖
（第七八型ハ）
黒四俗手、次に白より白イと三一の要所を占領せらる。黒惡し（變化四八二圖以下參照）

〔五一八三〕
黒の勢振はず
白一を占むるや、優劣立所に決す。蓋し、一は必爭の要點なり。黒四は稍無理なれど、事既に茲に至る、四と打ずんば陣容益々萎縮すべし。

〔五一八四〕
白有利且有勢
語あり、「機を知る」は其れ神か一機を知つて之に乘ずるものの善し。白二は正に機を得たり。白十七如く形なり。黒十一は詰さるを招く。ダメ

〔五一八五〕
白優れり
黒十六、恥を忍び苦しみを甘受して此の痴形に出づ。完全に外に出るには此手より他に途無し。黒二十一、白ロ大魚網に入らむ。

〔五一八六〕
白善し
黒四、手筋に似たれど、白に五、七と綿行びられて同じく惡し。白九善し。十七に至つては、自軍旭日に照り榮ゆ。整陣既に黒を壓す。

〔五一八七〕
白善し
黒十を十一にカケレば、白イ黒ロ白ハ、白十一は、暫く此處は其儘に置て、時機を見て着手するも善し。

〔五一八八〕
白有利の分れ
黒四の當付なければ、白五と綿り、白十一、十三の綿打ぎは好たる形なり。今直ぐ此含みを殘しても善し。イに押すも

〔五一八九〕
白稍可なり
白一、三の時は、黒は四、六と綿粘り、白七は四のイとの尖むる手も有り。其時も黒は十四に打つべし。

〔五一九〇〕
場合による
白七と拓き、九以下十三に至る、知得の故智に學ぶか、秀和の善し。至藝を學ぶか、敵をアマシテ打つ策戰なり。尤も白九はイに出る手もあり。

〔五一九一〕
形勢互角
白三好ず。黒四好し。黒十、八好し。之は宜しく、得失より見るも甚だ互角なり。十を手拔いて、白十一黒イ白ロ黒ハとなる形は、先手約十目の處なり。

〔五一九二〕
互角の分れ
白九、十一は先手の一得一目なれど、黒を十二に安取せしむるは、黒の一得一目なり。

〔五一九三〕
黒善し
黒二の時、白三はするものに手筋の弄するもの。手筋の餘弊は、如何、文明の猶三は、白の平凡なり。イと引くが善し。黒十二、此形にては特に面白し。

〔五一九四〕
黒大に優れり
白十三なれば、黒十四に切る手善し。次に白十五を二に提れば、黒十六、又白十七を二一に提れば、黒は十七白十四に粘き、黒二二。

〔五一九五〕
白面白し
白一の時、黒が之に對する應答を省き、つぎ盤、白に手あり、白に打つて、其結果は以上の如く、何れも黒好まず。

〔五一九六〕
要點約言
（第七八型ハ）
二手抜
黒四に尖めば、白イに打つて、其結果は以上の如く、何れも黒好まず。

〔五一九七〕
基本圖
（第七八型ニ）
二四手抜
白に一、三を許す形は、之を三に手拔きとふ、他に手拔きの最急を要する點あるは此形の外は黒惡し。

〔五一九八〕
定石
二四手抜
黒は隅に手を拔きさいるも、白に五と包むに至の、黒十六にて活きまでになる形と、三手拔きの定石なり。

〔五一九九〕
黒活
（前圖の續き）
白一の時、黒二大に善し。白三の時、黒活なり。白三の手順善なり。之を只五に取れば、黒イにて、圖六と比較するに隅の地一目の差あり。

〔五二〇〇〕
黒死
黒二惡し。白三と衝くや黒は、五と眼形無し。黒四は、五と綿ね、白イなれば、黒四白ロ黒ハ白ニは、無と仕掛けるも黒惡し。

〔五二〇一〕
白の形優れり
黒七惡し。白八と切つて、肝要なる星の黒を奪ふ。黒十を忘れば、白イ黒ロに提て黒死白は無論ホニなれば白は

〔五二〇二〕
黒死
黒九惡し。之の前定石の如くイの綿を掛けキカシて後九と粘べし。圖の如く、白に十と綿ねられては、黒は隅に眼の形を失へり。

〔五二〇三〕
黒先手活
白二、惡し。白良し。白六をロイと五、七を黒ハ白ロとなれば、黒ニ黒ホ白ロ善し。（圖）又、黒は先手にて活なり。（圖）

〔五二〇四〕
黒　活
白一を三なれば、黒は五を三、又白九に綿ねれば、黒イ白ロ黒ハ白ニ黒イと打つて、黒は四目に押して活の形。

【五二〇五】隅に手あり

白いま四。黒七、九。十一悪し。七にイ、十一はロ。活きる位置のもの。黒斯くて根を絶つ日に始めて白が襲撃の方略に就いて見よ。

【五二〇六】白先劫

白一、三、五、精妙を極めし巧緻の手。嗟乎敵ずべき悪形、尤も此時は白の◎の邊に無きを黒イに切り白ロ黒ハに劫とする手あり。白一を三に打てば、黒一にて活。

【五二〇七】黒死

黒四、悪し。又初め黒二をイに打てば、白五にて黒の二目を取る手あり。

【五二〇八】黒悪し

黒三悪し、前圖の如く打つべし。十二に至つて黒は辛うじて活きしも完封す。加之、白イに打込む手あり。白一を三に打てば、黒一にて活。

【五二〇九】黒活形善し

黒二を前圖の如くイに打つにしては完全に活きず。稍味あり。反之、本法は手数を要し、四、同じく活きるにしても黒前形に劣れり。

【五二一〇】黒活

白四なれば、黒五、七と打て宜し。又白四と込めば、黒五と打つ。白十二を十三と受れば、黒イ、白十三、黒十四、白十九、黒十五にて活。

【五二一一】黒活

白四も無理筋なり。白八にて十九なれば、黒八白イ次に打抜いて善し。ロへ劫提りに、又白八を手抜きせば、黒は十二の一手を見て先づ八綽に堅くすべし。

【五二一二】要點約言（第七八型ニ）

白五と包圍さるゝ、形黒好きも、時に此手あり。黒はイが定石なれど、此手は定石ロと廣く黒優れり。

【五二一三】要點約言（第七八型全部）

（一）手抜

黒四では（ハ）、（黒イイ）、（黒ホイイ）、黒ニ、黒拔きの常形。白ロ黒或は黒手拔きの四、一は固む法あり。二は先づ隅を固む手、三と四は、

【五二一四】基本圖

（第七九型）

（二）手抜

白ニ、黒三、白四、黒五、白六、黒七、白八、黒九、白十、黒十一、白十二、黒十三、白十四、黒十五、白十六、黒十七、白十八、黒十九、白二十、黒二十一、白二十二、黒二十三、白二十四、黒二十五、白二十六、黒二十七、白二十八、黒二十九、白三十、黒三十一、白三十二、黒三十三、白三十四、黒三十五、白三十六、黒三十七、白三十八、黒三十九、白四十、黒四十一、白四十二、黒四十三、白四十四、黒四十五、白四十六、黒四十七、白四十八、黒四十九、白五十、黒五十一、白五十二、黒五十三、白五十四、黒五十五、白五十六、黒五十七、白五十八、黒五十九、白六十、黒六十一、白六十二、黒六十三、白六十四、黒六十五、白六十六、黒六十七、白六十八、黒六十九、白七十、黒七十一、白七十二、黒七十三、白七十四、黒七十五、白七十六、黒七十七、白七十八、黒七十九、白八十、黒八十一、白八十二、黒八十三、白八十四、黒八十五、白八十六、黒八十七、白八十八、黒八十九、白九十、黒九十一、白九十二、黒九十三、白九十四、黒九十五、白九十六、黒九十七、白九十八、黒九十九、白百、黒百一、白百二、黒百三、白百四、黒百五、白百六、黒百七、白百八、黒百九、白百十、黒百十一、白百十二、黒百十三、白百十四、黒百十五、白百十六、黒百十七、白百十八、黒百十九、白百二十、黒百二十一、白百二十二、黒百二十三、白百二十四、黒百二十五、白百二十六、黒百二十七、白百二十八、黒百二十九、白百三十、黒百三十一、白百三十二、黒百三十三、白百三十四、黒百三十五、白百三十六、黒百三十七、白百三十八、黒百三十九、白百四十、黒百四十一、白百四十二、黒百四十三、白百四十四、黒百四十五、白百四十六、黒百四十七、白百四十八、黒百四十九、白百五十、黒百五十一、白百五十二、黒百五十三、白百五十四、黒百五十五、白百五十六、黒百五十七、白百五十八、黒百五十九、白百六十、黒百六十一、白百六十二、黒百六十三、白百六十四、黒百六十五、白百六十六、黒百六十七、白百六十八、黒百六十九、白百七十、黒百七十一、白百七十二、黒百七十三、白百七十四、黒百七十五、白百七十六、黒百七十七、白百七十八、黒百七十九、白百八十、黒百八十一、白百八十二、黒百八十三、白百八十四、黒百八十五、白百八十六、黒百八十七、白百八十八、黒百八十九、白百九十、黒百九十一、白百九十二、黒百九十三、白百九十四、黒百九十五、白百九十六、黒百九十七、白百九十八、黒百九十九、白二百、黒二百一、白二百二、黒二百三、白二百四、黒二百五、白二百六、黒二百七、白二百八、黒二百九、白二百十、黒二百十一、白二百十二、黒二百十三、白二百十四、黒二百十五、白二百十六、黒二百十七、白二百十八、黒二百十九、白二百二十、黒二百二十一、白二百二十二、黒二百二十三、白二百二十四、黒二百二十五、白二百二十六、黒二百二十七、白二百二十八、黒二百二十九、白二百三十、黒二百三十一、白二百三十二、黒二百三十三、白二百三十四、黒二百三十五、白二百三十六、黒二百三十七、白二百三十八、黒二百三十九、白二百四十、黒二百四十一、白二百四十二、黒二百四十三、白二百四十四、黒二百四十五、白二百四十六、黒二百四十七、白二百四十八、黒二百四十九、白二百五十、黒二百五十一、白二百五十二、黒二百五十三、白二百五十四、黒二百五十五、白二百五十六、黒二百五十七、白二百五十八、黒二百五十九、白二百六十、黒二百六十一、白二百六十二、黒二百六十三、白二百六十四、黒二百六十五、白二百六十六、黒二百六十七、白二百六十八、黒二百六十九、白二百七十、黒二百七十一、白二百七十二、黒二百七十三、白二百七十四、黒二百七十五、白二百七十六、黒二百七十七、白二百七十八、黒二百七十九、白二百八十、黒二百八十一、白二百八十二、黒二百八十三、白二百八十四、黒二百八十五、白二百八十六、黒二百八十七、白二百八十八、黒二百八十九、白二百九十、黒二百九十一、白二百九十二、黒二百九十三、白二百九十四、黒二百九十五、白二百九十六、黒二百九十七、白二百九十八、黒二百九十九、白三百、黒三百一、白三百二、黒三百三、白三百四、黒三百五、白三百六、黒三百七、白三百八、黒三百九、白三百十、黒三百十一、白三百十二、黒三百十三、白三百十四、黒三百十五、白三百十六、黒三百十七、白三百十八、黒三百十九、白三百二十、黒三百二十一、白三百二十二、黒三百二十三、白三百二十四、黒三百二十五、白三百二十六、黒三百二十七、白三百二十八、黒三百二十九、白三百三十、黒三百三十一、白三百三十二、黒三百三十三、白三百三十四、黒三百三十五、白三百三十六、黒三百三十七、白三百三十八、黒三百三十九、白三百四十、黒三百四十一、白三百四十二、黒三百四十三、白三百四十四、黒三百四十五、白三百四十六、黒三百四十七、白三百四十八、黒三百四十九、白三百五十、黒三百五十一、白三百五十二、黒三百五十三、白三百五十四、黒三百五十五、白三百五十六、黒三百五十七、白三百五十八、黒三百五十九、白三百六十、黒三百六十一、白三百六十二、黒三百六十三、白三百六十四、黒三百六十五、白三百六十六、黒三百六十七、白三百六十八、黒三百六十九、白三百七十、黒三百七十一、白三百七十二、黒三百七十三、白三百七十四、黒三百七十五、白三百七十六、黒三百七十七、白三百七十八、黒三百七十九、白三百八十、黒三百八十一、白三百八十二、黒三百八十三、白三百八十四、黒三百八十五、白三百八十六、黒三百八十七、白三百八十八、黒三百八十九、白三百九十、黒三百九十一、白三百九十二、黒三百九十三、白三百九十四、黒三百九十五、白三百九十六、黒三百九十七、白三百九十八、黒三百九十九、白四百、黒四百一、白四百二、黒四百三、白四百四、黒四百五、白四百六、黒四百七、白四百八、黒四百九、白四百十、黒四百十一、白四百十二、黒四百十三、白四百十四、黒四百十五、白四百十六、黒四百十七、白四百十八、黒四百十九、白四百二十、黒四百二十一、白四百二十二、黒四百二十三、白四百二十四、黒四百二十五、白四百二十六、黒四百二十七、白四百二十八、黒四百二十九、白四百三十、黒四百三十一、白四百三十二、黒四百三十三、白四百三十四、黒四百三十五、白四百三十六、黒四百三十七、白四百三十八、黒四百三十九、白四百四十、黒四百四十一、白四百四十二、黒四百四十三、白四百四十四、黒四百四十五、白四百四十六、黒四百四十七、白四百四十八、黒四百四十九、白四百五十、黒四百五十一、白四百五十二、黒四百五十三、白四百五十四、黒四百五十五、白四百五十六、黒四百五十七、白四百五十八、黒四百五十九、白四百六十、黒四百六十一、白四百六十二、黒四百六十三、白四百六十四、黒四百六十五、白四百六十六、黒四百六十七、白四百六十八、黒四百六十九、白四百七十、黒四百七十一、白四百七十二、黒四百七十三、白四百七十四、黒四百七十五、白四百七十六、黒四百七十七、白四百七十八、黒四百七十九、白四百八十、黒四百八十一、白四百八十二、黒四百八十三、白四百八十四、黒四百八十五、白四百八十六、黒四百八十七、白四百八十八、黒四百八十九、白四百九十、黒四百九十一、白四百九十二、黒四百九十三、白四百九十四、黒四百九十五、白四百九十六、黒四百九十七、白四百九十八、黒四百九十九、白五百、黒五百一、白五百二、黒五百三、白五百四、黒五百五、白五百六、黒五百七、白五百八、黒五百九、白五百十、黒五百十一、白五百十二、黒五百十三、白五百十四、黒五百十五、白五百十六、黒五百十七、白五百十八、黒五百十九、白五百二十、黒五百二十一、白五百二十二、黒五百二十三、白五百二十四、黒五百二十五、白五百二十六、黒五百二十七、白五百二十八、黒五百二十九、白五百三十、黒五百三十一、白五百三十二、黒五百三十三、白五百三十四、黒五百三十五、白五百三十六、黒五百三十七、白五百三十八、黒五百三十九、白五百四十、黒五百四十一、白五百四十二、黒五百四十三、白五百四十四、黒五百四十五、白五百四十六、黒五百四十七、白五百四十八、黒五百四十九、白五百五十、黒五百五十一、白五百五十二、黒五百五十三、白五百五十四、黒五百五十五、白五百五十六、黒五百五十七、白五百五十八、黒五百五十九、白五百六十、黒五百六十一、白五百六十二、黒五百六十三、白五百六十四、黒五百六十五、白五百六十六、黒五百六十七、白五百六十八、黒五百六十九、白五百七十、黒五百七十一、白五百七十二、黒五百七十三、白五百七十四、黒五百七十五、白五百七十六、黒五百七十七、白五百七十八、黒五百七十九、白五百八十、黒五百八十一、白五百八十二、黒五百八十三、白五百八十四、黒五百八十五、白五百八十六、黒五百八十七、白五百八十八、黒五百八十九、白五百九十、黒五百九十一、白五百九十二、黒五百九十三、白五百九十四、黒五百九十五、白五百九十六、黒五百九十七、白五百九十八、黒五百九十九、白六百、黒六百一、白六百二、黒六百三、白六百四、黒六百五、白六百六、黒六百七、白六百八、黒六百九、白六百十、黒六百十一、白六百十二、黒六百十三、白六百十四、黒六百十五、白六百十六、黒六百十七、白六百十八、黒六百十九、白六百二十、黒六百二十一、白六百二十二、黒六百二十三、白六百二十四、黒六百二十五、白六百二十六、黒六百二十七、白六百二十八、黒六百二十九、白六百三十、黒六百三十一、白六百三十二、黒六百三十三、白六百三十四、黒六百三十五、白六百三十六、黒六百三十七、白六百三十八、黒六百三十九、白六百四十、黒六百四十一、白六百四十二、黒六百四十三、白六百四十四、黒六百四十五、白六百四十六、黒六百四十七、白六百四十八、黒六百四十九、白六百五十、黒六百五十一、白六百五十二、黒六百五十三、白六百五十四、黒六百五十五、白六百五十六、黒六百五十七、白六百五十八、黒六百五十九、白六百六十、黒六百六十一、白六百六十二、黒六百六十三、白六百六十四、黒六百六十五、白六百六十六、黒六百六十七、白六百六十八、黒六百六十九、白六百七十、黒六百七十一、白六百七十二、黒六百七十三、白六百七十四、黒六百七十五、白六百七十六、黒六百七十七、白六百七十八、黒六百七十九、白六百八十、黒六百八十一、白六百八十二、黒六百八十三、白六百八十四、黒六百八十五、白六百八十六、黒六百八十七、白六百八十八、黒六百八十九、白六百九十、黒六百九十一、白六百九十二、黒六百九十三、白六百九十四、黒六百九十五、白六百九十六、黒六百九十七、白六百九十八、黒六百九十九、白七百、黒七百一、白七百二、黒七百三、白七百四、黒七百五、白七百六、黒七百七、白七百八、黒七百九、白七百十、黒七百十一、白七百十二、黒七百十三、白七百十四、黒七百十五、白七百十六、黒七百十七、白七百十八、黒七百十九、白七百二十、黒七百二十一、白七百二十二、黒七百二十三、白七百二十四、黒七百二十五、白七百二十六、黒七百二十七、白七百二十八、黒七百二十九、白七百三十、黒七百三十一、白七百三十二、黒七百三十三、白七百三十四、黒七百三十五、白七百三十六、黒七百三十七、白七百三十八、黒七百三十九、白七百四十、黒七百四十一、白七百四十二、黒七百四十三、白七百四十四、黒七百四十五、白七百四十六、黒七百四十七、白七百四十八、黒七百四十九、白七百五十、黒七百五十一、白七百五十二、黒七百五十三、白七百五十四、黒七百五十五、白七百五十六、黒七百五十七、白七百五十八、黒七百五十九、白七百六十、黒七百六十一、白七百六十二、黒七百六十三、白七百六十四、黒七百六十五、白七百六十六、黒七百六十七、白七百六十八、黒七百六十九、白七百七十、黒七百七十一、白七百七十二、黒七百七十三、白七百七十四、黒七百七十五、白七百七十六、黒七百七十七、白七百七十八、黒七百七十九、白七百八十、黒七百八十一、白七百八十二、黒七百八十三、白七百八十四、黒七百八十五、白七百八十六、黒七百八十七、白七百八十八、黒七百八十九、白七百九十、黒七百九十一、白七百九十二、黒七百九十三、白七百九十四、黒七百九十五、白七百九十六、黒七百九十七、白七百九十八、黒七百九十九、白八百、黒八百一、白八百二、黒八百三、白八百四、黒八百五、白八百六、黒八百七、白八百八、黒八百九、白八百十、黒八百十一、白八百十二、黒八百十三、白八百十四、黒八百十五、白八百十六、黒八百十七、白八百十八、黒八百十九、白八百二十、黒八百二十一、白八百二十二、黒八百二十三、白八百二十四、黒八百二十五、白八百二十六、黒八百二十七、白八百二十八、黒八百二十九、白八百三十、黒八百三十一、白八百三十二、黒八百三十三、白八百三十四、黒八百三十五、白八百三十六、黒八百三十七、白八百三十八、黒八百三十九、白八百四十、黒八百四十一、白八百四十二、黒八百四十三、白八百四十四、黒八百四十五、白八百四十六、黒八百四十七、白八百四十八、黒八百四十九、白八百五十、黒八百五十一、白八百五十二、黒八百五十三、白八百五十四、黒八百五十五、白八百五十六、黒八百五十七、白八百五十八、黒八百五十九、白八百六十、黒八百六十一、白八百六十二、黒八百六十三、白八百六十四、黒八百六十五、白八百六十六、黒八百六十七、白八百六十八、黒八百六十九、白八百七十、黒八百七十一、白八百七十二、黒八百七十三、白八百七十四、黒八百七十五、白八百七十六、黒八百七十七、白八百七十八、黒八百七十九、白八百八十、黒八百八十一、白八百八十二、黒八百八十三、白八百八十四、黒八百八十五、白八百八十六、黒八百八十七、白八百八十八、黒八百八十九、白八百九十、黒八百九十一、白八百九十二、黒八百九十三、白八百九十四、黒八百九十五、白八百九十六、黒八百九十七、白八百九十八、黒八百九十九、白九百、黒九百一、白九百二、黒九百三、白九百四、黒九百五、白九百六、黒九百七、白九百八、黒九百九、白九百十、黒九百十一、白九百十二、黒九百十三、白九百十四、黒九百十五、白九百十六、黒九百十七、白九百十八、黒九百十九、白九百二十、黒九百二十一、白九百二十二、黒九百二十三、白九百二十四、黒九百二十五、白九百二十六、黒九百二十七、白九百二十八、黒九百二十九、白九百三十、黒九百三十一、白九百三十二、黒九百三十三、白九百三十四、黒九百三十五、白九百三十六、黒九百三十七、白九百三十八、黒九百三十九、白九百四十、黒九百四十一、白九百四十二、黒九百四十三、白九百四十四、黒九百四十五、白九百四十六、黒九百四十七、白九百四十八、黒九百四十九、白九百五十、黒九百五十一、白九百五十二、黒九百五十三、白九百五十四、黒九百五十五、白九百五十六、黒九百五十七、白九百五十八、黒九百五十九、白九百六十、黒九百六十一、白九百六十二、黒九百六十三、白九百六十四、黒九百六十五、白九百六十六、黒九百六十七、白九百六十八、黒九百六十九、白九百七十、黒九百七十一、白九百七十二、黒九百七十三、白九百七十四、黒九百七十五、白九百七十六、黒九百七十七、白九百七十八、黒九百七十九、白九百八十、黒九百八十一、白九百八十二、黒九百八十三、白九百八十四、黒九百八十五、白九百八十六、黒九百八十七、白九百八十八、黒九百八十九、白九百九十、黒九百九十一、白九百九十二、黒九百九十三、白九百九十四、黒九百九十五、白九百九十六、黒九百九十七、白九百九十八、黒九百九十九、白千、黒千一、白千二、黒千三、白千四、黒千五、白千六、黒千七、白千八、黒千九、白千十、黒千十一、白千十二、黒千十三、白千十四、黒千十五、白千十六、黒千十七、白千十八、黒千十九、白千二十、黒千二十一、白千二十二、黒千二十三、白千二十四、黒千二十五、白千二十六、黒千二十七、白千二十八、黒千二十九、白千三十、黒千三十一、白千三十二、黒千三十三、白千三十四、黒千三十五、白千三十六、黒千三十七、白千三十八、黒千三十九、白千四十、黒千四十一、白千四十二、黒千四十三、白千四十四、黒千四十五、白千四十六、黒千四十七、白千四十八、黒千四十九、白千五十、黒千五十一、白千五十二、黒千五十三、白千五十四、黒千五十五、白千五十六、黒千五十七、白千五十八、黒千五十九、白千六十、黒千六十一、白千六十二、黒千六十三、白千六十四、黒千六十五、白千六十六、黒千六十七、白千六十八、黒千六十九、白千七十、黒千七十一、白千七十二、黒千七十三、白千七十四、黒千七十五、白千七十六、黒千七十七、白千七十八、黒千七十九、白千八十、黒千八十一、白千八十二、黒千八十三、白千八十四、黒千八十五、白千八十六、黒千八十七、白千八十八、黒千八十九、白千九十、黒千九十一、白千九十二、黒千九十三、白千九十四、黒千九十五、白千九十六、黒千九十七、白千九十八、黒千九十九、白二千、黒二千一、白二千二、黒二千三、白二千四、黒二千五、白二千六、黒二千七、白二千八、黒二千九、白二千十、黒二千十一、白二千十二、黒二千十三、白二千十四、黒二千十五、白二千十六、黒二千十七、白二千十八、黒二千十九、白二千二十、黒二千二十一、白二千二十二、黒二千二十三、白二千二十四、黒二千二十五、白二千二十六、黒二千二十七、白二千二十八、黒二千二十九、白二千三十、黒二千三十一、白二千三十二、黒二千三十三、白二千三十四、黒二千三十五、白二千三十六、黒二千三十七、白二千三十八、黒二千三十九、白二千四十、黒二千四十一、白二千四十二、黒二千四十三、白二千四十四、黒二千四十五、白二千四十六、黒二千四十七、白二千四十八、黒二千四十九、白二千五十、黒二千五十一、白二千五十二、黒二千五十三、白二千五十四、黒二千五十五、白二千五十六、黒二千五十七、白二千五十八、黒二千五十九、白二千六十、黒二千六十一、白二千六十二、黒二千六十三、白二千六十四、黒二千六十五、白二千六十六、黒二千六十七、白二千六十八、黒二千六十九、白二千七十、黒二千七十一、白二千七十二、黒二千七十三、白二千七十四、黒二千七十五、白二千七十六、黒二千七十七、白二千七十八、黒二千七十九、白二千八十、黒二千八十一、白二千八十二、黒二千八十三、白二千八十四、黒二千八十五、白二千八十六、黒二千八十七、白二千八十八、黒二千八十九、白二千九十、黒二千九十一、白二千九十二、黒二千九十三、白二千九十四、黒二千九十五、白二千九十六、黒二千九十七、白二千九十八、黒二千九十九、白三千、黒三千一、白三千二、黒三千三、白三千四、黒三千五、白三千六、黒三千七、白三千八、黒三千九、白三千十、黒三千十一、白三千十二、黒三千十三、白三千十四、黒三千十五、白三千十六、黒三千十七、白三千十八、黒三千十九、白三千二十、黒三千二十一、白三千二十二、黒三千二十三、白三千二十四、黒三千二十五、白三千二十六、黒三千二十七、白三千二十八、黒三千二十九、白三千三十、黒三千三十一、白三千三十二、黒三千三十三、白三千三十四、黒三千三十五、白三千三十六、黒三千三十七、白三千三十八、黒三千三十九、白三千四十、黒三千四十一、白三千四十二、黒三千四十三、白三千四十四、黒三千四十五、白三千四十六、黒三千四十七、白三千四十八、黒三千四十九、白三千五十、黒三千五十一、白三千五十二、黒三千五十三、白三千五十四、黒三千五十五、白三千五十六、黒三千五十七、白三千五十八、黒三千五十九、白三千六十、黒三千六十一、白三千六十二、黒三千六十三、白三千六十四、黒三千六十五、白三千六十六、黒三千六十七、白三千六十八、黒三千六十九、白三千七十、黒三千七十一、白三千七十二、黒三千七十三、白三千七十四、黒三千七十五、白三千七十六、黒三千七十七、白三千七十八、黒三千七十九、白三千八十、黒三千八十一、白三千八十二、黒三千八十三、白三千八十四、黒三千八十五、白三千八十六、黒三千八十七、白三千八十八、黒三千八十九、白三千九十、黒三千九十一、白三千九十二、黒三千九十三、白三千九十四、黒三千九十五、白三千九十六、黒三千九十七、白三千九十八、黒三千九十九、白四千、黒四千一、白四千二、黒四千三、白四千四、黒四千五、白四千六、黒四千七、白四千八、黒四千九、白四千十、黒四千十一、白四千十二、黒四千十三、白四千十四、黒四千十五、白四千十六、黒四千十七、白四千十八、黒四千十九、白四千二十、黒四千二十一、白四千二十二、黒四千二十三、白四千二十四、黒四千二十五、白四千二十六、黒四千二十七、白四千二十八、黒四千二十九、白四千三十、黒四千三十一、白四千三十二、黒四千三十三、白四千三十四、黒四千三十五、白四千三十六、黒四千三十七、白四千三十八、黒四千三十九、白四千四十、黒四千四十一、白四千四十二、黒四千四十三、白四千四十四、黒四千四十五、白四千四十六、黒四千四十七、白四千四十八、黒四千四十九、白四千五十、黒四千五十一、白四千五十二、黒四千五十三、白四千五十四、黒四千五十五、白四千五十六、黒四千五十七、白四千五十八、黒四千五十九、白四千六十、黒四千六十一、白四千六十二、黒四千六十三、白四千六十四、黒四千六十五、白四千六十六、黒四千六十七、白四千六十八、黒四千六十九、白四千七十、黒四千七十一、白四千七十二、黒四千七十三、白四千七十四、黒四千七十五、白四千七十六、黒四千七十七、白四千七十八、黒四千七十九、白四千八十、黒四千八十一、白四千八十二、黒四千八十三、白四千八十四、黒四千八十五、白四千八十六、黒四千八十七、白四千八十八、黒四千八十九、白四千九十、黒四千九十一、白四千九十二、黒四千九十三、白四千九十四、黒四千九十五、白四千九十六、黒四千九十七、白四千九十八、黒四千九十九、白五千、黒五千一、白五千二、黒五千三、白五千四、黒五千五、白五千六、黒五千七、白五千八、黒五千九、白五千十、黒五千十一、白五千十二、黒五千十三、白五千十四、黒五千十五、白五千十六、黒五千十七、白五千十八、黒五千十九、白五千二十、黒五千二十一、白五千二十二、黒五千二十三、白五千二十四、黒五千二十五、白五千二十六、黒五千二十七、白五千二十八、黒五千二十九、白五千三十、黒五千三十一、白五千三十二、黒五千三十三、白五千三十四、黒五千三十五、白五千三十六、黒五千三十七、白五千三十八、黒五千三十九、白五千四十、黒五千四十一、白五千四十二、黒五千四十三、白五千四十四、黒五千四十五、白五千四十六、黒五千四十七、白五千四十八、黒五千四十九、白五千五十、黒五千五十一、白五千五十二、黒五千五十三、白五千五十四、黒五千五十五、白五千五十六、黒五千五十七、白五千五十八、黒五千五十九、白五千六十、黒五千六十一、白五千六十二、黒五千六十三、白五千六十四、黒五千六十五、白五千六十六、黒五千六十七、白五千六十八、黒五千六十九、白五千七十、黒五千七十一、白五千七十二、黒五千七十三、白五千七十四、黒五千七十五、白五千七十六、黒五千七十七、白五千七十八、黒五千七十九、白五千八十、黒五千八十一、白五千八十二、黒五千八十三、白五千八十四、黒五千八十五、白五千八十六、黒五千八十七、白五千八十八、黒五千八十九、白五千九十、黒五千九十一、白五千九十二、黒五千九十三、白五千九十四、黒五千九十五、白五千九十六、黒五千九十七、白五千九十八、黒五千九十九、白六千、黒六千一、白六千二、黒六千三、白六千四、黒六千五、白六千六、黒六千七、白六千八、黒六千九、白六千十、黒六千十一、白六千十二、黒六千十三、白六千十四、黒六千十五、白六千十六、黒六千十七、白六千十八、黒六千十九、白六千二十、黒六千二十一、白六千二十二、黒六千二十三、白六千二十四、黒六千二十五、白六千二十六、黒六千二十七、白六千二十八、黒六千二十九、白六千三十、黒六千三十一、白六千三十二、黒六千三十三、白六千三十四、黒六千三十五、白六千三十六、黒六千三十七、白六千三十八、黒六千三十九、白六千四十、黒六千四十一、白六千四十二、黒六千四十三、白六千四十四、黒六千四十五、白六千四十六、黒六千四十七、白六千四十八、黒六千四十九、白六千五十、黒六千五十一、白六千五十二、黒六千五十三、白六千五十四、黒六千五十五、白六千五十六、黒六千五十七、白六千五十八、黒六千五十九、白六千六十、黒六千六十一、白六千六十二、黒六千六十三、白六千六十四、黒六千六十五、白六千六十六、黒六千六十七、白六千六十八、黒六千六十九、白六千七十、黒六千七十一、白六千七十二、黒六千七十三、白六千七十四、黒六千七十五、白六千七十六、黒六千七十七、白六千七十八、黒六千七十九、白六千八十、黒六千八十一、白六千八十二、黒六千八十三、白六千八十四、黒六千八十五、白六千八十六、黒六千八十七、白六千八十八、黒六千八十九、白六千九十、黒六千九十一、白六千九十二、黒六千九十三、白六千九十四、黒六千九十五、白六千九十六、黒六千九十七、白六千九十八、黒六千九十九、白七千、黒七千一、白七千二、黒七千三、白七千四、黒七千五、白七千六、黒七千七、白七千八、黒七千九、白七千十、黒七千十一、白七千十二、黒七千十三、白七千十四、黒七千十五、白七千十六、黒七千十七、白七千十八、黒七千十九、白七千二十、黒七千二十一、白七千二十二、黒七千二十三、白七千二十四、黒七千二十五、白七千二十六、黒七千二十七、白七千二十八、黒七千二十九、白七千三十、黒七千三十一、白七千三十二、黒七千三十三、白七千三十四、黒七千三十五、白七千三十六、黒七千三十七、白七千三十八、黒七千三十九、白七千四十、黒七千四十一、白七千四十二、黒七千四十三、白七千四十四、黒七千四十五、白七千四十六、黒七千四十七、白七千四十八、黒七千四十九、白七千五十、黒七千五十一、白七千五十二、黒七千五十三、白七千五十四、黒七千五十五、白七千五十六、黒七千五十七、白七千五十八、黒七千五十九、白七千六十、黒七千六十一、白七千六十二、黒七千六十三、白七千六十四、黒七千六十五、白七千六十六、黒七千六十七、白七千六十八、黒七千六十九、白七千七十、黒七千七十一、白七千七十二、黒七千七十三、白七千七十四、黒七千七十五、白七千七十六、黒七千七十七、白七千七十八、黒七千七十九、白七千八十、黒七千八十一、白七千八十二、黒七千八十三、白七千八十四、黒七千八十五、白七千八十六、黒七千八十七、白七千八十八、黒七千八十九、白七千九十、黒七千九十一、白七千九十二、黒七千九十三、白七千九十四、黒七千九十五、白七千九十六、黒七千九十七、白七千九十八、黒七千九十九、白八千、黒八千一、白八千二、黒八千三、白八千四、黒八千五、白八千六、黒八千七、白八千八、黒八千九、白八千十、黒八千十一、白八千十二、黒八千十三、白八千十四、黒八千十五、白八千十六、黒八千十七、白八千十八、黒八千十九、白八千二十、黒八千二十一、白八千二十二、黒八千二十三、白八千二十四、黒八千二十五、白八千二十六、黒八千二十七、白八千二十八、黒八千二十九、白八千三十、黒八千三十一、白八千三十二、黒八千三十三、白八千三十四、黒八千三十五、白八千三十六、黒八千三十七、白八千三十八、黒八千三十九、白八千四十、黒八千四十一、白八千四十二、黒八千四十三、白八千四十四、黒八千四十五、白八千四十六、黒八千四十七、白八千四十八、黒八千四十九、白八千五十、黒八千五十一、白八千五十二、黒八千五十三、白八千五十四、黒八千五十五、白八千五十六、黒八千五十七、白八千五十八、黒八千五十九、白八千六十、黒八千六十一、白八千六十二、黒八千六十三、白八千六十四、黒八千六十五、白八千六十六、黒八千六十七、白八千六十八、黒八千六十九、白八千七十、黒八千七十一、白八千七十二、黒八千七十三、白八千七十四、黒八千七十五、白八千七十六、黒八千七十七、白八千七十八、黒八千七十九、白八千八十、黒八千八十一、白八千八十二、黒八千八十三、白八千八十四、黒八千八十五、白八千八十六、黒八千八十七、白八千八十八、黒八千八十九、白八千九十、黒八千九十一、白八千九十二、黒八千九十三、白八千九十四、黒八千九十五、白八千九十六、黒八千九十七、白八千九十八、黒八千九十九、白九千、黒九千一、白九千二、黒九千三、白九千四、黒九千五、白九千六、黒九千七、白九千八、黒九千九、白九千十、黒九千十一、白九千十二、黒九千十三、白九千十四、黒九千十五、白九千十六、黒九千十七、白九千十八、黒九千十九、白九千二十、黒九千二十一、白九千二十二、黒九千二十三、白九千二十四、黒九千二十五、白九千二十六、黒九千二十七、白九千二十八、黒九千二十九、白九千三十、黒九千三十一、白九千三十二、黒九千三十三、白九千三十四、黒九千三十五、白九千三十六、黒九千三十七、白九千三十八、黒九千三十九、白九千四十、黒九千四十一、白九千四十二、黒九千四十三、白九千四十四、黒九千四十五、白九千四十六、黒九千四十七、白九千四十八、黒九千四十九、白九千五十、黒九千五十一、白九千五十二、黒九千五十三、白九千五十四、黒九千五十五、白九千五十六、黒九千五十七、白九千五十八、黒九千五十九、白九千六十、黒九千六十一、白九千六十二、黒九千六十三、白九千六十四、黒九千六十五、白九千六十六、黒九千六十七、白九千六十八、黒九千六十九、白九千七十、黒九千七十一、白九千七十二、黒九千七十三、白九千七十四、黒九千七十五、白九千七十六、黒九千七十七、白九千七十八、黒九千七十九、白九千八十、黒九千八十一、白九千八十二、黒九千八十三、白九千八十四、黒九千八十五、白九千八十六、黒九千八十七、白九千八十八、黒九千八十九、白九千九十、黒九千九十一、白九千九十二、黒九千九十三、白九千九十四、黒九千九十五、白九千九十六、黒九千九十七、白九千九十八、黒九千九十九、白一万、黒一万一、白一万二、黒一万三、白一万四、黒一万五、白一万六、黒一万七、白一万八、黒一万九、白一万十、黒一万十一、白一万十二、黒一万十三、白一万十四、黒一万十五、白一万十六、黒一万十七、白一万十八、黒一万十九、白一万二十、黒一万二十一、白一万二十二、黒一万二十三、白一万二十四、黒一万二十五、白一万二十六、黒一万二十七、白一万二十八、黒一万二十九、白一万三十、黒一万三十一、白一万三十二、黒一万三十三、白一万三十四、黒一万三十五、白一万三十六、黒一万三十七、白一万三十八、黒一万三十九、白一万四十、黒一万四十一、白一万四十二、黒一万四十三、白一万四十四、黒一万四十五、白一万四十六、黒一万四十七、白一万四十八、黒一万四十九、白一万五十、黒一万五十一、白一万五十二、黒一万五十三、白一万五十四、黒一万五十五、白一万五十六、黒一万五十七、白一万五十八、黒一万五十九、白一万六十、黒一万六十一、白一万六十二、黒一万六十三、白一万六十四、黒一万六十五、白一万六十六、黒一万六十七、白一万六十八、黒一万六十九、白一万七十、黒一万七十一、白一万七十二、黒一万七十三、白一万七十四、黒一万七十五、白一万七十六、黒一万七十七、白一万七十八、黒一万七十九、白一万八十、黒一万八十一、白一万八十二、黒一万八十三、白一万八十四、黒一万八十五、白一万八十六、黒一万八十七、白一万八十八、黒一万八十九、白一万九十、黒一万九十一、白一万九十二、黒一万九十三、白一万九十四、黒一万九十五、白一万九十六、黒一万九十七、白一万九十八、黒一万九十九、白二万、黒二万一、白二万二、黒二万三、白二万四、黒二万五、白二万六、黒二万七、白二万八、黒二万九、白二万十、黒二万十一、白二万十二、黒二万十三、白二万十四、黒二万十五、白二万十六、黒二万十七、白二万十八、黒二万十九、白二万二十、黒二万二十一、白二万二十二、黒二万二十三、白二万二十四、黒二万二十五、白二万二十六、黒二万二十七、白二万二十八、黒二万二十九、白二万三十、黒二万三十一、白二万三十二、黒二万三十三、白二万三十四、黒二万三十五、白二万三十六、黒二万三十七、白二万三十八、黒二万三十九、白二万四十、黒二万四十一、白二万四十二、黒二万四十三、白二万四十四、黒二万四十五、白二万四十六、黒二万四十七、白二万四十八、黒二万四十九、白二万五十、黒二万五十一、白二万五十二、黒二万五十三、白二万五十四、黒二万五十五、白二万五十六、黒二万五十七、白二万五十八、黒二万五十九、白二万六十、黒二万六十一、白二万六十二、黒二万六十三、白二万六十四、黒二万六十五、白二万六十六、黒二万六十七、白二万六十八、黒二万六十九、白二万七十、黒二万七十一、白二万七十二、黒二万七十三、白二万七十四、黒二万七十五、白二万七十六、黒二万七十七、白二万七十八、黒二万七十九、白二万八十、黒二万八十一、白二万八十二、黒二万八十三、白二万八十四、黒二万八十五、白二万八十六、黒二万八十七、白二万八十八、黒二万八十九、白二万九十、黒二万九十一、白二万九十二、黒二万九十三、白二万九十四、黒二万九十五、白二万九十六、黒二万九十七、白二万九十八、黒二万九十九、白三万、黒三万一、白三万二、黒三万三、白三万四、黒三万五、白三万六、黒三万七、白三万八、黒三万九、白三万十、黒三万十一、白三万十二、黒三万十三、白三万十四、黒三万十五、白三万十六、黒三万十七、白三万十八、黒三万十九、白三万二十、黒三万二十一、白三万二十二、黒三万二十三、白三万二十四、黒三万二十五、白三万二十六、黒三万二十七、白三万二十八、黒三万二十九、白三万三十、黒三万三十一、白三万三十二、黒三万三十三、白三万三十四、黒三万三十五、白三万三十六、黒三万三十七、白三万三十八、黒三万三十九、白三万四十、黒三万四十一、白三万四十二、黒三万四十三、白三万四十四、黒三万四十五、白三万四十六、黒三万四十七、白三万四十八、黒三万四十九、白三万五十、黒三万五十一、白三万五十二、黒三万五十三、白三万五十四、黒三万五十五、白三万五十六、黒三万五十七、白三万五十八、黒三万五十九、白三万六十、黒三万六十一、白三万六十二、黒三万六十三、白三万六十四、黒三万六十五、白三万六十六、黒三万六十七、白三万六十八、黒三万六十九、白三万七十、黒三万七十一、白三万七十二、黒三万七十三、白三万七十四、黒三万七十五、白三万七十六、黒三万七十七、白三万七十八、黒三万七十九、白三万八十、黒三万八十一、白三万八十二、黒三万八十三、白三万八十四、黒三万八十五、白三万八十六、黒三万八十七、白三万八十八、黒三万八十九、白三万九十、黒三万九十一、白三万九十二、黒三万九十三、白三万九十四、黒三

〔五二三九〕
要點約言
（第七九型イ）
㊀手抜
白三と高く一間に兩懸りすれば、黒四定型。此手をイ、ロハニなどに打つ變化は四八五三圖以下と略同形。

〔五二三〇〕
基本圖
（第七九型ロ）
㊀手抜
白三と高く一間に兩懸りせし時は、黒イロハニなどの應けあり。變化及び得失は四九三〇圖以下と略同じ。

〔五二三一〕
白可なり
四子勝　三好某　呉清源五段
黒五はイが常形。黒九は勇に十二に切り、須く白十一と黒イ。（次圖）

〔五二三二〕
黒の勢善し
白十、十二と、黒は隅を殺して來る。黒七、九、十三と、隅を放して十六に白十五を確保するや、黒は十七、十九と擊ち進むエイ〉中邊の勢厚壯は外勢其だ壯大なり。

〔五二三三〕
定　石
㊀手抜
黒イの時は、黒四は面白からざれど、參照（イ四九九二圖參照）、黒は四、ロは非可なり。黒十は堅實、善し。

〔五二三四〕
常　形
白六をイに尖みし變化は五一二三圖。又出切るを黒ハ白ニと出切る變化は三七五三圖及び五二圖參照。又圖四〇圖參照。黒七の形は次圖及び三七五七圖と同じ。

〔五二三五〕
白の勢優る
一目勝著者　二子番井上一郎四段
（黒㊀にある形）白九は遙に三十の出切りを狙つ、戰機を求むるも、黒十は却て白し、調子を與ふ、惡に（次圖）

〔五二三六〕
黒確なり
黒七、九、稍緩きが如きも、確なり。白遂に得二に戻らざるを好ず、黒乃ち十に陣を張て、是に至つて、黒は左右堅陣に白の薄味を脅し、暗に威振へり。

〔五二三七〕
白善し
（前圖の變化）
黒㊀とある場合に、黒一の附好ず、見よ、十に至つて、白は潤達黒は稍重複の觀あり。

〔五二三八〕
白善し
白五に切る。白乃ち六と一叩、尋いで錄を廻して八に出切る、善し。十に出切る、尚ほ白より此形、イとハザマを衝く狙ひあり。

〔五二三九〕
互角の分れ
三子　某著　氏
白九打過ぎ、九の綻出しを含んで六に尖むべし。二五に打つべし。

〔五二四〇〕
形勢互角
此變化は五三圖參照。其圖は白十六に飛び、白十六に至つて、白は二の外勢厚壯なり。

〔五二四一〕
場合による
黒十七と打つ手あり、然し此形若し征惡しき場合は、白十八、黒イにて黒ロ白ハと大敗、此結果、隅の黒地約三目なれど、白勢厚壯、互角の分れなり。

〔五二四二〕
黒堅實
白二も一策なり。黒五善し。

〔五二四三〕
黒優れり
白六、八の手順惡し。前圖の黒九、白二善し。一は單なる犧牲子にて、交換なれば、如何なる時に打つも黒惡しからず。

〔五二四四〕
黒優れり
白十六の時、黒十七は手順の善し。白十八と打てば、次に黒イの鬼手あり。又、白十八をハなれば、黒十九、白ニなれば、黒イと先手へ約へ、白ホ、黒十九。

〔五二四五〕
要點約言
（第七九型ロ）
白三と二間に高く兩懸りすれば、黒は場合に應じてイ或はロを擇んで惡しからず。

〔五二四六〕
基本圖
（第七九型ハ）
白三と大斜走に懸る手あり。之は白イの懸りの如く黒イの肩撃には可なれど、本圖に於ては、黒四の附け確なり。

〔五二四七〕
定　石
㊀手抜
五〇一〇圖黒九の三間夾みある時は、黒イの三に受けるは、白イを壓へ、黒十封じ、手筋なり。

〔五二四八〕
黒確なり
黒八に守らずして七に守るは、白〇を夾攻せしは一攻むるは、卽ち守ひらりの故智に從ひ、白イに尖めれば、黒一封じ、手筋なり。

〔五二四九〕
黒優れり
白十二打過ぎ。白十二と黒二を打て、白イを封れば、殺す、黒ロ白ハ黒ニ。

〔五二五〇〕
黒常形に泥む
一八一七圖の變化にては、黒十の下りにては、勝ちも、圖の白〇に黒惡し。合の限つて定形の泥むべからざる以之知るを得。

〔五二五一〕
黒潰亂の悲劇
黒十五手筋を用ひしも、此場合黒イと先手へ約へ、白ロ黒ハ白ニ。

〔五二五二〕
黒慘敗
いまや、黒應戰甚だ力む、卽ち五、十九と無理に出れば、十九は二の兎を逐れず、白、黒イ之のしかとも黒甚だ惡し。

〔五二五三〕
黒敗
黒敗戦の兆、業に既に萌せり。黒十五と攻めも、白十六と飛ばれて後に十八と持ち、斯くて遂に白三十に閃くや、黒血淋漓、黒の亘體今や斷末魔の苦しみをなす。

〔五二五四〕
形勢互角
白八の切り、然らば黒は如何に打つべきか。黒は白より十四の九と切る、此手最善し。(ホ)二ノ處粘り拘らず。

〔五二五五〕
白善し
白十八の時、黒は白イから之の絞りを嫌つて十九に取る。白十九の後れなど、之も一つの緩手なり。白二十に粘で黒の眼を奪ふ手あり。

〔五二五六〕
白劫勝
黒二九と打てば、白三十にて黒遂に活きず。止むを得ず白二と打つ、之も一つの緩手なり。白十に押し黒十一と取るの要點へ着かれしは面白からず。

〔五二五七〕
白面白し
勝 加藤 信 當時六段
先 關山利一 四段
白一は輕妙、漠然捕捉すべからざる如くにして、而かも蕃あり。二は白に調子を與ふる黒の惡しき一手なり。

〔五二六八〕
要點約言
(第七九型イ)
(ニ)手抜りする。
白三で兩懸りの外に、イの手あり及び、ロ、ハ、ニ、ホは隅に遠く稍緩き意味あり。

〔五二六七〕
場合の手段
黒三と約へ後に場合七と守るも手段なり、蓋し先づ隅の地を確定し、堅を持して來るべき勇戦に備ふるもの、時に面白し。

〔五二六六〕
基本圖
(第八十型イ)
(ニ)手抜の形、白は前の兩懸りの外に、イ、ロ又はハの手段あれど、變化の機に乏しく何れも白面白からず。

〔五二六九〕
前變化にあり
白一、三と切逃ひの變化は、前四五圖以下と全く同じ。

〔五二七〇〕
前變化にあり
白一なれば、黒は三ノ三に占めて二との要點を占めて二との約ゆ。白三をイに切れば、前圖と同形、黒四、黒善し。(變化四五八四圖以下參照)

〔五二七一〕
黒の形好し
白一と掛けは、勢旺んなるも、面白からず。二、四と黒地を固められては、黒は實に就き白は之を失ふに近し。

〔五二七二〕
白可なり
黒六、八も好所なれど、白より九、白より十一と辛辣なる二段綿を喰ひ、綿を嫌ひたる黒は、堪へ難き筋なり。

〔五二七三〕
黒有利の分れ
黒征惡しき形にては、八と二段に綿ぬべし、白十五の時、黒十六と切りを次に八と善し、白は大場を占めて打つべし。

〔五二七四〕
征如何による
白三、五、七、七、手筋に似たれど、白面白か六と變換ず。五と大に惡しの白七以下は、白否にて可なり。若し征の惡しき時は、黒は次圖に從ふべし。

〔五二七五〕
黒打易し
白五、而して七と壓し來れば、黒は八、十と、實利を占めて打つべし。

〔五二五七〕
黒大に善し
白イの綽ねを打たず單に十、十二は、惡し。白十四を十五にて白敗。黒イに救へば、

〔五二五八〕
要點約言
(第七九型ハ)
(ニ)手抜
白三には黒四の附け最も善し。白イ黒ロ白ハ黒ニとなりし後、白ホと出れば、黒同じくチに切るべし。

〔五二五九〕
基本圖
(第七九型ニ)
(ニ)手抜
白三と大々斜走に隅の黒を攻めると、云ふよりは、寧ろ邊を經營せんとする手なり。

〔五二六〇〕
定石
(ニ)手抜
白三の時は、黒は手を抜くも宜し、又打つとすれば、黒四に附く、べし、白ト、と出切れば、三圖以下と異れり。(五〇四之圖に夾む)

〔五二六一〕
黒善し
黒五、七、善し。十、白の十三は、白九の出切りを備へに、隅の黒を攻めるに共に、肝要の活形なり。此一圖を假令上邊の一團を脫出し得るとも、白の形勢惡し。

〔五二六二〕
黒厚く可なり
白十四、手順惡し。白十斯く黒十五と止むを得ず。黒十六は勇躍して十七に至る。白低這し、黒厚を持して中の白を狙ふ。斯くの如き形、黒必ず善し。

〔五二六三〕
黒確なり
白イ、右十三の好點を眺めて行びし、十一は、卽ち沈着の態度で、白の要點を先で占め、十五と打つべし。

〔五二六四〕
黒好まず
白○にある時に黒五の綽込は、最好點となるが故に、黒は形好まず。

〔五二六五〕
黒確なり
白十八の時、黒は白イと拓く所なり。其時、黒の一位の押に十一と白は面白からず。

〔五二六六〕
場合の手段
黒三と約へ後に場合七と守るも手段なり、蓋し先づ隅の地を確定し、堅を持して來るべき勇戦に備ふるもの、時に面白し。

〔五二六七〕
白面白し
勝 二子番井上一郎 四段 著
白十は、イと拓く所なり、其時、黒の一位の押に十一と白は面白からず。

〔五二六八〕
要點約言
(第七九型)
(ニ)手抜りする。
白三で兩懸りの外に、イの手あり及び、ロ、ハ、ニ、ホは隅に遠く稍緩き意味あり。

〔五二七七〕
基本圖
（第八十型ロ）
（二）手抜

〔五二七八〕
黒二途あり

白一は、互先大斜定石に比し黒の位置一路高き故（互先にては■の黒イにあり）此戰白時

一以下八までは必至の棋移、次に黒は二、イとロとあり、イは確にして通常の分れ、ロは變化なれど、黒の應け方に誤りなく至難なれど、黒の結果黒優る。

〔五二七九〕
定石

（二）手抜

黒十二、十四、十六は、確なり。黒十二、四に飛ぶ手もあり。

〔五二八〇〕
白大悪

白は手筋の幻影に惑はされて二、四と打ちしも、甚だ無理なり。恰も水中の月を捉へんとしての溺れたるが如し。黒健闘し三に至る、歴然。白の敗勢、

〔五二八一〕
黒の勢鋭し

白二、三打過、黒二、三と當て二、七以下では、イ手筋。白三六では、イなれば、黒ロ、白ハ黒ヘ。又白イを黒ホハに綿込めば、白イ黒ト、白ロ黒ニホハホにて白敗。

〔五二八二〕
黒嵌手に陥る

黒一三は、形に拘泥して精神を忘る、悪し。白二四、二六は勁筋、二八に至つて黒遂に陥穽に落つ。

〔五二八三〕
場合による

黒十一に切れば、白十二、十四に押して善し。黒十五を十六に綿れば、白イ。（三間に夾五比較參照）

〔五二八四〕
定石

（二）手抜へる手

黒十一は、征關係もあり、變化も至難なり。本圖までは、五二九五（白征）に至つて黒善し。白は、五二八九圖の變化なり。

〔五二八五〕
黒打過の形也

黒二、一、打過なり。黒イに打てば、白二七を、イ或はロ、黒ハ白ニに綿れば、又黒ハ白ニを取れば、ホ黒三目粘ぎ、ホにて黒の形崩る。

〔五二八六〕
黒劫勝

白十二、十四は打過ぎなり。黒十五と綿ね、而して十七と切り、黒の手順善し。

（天）劫トル　（四）劫トル　（寒）ダッグ　（空）劫トル

〔五二八七〕
黒優れり

白、も、黒は十二、此時十三、十五の手順善し。黒十七は征宜しき手段、若し白征場合悪き時は、白十九黒イにて、黒の利か。

〔五二八八〕
黒優れり

白十、而して十二。此形も前圖と同じく征の可否に關係あり。卽ち若し白七に對する場合は、黒九に逃出し得る白十は、佳手なり。

〔五二八九〕
白先劫

白一、三、普通は俗筋なれど、此場合良し。黒四を取れば、白ロ黒イ八白四。

〔五二九〇〕
白先黒死

黒二、悪し。白三に至つて、黒に活路無し。

〔五二九一〕
白優れり

黒十七、十九、手筋に似たれど、白二十、二二の巧手にて、白は子を捨てゝ旺んなる外勢を張る。白有利の分れなり。

〔五二九六〕
要點約言
（第八十型ロ）
（二）手抜

白一、三には、黒イ迄必至。次に黒リと打つとせば、白イと詰めらる。如何にも、黒此結果多征とも、黒リなれば確なり。

〔五二九七〕
基本圖
（第八一型）

白一の二間高懸り、及びイ、ロ、ハの懸りの變化あり。其各ミに兩懸りの變化あり。

〔五二九八〕
基本圖
（第八一型イ）

（二）手抜

白三で、㋑は前掲小斜走懸りの五二三〇圖と同形、又㋺㋩㋥或は㋭は各特異の變化あり。

〔五二九九〕
定石

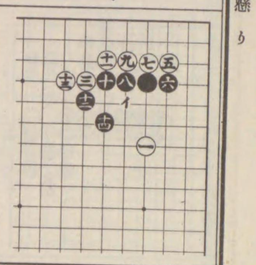
（二）手抜

白三と一間に高く懸れば、黒四の尖み最も善し。（三七九四圖以下參照）

〔五三〇〇〕
常形

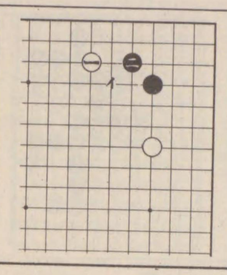
白一の時の形、黒は手抜を可とす。さはれ二打つとせば、黒イと詰めらる。次に白リと迄必至。敵を左右に隔てゝ伐るには、二或はヌとして、黒結果多征とも、黒リなれば確なり。

〔五三〇一〕
定石



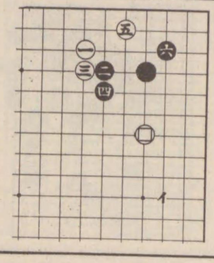
黒三手抜き、而して白五、此時黒六、八、可なり、又、白五をイなれば、黒は手抜きかまたは五に活くべし。

〔五三〇二〕
黒確なり



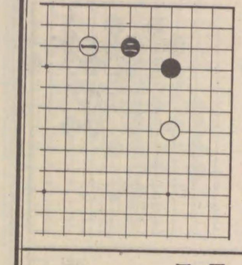
白一の大斜走懸りにも、黒、手を抜いて宜し、又、打つとすれば二或は二、而して攻主攻従、くして防ぎて攻めを含む。

〔五三〇三〕
場合の手段



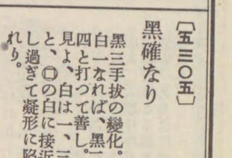
黒二、四と、上は一下の白に接ぎつつ、下は□の白に向つて双を擬す、されど、黒の此手段は、イの邊の黒の夾みある場合最も善し。

〔五三〇四〕
變化簡明の形



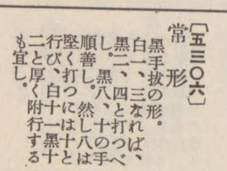
黒二は無論手を抜いても善し、此場合にも白は星の無しに對する好手段、又打つとすれば、黒は無し、（大斜走懸り四一九圖下參照）

〔五三〇五〕
黒確なり



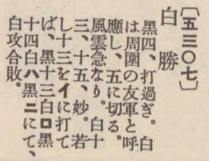
黒三手抜の變化、白一なれば、黒二、四と打つて善し、見よ、白は一、三と、□の白に接近し過ぎて礙形に陥れり。

〔五三〇六〕
常形



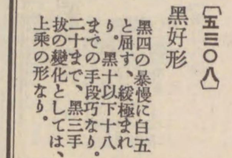
黒手抜の形、白一、三なれば、黒二、四と打つべし、順善し、然し十八の手堅く打つに至れば、白十一と行くも宜し、黒十二と厚く附行するも宜し。

〔五三〇七〕
白勝



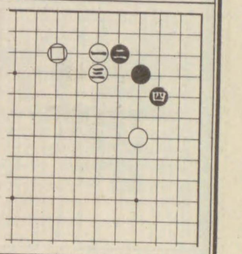
黒四、打過ぎ、白周圍の友軍と呼應し、五に切る、風雲急なり、白十一、黒十二、三、妙、若し十三をイに打てば、白ハ、黒ニにて、白十四攻合敗。

〔五三〇八〕
黒好形



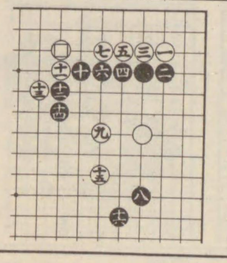
黒四の暴慢に白五と屈し、黒十以下十八まで、黒十段巧なり、白二十まで、黒三手抜の變化としては、上乗の形なり。

〔五三〇九〕
黒利勢



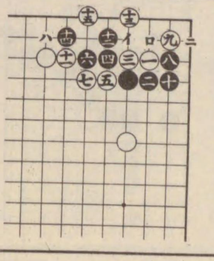
黒手抜き白一の附け、面白き手筋なり、四、確なり、（三八二、三六圖參照）白十一は、十二と二段に約へる手あり、（次圖）

〔五三一〇〕
征如何による



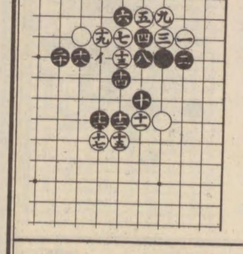
白十一と勇を鼓して壓倒せんとす、意氣あるも反撥せざらむや、誰か黒十二に至る、切つて二、此形、次に黒イ、白ロの如何により勝敗決す。

〔五三一一〕
互角の形勢



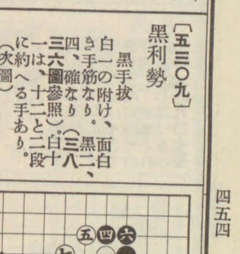
前圖黒の征惡しき場合は、黒は十に切るべし、（三八三圖參照）黒十三に夾み、白ロと取る位にて、白可なり、（六圖の形とは變化異れり）

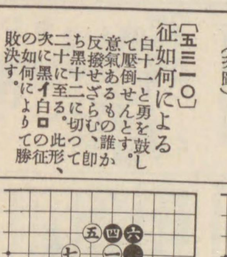
〔五三一二〕
白可なり

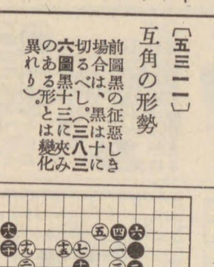


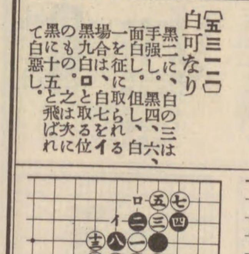
黒二に、白の三は手強し、黒四、白六、面白し、但し、白イに取られる場合は、黒九白ロと取る位にて、白悪し、五と飛ばれにも黒十の形とは異れり、

〔五三一三〕
互角の形勢

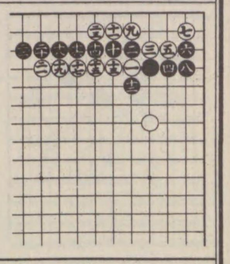






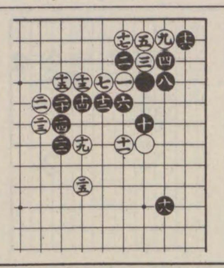


〔五三一四〕
白面白し



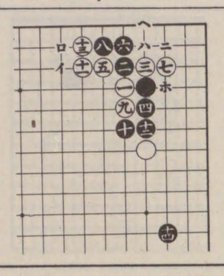
黒四、六、白乃ち五、七、白形善し、時に調子を得て十一に導びいて黒十二に厚を張り、白十三に進退緩急、舟、順風に帆を張るの概あり。

〔五三一五〕
白稍可なり



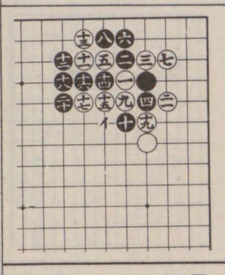
黒四と引けば、白五、善し、而して十二、白イ、黒十三、白ロに攻合れば、勝、次に黒ハ、白ニ黒ホ白ヘ。

〔五三一六〕
互角の形勢



黒十二手筋、善し、白十三をイなれば、黒十四、白十五、黒十六にて、圖と得失略同じ、二一手なるで、黒先地も勢も共に白優る。

〔五三一七〕
至難の變化



黒四好まず、二、三、四大斜の形、互に目ざす所、五、六、白形善し、黒七、時に調子を得て十一に導びいて白行を封ず、黒十二、白十三に厚を張り、黒十四、白の進退緩急、舟、順風に帆を張るの概あり。

〔五三一八〕
基本圖（第八一型ロ）

白一の大斜走懸りより、白の兩懸り㈠㈡及び㈢㈣あり、此中㈣は五三四〇二圖、㈡は五三六圖と同形なり、

〔五三一九〕
黒確なり

此形、白一には、黒二最も善し、好點なれど、斯く打てば、白即ち眼を奪ひ、黒これ堅守せし所以なり、

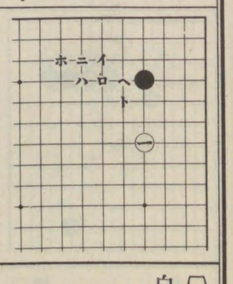
〔五三二〇〕
黒は金城鐵壁

白五、七と押し來る、黒六、八と何處までも行く手善し、黒十堅し、隅根に侵さゝれば、次に黒手強く攻勢に轉ぜんとす。

〔五三二一〕
白に手段無し

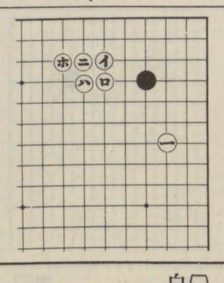
白五、七、打過ぎなり、黒八と敵の道路を扼す、白軍の厳しさや、三分し、白に策尽る、形潰裂す、（四〇四圖以下參照）

〔五三二二〕
白の形悪し



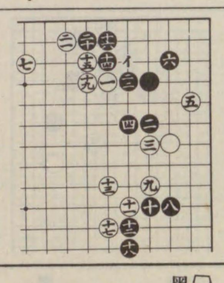
白三、五と切る手無理なり、黒六、八、十の棋移筋、此形、黒二の一子、反つて白七に取られ、白は活けるに一生懸命なり、（四四一九圖以下參照）

〔五三二三〕
黒強行手段



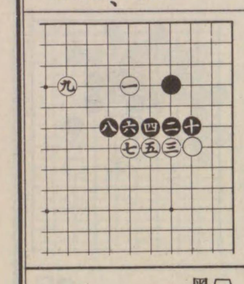
白い走懸り左右に大斜走懸り、黒二は手を抜いて善し、又打つとすれば矢張り白二と打つて、黒四、筋なり、白下の肩に迫り上手の六、白を、脱で力戦に出づ。

〔五三二四〕
黒手堅し



夫れ百戰百勝は善の善なる者に非ざるなり、戰はずして人の兵を屈する者は善の善なる者也、故に善く守る者は、堅固にして失はず、善く攻むる者は、動かすべからざるが如し、黒守勢に回れば、白益々強し、攻むるも守るも黒手中の龍か、蛟か、眠れる獅子か！

〔五三二五〕
白に手段無し



【五三一五】
前變化にあり
白一なれば黒は無論手を抜いて宜し。次に白イと打てば、黒は二間高懸り（五三〇五）と同形に打つて黒善し。

【五三一六】
要點約言
（第八一型ロ）
白三にてイロハニの兩懸の中、ハは前變化にあり。ロなれば黒ニなれば、黒ロなれば、黒ホなれば、黒は手を抜いて宜し。

【五三一七】
基本圖
（第八一型ハ）
白大々斜走懸り黒二手抜の形にも、白の次の兩懸りにも、白イロハニホの二點と外に㈠㈡㈢㈣㈤㈥の二點あり。

【五三一八】
前變化にあり
白イの小斜走懸りは五五二、五五九圖、ロは五五二、五五四圖、ハは五三二圖以下と同形なり。

【五三一九】
常形
白一と一間に高く打てば、黒二と堅實になり、又黒二はイに打つ手もあり。（變化一間高懸り四四一五圖以下參照）

【五三二〇】
黒確なり
白三如何が善し。一見、緩きが如きも然らず。白若し手抜きせんか、黒は上にイに衝いて白を上下に伐ちて出でんとす。黒其意を幸に看過する勿れ。

【五三二一】
形、緩漫なり
白が双方大々斜走なぞに打つ形は實戰には極めて稀なり。卽ち形、星へ迫ち甚だ乏しく、黒が手抜きし、白に嚴しき手段無し。

【五三二二】
常形
白一に打込めば、黒二、一と打つほか、一に向ふ時は、七なれば、黒七又一に走れば、黒四の如く打つて宜し。

【五三二三】
常形
白一なれば、黒二と比較と押す手順、善し。白三に黒四と白七と押す手順、善し。白七に黒四と白の重複に陷る。黒二で白三と約へる手は、面白からず。

【五三二四】
黒整陣を張る
白七、性子を下して整形を破す。二曇まで面白しの一整形者に在る時、バンドに之を二曇に置くものか。白九をイなれば、黒ロにて善し。

【五三二五】
黒確なり
白七と綿ぬ。此時黒八、而して十手の二上乘約へは、白の一十を三なれば、白十、黒イ白ロ黒イに粘れば又、黒ニ。

【五三二六】
黒優れり
白七惡し。此形を顚れば、黒は白を喪ふ。此交換は同じく、中央へ一子を失ひ、白十に近く、黒二は街衢に隅に賢に、黒四を得たり。卽ち、大利を得たり。

【五三二七】
黒攻合勝
白十九と打てば黒二十、次に二二へ下る。黒二四を刺す。白三を四に若し、白イと打たるゝ形、黒好まず（四五〇九圖）參照。又白の外に㈠㈡㈢㈣㈤㈥とあり。

【五三二八】
基本圖
（第八一型ニ）
一間高懸りの次に白イと兩懸りを打たるゝ形、黒好まず（四五〇九圖）參照。又白の外に㈠㈡㈢㈣㈤㈥とあり。

【五三二九】
常形
兩懸りの中、イは四五〇九圖、ロは四三〇九圖、ハは五五二八圖、ニは五五二九圖、以下は妓に白一の變化のみ揭ぐ。

【五三三〇】
形勢互角
黒四、六、常形なり。此結果、形勢互角の分れ。

【五三三一】
黒攻合勝
黒六、八と、劍を按じて、敵に向ふ。手強の攻。此變化は以下一諸圖參照。黒手順二以下四まで巧妙なり。白は辛うじて小廝を得るも、他に正花あり、黒イ白ロ變化二其多少異る。

【五三三二】
黒優れり
黒二、四、三に連絡す。白三、五に後手活きを許すや、黒乃ち三、五に霜を履むて堅氷至る。白が非とか今や至らんとするの勢滅に至ら幸ひなり。

【五三三三】
黒優れり
白二、三、四と手筋を用ひて、黒は攻合に勝ちも、これ得しに過ぎず。逃げられて黒攻合勝の名を得て實を失ふ。黒の愚、憐むべし。

【五三三四】
白の形崩る
白一と綿れば、黒二、次に四と切る。是まで三の手順にて、白は辛うじて小廝を得るも、他に正花あり、黒イ白ロ變化二其多少異る。

【五三三五】
黒攻合勝
白十八、二十と手筋を用ひて、黒は攻合に勝ちも、これ得しに過ぎず。逃げられて黒攻合勝の名を得て實を失ふ。黒の愚、憐むべし。

【五三四〇】
要點約言
（第八一型ハ）
此形、白三の兩懸りに、黒は㈠㈡㈢㈣㈤㈥より㈦㈧まで前變化の中、㈦は黒白㈡、㈧は黒白㈠なれば、黒は白㈡黒ろにて、黒善し。

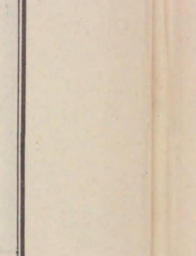
【五三三九】
黒確なり
白一、黒二、四の應け最も堅し。（黒イ又黒四に故約へれば、白危險なり。黒イにあるまでは前變化の中、㈦は黒白㈡、㈧は黒白㈠なれば、黒は白㈡黒ろにて、黒善し。

【五三三八】
黒勢善し
白五は、畫行燈かウドの大木か、黒六善働きし。白七に乏しき、黒先、白八を夾攻し、白の九を誘つて、十ゆる道は、天凡下第一の要衝に通ずる。

【五三三七】
黒勝
痛せしや、白五は一手先も見定め得ず、暴身を暴れ黒六、八と打たれは、覆水盆に返らず、山は海となり、白が同生の途遂に無きなり。

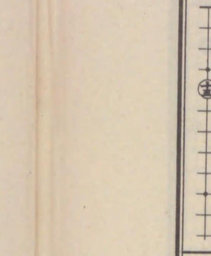
〔五三四九〕
白大に優れり

黒十、悪し。黒十二を十、又なれば、白十二なれば、黒十八を二、二なれば、白十八、黒イ白ロ。結果、何れも黒悪し。



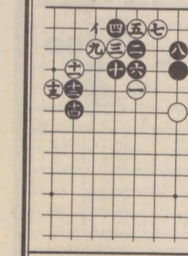
〔五三五〇〕
白大に善し

黒既に十に粘ぐ、同し。悲運に逐ひ難い。黒十二にて白十三、十五にて黒の要石を手中に牧め、十九に至る。白が用兵軽快、春風秋に薫ずるの趣あり。



〔五三五一〕
白稍利勢なり

黒十と打つ手あり。黒十四を十五に下れば、白十四黒イの時、白ロに黒十六。潰滅の形。さればこれは、黒イと善し、十八に附けて、四、十八を救ふ手もあり。



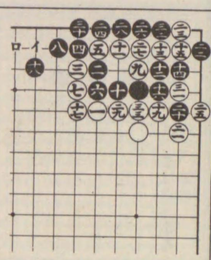
〔五三五二〕
形勢互角

あゝ、映發の才よ、復郁の手練よ、白七は正に佳手なり。黒八をイに行びれば、十、黒十二、白八、黒十四、厚し。此形、黒厚富を擁し、白は根據を占む。形勢互角。

〔五三五三〕
要點約言（上）

（第八一型、二）

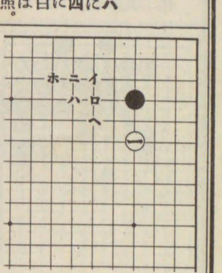
（二）手抜、次にイロハニホとの兩懸りには一間高懸り（四五〇九圖）以下に白ヘによるべし。次に白ヘの附は黒イ四三四圖を參照。



〔五三五四〕
要點約言（下）

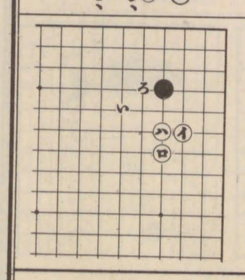
（第八一型、二）

（二）手抜、此形、黒八はイが普通。又此手を口に打てば、白はイに行びる筋善し。



〔五三五五〕
兩懸り總評

兩懸りの形に㈠㈡㈢㈣㈤㈥を各點として之に各基點との關係を調べ、其中の各一懸りにはいろはの各一に最も多くの實戰あり。

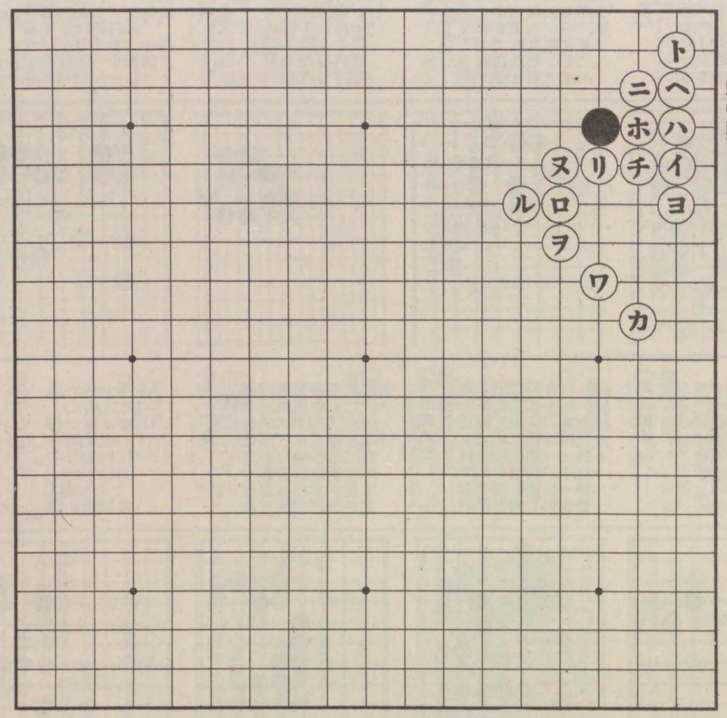


〔五三五六〕
兩懸り總評（下）

次に、白の懸り㈣よりいは、㈡よりろ、或は㈢よりいは、何れも奇手にして、時に白面白し。

〔五三五七〕
基本原圖
星に對する白の變則の懸り

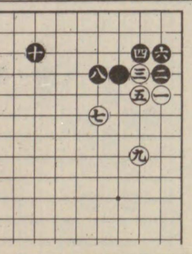
星に對する白の變則の懸りに、㈣以下㈲まであり。合の手にして時に面白く。㈡は專ら隅を爭ひ、によりて、隅邊何れにも替るべく。㈤㈥は低く。㈦は悪手。㈧は黒の應答如何當り又は最急迫せる局面に此手あり。㈨は低く悪し。㈩は高きに過ぎて位置悪しく。㈪㈫は隅に遠く。㈬は低く悪し。



〔五三五八〕
基本圖

（第八二型）

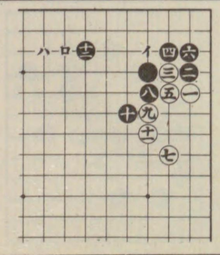
白一、常用。蓋し、隅に治るか或は中邊に拓くかの意にして、兎角普通イに黒に通れば尖附けられて攻め立てられる場合の手なり。



〔五三五九〕
基本圖

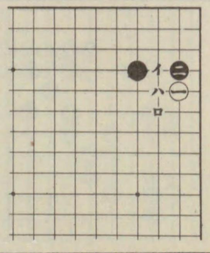
（第八二型、イ）

白一に對する黒の應けは、二及びイの二種を普通とす。また、ロ或はハも時に面白し。



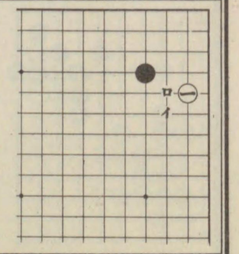
〔五三六〇〕
定石

白三、五は、常用の手筋。黒六をイに粘ぐり、白よりは切取り。殘るは黒の損なり。故に黒十二でロ或はハと廣く拓く手もあり。



〔五三六一〕
定石

白七と斜走する手もあり。黒八、十、堅し。



〔五三六二〕
黒可なり

白七に來るや、黒八に急襲す。白九をイ或は十一に打てば、黒は一ロに白の肺腑を衝くべし。斯くて黒十二、十四。黒の攻防、巧なり。

〔五三六三〕
黒善し

黒いま六、八と、直ちに出切るは、變化多岐なれど、黒嚴しくして宜し。白九なれば、黒は十、十二にて取つて善し。

〔五三六四〕
黒稍可なり

白十一、順善し。黒十三、十六、手段なり。白十九の時、黒は千金を引くこと。黒一髪危きに若し。白二十善し。黒二十一にて一手勝。黒二十一にてイに盤れば、白二にて一手勝。

〔五三六五〕
黒不利

黒は白の二十を取らんと一瞬！黒の運命は、白に落ちぬ。即ち、白は二、五と先手に二、七と佳形を作り、此手は或は賤野に彷徨せんとす。

〔五三六六〕
互角の形勢

黒十六に粘げば白十七は絶對。黒十八も當然なり。十九は一白、せる柱の枝か、光翳に暉く。

〔五三六七〕
白優勢なり

黒十八を二十なれば、白は十八黒イ、又黒イをハなれば、白ロの切。又黒イに善し。黒二、打過ぎ。黒二、二を二六なれば、白二八にて黒敗。

〔五三六八〕
黒善し

白十三と直ちに這ム手順。黒八、此場合善し。白十二、七に封じ得たるは前圖に同じ。黒一、三も今や無きも、右圖の道路は凄愴、白の白慘然たり。

〔五三六九〕
參考圖

黒二に切る手好まず。此變化は、初めず白一と附け、黒二、白一と切りし形と同じ。黒○に何れにても此形にて黒好まず。（五九三圖以下參照）

〔五三七〇〕
黒善し

白一は、敵の意表に出で、先ず心臓を寒からしめ、而してその虚に乘ぜんとす。奇手たれど、黒のねを失はざるを好まず。白二、佳手なり。黒の意圖を挫く。

〔五三七一〕
黒利勢

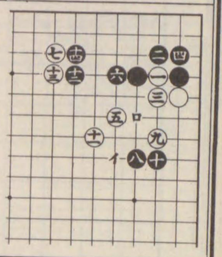
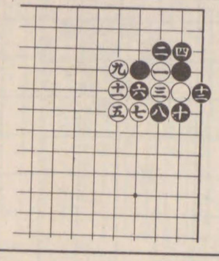
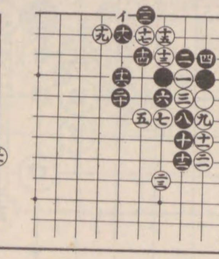
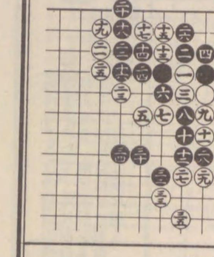
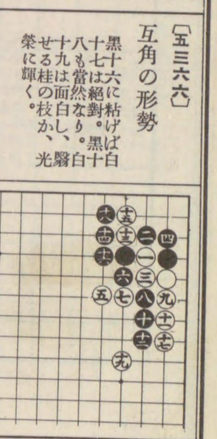
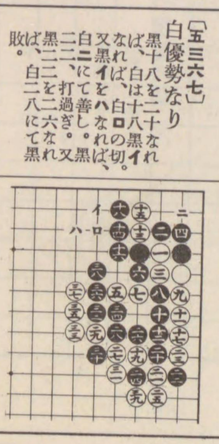
黒二と、下より綽ねる手も有り。白イに粘げば、黒ロに躍進し、左右の白に又擬す。白は前後虎の嘆きを見む。

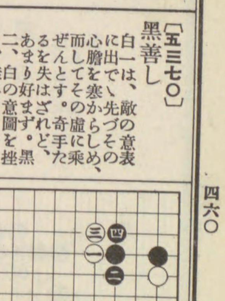
〔五三七二〕
黒厚し

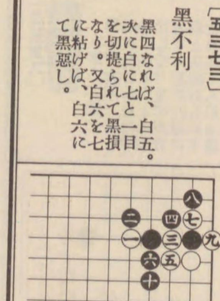
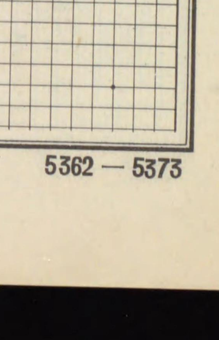
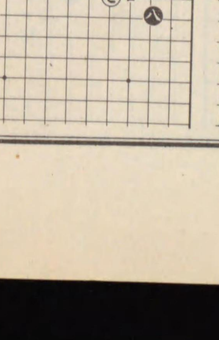
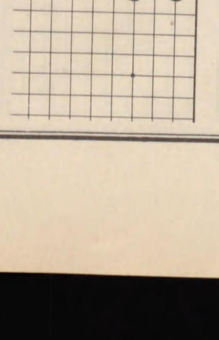
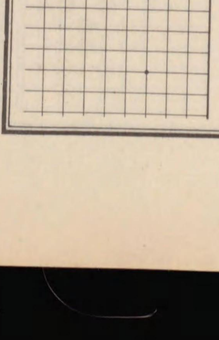
白三の割込みは手筋。黒四を五は惡し。さりとて六の好手あり。黒四、六に至つては、十に厚を獲たるに富む。白は非一隅勢なり。

〔五三七三〕
黒不利

黒四なれば、白五。次に白七と切を提げ。又白六を七に粘げば、白六に黒損にして黒惡し。



〔五三七四〕
要點約言

（第八二型イ）

白一、黒二の時、白イとロの手あり。イは普通の手段にして時に可否あり。

〔五三七五〕
基本圖

（第八二型ロ）

黒二、定型。之は一意味あれど、稍緩し、稍附き合に確なり。蓋し、斯く打てば白より容易にイに進み難し。

〔五三七六〕
定石

白三の拓きは、一見狭きやうなれど、他日イに飛込む含みあり。此際白最も穩健。猶ロは五三八（五三八圖）及び八（五四三圖）の手あり。

〔五三七七〕
定石

黒四、六、手強し。次に白七なれば、黒八と打つて面白七を八の方に來れば、黒は戰強くに二分して（次圖）ふべし。

〔五三七八〕
趣向

黒四の時、白五と黒に迫りを拓きをり。黒がその一策なる妨げ、白は兩分して出撃し、後を收め、十に戈を守備にて守備に戈を收めて退法に適ふ。

〔五三七九〕
白敗

白五、稍打過ぎ。黒よりも六、八、十、白の突撃を受けて陣容崩る。白九は、十三さに守るの外なし。黒十三、十五と出で、白の黒イ、白二四黒九白ロ黒ハ。

〔五三八〇〕
常形

白一據を構へられば、黒二の攻撃は、前圖ほど嚴しからず、白イに飛込まれて緩和さるる筋を得、一失なり。黒四、而して六、二は、當然の手順。六は緩し。

〔五三八一〕
趣向

白五をイに打つは、無策にて甚だ此手も退き、白六に白いま五に迫らるまで。而して白十三と白しより白十五、黒の手筋。十八も巧なり。黒の應酬も巧なり。

〔五三八二〕
場合

黒十四と、三の白を抱へしは厚し。黒十八では、イに壓し行くも善し。

〔五三八三〕
黒確實優勢

白十三、十五と打てば、黒は單に十六と粘く手善し。

〔五三八四〕
黒善し

白十、黒十一に棒ぎせば、十二、十四、十六と、旗竪々、攻上の白中の白を攻めて、白ロの切を脅す。黒イの關を衝いては、白の頽勢を崩さんが如き、白の頽勢は砂丘の如し。

〔五三八五〕
黒稍利あり

白七手筋。黒八は此一手を若し免れず。退けば、白十三と、外勢を張りは善し。黒十四と攻守此一着は以下攻に出るに善し。何れも肝要の點。

〔五三八六〕黒利勢

隴臣國を亂し、美姫國を傾く。鈍重敗局の因、茲に作す。白十五を一重に切れば、黒ハ白十五を口に黒ホ白八にニ粘ぎ黒へ。

〔五三八七〕形勢互角

ギリシャの盛時、サラミスの海戦より以來、興亡幾千載の隆替を見よ。勇兵の勝敗は勇法によつて決す。黒八に至つて白の形厚し。

〔五三八八〕黒利勢

白十七、十九に打てば、黒は二十に至つて同じく善し。白若し二一を二二に出れば、黒イ白ロ黒ハ。即ち、四の時、黒ニは緩手を執つたむ。或は起たむ。

〔五三八九〕征如何による

千萬人と雖も吾れ行かん。此意氣、以て敵の虚喝を挫くべし。即ち、上の白を隔て、下の白を六と伐て、面白十。六の良否は、三の征如何によりて決す。

〔五三九〇〕黒優勢

白七に引けば黒も八に引く。黒は十六に至つては、白は散地を走り、黒は逃ぐるを追つて大利を占むる形。大勢既に決す。

〔五三九一〕要點約言

（第八二型ロ）

黒イに打てば、白ロの應けあり。イとロに打て實なり。又白ロに應ば確れば、後に黒ヘハ白ホ黒ニと打つて白を攻めるとき白ヘ筋あり。

〔五三九二〕基本圖

（第八二型ハ）

白一の時、黒にイと白ロの應けあり。此手段は厚せんとする場を合而白し。

〔五三九三〕形勢互角

黒一に掛けつば、白二に、四と打つ位の。白八、十、圖の如き結果に至つては、黒イ又次黒ロと附け盤の手、大なり。

〔五三九四〕黒勝

白十、打過ぎ。又初め白八にて十に切るも、黒は十八にて善し。白十八、十九に粘げば、黒二一に附ける後手あり。

〔五三九五〕黒厚し

白八、緩し。黒九以下十三に至つて黒は、厳堅の外威に、無限の厚富を誇る。白が苟安を貪るの無氣力に、天下靡然として黒に歸す。

〔五三九六〕黒確なり

黒一と尖附ける手も參照。（四一二〇圖）白二を五イに打て同じ。五四八圖の優劣は、此結果も場合に多く黒よれど、厚くなりて打易し。

〔五三九七〕黒優れり

白十に押せば、黒十一。斯かも押形し何處までも、押形して行く。又代つて黒ロと附き、白よりはイ、黒又次イを得。

〔五三九八〕要點約言

（第八二型全部）

白一の時、黒にイ、ロハニの應は略同意にして先づ隅を固む。ハニ、之も同意味にして、上の如くせんとする時、此を手段善し。

〔五三九九〕基本圖

（第八三型）

白一は變則の手段、其理由に二つあり。即ち、白イなれば黒にロと上を厚くせられて及び悪い場合。白ロと上を厚くせられて及び悪い場合。

〔五四〇〇〕基本圖

（第八三型イ）

此形、黒の應方に二、及びイロハニの五種あり。何れも得失あり。又征關係、外勢の如何によりて異れり。

〔五四〇一〕定石

黒二は定型、合最も善し。白三は至大なる一線上の要點。即ち、白一を三に、黒二に、前揭の白一は甚だ重し。黒四は外に戻る。イ、ロ、或はハと拓く手もあり。

〔五四〇二〕黒厚し

白〇に打ち次に一と附く、矛盾あり甚し。黒二は簡明。敵を二分して前後應ぜんとして、確に迫なむ。善し。白は無援孤立なり。

〔五四〇三〕黒好形

白いは、黒乃ち二に、尖んで堡壘を築く。堅實なり。凡そ戰は、正を以て合ひ、奇を爲つて勝つとか。即ち、白三と、敵の奇襲に備へし所以なり。

〔五四〇四〕基本圖

（第八三型ロ）

黒二は、鷹雀を搏つ嚴しき手段。此手は既にイ此す。黒が或はロの邊にある時には最も善し。

〔五四〇五〕場合

白一と押に、黒は上邊五に洪なる四線の白に至つては、即ち、白の不利定石。即ち、黒一、白二、黒三、白一と戻る。黒は甚しきより中段の變形の勢は素とすれども、此手段を得ず。

〔五四〇六〕黒善し

白一には、黒二善し。黒厚し。七まで形勢、知るべきのみ。黒四を此にイなれば白ロに此して五四〇二圖に黒稍まづし。

〔五四〇七〕基本圖

（第八三型ハ）

白一に對する黒の應手は、イが定型。圖の黒二は、普通場合も、よれど、其効果イに及ばず。

〔五四〇八〕常形

白一、三、手筋。黒四と切り、次に六に善し。若と粘く手順と粘げば、白も單に善し。黒五に此て粘いで陣形確なり。

〔五四〇九〕黒善し

白七の時、黒九と逃せば、白の術中に出つ。假令場合、黒征も、宜し合すべし。見（次圖）

〔五四一〇〕
黒凝形
黒八、重き筋にして惡し。以下九、神の手段巧なり。籌を千里の外に決す。白の十九に勝を附し、白の錦上に花を加へたり。更に㊀ツグ㊁劫トル

〔五四一一〕
黒善し
白三は面白き手筋なれど、豚の眞の珠の如く、折角の前角も此場合、効なく、黒四、十二に善し。大果無しと雖も、白に至つて見れば、五の二子は殆ど徒に歸す。

〔五四一二〕
黒堅く打易し
白一、三、俗筋なれど、此場合止むを得ず。以下十一まで黒よりの堅陣成る。素より白始めの變着なれば、少の損を免れず。

〔五四一三〕
白に手段なし
白一無理なり。白三を㋑に切れば、前々圖と同形なれば、黒も六に白も絶交の已むを得ず。

〔五四一四〕
黒利勢
白一の附けは、常に打つ筋なり。白は九まで其形定まり、地確定したれど、黒に利せり。此分れ黒に利あり。

〔五四一五〕
征如何による
白三の時、黒氣を四に一統して意氣を示し、而して六と取る。可否は、征つて決する。白九の征の惡圖に從ふべし。

〔五四一六〕
場合
前圖の如くなりて白の惡き場合、白は五と綽上げて振替るべし。㊀ツグ

〔五四一七〕
黒の勢善し
黒二、四、嚴し。黒八、大ないも善し。之を㋑と取れば、白㋺乃ち黒八の時、白は先づ中原に向ふ。

〔五四一八〕
黒場合の好形
小野田千代太郎六段
先 木谷 實 當時四段

〔五四一九〕
黒二澁き手也
黒二に尖む手、鋭を抑制して堅を持す。意味あり。次に三を㋑に打てば、黒は、三と㋑との處なり。

〔五四二〇〕
征如何による
黒一は、特に征の關係重大なり。此手、黒征宜しき場合は面白し。

〔五四二一〕
參考圖
前變化參照
此變化は、二圖高下と、三八五〇圖以下と相違あれど、形全く同じ。

〔五四二二〕
基本圖
（第八三型㋑）
白一の時、黒は前揭以外の手段としては、二と㋑とあり。

〔五四二三〕
黒優れり
黒二と綽出す手も有り。白五で八に當てれば、黒七と當てなつて、前々圖と同形。いま白五に至る。黒十八に行びて黒優勢なり。

〔五四二四〕
白勢振はず
白二六、一八の手筋面白し。然しも以下善戰して巧緻を悉し、前の果も、四以下の蹉跌を善くすると雖も、白勢挽回し難し。形勢同じ。四一は他に種々なる點あり。㊀ツグ

〔五四二五〕
黒一九に敗す
此形最初白六をイになれば、黒七にて三八、七二圖と略同じく、之の如くに惡きロの征のよろしきを得る。結果、白三、黒九まで攻合となれり。

〔五四二六〕
互角の分れ
黒三稍ヌルキ意味あれど、斯く打て變化は簡單。白四必然。黒五は先づ白の根據を奪ふ。常用の好着なり。

〔五四二七〕
場合による
黒五に綽ねる手も有り。九に黒好形を得たり。

〔五四二八〕
黒場合の好形
小野田千代太郎六段
先 木谷 實 當時四段

勝 白星打の形〉以下黒一に打ちの形を活用せし手段可なり。

〔五四二九〕
黒二澁き手也
黒二に尖む手、鋭を抑制して堅を持す。意味あり。次に三を㋑に打てば、黒は、三と㋑との處なり。

〔五四三〇〕
要點約言
黒二（第八三型全部）にては、㋑ロハ、ニとホあり。㋑ロハは正着。ロとハは場合宜しく、ニは佳手。若し征ホは一見發力鈍きが如きも意味あり。

〔五四三一〕
基本圖
（第八四型）
白一は、其意味略同じく、奇手にして場合の手段なり。

〔五四三二〕
基本圖
（第八四型㋑）
白一には、黒二定型、最も善し。然し此手を㋑に尖むも確にして黒惡しからず。

〔五四三三〕
定石
白五と斜走する手あり。又五を㋑或はロと打つ變化は、五三七圖及び五三八〇圖以下參照。

〔五四一〇〕
黒凝形
黒八、重き筋にして惡し。以下九、神の手段巧なり。籌を千里の外に決す。白の十九に勝を附し、白の錦上に花を加へたり。更に㊀ツグ㊁劫トル

〔五四一一〕
黒善し
白三は面白き手筋なれど、豚の眞の珠の如く、折角の前角も此場合、効なく、黒四、十二に善し。大果無しと雖も、白に至つて見れば、五の二子は殆ど徒に歸す。

〔五四一二〕
黒堅く打易し
白一、三、俗筋なれど、此場合止むを得ず。以下十一まで黒よりの堅陣成る。素より白始めの變着なれば、少の損を免れず。

〔五四一三〕
白に手段なし
白一無理なり。白三を㋑に切れば、前々圖と同形なれば、黒も六に白も絶交の已むを得ず。

〔五四一四〕
黒利勢
白一の附けは、常に打つ筋なり。白は九まで其形定まり、地確定したれど、黒に利せり。此分れ黒に利あり。

〔五四一五〕
征如何による
白三の時、黒氣を四に一統して意氣を示し、而して六と取る。可否は、征つて決する。白九の征の惡圖に從ふべし。

〔五四一六〕
場合
前圖の如くなりて白の惡き場合、白は五と綽上げて振替るべし。㊀ツグ

〔五四一七〕
黒の勢善し
黒二、四、嚴し。黒八、大ないも善し。之を㋑と取れば、白㋺乃ち黒八の時、白は先づ中原に向ふ。

〔五四一八〕
黒場合の好形
小野田千代太郎六段
先 木谷 實 當時四段

〔五四一九〕
黒二澁き手也
黒二に尖む手、鋭を抑制して堅を持す。意味あり。次に三を㋑に打てば、黒は、三と㋑との處なり。

〔五四二〇〕
征如何による
黒一は、特に征の關係重大なり。此手、黒征宜しき場合は面白し。

〔五四二一〕
參考圖
前變化參照
此變化は、二圖高下と、三八五〇圖以下と相違あれど、形全く同じ。

〔五四二二〕
基本圖
（第八三型㋑）
白一の時、黒は前揭以外の手段としては、二と㋑とあり。

〔五四二三〕
黒優れり
黒二と綽出す手も有り。白五で八に當てれば、黒七と當てなつて、前々圖と同形。いま白五に至る。黒十八に行びて黒優勢なり。

〔五四二四〕
白勢振はず
白二六、一八の手筋面白し。然しも以下善戰して巧緻を悉し、前の果も、四以下の蹉跌を善くすると雖も、白勢挽回し難し。形勢同じ。四一は他に種々なる點あり。㊀ツグ

〔五四二五〕
黒一九に敗す
此形最初白六をイになれば、黒七にて三八、七二圖と略同じく、之の如くに惡きロの征のよろしきを得る。結果、白三、黒九まで攻合となれり。

〔五四二六〕
互角の分れ
黒三稍ヌルキ意味あれど、斯く打て變化は簡單。白四必然。黒五は先づ白の根據を奪ふ。常用の好着なり。

〔五四二七〕
場合による
黒五に綽ねる手も有り。九に黒好形を得たり。

〔五四二八〕
黒場合の好形
小野田千代太郎六段
先 木谷 實 當時四段

勝 白星打の形〉以下黒一に打ちの形を活用せし手段可なり。

〔五四二九〕
黒二澁き手也
黒二に尖む手、鋭を抑制して堅を持す。意味あり。次に三を㋑に打てば、黒は、三と㋑との處なり。

〔五四三〇〕
要點約言
黒二（第八三型全部）にては、㋑ロハ、ニとホあり。㋑ロハは正着。ロとハは場合宜しく、ニは佳手。若し征ホは一見發力鈍きが如きも意味あり。

〔五四三一〕
基本圖
（第八四型）
白一は、其意味略同じく、奇手にして場合の手段なり。

〔五四三二〕
基本圖
（第八四型㋑）
白一には、黒二定型、最も善し。然し此手を㋑に尖むも確にして黒惡しからず。

〔五四三三〕
定石
白五と斜走する手あり。又五を㋑或はロと打つ變化は、五三七圖及び五三八〇圖以下參照。

〔五四三四〕
黒確なり
白五。黒十と二段に約へて替り、黒は上隅の鐵壁と呼應して十八に肉薄し、確なり。次に遂にイ或はロの筋を狙ふ。白今や悔むが如し。

〔五四三五〕
場合による
黒十と打つ手も九に至り、黒は轉じて二十に白を要撃するに至れど、上隅の二八に悉も未だ眼形無しの場合は場合によよる。

〔五四三六〕
黒堅實
黒八と行ひる手も宜しく、次に白は九位に切る。依て黒十との打て二目を拾て四と打て一と拓くべし。黒の勢、確なり。

〔五四三七〕
白の形崩る
死すべき時に死せざれば、死ぬるもの。死ぬるもの。死ぬるもの。

〔五四五八〕
基本圖
（第八六型）

白一の附けは、双方互角の位置に立つ一路打の形。尤も黒に先手の惠れるだけに、此戰、白の不利なり。

〔五四五九〕
基本圖
（第八六型イ）

白一に對する黒の應けは、二及びイは最も優る。二、イは寶利を主とし、ロは外勢を主として好まず。

〔五四六〇〕
定石

白一に對する黒二の應けは、先づ隅を攻めんとするに利し、次に白を攻むるも最も確實なれば、黒六の白五の拓さ、れば、黒六の拓さ、善し。

〔五四六一〕
場合による

黒四、六、而して八と廣く拓き、白も亦五、七と致して、黒四と交換は、時に可否あり。

〔五四六二〕
黒強行手段

白三なれば、黒四の打込強手なり。尤も黒手堅く打つ時は四にて宜し。又イ黒ハ、白ニ黒七白三ば、黒ホ。

〔五四六三〕
黒利勢なり

黒四肝要。（變化は三六五〇圖以下參照）

〔五四六四〕
黒稍凝形

黒四、六と出切る、思はざるの甚しきもので、五より左にかかるも利かさ、れず、白より右に充分。黒の形不利なる。五三圖の形と下の分。は、出切りの形とは、其得失異る。

〔五四六五〕
互角の分れ

黒十二、一考を要す。股鑑違から、此二に至つて、形の可否は一に征の如何に懸る。

〔五四六六〕
黒優れり

前圖の如く、白一は佳着なれば、宜しくなりて、黒征伐とはなりて、黒三。又イなれば、白三。又イなれば、白三、黒五は四、黒ハロ。

〔五四六七〕
白優勢

勝敗は最後の五分にあり、油斷の大敵。黒六に失して、忽ち白の乘ずる所となりぬ。七より十九まで、巧を悪して、遺漏無し。白の外勢厚壯なり。（五四〇圖參照）

〔五四六八〕
白悪しからず

白二五に至る。兩軍の劍痕未だ癒えず。此形、野に白潰滅の如きも然らず、白二三と搖頭するに造んで黒も未だ眼形無し。

〔五四六九〕
形勢不明

黒二二に白の退路を絶たんとせば、白二に出しも、此形、白宜しく、尤も悪征なり。白二八の場合は、黒二七にて勝。

〔五四七〇〕
黒不利の勢

嗟乎、亂闘酣なる時、黒二一瞬、一手の怠慢に乘じ、白二九に分斷の途を絶つて、黒二六に泣く至つて悲命に裂く。黒八の二手筋も、此際は寸の効無し。

〔五四七一〕
白甚だ悪し

初め白七をイと附けるも黒七にて、此形黒善しなり。又圖の如く確なるも、黒は隅に反して、白の石は上下無しに共に蜉蝣の如き、白の非勢、力の明かなり。

〔五四七二〕
黒利勢

白五、七、悪し。白十一、十二と、白戰甚だ力む。而も黒十八と眼形を作り、黒十九と以下至つて、白に四と二十に取角。白二十一を、三六に打つべし。

〔五四七三〕
形勢互角

黒十四、十六は、故意に虎の髭に觸れんとするもの、危險なり。爲に勢三五を形征に取角。白に二十一を、三六に打つ合は、黒四と場合は、黒ツグ。

〔五四七四〕
征如何による

黒十二、一考を要す。股鑑違から、此二に至つて、形の可否は一に征の如何に懸る。

〔五四七五〕
互角の分れ

白一に飛龍の委を示すや、黒いま二と堅く粘す。即ち白紛糾を避けんとするも、少しく緩れば、白三を四に粘げば、黒三を四に綽ぬ。

〔五四七六〕
優る黒厚く、

男子須らく志は天下に在るべし。然るに隅に赴く。十に至阪命を繫ぐも辛うじて露命を繫ぐも、蓋し白一の罪なり。黒二、四、善し。

〔五四七七〕
黒優れり

白一と切違ひしは、稍無理。黒二、此形の最堅實なる應答。次に白は三、五位の所。黒八、場合によれば、十は手なり。

〔五四七八〕
黒善し

白三、五、面白から敵の一路を攻むるも、黒は十二に至つて、白は裏が無理なれば、此形、白一に綽すれば、變化を得ず。（五三七四圖及五一圖以下）

〔五四七九〕
白潰れ

白五は無理。黒は六、八と先づ十と固めて、次に九と隅を兩睨みに。此時、黒十二なれば、白は其効を果無し。白イ、黒十四、十六にて勝なり。

〔五四八〇〕
黒勝

白三と下れば、黒四に下て宜し。白五、形順宜しき如きも、此手白は其効を果無し。白イ、黒十四、十六にて勝なり。

〔五四八一〕
黒確なり

黒二、四、六と打つも確なり。（變化四五七六圖以下參照）

〔五四八二〕
黒優勢

黒二、四、六と打つ手も善し。白に隅の小活を與へて黒が外部を封ぜし形は、天衣無縫完璧なり。白七をイなれば、黒ロ白ハ黒十白八黒七。

〔五四八三〕
要點約言
（第八六型イ）

白一、黒二となり時に、白イ、ロハニの應けあり。イは定型。ロは時に面白く。ハは低く惡し。又、ニの打過なるは、切違ひなり。

〔五四八四〕
基本圖
（第八六型ロ）

白一に對し黒二と外側より約へるは、白を隅で活かして黒が外勢を得る場合の常用手段なり。

〔五四八五〕
定石

之は實戰に最も多くまでの圖なり。二の結果、白五も、五九ニより優れど、黒も亦外勢鞏固なり。

〔五四八六〕
場合

黒四と下る手もあり。白五なれば、黒六に斜走して、次に七の附けと八の拓きとを見るべし。又の白五をイなれば、黒ロ白ハ黒七。

〔五四八七〕
黒稍利勢

白三と引く手もあり。黒乃ち四と五の交換に約して白、更に六にに約して白、此一目の切取は、得失より見るも非常に大なり。

〔五四八八〕
黒善し

白三に掛粘くも、黒は同じく四七へ約して宜し。白七はイを手筋なり。次に白イを見れば、黒十二、白七にて、白の形好まず。

〔五四八九〕
互角

白此たびは十七に切る。黒十八に大なり。白十九に黒二十は當然。黒勢厚し。

〔五四九〇〕
場合

黒は一旦八に弛めあり、次に十と約へる手も有力なり。白は、十一は、前圖と同じく、二の切を見る、白二一は、二三に綿出す手もあり。

〔五四九一〕
互角の分れ

黒十六と征に抱へぬ（勿論此時黒征宜しき假定）。白反撃しては、意氣軒昂なり。二四まで、黒も一方を得るを先拾づ互角の分れ。

〔五四九二〕
黒厚し

花あり、取るにたえなば取るべし、花無きを待つて空しく枝を折ること勿れ。好機を尚ぶべき所以なり。白十七手順を失す。白十九に黒二十は當然。黒勢厚し。

〔五四九三〕
黒利勢

白此たびは十七に切る。黒十八に大なり。白十九に取るは黒少し。次に白イに黒二二白ニとなる。

〔五四九四〕
黒厚く、善し

白平凡に十一と守るや、白形低く且つ小。反之、黒は北に連衡して東より厚く北に亙る。黒が厚く北の大、懸堅、雄偉の絶す。

〔五四九五〕
前變化にあり

白一と綽れば黒は二と應けあり。二は左邊の一圖以下へ又イは次圖以下に何れも可なり。其結果黒可なり。

〔五四九六〕
黒厚し

黒二の二段手なり。白は三と粘く筋にて佳手なり。黒四は同じく一手。黒が四と右邊のイは、卽ち、同理にて、イ。

〔五四九七〕
黒厚し

白いま黒二の約へに三と切つて五。但し之は無理なり。黒宜しき時は、十六行ぶべく、單に十八に征くも、假に惡しくなつて黒厚し。圖の如くなし。

〔五五〇一〕
要點約言
（第八六型ロ）

白一に對する黒の應けに、三、イ、二、ロ及びハなど、此中三と、あれば、最も宜しく、其他は好まず。

〔五五〇二〕
基本圖
（第八七型）

星の黒に對する白の手筋、イロハは、手位置の反す。且つ惡しく奇を弄する。舉覺過ぎず。無謀の譏を免れず。

〔五五〇三〕
基本圖
（第八七型イ）

如何なる形勢にても、星の黒に對して白一と打つ筋に對して之は、只敵を惑はさんとする淺なる手段に過ぎず。

〔五五〇四〕
黒打易き形

白一に對する黒の應けに、三、イ、二、ロ及びハなど、此中三と、あれば、最も宜しく、其他は好まず。

〔五五〇五〕
黒堅實最も可

白㊀の暴進に對し、黒は小敵と見て侮らず、重を持して一と錘を着く、致堅實なり。白ふ。致命の重傷を負ふれば、黒イ白七なれば、白六黒六。

〔五五〇〇〕
要點約言
（第八六型ロ）

白一と切る手は、始め黒星に對して白㊀と打ち、黒▣と切り違ひし、卽ち、此變化は五六三圖以下にあり。

〔五四九九〕
後圖變化參照

白一と切る手は、段にして、白は時に斯に打つ手あり。又、黒は或はイ、ハれば、何れにても良し。

〔五四九八〕
參考圖

白七なれば、黒は八、而して十二で勝つ。白十三で黒イなれば、黒ロ白ニなれば、又、黒ホなれば、黒ト白チ黒は白ヘ黒リにて勝。

〔五五〇六〕 黒優れり

黒いま外部の厚壁を欲し一に尖む、佳手なり。白二をに三なれば、黒イにて有利の形なり。

〔五五〇七〕 白甚だ拙し

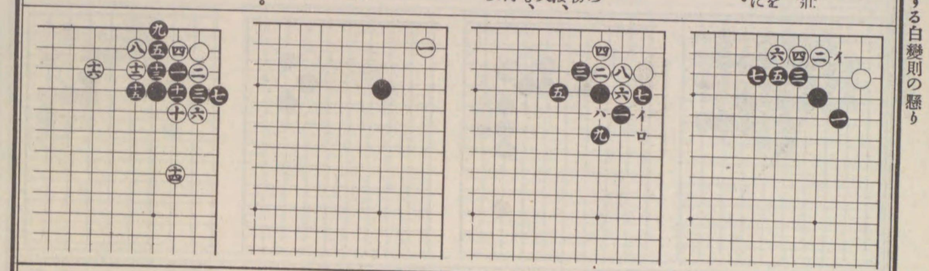
白四、六は俗筋の悪し。愚化すイ。又初め黒白二六に打つも、白四を六に黒ハ。又も、黒ハ白イ黒ロ。何れも五四八九圖と同じ下れ以下。

〔五五〇八〕 基本圖（第八七型ロ）

舞臺を男子事を畢く、檜此隅隈に悪しに非ずんば、愚のみ。尤も、黒は痴のゴマカシ手も油斷は大敵なり。

〔五五〇九〕 黒、罠に落つ

黒一の應け、最も善し。白二、四、相手方打アタク見たる、三黒が子を取つて喜べるは、バラ屑を投げるに異らず。



〔五五一〇〕 白面白し

黒十七、十九、正着なれど、十四まで二に形勢を張らんか。而も黒が三に迄の模様は、既に十四までの白。あり黒も、三、効果薄らぐの白。五の失着の罪なる哉。

〔五五一一〕 黒大敗

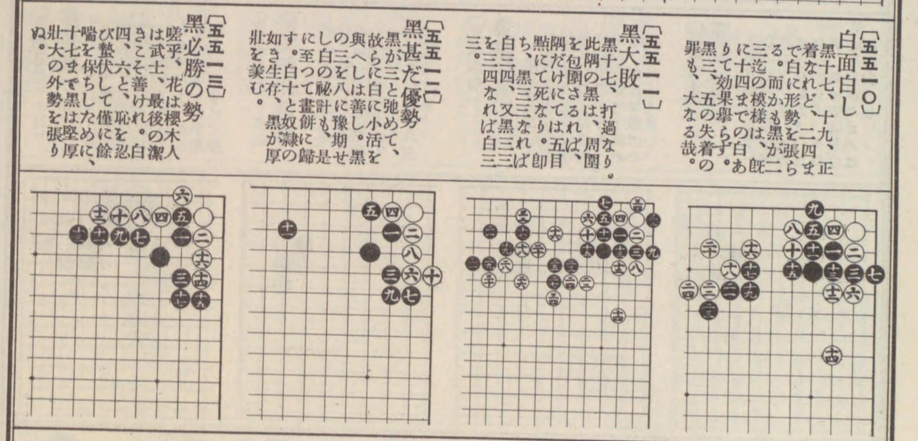
黒十七、打過なり。此隅の黒は、周圍を包圍されば、五目だけになるれば、隅にて死なり。即ち白三、四、黒二、三なれば白三、又黒三、二なれば白三三。

〔五五一二〕 黒甚だ優勢

黒が三と弛めて、故らに自に小活を與へしの秘計。至つて是非豫期せざる黒の三を八に善し。白の歸着。

〔五五一三〕 黒必勝の勢

嗟乎、花は櫻木人は武士、最後の潔きこそ善れ。白忍び、恥を餘して僅を保ちたるめに、四、六と、整して、白三、四なれば白三三。



〔五五一四〕 黒再び嵌る

白二に、黒三と直ちに取りは惡し。好まず（次圖）。黒七、は、九、白、黒九。又九打つべし。此形も、黒は隅に二眼無し。

〔五五一五〕 黒利勢

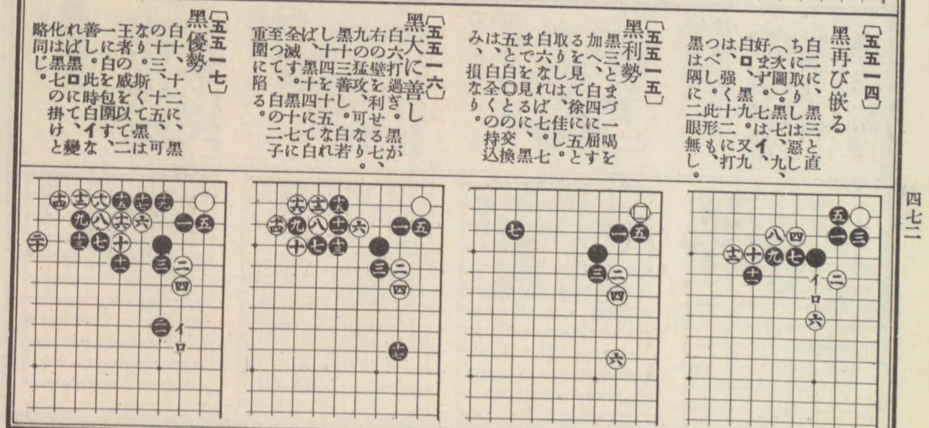
黒三と、すづ一喝を加へ、白四に五と取るを見て、徐に五と取りなれば、佳し。七。白六を見ずまで七と、黒五と白の交換は、白全くの持込み、損なり。

〔五五一六〕 黒大に善し

白六打過ぎ。黒が攻、可せ利なる七、黒九の右の壁を猛攻、善し。白若し、黒十三を十四に、白十五に、黒十七に、白の二子全滅して至つて重圍に陥る。

〔五五一七〕 黒優勢

白十、十二に、黒の十三、十五、可なり。斯くて鼎を以て二に、白を包圍す。此時白イなれば、黒ロの掛けと變じ。七の略同化れば善し。



〔五五一八〕 黒必勝の勢

白四と引出し、黒に五と叩かれて、白は小活の形、黒が命を奪はるゝ。此活の黒が、ロ邊つよし北の備に、イかかる誇り、桶の如く、廣千里、黒表る。富無限な領域。

〔五五一九〕 形勢互角

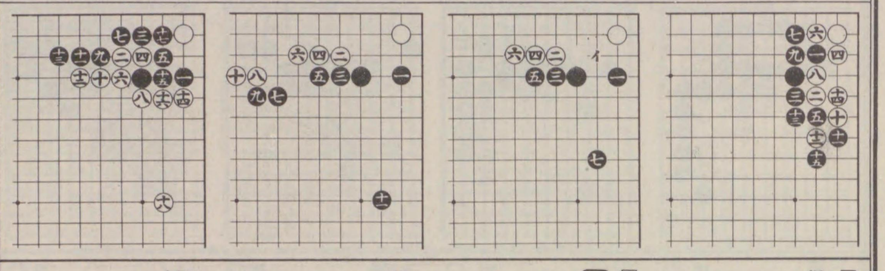
黒一と打つも結果悪しからざれど、此手は前變化の如くイに尖む方優れり。

〔五五二〇〕 形勢互角

黒七、九と、大膽、翼を搏つて天空を、驅けるに斯く黒て、十一に曠野を劃す。本圖と前圖に優す。狀勢は、周圍の圍と因一に適すれば、何れも場合に黒可なり。

〔五五二一〕 白稍優れり

黒三なれば、白四、六と打つ手宜し。白六以下の各着、肯く如く柔和に、蛇の如き中に、鳩の如く聡しとは、その云ふかゝ、此形、白の外勢稍優。



〔五五二二〕 得失相匹敵す

黒三には、無論徒の可否による手なり。猶黒一イなれば、白二。又一を二或はロなれば、白イと打つ筋なり。

〔五五二三〕 基本圖（第八七型ハ）

白一と打つて宜し、き場合なぞは、無と云つて可なり。

〔五五二四〕 黒善し

白□なれば、黒は□なれば、黒は□閉鎖す。白二は□の意味に適す。黒は□後手段今は出ては出づ悪し。

〔五五二五〕 黒堅固打易し

白二、四は、黒の嚴に身を寄落す花の類か、白浮薄なり。白更に堅を加ふ。黒之を反之、白二。

〔五五二六〕 要點約言

白（第八七型全部）も奇に過ぎは、何れに過ぎて暴に近し。白なれば、黒い。又白なれば、黒い。又白なれば、黒共に善し。

〔五五二七〕 基本圖（第八變則の手）

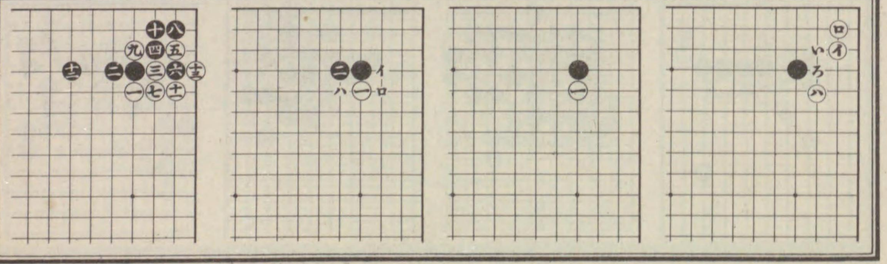
白一は、段にして然かく敵に體當りし行く手は無し。されど、局進み、後れば、亂陣に此手段あり。

〔五五二八〕 基本圖（第八八型イ）

白一なれば、黒二、イ。何れも變化多く、征關係なあり。白一に最對も慎重を要す。

〔五五二九〕 定石

白一に對する黒二の行びは、強く且つ堅實なり。黒四、意味あり形なれど、ヌル圖。黒六、次々圖。れば善し。



〔五五三〇〕
征如何による

黒征宜しき時は、大刀を振翳し四に切り、六に抱へ、八と打抜くべし。此黒、断然優勢。此圖は五四六圖と共形同じ。

〔五五三一〕
黒利勢

凡そ此形、白三を四に綿ねて前々圖の形に導きさえ得る場合の非ずば、白三に非ずいま白なり。嬰守し黒八に至る。彼我の優劣を待たずして明かなり。

〔五五三二〕
黒利勢

若し前々圖の如く打つて黒の征悪しき場合は、黒は進んで二と切るべし。鋭鬼神だも且つ避くべし。破邪の利剣、黒十四、善し。

〔五五三三〕
場合

前圖黒十四より變化。黒一も好點なり。其時白三ならば、黒イに善し。黒三は白ハ黒四白（次圖）と劫争となる。

〔五五三四〕
黒先劫

黒三には、白四と手を延ばし、今は善せず。嘵嘵此一撃に決死の白十を在る。黒勝。

〔五五三五〕
黒利勢

白十五打過ぎ、之は前の如く外無し。乃ち、黒十六に一矢を報ひ、十八に隅を確保す。白勢は悪けれど、月行はさしの上る太陽の如く、黒勢は鶴翼の如し。

〔五五三六〕
黒の勢善し

白七なれば、黒八に綿げて宜し。黒十二では単に十、斯くては白三は悪し。八で極りをつける方分り易し。

〔五五三七〕
黒稍優れり

白が単に三と引くは、黒が四でイと征に於ては取得なり。時に立成す。者の如く、白三は悪し、盗賊に鍵を與ふるの愚着に似たり。

〔五五三八〕
黒厚き形なり

白三に、黒四と最も強くして善し。黒十二に至り、白イに缺陥あり。黒ホイ（例へば白ヘに黒ト、白チに黒ヌ）。

〔五五三九〕
場合

黒四と弛みしは、稍緩し。例へば、戰に臨み月花を戀ふ如き悠々の態なり。又、黒四を五、白イ、黒四と打てば、白ロにて五四六八圖と同形。

〔五五四〇〕
白大に優れり

黒八悪し、此手は二十に打つべし（變照）。黒十四は勿論、征關係の手なれど、黒征宜しき場合にても、三に至つて黒凝形に陥る。（六ッグ）

〔五五四一〕
黒善し

白一、變化に乏し。黒地確定、黒打易し。白五を六に拓けば、黒イに詰まり、白の三子ダメの形なり、先手高騰の部。（互參照）。

〔五五四二〕
黒の形堅し

此時、黒勇を鼓して四と綿ぬ、白十五にて、黒十二にて、白一、黒イを白十二にて、黒ハにて、黒勝。

〔五五四三〕
黒優れり

白一も重き筋なり。黒二は無双の手を收め、黒八は無理形。白十一、黒十二にて、黒勝。

〔五五四四〕
黒善し

白一、三、芋筋に切て惡し。黒四せば、白五を戰慄せしむ。黒十二、白十四、黒十五と切り。白十六、黒十七、白十八、黒十九と轉じて二八に隅の地と外勢、共に黒優る。

〔五五四五〕
黒優勢

白いま十五と形に就いて黒十六、十七と斷つ。此時、黒イに白を伐つて二五までの後手活きをなさしめ、一八に白を輕く患を絶つも悪しく、白ロにて黒優る。

〔五五四六〕
黒利勢なり

白十三と切れば、黒は十四而して十六、此形、黒十四以下の三子を捨てるとなつて黒既に因し、之の間隙を凌ぐ。イロの三子死。尚ほ餘薬あり。

〔五五四七〕
場合による

白五、次に白六と征には、取らず。場合によりては取得る。黒前進、白六に征を免れて以下四まで雄渾に成立す。若し黒征宜しき場合は、黒悪し。白七に白悪し。

〔五五四八〕
要點約言

（第八八型イ）白一なれば、黒二最堅實。白三では、黒イ少變、白ロ多變、黒ハ或はロにて、黒ニ或は白ロ又は白ハにしは、イで善し。

〔五五四九〕
基本圖

（第八八型ロ）白一の時、黒は二と下るも堅實。前項黒イの廻避相通ずるの意あれど、此は先手にて地を固め隅を利する手なり。

〔五五五〇〕
場合

黒四は五を正着とす、其變化は五五四三圖以下にあり。

〔五五五一〕
黒利勢

白三と、黒二の發展を阻し、止せるも、黒は四の後、八の好點を占む、白五を六に拓けば、黒イに白の三子ダメの詰まり、白の形なり、先手高騰の部。（互參照）。

〔五五五二〕
黒確實且有利

白三の飛は輕けれど、輕妙とはいはんより寧ろ輕俛に近し。シカモ吾れ之を知らず、白六下に至つて形勢の利を失へるもの、其因三に胚胎せり。

〔五五五三〕
白窮地に陥る

黒四に切れば、此必勝の手段。五と四六圖の切違ひを輕く白は一方を輕くは意味もあれど、圖の如きは、悪しく黒も悪しく利にて白窮地に陥れり。

〔五五五四〕
黒　勝

白五に行びれば、黒六、八と押して、次に十、白の命、十二と押し切る。十三以下は窮屈、畢竟、既に窮りぬ。断末魔の苦悶輾転の み。

〔五五五五〕
參考圖

論語讀みの論語知らず、精神、形に泥みて忘るれば、後見に及ばむ。黒十四は、形を見て速断せしもの、遂に後手持となりて黒の失敗に歸す。

〔五五五六〕
黒善し

白九。黒乃ち十の後、十二、十四、十六と、息をも吐せず攻め立つ。黒十一善し、次に白イと粘げれば、黒ロ白ハ黒ニ白ホ黒ヘにては、黒勝。

〔五五五七〕
要點約言

黒二確にしてイなれば善し。白三でイなれば、黒ロ。白三でればハなれば、又白三でイ。黒ロなれば、黒ハで黒善し。凡て黒善し。

〔五五五八〕
基本圖
（第八八型ハ）

黒二は、前の消極的手段と異りて、積極的に白一の無理を咎めんとする強硬手段なり。

〔五五五九〕
黒善し

白二に二段約へすれば、黒三に粘く、確にして有利の形なり。

〔五五六〇〕
黒利勢

黒一と綿ぬるや、白また二に綿返すと見る間に黒三と二段綿ねし、手筋にして甚だ面白し。白二に至つて隅の一地は白より侵削さるゝ憂、全く無し。

〔五五六一〕
黒堅實打易し

黒五に粘、手もあり。白六、黒七、必然。十三まで黒は地となりて、白は勢と併せ得たり。

〔五五六二〕
黒利勢

白四と一たび秋水以下必然のコースを辿る。今や黒隅豐迫の地を擁して堅固を持す。黒の打易き棋勢なり。

〔五五六三〕
黒厚く、優る

白二は暴漢叉につて屋内に闖入するの類、無理なり。白四なれば、黒五まで必至。黒は十二に約すべし。十三は拘禁して厚堅の白を攻むるの優勢なり。

〔五五六四〕
黒利勢

白四より八。黒乃ち十九に切つて一ちに打抜く。黒厚く、白虚に向ふの形なり。白瓦解、黒イを白十一と抜けば、黒ロ白ハ、黒手抜きか、又は黒ニ。

〔五五六五〕
黒善し

白いまや疑心暗鬼を生じ、悔々とし九、て八に粘すること、黒當然なり。黒先手利、加之、黒イの綿粘ぎ、形、側厚堅の外勢を張つて宜し。

〔五五六六〕
黒厚く、優る

白二は暴漢叉につて屋内に闖入するの類、無理なり。白四なれば、黒五まで必至。黒は十二に約すべし。十三は拘禁して厚堅の白を攻むるの優勢なり。

〔五五六七〕
黒利勢

白四と一たび秋水以下必然のコースを辿る。今や黒隅豐迫の地を擁して堅固を持す。黒の打易き棋勢なり。

〔五五六八〕
要點約言
（第八八型ハ）

黒二と強く綿るを手もあり。白三もイなれば、黒ロ。又白イなれば、黒ハに綿れば、黒ニ。又白三でロに切れば、黒イでも變化單。何れも黒善し。

〔五五六九〕
黒優れり

白三、五、七と、殺氣の黒を追撃して、二乃ち、八に切つて、此形、白一壯圍に蹈原に無理に厚味を伸ぶ。

〔五五七〇〕
定　石

白五の時黒四は五圖の同工、其手筋曲つて白の外なる"五"に因つて黒六、八となり、共形確定す。

〔五五七一〕
基本圖
（第八八型ニ）

黒ニも積極手段。而して手は"イ"と異り、黒は隅よりも中央を得んとするにあり。

〔五五七二〕
黒優勢

白七なれば、黒八、十と打つて宜し。此形は五四七八圖の外勢と略同形、黒の外勢なり。

〔五五七三〕
白　敗

白七に粘げば、黒は"八"に當て十一以下に約ゆ。白十一と打つて宜し。此形は五四七八圖の外勢と略同形、黒の外勢なり。

〔五五七四〕
黒利勢

白三を六なれば、黒イ、又白三を黒イなれば、五、大に無理。白十一と綿れ、十七、七九を白十一と黒十二、白ホ黒ヘと打つて宜し。

〔五五七五〕
要點約言
（第八八型ニ）

黒二は中に勢を張る手段。白三で宜し。黒ロなれば、白イの下り佳手。

〔五五七六〕
要點約言
（第八八型全部特殊の場合）

白一は無理なり。黒ニの次に黒イと外に廻つて黒ロ確實あり。ハは強手なるも變化單純にして何れも黒善し。

〔五五七七〕
基本圖
（第八九型）

白は前以外の手段に、(イ)(ロ)(ニ)(ホ)(ヘ)(ト)の手あれど、何れも惡手なり。只(ロ)は黒(ハ)(ニ)(ホ)の四點を破らん

とする時、白は稀に打つ事あり。

〔五五七八〕
黒有利の形
白一なれば、黒は必ず二或はイに應じ、共に同形なれど、四圍の狀勢により、四の五の選擇には注意を要す。

〔五五七九〕
黒善し
白三なれば、黒は四、五或は十九のうち孰れにも黒善し（前變化參照）。黒十四、十六、手筋なり。

〔五五八〇〕
黒善し
白十五なれば、黒は十六。此形後によりイ、白ロ黒ハ黒ニ白ホ黒ト白ヘ黒ト、隅の曲四目（劫ヅクシ）として白を屠る手あり。

〔五五八一〕
黒善し
白一は、只中の模様を消すのみの手。實戰に斯く打つ事は殆んど無し。黒二は三に應くるも同形。

〔五五八二〕
黒の形善し
白三なれば、黒は初めにイの小斜走懸りとして白一に打ち、黒二の點に據り、ロ及びイの四目好し。白五と相呼應して、白を脅かす。白尚早。

〔五五八三〕
場合による
白三に、黒四、六と邊へ擊ちし此手は筋なり。黒の勿論ロに關係あり。白イの時黒合は、黒十一にて善し。

〔五五八四〕
黒善し
白五は稍緩漫にて嚴し。イが手筋にして白、黒比して參照。（四五一圖以下參照）

〔五五八五〕
黒善し
白一なれば、黒二の應け最も善し（變化三六一圖參照）。只其圖に結果白に惡し。

〔五五八六〕
黒善し
白一或はロに應け最も善し（變化三九圖以下參照）。

〔五五八七〕
懸りに非ず
雲烟萬里、白一は甚だ遠くして、懸りの働きをなさず。白一に對しては、黒は手拔きが最も善し。又打つとすれば（常形）イ（五八九四圖以下）。

〔五五八八〕
白一惡手なり
白一は、低く且つ隅へ手段に乏し。斯く地の利を失ふ。黒二に至つては、白にハンニの勇あるも、時宗必敗を免れず。

〔五五八九〕
黒大に優れり
白三と左に迫るや、黒は四に白の一を脅威し、白五に衝撃するや、卽ち六に四を加へ、白、六面し。白の手筋、且つ位置低下にて、ヌ、ル、ヲ、ワ、カを經て、ヨ、タ、レ、ソ、ツ、ネ、ナ、ラ、ム、ウ、ノ、オ、クに至る定石の變化なり。

〔五五九〇〕
黒優れり
白十一に陣容を整へれば、黒は高所より觀て敵の備へざるを伐つの卽ち黒十二、白十四、黒十六、此時白十五、十八、黒は整陣、旌旗鮮かなり。

〔五五九一〕
黒善し
此圖も前圖と異曲同工。黒上は堅城、下は四、十二は十四。白は不安に戰いて、一步と、薄氷を踏むの思ひあり。

〔五五九二〕
白甚だ窮す
白七、來る。黒八、九と切斷し十、十二の手筋、白十一面し。尤も此形、黒十三の次の征四に、黒化至難。されば黒に一步の優あり。（次圖）

〔五五九三〕
形勢不明
白若し征宜しくば、白十五、十七と打つ手あり。此形、一、輸贏の決は、中央戰に懸るも、變化至難。されば黒に一步の優あり。

〔五五九四〕
黒凝形
黒四、一見手筋に似たれど、白より五以下捨身の戰法に出られて、黒礙手に善し。白九、大なる白。

〔五五九五〕
白大に優れり
黒征宜しき場合と假定して、白十六に切れば、白の二子は取れるも、白の一子は十七以下五に至つて、二、白軍勢力圈となり、白は、白の良計。

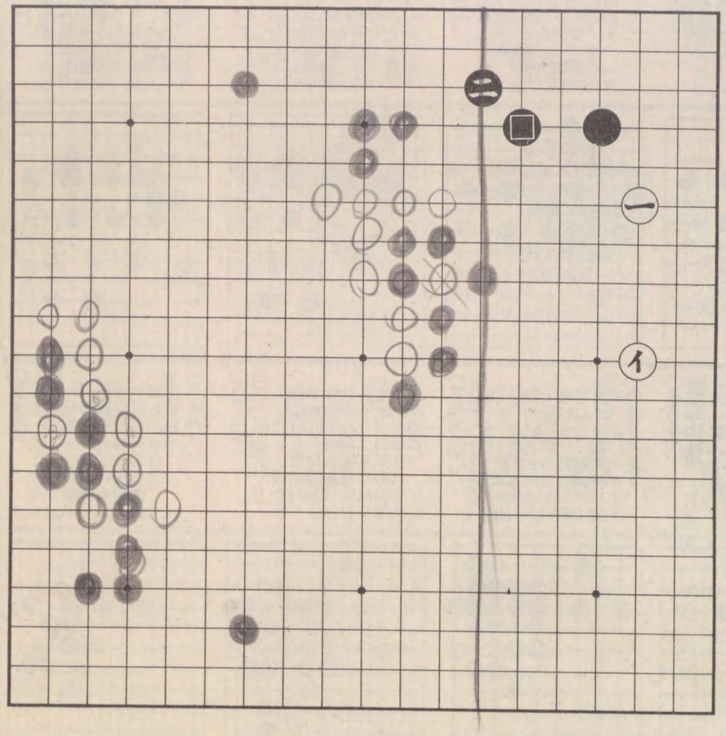
〔五五九六〕
白求めて敗す
白十一、十三、俗手にして甚だ惡し。白一以下を活きんとしてその辛うじて三に逐げしも、志遂げて敗同時に至つて逐げしも、志遂げて敗同時に至つて。畢、スタートの誤りにあり。

〔五五九七〕
要點約言
星の黒に對しては、白④以下㊀まで、⑤までの手段あり。又㊁は㊂又は㊃には黒ろ、黒は㊄には黒に、黒は㊅には白に惡し。

〔五五九八〕
變則懸り總評（上）
（自第八二型至第八九型）
置石に對する白の變則の懸りとしては十五種あり。此中イロハニホの五種、時に可否あり。

〔五五九九〕
變則懸り總評（下）
次に、ヘ、トは調子外れ。リは特殊の形。ヌルは無理。ヲワチカは惡手。ヨタレソツネナラムウノオクは低く且つ惡手なり。

〔五六〇〇〕
基本原圖
種々なる形に於ける、白又は黒の、打込みの變化



打込には黒から白地に打込む變化と、白から黒地に打込む變化とあり。其中白拓の中へ黒から打込む形に白一の小斜走懸り、或は其他の懸りより、白④或は猶廣く拓きし形に、黒より打込む形、其中へ黒次に黒が形を整へし中に、白より打込む形、其基本圖に三種あり。一は二の大斜走拓より種々發展したる形。(二)は□の一間より、種々邊に拓きし形。(三)其他の變則の圍ゐの中へ。

〔五六〇一〕
基本圖
（第九十型）

先づ白からの拓に、三の三間、及びイ、ロ、ハの四種あり。其廣狹により、黒打込の手段いづれも異れり。

〔五六〇二〕
基本圖
（第九十型イ）

白三の三間拓には、黒は先づ四と締るを定法とす。白手抜きの場合、黒より打込むには、無論イが要點なり。

〔五六〇三〕
可否時による

白二善し。黒三は時機を見合すも善し。黒三は五もあれど、多くは、此形、三の方優る。黒の外勢も占めた實利を得た形、白の外勢も亦厚くなれり。

〔五六〇四〕
黒善し

戰機の極まり所變幻無く、即ち、白いまだ十五に至らず、斯くては、黒十と打上げ嚴しき故に、黒善し。

〔五六〇五〕
互角の分れ

黒九は、十四に打つべし。いま、白十二は報國の丹心、死を賭して後十四。此而して後、黒得なれど、白厚き故、先づ互角の分れ。

〔五六〇六〕
白可なり

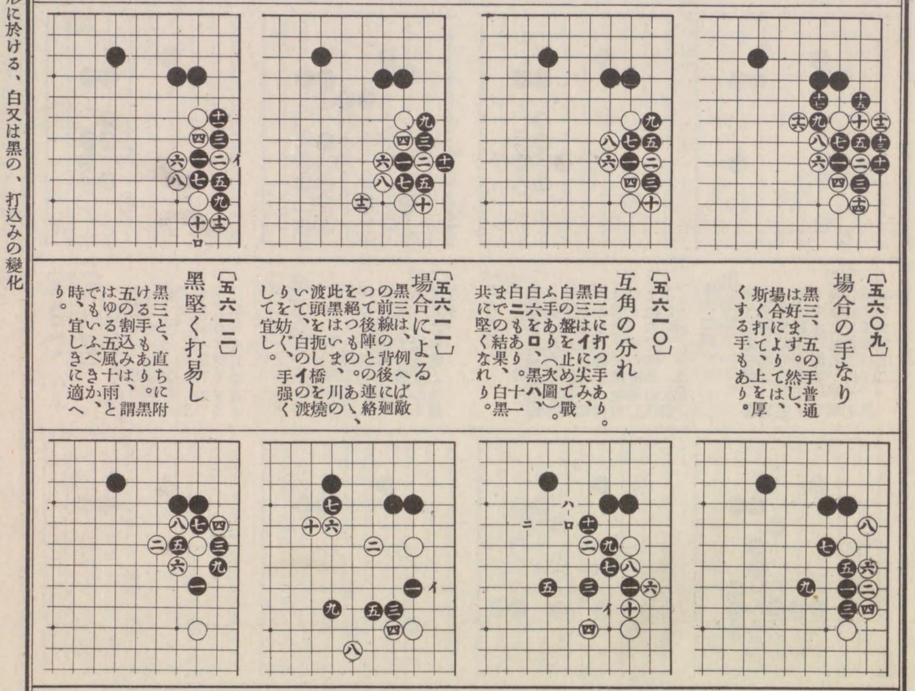
名將は、敵と闘ふ時身を忘るといへり。然るに、黒九は最中、戰へ戀々として心の歸趨を矢の如し、綴の責を免れず。白十に至つて、白の陣形固し。

〔五六〇七〕
白厚く善し

黒三より抱へる手は、此形にては好まず。

〔五六〇八〕
黒面白からず

十二の次に、白はイに下つて黒を駈駁しめんとす。白は、黒十二を與へては、黒十一を二なれば、黒惡し。白はロにて外勢益ゝ厚を加ふ。



〔五六〇九〕
場合の手なり

黒三、五の手普通は好まず。然し、場合によつては、斯く打て、上を厚くする手もあり。

〔五六一〇〕
互角の分れ

白二に打つ手あり。黒三は、イに尖み、白の盤を止めて戰ふ手あり。（次圖）。白六をロ、黒ハ、白ニもあり。白十一黒共に堅くなれり。

〔五六一一〕
場合による

黒三は、例へば敵の前線の背後に廻つて後陣との連絡を絶つ好手。あゝいま、川の渡頭を扼し、橋の燒渡しを、白のイの渡りを妨ぐ、手強くして宜し。

〔五六一二〕
黒堅く打易し

黒三と、直ちに附ける手もあり。黒五の割込は、謂はゆる五風十雨と言ふべきか、時、宜しきに適へり。

〔五六一三〕
黒厚く、善し

九と當て十一と粘ぎ、黒の二子は敵中に死しも、外勢を十九も味方の厚壯に導く。で忠魂義烈、死して百世の後餘榮を傳ふ。

〔五六一四〕
黒稍損但堅し

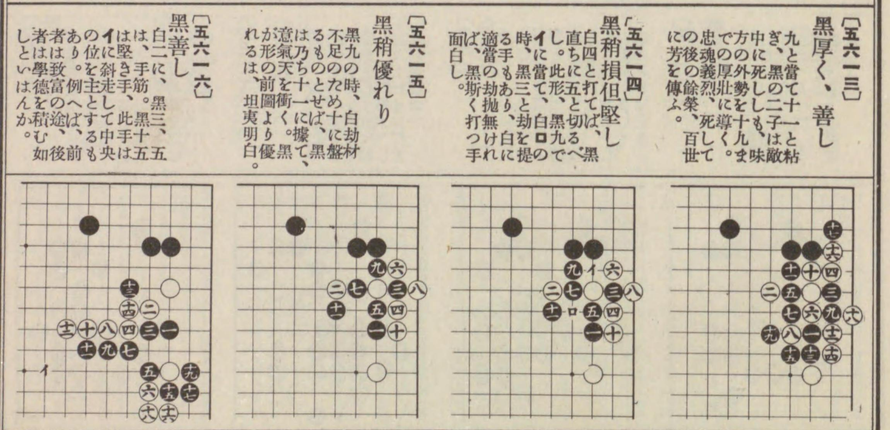
白四と打て切れば、黒直ちに五と打て切るべし。此形、黒九で五に當て、白ロの時、黒三と劫を提る手も有り、白に適當の劫抛れば、黒斯く打つ無つけ手面白し。

〔五六一五〕
黒稍優れり

黒九の時、白劫材不足のためせば、黒のとせば、黒は乃ち十一に據て、意氣天を衝くの優れるは、前圖より優れること明白。

〔五六一六〕
黒善し

白二に、黒三、五は堅き手筋。黒十五は斜走して中央も主とするも、後前者は學德富んで致遠の位を積むを善しとするも、如何はんか。



〔五六一七〕
黒稍利勢なり
白二の附けは、多く好まず。

〔五六一八〕
黒善し
白十でイに提れば、黒ロに據つて右邊に威を振ふ。白十、十二。乃ち、黒十三、十五。あゝ兩軍進退懸引の自在なる、恰も手足を用ふるが如し。

〔五六一九〕
黒優れり
白六と打ち、黒に七と打抜かるゝ形は、如何なる場合と雖も面白からず。又た、白二を手抜きして他に打てば、黒三と白一子を圍みて黒有利の形。

〔五六二〇〕
要點約言
（第九十型イ）
白二では、イロ及びハなければ、白イなる點にて、黒ロに直ちに白を隔てゝ伐つに。

〔五六二一〕
基本圖
（第九十型ロ）
實戰には、白は、或はイに拓く場合も多し。黒一、三は最も多く、この前同、一、二の間に打込むと、隅を堅くする狙ひ、常用の好手なり。

〔五六二二〕
參考圖
白一は、イ或はロに守る手もあり。次に白一或はイ、ロなれば黒は手を拔き他に轉ずるを普通とす。然し、黒ハにては宜しくなし。また二に飛ぶも確なり。

〔五六二三〕
定石
黒**締り、白手拔の形**
黒三の時、白手拔きす、黒乃ち怒濤の如き勢を以て一に白を押入るゝ。善し。黒七可なり、陣潰し、白イの附越しを狙ひ、隅を防ぐ。（次圖）

〔五六二四〕
黒善し
黒轉ばぬ先の杖。黒籌は周密を尚ぶ。三に先だち一と突き、當りし手より水の漏るゝ如く上手を防ぎ、善し。白二にて七、或はイなれば、黒七、或はロなれば二。

〔五六二五〕
黒勝
夫れ大姦は忠に似たり。匹夫の勇、時に英風の颯爽たるあるも、思はざるの甚しきもの、善き審判者なり、善き終には馬脚を露はす。白六、八は、匹夫の勇なり。

〔五六二六〕
白潰れ
白四、六、惡し。白八の時、黒が十三の切りを豫見して、悠然と禮度に學ぶべく、九に粘ぐ、白十二に打てば、黒はロ。

〔五六二七〕
白潰れ
黒十五と白の死活を脊し、次に十七の❶の白を當てゝ亨樂して二と加へむ。弱の用兵巧なり、見るべし。白の纏に活きるも、黒の外勢厚壯なり。

〔五六二八〕
黒善し
白二をイは、黒四、白ロ、黒ハと防ぎ、白ホの打込を、黒ニと常形に受る、七、手順善し。

〔五六二九〕
黒隅奇襲さる
その昔、ローマ帝國の華やかなりし頃、凡ての道はローマに通じて躬寒すと。白いま左四右五を望む、所無き、黒の驍手、敵ふべし。

〔五六三〇〕
白善し
黒八の惡し。黒六、七の閃光は電撃の如く飛びて、九に空間を掠めて、白ホの打込を防ぎ、白ニと常形に受る、七、手順善し。

〔五六三一〕
白善し
此非常時に白五、あゝ如何なる病をも能く治して古しへの神醫扁鵲を想ふ。蓋し生死回生の手筋なり。黒六は若し七に約へば、白六にて攻合勝。

〔五六三二〕
要點約言
（第九十型ハ）
五間拓には、黒は一及びイ、ロの打込むに、其中黒ハは一盤の最も善し。

〔五六三三〕
基本圖
（第九十型ハ）
黒四の締り、白手拔きの形
白三の五間拓は最も廣拓の中にて、此場合黒にはイ、ロ、ハの打込あり。しくして最も善し。

〔五六三四〕
通常の形勢也
黒九、稚なり。斯かる形は、場合により、黒はイの盤を見るべし。（變化五六一二圖以下）

〔五六三五〕
通常の形勢也
白六に尖めば、白八、黒七に應け、黒十一と打つべし。白イの狹きが如きも、之に因つて黒ロなどの通形を防ぐ。白イは黒ロの拓きに比せば、遙に深遠なり。

〔五六三六〕
白面白き形
黒十一に守備を加へなどは、富士川の水禽に腰を拔かせ、緩かに曬して病者か、ラッキ、斯くて白ヲンならぬ十二、セツキに打込み、一、二、嚴し。（次圖）

〔五六三七〕
場合による
黒五に失す。白は敵失に乘じ六、八、十と、白陣而して今や朝日に向ふ。向日葵の如く黒七を生ず。黒七、九横なれば、氣溢す。白イとなる、白得、失は本圖と略同じ。

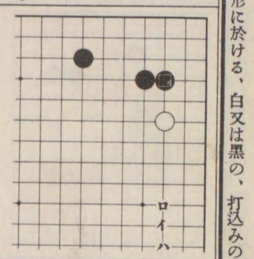
〔五六三〇〕
黒有利の形
白四をイに引けば、黒七に行切る形に、また、白八をロに飛び打てば、黒ハをロに飛べし。其形、何れも黒善し。

〔五六三一〕
場合の手段
本因坊元丈八段
二子某氏
白二奇手、敵の意表に出で、周章度を混亂し、失に乘じ、勝を收めんとす。元丈師の打棋は常に斯かる着想あり。

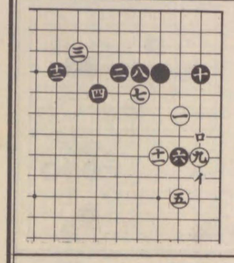
〔五六三二〕
要點約言
（第九十型ロ）
白二では、イロ及びハなどの應あり。イはロに黒ニ。ハには黒ホの白れにして、強く戰へば宜しく、黒地自ら固む。

〔五六四一〕
要點約言
（第九十型全部）
白イロ或はハ、そして黒▣の形に、於て黒直に打抜せば、白手抜むべし。斯くして終始攻勢に出で自ら陣形を固むる策戰可なり。

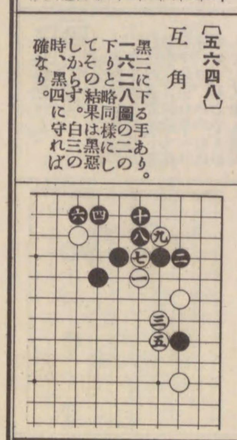
〔五六四二〕
基本圖
（第九一型）
黒四とある時に白五、或はの、㊁、㊂と廣く拓く手は多くの場合打過なり。（二六〇五圖の如く打つべし）



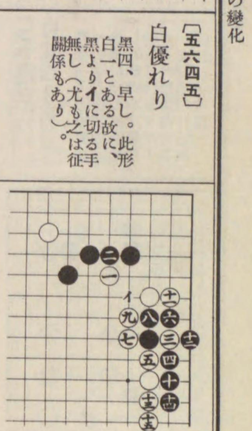
〔五六四三〕
基本圖
（第九一型イ）
此形、黒六の點への打込みは、白三の四の交換無き場合に、黒も四の交換ある手なれど、本圖の如く此交換あるは、一層嚴しく打込みて善し。



〔五六四四〕
定石
白七、次に九と附け、黒十盤の手、善しと確なり、之を直に出でイ、或は綿出す手は、面白からず。（次圖へ）



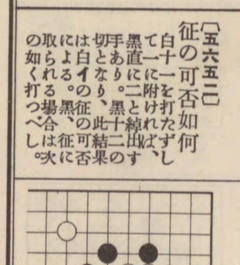
〔五六四五〕
白優れり
黒四、早し。此形白一とある故に、黒よりイに切るも無し（尤も之は征ち關係もあり）。



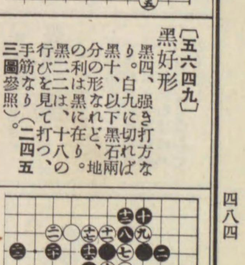
〔五六四六〕
黒形無理なり
黒五と綿出して、以下十三と切る手無理なり。此時白十四、黒驚心駭目遂に白を突破せざるを得ず。黒十八、二十と突破せしめざるを得ず。黒の潰敗を思ふ。

〔五六四七〕
黒時に面白し
白十二尚早なり。斯くて黒を易々と下ると略同様にしてその結果は、白三の外切りに白を援出し、黒十五今や黒四に守れば確なり。

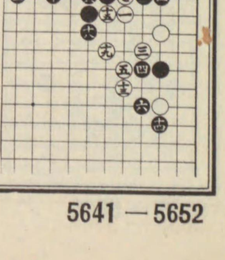
〔五六四八〕
互角
黒二に下る手あり。一六二八圖の二の如く下ると略同様に黒は、白三に守れば確なり。



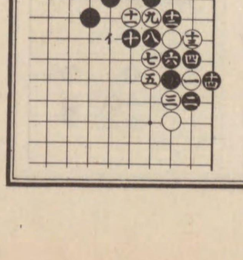
〔五六四九〕
黒好形
黒四、強手打方なり。白九切れば黒十、以下黒石兩ながら在り。地の利は黒に在り。黒二を見て十八の打つ手筋なり（二四五圖參照）。



〔五六五〇〕
白攻合勝
黒十、白の手段に陷る。即ち白二に至つて白攻合勝なり。但し、その得失より言へば、黒二八を打つたすぐイの挾み位にて先づ互角なり。



〔五六五一〕
白攻合勝
白二五善し、此手をイに打つとなれば、黒劫或は攻合となるも白三をハに打つも、白五の附にて、黒七に突出すも、白は本圖と同じ。



〔五六五二〕
征の可否如何
白十一を打たずして直に十二に附ければ、黒十一と綿出すも、白十二と出で劫となる。此劫結果の征否如何には、白イの征可なり。黒二の征には、白ロの取る手あり。黒ハの取る手あり。一六二八圖の二の如く打つ場合は、次に黒二に下る手あり。黒ハの取る手あり。一六二八圖の二の如く打つ場合は、次に黒二に下る手あり。

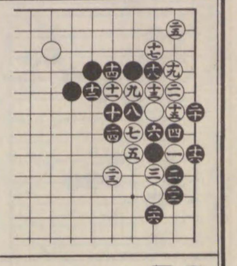
〔五六五三〕
得失は場合
征惡しき場合は黒十二と打つべし。此は十二と打つも、黒よりも十六と變化あれど、黒の要點を占むるを以て、白の軍至つては、白の軍形全からず。白の軍四も起らむ。悲風

〔五六五四〕
黒少しく善し
白征に取れぬ時は次に十三と綿ぶべし。聞け！八行に至て、黒軍天地を震ふ。鼓の聲、

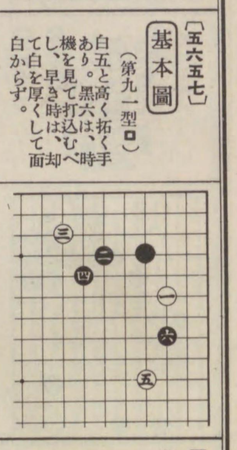
〔五六五五〕
黒に稍利あり
圖の形となり黒は三目を取り、且つ初めに黒一に打込み、次に三と綿出せしは達したる譯なり。（五六〇五圖とは稍異る）

〔五六五六〕
要點約言
黒六の打込は、白イに附ありて、其結果には非ざるも、兎に角此打込は、白の活動を阻止する意味もありて面白し。

〔五六五七〕
基本圖
（第九一型ロ）
白五と高く拓く手あり。黒六は、機を見て打込むべく、早きは却て白を厚くして面白からず。

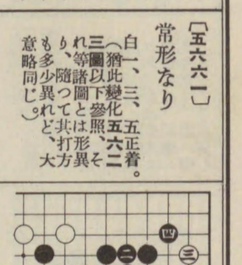


〔五六五八〕
常形なり
白一は、黒の打込に對する必然の應手。黒八まで常形なり。

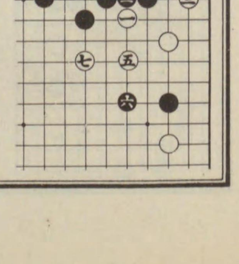


〔五六五九〕
形勢互角
潮越憲作七段
向井一男四段
二子番勝
黒十、十二、場合による、黒二二以下三十までの手段善し。

〔五六六〇〕
基本圖
（第九一型ハ）
白五の四間拓なれば、黒先づ六とカと、次に八と打込む手よし。



〔五六六一〕
常形なり
白一、三、五正着。（猶此變化三圖以下參照、其等諸圖と形異れど、其打方も多少異れど、大意略同じ。）



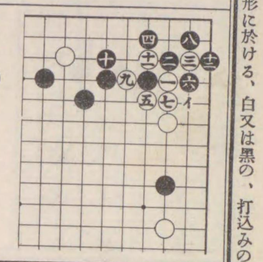
〔五六六二〕
白潰滅の悲譜
白は大空を覆ふの豪壯を街つて五。サマ手、終に下、黒は六、以下敵を潰滅せしむ。

〔五六六三〕
黒の勢善し
黒十四に鵬翼を張り、一搏九萬里大勢を握ぬ。一蓋し、把の要點なり。尤も、此手では、善しに切るも善し。（五六一六圖參照）

〔五六六四〕
定石
白十一の二段綿に黒は一二の掛粘ぎ最も確なり（二六圖參照）。黒十二は、イの覗きを防ぐと共に、七までの白の脚を窺ふ。

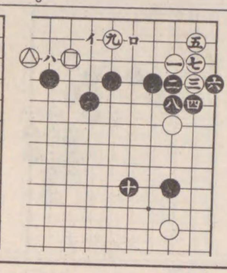
〔五六六五〕
黒善し

白七をイに劫とすれば、黒七にも劫とりにて、白に劫無し。即ち、普通は黒劫勝ちとなるを以て、白七で特殊の形勢のイは外打難き手なり。



〔五六六六〕
黒、堅實有利

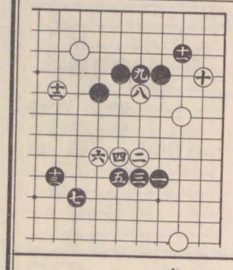
九に至つて、五よりも⑧に迄白は低地長となるの形となる故白は好まず。黒十も他に大場に打つも宜しく、又直ちにイに附け、又白ロ、黒ハに突出すも宜し。



〔五六六七〕
基本圖

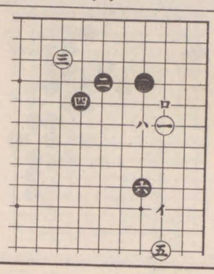
（第九一型ニ）

白、五に五間拓なれば、黒六か、或はイ、又は五間拓に限り、黒ロに尖附けて白ハに打込むの時黒イに手もあり。



〔五六六八〕
黒優れり

白二、手筋なり。白十二、黒は隅を活分なり。其（二七〇二圖以下參照）



〔五六六九〕
定石

白七、九、十一と打てば確なり。其代りには黒も亦、堅くなりて打易し。

〔五六七〇〕
白の形無理也

白二以下徒に虚勢を張つて、悉く黒に實利を奪はるる。見よ、此形、黒の前に鋭烈なる白軍の運命。既に白十二をイなれば黒ロにて善し。

〔五六七一〕
白、四分五裂

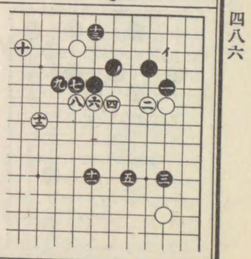
白八なれば、黒は九、十一と兩斷すべし。（此變化五六二圖以下參照）

〔五六七二〕
參考圖

白二、四と二段に綿れば、黒は五、七の手善し。（二六四六圖以下參照）

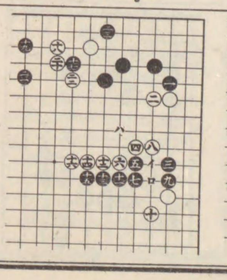
〔五六七三〕
黒善し

黒一に尖附けて後、三に打込む手あり。此時は、白イに打込む變化は（二五八六圖以下參照）



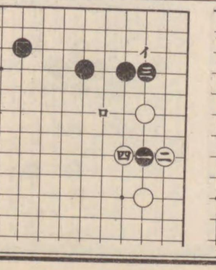
〔五六七四〕
常形黒打易し

白四を八なれば黒イ。五なれば黒ロ。ハなれば黒十五に飛ぶべし。ぶつかつて此處で厚くし、次に七以下三、三に善し。黒は最も肝要。



〔五六七五〕
要點約言

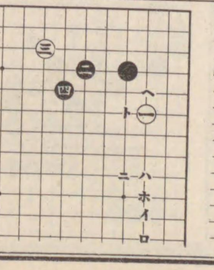
（第九一型ニ）此形、白ロは廣拓なれば、黒ハ、白イなれば、黒ロなれば、黒ホ（白ヘなれば、黒トに白ニ、黒ホが最も善し。



〔五六七六〕
實戰參考圖

先番　井上一郎四段
勝　向井一男四段

白二は最も穩健なれど、二はイ又はロもあるも、黒■も最も善し。而して三の手段は、黒善し。



〔五六七七〕
黒善し

白イの手無ければ、黒は九にて善し。（此變化五六二圖以下參照）

〔五六七八〕
實戰參考圖

白の手段面白し

勝　細田正義五段
先　加藤三七一三段

兩氏對局にて星に打ち、白■黒◉にある形、黒二をイなれば白ロにて善し。

〔五六七九〕
白面白し

（前圖の變化）

白三を打たずして五に尖めば、黒雀躍して包圍す。隅の白二子は中に苦しむ。斯くては白の惡しきこと論なし。

〔五六八〇〕
得失時による

（前圖の變化）

黒十一をイに切れば、白ロ黒十六の時は、又白ハと抱えて七に打つ。黒惡しも、白二の如く効なるも、白一目を通して閃く電光の如く煌たり。

〔五六八一〕
黒善し

白イの手無ければ、黒は九にて善し。（此變化五六二圖以下參照）

〔五六八二〕
實戰參考圖

白の手段面白し

勝　細田正義五段
先　加藤三七一三段

兩氏對局にて星に打ち、白■黒◉にある形、黒二をイなれば白ロにて善し。

〔五六八三〕
白面白し

（前圖の變化）

白三を打たずして五に尖めば、黒雀躍して包圍す。隅の白二子は中に苦しむ。斯くては白の惡しきこと論なし。

〔五六八四〕
白面白し

斯かる形は他に種々變化あれど、要するに白、五、七と打つて中央に抱へ込むが、白二目を通して互に導いて、形勢結果は白善し。

〔五六八五〕
黒確なり

本因坊秀哉名人
二子岩本薫四段

黒一、堅實の手筋。白二、機變の妙着なれば、圖の如く黒十三まで白は、白は其効果がらず。

〔五六八六〕
基本圖

（第九二型）

白い黒ろの交換をなさず、白イ或はロと拓き、黒直に打込みたる變化。

〔五六八七〕
基本圖

（第九二型イ）

黒四と打込む手あり。之は劇しき手段なれば、黒とても、四圖の形勢を察して後、此手を出すべし。白イの時、黒ロの打込は九十型イと異りて打過なり。

〔五六八八〕
定石

此形白猶イに飛べば、黒ロ、白ハ、黒ニと飛ぶべし。白は邊を堅くし、斯く黒は（十）ロの如くニを飛出すなれば、元來四形と打込むの豫定手。

〔五六五五〕
黒善し

白七をイに劫とすれば、黒七にも劫とりにて、白に劫無し。即ち、普通は黒劫勝ちとなるを以て、白七で特殊の形勢のイは外打難き手なり。

〔五六五六〕
黒、堅實有利

九に至つて、五よりも⑧に迄白は低地長となるの形となる故白は好まず。黒十も他に大場に打つも宜しく、又直ちにイに附け、又白ロ、黒ハに突出すも宜し。

〔五六五七〕
基本圖

（第九一型ニ）

白、五に五間拓なれば、黒六か、或はイ、又は五間拓に限り、黒ロに尖附けて白ハに打込むの時黒イに手もあり。

〔五六五八〕
黒優れり

白二、手筋なり。白十二、黒は隅を活分なり。其（二七〇二圖以下參照）

〔五六五九〕
定石

白七、九、十一と打てば確なり。其代りには黒も亦、堅くなりて打易し。

〔五六六〇〕
白の形無理也

白二以下徒に虚勢を張つて、悉く黒に實利を奪はるる。見よ、此形、黒の前に鋭烈なる白軍の運命。既に白十二をイなれば黒ロにて善し。

〔五六六一〕
白、四分五裂

白八なれば、黒は九、十一と兩斷すべし。（此變化五六二圖以下參照）

〔五六六二〕
參考圖

白二、四と二段に綿れば、黒は五、七の手善し。（二六四六圖以下參照）

〔五六六三〕
黒善し

黒一に尖附けて後、三に打込む手あり。此時は、白イに打込む變化は（二五八六圖以下參照）

〔五六六四〕
常形黒打易し

白四を八なれば黒イ。五なれば黒ロ。ハなれば黒十五に飛ぶべし。ぶつかつて此處で厚くし、次に七以下三、三に善し。黒は最も肝要。

〔五六六五〕
要點約言

（第九一型ニ）此形、白ロは廣拓なれば、黒ハ、白イなれば、黒ロなれば、黒ホ（白ヘなれば、黒トに白ニ、黒ホが最も善し。

〔五六六六〕
實戰參考圖

先番　向井一男四段
勝　井上一郎四段

白二は最も穩健なれど、二はイ又はロもあるも、黒■も最も善し。而して三の手段は、黒善し。

〔五六六七〕
黒善し

白イの手無ければ、黒は九にて善し。（此變化五六二圖以下參照）

〔五六六八〕
實戰參考圖

白の手段面白し

勝　細田正義五段
先　加藤三七一三段

兩氏對局にて星に打ち、白■黒◉にある形、黒二をイなれば白ロにて善し。

〔五六六九〕
白面白し

（前圖の變化）

白三を打たずして五に尖めば、黒雀躍して包圍す。隅の白二子は中に苦しむ。斯くては白の惡しきこと論なし。

〔五六七〇〕
得失時による

（前圖の變化）

黒十一をイに切れば、白ロ黒十六の時は、又白ハと抱えて七に打つ。黒惡しも、白二の如く効なるも、白一目を通して閃く電光の如く煌たり。

〔五六七一〕
黒善し

白イの手無ければ、黒は九にて善し。（此變化五六二圖以下參照）

〔五六七二〕
實戰參考圖

白の手段面白し

勝　細田正義五段
先　加藤三七一三段

兩氏對局にて星に打ち、白■黒◉にある形、黒二をイなれば白ロにて善し。

〔五六七三〕
白面白し

（前圖の變化）

白三を打たずして五に尖めば、黒雀躍して包圍す。隅の白二子は中に苦しむ。斯くては白の惡しきこと論なし。

〔五六七四〕
白面白し

斯かる形は他に種々變化あれど、要するに白、五、七と打つて中央に抱へ込むが、白二目を通して互に導いて、形勢結果は白善し。

〔五六七五〕
黒確なり

本因坊秀哉名人
二子岩本薫四段

黒一、堅實の手筋。白二、機變の妙着なれば、圖の如く黒十三まで白は、白は其効果がらず。

〔五六七六〕
基本圖

（第九二型）

白い黒ろの交換をなさず、白イ或はロと拓き、黒直に打込みたる變化。

〔五六七七〕
基本圖

（第九二型イ）

黒四と打込む手あり。之は劇しき手段なれば、黒とても、四圖の形勢を察して後、此手を出すべし。白イの時、黒ロの打込は九十型イと異りて打過なり。

〔五六七八〕
定石

此形白猶イに飛べば、黒ロ、白ハ、黒ニと飛ぶべし。白は邊を堅くし、斯く黒は（十）ロの如くニを飛出すなれば、元來四形と打込むの豫定手。

〔五六八九〕
黒善し

白いま馬に鞭あてて一へ大斜走す。黒五が遠きの故に、イの一間飛よりも善し。

〔五六九〇〕
黒堅し

黒六の飛を先にする手あれども、普通は黒九を先にする方穩かなり。黒八以下手強くして善し。黒二六はイに打つ手あり。（次圖）

〔五六九一〕
場合

黒いま二六。白二七なれば黒二八は當然と斯くて黒三十に至る。場合により、黒は斯く打つ方有利にして宜し。

〔五六九二〕
黒の勢優れり

白いま十一。黒は東西伐、下追撃急なり。十二以六に中の白十を白之を活の黒に至つて中の白を得るは假令上に厚を加へむ。白から面白からず。

〔五六九三〕
黒可なり

白難開に當り意氣毫末も衰へず、斜走せしに一へ大斜走せり。白の手筋面白し。次に白ロに打つ筋あり。（五七一八圖以下參照）

〔五六九四〕
定石

黒にイ、或はロに石無き場合、白五、黒六、十二に中原黒益厚を加ふ。

〔五六九五〕
黒稍優れり

（前圖の變化）白九、十一早し。斯く打てば、黒十、

〔五六九六〕
黒優れり

あゝ豺狼の飽く所を知らざるが如き貪り。白九は打過ぎなり。此時黒十に尖んで黒常用の好手四、黒イに續く。此形後に黒イに緯ぬる手あり。（次圖以下）

〔五六九七〕
黒先劫（定解）

一隅の形は、黒●に一間に應けせし時の實戰に出來る圖なり。黒イに駄目ヅマリとなりた形と本圖の形とは結果異れり。參照。五七〇三圖

〔五六九八〕
黒先白活

黒は遺恨の惡手に、流星底白色の長蛇を押しし潰逸すべく白ロの黒七をイに活なれば、黒九をイに打つも白十にて活なり。

〔五七〇〇〕
黒先白死

黒一の時、白は死。而して白頭の二に立ては、白ロ。

〔五六九九〕
黒先劫

同じく劫なれど、之は白にイと打抜かれる劫となつて普通は黒損なれば、黒は五六九七圖の如く打つべし。

（十劫トル）

〔五七〇一〕
黒先白死

夫れ古きを温ねて新しきを知るべし。白二は惡手なり。又白三に黒四にて白死なり。

〔五七〇二〕
黒優れり

白十九、止むを得ず。此手をイなれば、黒ロに綽ぬれば、白死。此形、外圖の白、多難なり。給も大雷雨に遇ひ、屋瓦飛び、雨の注ぎ下るが如し。

〔五七〇三〕
黒先白死

黒●にある故に隅の白は死なり。白二をイなれば、黒ハ。又白イを二なれば、黒ロに白は三に黒は彼方に永眠す。墓の廻る手順よりは二に二になりて黒白し。

〔五七〇四〕
黒優れり

それも序あり、進退節度の度を失ひ、無理なり。黒形何れの變化に歸するも順よりは二に二になりて黒白し。

〔五七〇五〕
黒の形堅實

白十一に綽ね來らば、黒十二善し。黒、氣盛んに、鋒鋩なり。又十一、白十三と行かれば、黒イにッケて前圖の變化と略同じ。

〔五七〇六〕
要點約言

（第九二型イ）黒四手強く、時に面白し。或は白五でイなれば、白共に中央に進展し、又白五でハなれば、黒ニ、白ホと黒へと白を隔てて善し。

〔五七〇七〕
基本圖

（第九二型ロ）

四間拓に、黒四と尖附けに、次に六と打込む手、無理なり。

〔五七〇八〕
白勢稍可なり

白一、三の附行び、此の場合甚だ善し。白十一、危きや、白十四をハなれば白イなれば黒ハの時、白十七に打つべし。

〔五七〇九〕
黒打過の形

良賈は深く藏して虚しきが如く、君子は盛德あつて容貌愚なるが如しと。黒十、八、二十、二は小先の惡手にして却つて用に過ぎ、黒二六をイなれば、白ロ。

〔五七一〇〕
黒無理大破す

油斷大敵、千里の蟻穴に潰ゆ。黒前圖三九に備へず二に切つて先白二三と二つ、白よりも二三と二、る。黒五と惡し。唯を衝かれば、隅は切さりながら此切は白勝なり。

〔五七一一〕
白善し

黒三十に下れば、白三の綽を三に妙なり。黒一、白二を三に白ロ黒イなれば、白四に切るの次に白八の手あり。猶他に變化あれども何れも黒惡し。（次十四ノ處）

〔五七一二〕
白稍優れり

白いま十二、乃ち十三、十五。黒十六に危きや、白は渡りを盤上の要點。白十四をイなれば白ロに打つ筋あり。黒厚し。

〔五七一三〕黒として不好

黒八と絆ねぬ。白九に切つて善し。彈丸が飛び、人が倒れ、馬が躍つた。十七に至つては混戰亂鬪なり。此形、變化至難、黒として好まざる形なり。

〔五七一四〕白善し

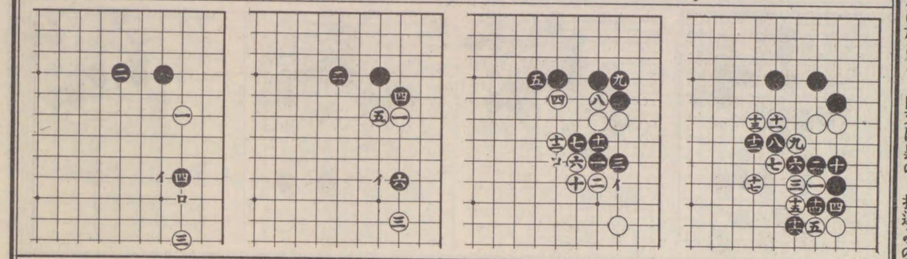
黒一に打込めば、白二をイなれば、黒三をイと行び、白十と行び前變化と同じ。又黒五をロなれば白は八、黒九、白は五にて善し。

〔五七一五〕要點約言（第九二型ロ）

以上變化の如くにして黒四に打込む手無理なり。斯く打てば白イにツケル筋ありて、結果黒惡し。

〔五七一六〕基本圖（第九二型ハ）

白三の五間拓には黒四、及びイ、ロの打込あり。（イ、ロは下參照）

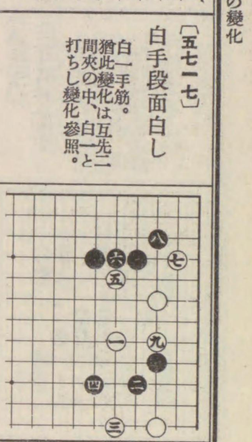


〔五七一七〕白手段面白し

白一手筋。猶此變化は、互先二間夾の中、白一と打ちし變化參照。

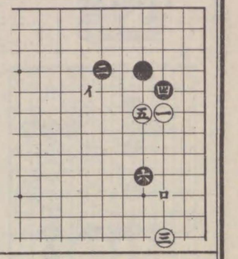
〔五七一八〕黒、罠に落つ

烏の羽た狐の顏した狐！羊の皮かれて、黒は二と罠に落ちぬ。白三以下五に矢を重ねて此形に白は餌にしたり。七を得たり。黒八妙。黒八と七の要點を「一占む。肝要の一着。黒八、白良し。



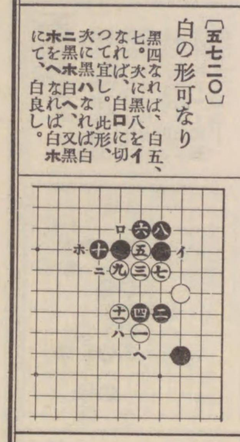
〔五七一九〕黒形確且善し

白三なれば、黒四善し。又白三をイにても、黒は四。又白三なれば黒イ、白ロ。白三、黒四、白五、更に白三なれば、黒ロ、打過ぎ。爲に、白七、二十に至つて黒は上に堅陣、白は振はず。



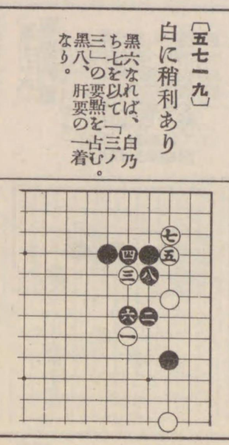
〔五七二〇〕白の形可なり

黒四なれば、白五、七。次に黒八をイにつれば、白ロ。此形、次に黒ハなれば白ホ、又黒ニをヘにて、白ホなれば白良し。



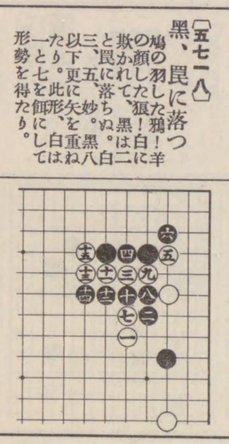
〔五七二一〕白に稍利あり

黒六なれば、白乃ち七の要點を「一占む。黒八、肝要の一着なり。



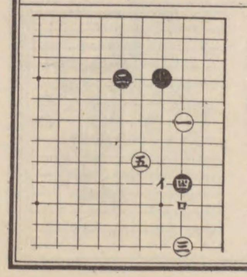
〔五七二二〕白形光風霽月

黒二、白三。以下白の石の捌き、手段輕くし好し。の高雅なる、鼓に、人品甚く、胸中酒落、光風霽月の如き君子を聯想す。



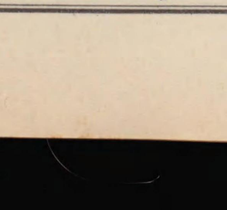
〔五七二三〕黒甚だ利勢也

兵、驕るものは滅す。ロシア、遠征のナポレオン、挿狹間の今川義元、皆此形にて敗れ、白の朝過なり。黒二善し。



〔五七二四〕要點約言（第九二型ハ）

黒四なれば、白五に變化あり。又黒は白の富し、故に、白イ或は下ロを以て此形の要點とけする。

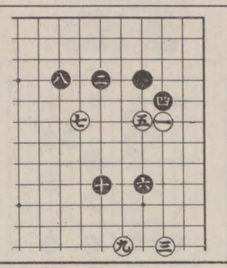


〔五七二五〕基本圖（第九二型ニ）

黒は四、而して六もあり（尤も形勢によりては白は六もあり）、但し五六ロ黒四は、五六九圖以下イとある故に、ロが善し。

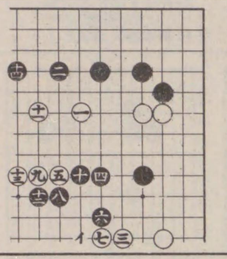
〔五七二六〕定石

白七、手筋。黒八の時は、中央未だ白より包圍さる手もなし。故に先づ八に飛んで邊を堅くせり。



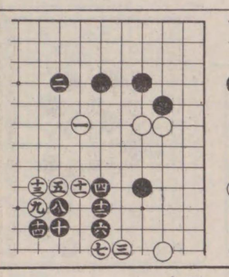
〔五七二七〕互角

黒六、八は實戰に於ける常用の手筋なり。又白五をイなれば、黒は無論五の一間飛にて棋路簡明。



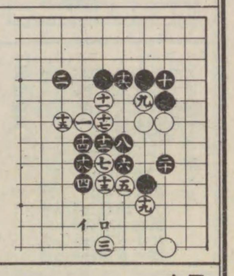
〔五七二八〕黒の形確なり

白九なれば黒十、白十一、黒十二となりて、黒軍は旌旗鮮かに陣容整然たり。



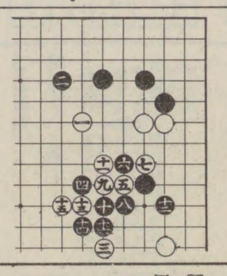
〔五七二九〕黒形輕快

黒四、六は棄石なれども、之を少し延ばして宜し。敵の誇張中に在つては、又腹背に擬するものか。或は黒一天動地の活劇を演ずべし。



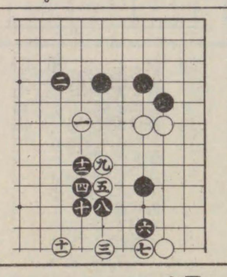
〔五七三〇〕黒重厚の形

白五の附けも、理なり。黒六は輕く、風若薬に薫り、萬物生々たる趣あり。白七を八なれば黒七にて良し。



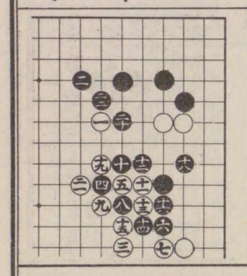
〔五七三一〕白九に破綻す

實力之に伴はざるに氣鋭に逸つて事を誤りしもの、ナレオン三世然り、武田勝頼然り。白九は血氣に逸つて惡手。黒は手を抜いて形勢を觀望する妙あり。



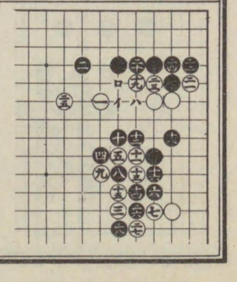
〔五七三二〕場合による

（前圖のつゞき）黒は、一と附越して隅の白二目と替る手もあり。此形、普通ど形、普通ど惡形。



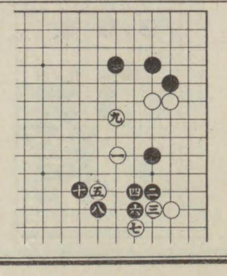
〔五七三三〕白甚だ惡し

黒二六、二八に切つて出づ。殺氣野に滿てり。荒涼たる白軍の慘狀、サも且つ眼を蔽ふだ。白二、黒イ、白ロ、黒イ、白三を怠れば、黒ハ、白七ノ處



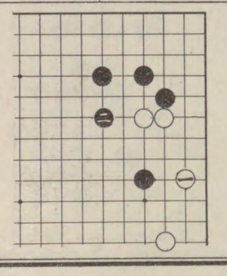
〔五七三四〕黒堅實

白一に盧喝す。黒二、四は、乃ち手筋なり。白を左右に隔て、一絲亂れざる好形を張つて、黒は中央に進出せり。



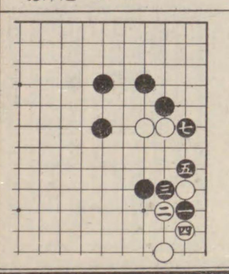
〔五七三五〕白低し

玉砕するも甕全を愧づ、像なり。春畝公！白一は單に上の白を凌がんとする場合の止むを得ざる手なり、普通好まず。黒二は他に打つも宜し。（次圖）

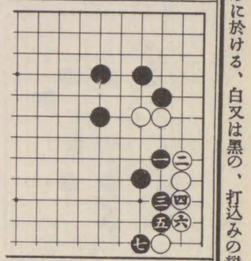


〔五七三六〕場合による

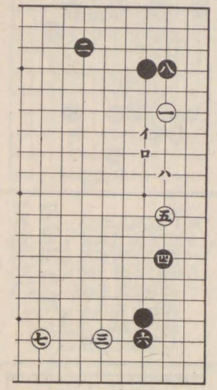
（前圖のつゞき）黒は、一と附越して隅の白二目と替る手もあり。此形、普通ど形、普通ど惡形。黒は手を抜いて形勢を觀望する妙あり。



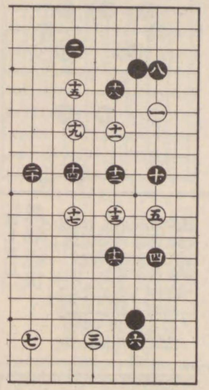
〔五七三七〕
黒善し
場合によつては、黒一、三と打つて、上より約へる手もあり。黒は兵法の上乗たる、戰はずして勝つの途を擇び、蓋し黒は位に據り品を保ち、白を低きに屈す。



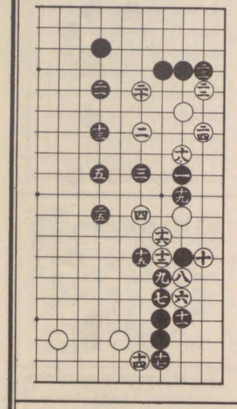
〔五七四〇〕
基本圖
（第九三型イ）
双方黒大斜走廻け、猶黒八の締り、白手抜の形
白五、黒四と八に締りのある形、此時は白はイ或はロに守るを普通とす。若し手抜きせざれば黒ハに打込むべし



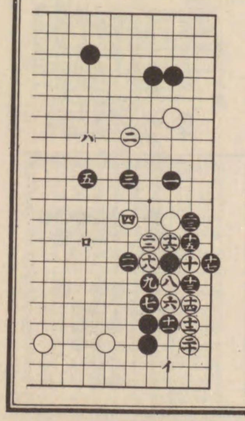
〔五七四一〕
定石
黒十の打込み、夏日の如く烈しく秋霜の如く厳し。白十六、十八と打つて双方の隅を堅め、次に二十に立つて上下の白を睥睨す。黒盛んなり。



〔五七四二〕
黒大に優れり
白六は窮して亂打過ぎなり。黒十三の一撃白を埋伏せしむ、善し。白十八の時、黒十九は一歩上下の白を畏怖せしむ、此形黒優れり。



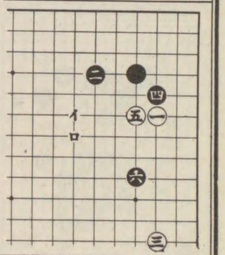
〔五七四三〕
黒善し
白十二、輕率。黒十三、十五の逆襲に白軍色を失ふ。黒十三で二三に凡廻すれば、白十四に粘ぎ、次に白イと附けて眼を奪ふ手あり。



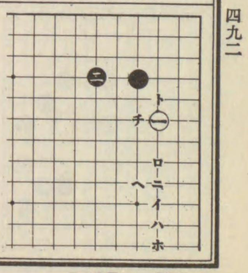
〔五七四四〕
黒厚く、善し
白十八、黒十九。白二十の時黒二一は、小利に泥まずして大勢を制する佳着なり。白わづかに二二へ盤るも白は痛地、黒の厚壮に及ばざるや遠し。

〔五七四五〕
白　敗
白十六、無理。二三までは必至。次に白イなれば黒ロにて、圍中の白は逃るべきやうもなし。また、攻白十二をハに飛べば、黒十三に切つて善し。
(九)十ノ處ッグ

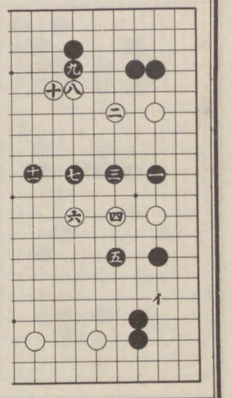
〔五七三八〕
要點約言
（第九二型ニ）
黒四、六の時は、次に白イ又はロが殆ど先手利きなれば、それだけに黒は白の鋭鋒を避け難し。多少の難戰を免れず。



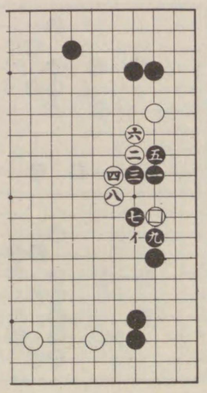
〔五七三九〕
要點約言
（第九二型全部ある）
白一、黒二と白イ、黒ロの三間に拓なれば、但しこれ之は打過ぎなり。黒ハの四間拓なれば、ホの五間拓なれば、黒イ又は黒ニなれば、黒ト白チ黒ヘ



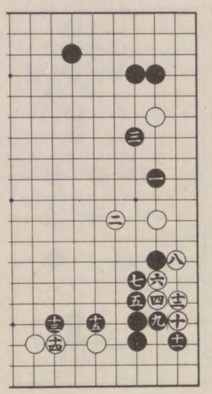
〔五七四六〕
常形なり
黒五の飛を先にすれば、白よりイと打込む手無し。以下十一まで、共に常形なり。



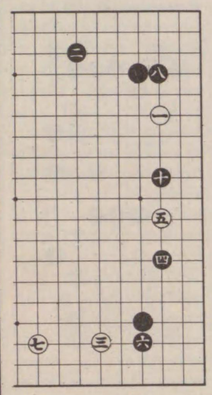
〔五七四七〕
黒利勢なり
白二、四、打過ぎなり。見よ、(四)の白いさゝや敵圍の中に孤立せるも、嘆に白八をイに綽ねるも、黒は斷乎九に切つて善し。



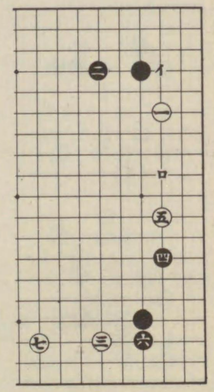
〔五七四八〕
黒善し
黒三善し。黒十一は五七四三圖以下の如く打つも良し。然し此場合、黒の三の方面に白より手段無き故十五までの運びとするも黒確なり。



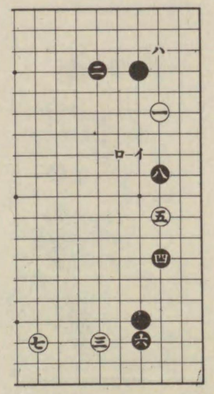
〔五七四九〕
要點約言
（第九三型イ）
白九の手抜、打過なり。黒より十と打込まれては、其結果は前變化の如くなりて、何れも白好まず。



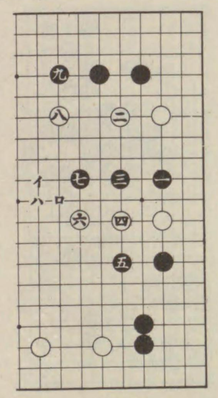
〔五七五〇〕
基本圖
（第九三型ロ）
黒二の一間應けは、前の大斜走應けと異り、攻勢に出でたる手なれば、黒はイの締り無くとも、直ちに黒ロと打込む手あり。



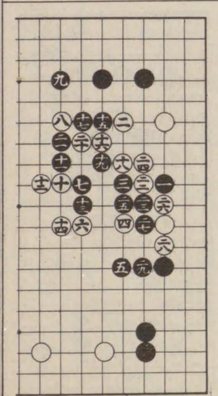
〔五七五一〕
參考圖
白イは五七四七圖。白ロは五七一七圖。白ハは五六九四圖。參照せられたし。



〔五七五二〕
常形なり
此形次に白イなれば、黒ロ。又白ハをイなれば、黒イに附けて中央に進展すべし。黒が一歩手一投足、悉く兩又の戈となつて上下の白に當らむ。



〔五七五三〕
白分裂の形
白十打過ぎ。黒が十五、十七の佳着を以て白を擊つや、一以て百に當らざるなく、白軍大に敗る。二九に至つては、八、十等の白は棄子を失ひし疲鳥の如し。



〔五七五四〕
黒堅實、善し

白二に打つも同じく黒三に飛ぶべし。白四、打過。白六、八の形浮薄なり。黒十五要點。白十六を二十に打てば、黒十八に打て、白を切る手あり。

〔五七五五〕
黒利勢なり

白六、八。乃ち黒奮進して九に絡み、良し。（此變化二八九四圖以下參照）白二一に至る。黒城、險にして兵威に、隱然たる兵威に、然たり。

十六ノ處手劫トル

〔五七五六〕
黒確なり

白二、四なれば、黒五、七に伐つべし。堅實の棋移、變化簡明なり。黒十七は二、十にても善し、十七は蓋し、外を厚くしイに夾撃せんとする手なり。

〔五七五七〕
黒大に利勢也

白十四、黒乃ち十五、十七に白を隔て伐つ。善し。白二十を黒イ、黒ロ白ハなれば、黒ニ（一九四〇圖參照）猶此形白ホに打込むも黒ヘにて、白に手段無し。

〔五七五八〕
黒の勢優れり

黒十三に敵の虚を伐って十九にその前錄を叩き、兵を引いて二三に至る。士卒精強、白既に惝々たり。又白二十を二に切つて勝。（次圖）黒は二十に切つて勝。（次圖）

〔五七五九〕
黒攻合勝

白二二をイに當て黒ロ白二二と運べば、黒はハに出撃す。而して、白ニの時、黒は三二。此形となるも黒斷然優勢、白の敗形歴然たり。

〔五七六〇〕
要點約言

第九一型と、（第九三型ロ）本圖黒一にある時直に八に打込む手とは何れも、先づ白を撃つて、接伐の間形を整へ地を確定せんとする手段なり。

〔五七六一〕
基本圖（第九三型ハ）

黒二を大斜走、黒四の方面を一間に應け、白五と五間に拓きし形。黒六、定法。

〔五七六二〕
基本圖（第九三型ハの一）

白七、九、正着なり。

〔五七六三〕
定石

黒十四の打込み、急所なり。然し之は機を見る事大切にして、若し其時を誤れば活きるも却て外を厚くせられて黒惡し。（五七七八圖以下參照）

〔五七六四〕
基本圖（第九三型ハの二）

白七は稍無理手、イ或はロを本手とす。

〔五七六五〕
定石

白十七、本手なり。黒十八、二十六の手順善し。猶此形は、黒十六の方面堅固なれば、後に強く黒はイに打込む手あり。（五八〇三圖以下參照）

〔五七六六〕
黒稍優れり

白十と粘くや、黒は十一に厚を加へし後、三に突撃す。可なり。黒十七に覗き、千載一遇の好機に乗ぜり、手順宜し。黒二三、堅守して活を確保す。

〔五七六七〕
黒の形確なり

黒四に打つも、形同じ。白二四、二六。黒此時、二七以下外厚を加へて力戰最も努め四一に至る、善し。黒の鋭堅を見よ。頗る千里、黒の鋭堅を見よ。

〔五七六八〕
黒優勢

白三十と切る、あゝその愚や極まれり。黒は隅に何等の懸念無し、乃ち三一。白イの切りに備へて三二の時、黒三三に掩撃す。黒威、隆々たり。

〔五七六九〕
黒勢大に善し

白三四、無理筋。白三六をロなれば、黒四六に白四用武の地無し。又白三四をロに下すも、黒四六。既に白軍今や、破滅の深淵に落ちなんとす。

〔五七七〇〕
黒善し

白いま三一。黒即ち三三に切つて力攻、愈よ急なり。黒三七に至りて、黒イの附を狙ふ、善し。猶此形、場合により黒は二九、三一の二目を捨てゝ打つべし。

〔五七七一〕
凱歌黒に揚る

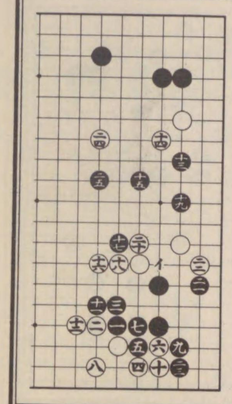
白二四なれば、黒二五善し。黒二九、三一、あゝ何らの好着ぞ。此形他に變化あるも、黒は強く攻めて打つべし。假令攻合となるも、手數は黒勝なり。

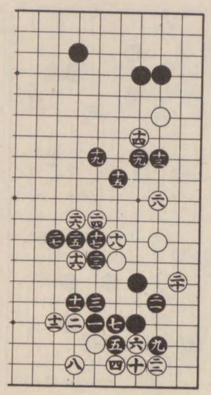
〔五七七二〕
黒優れり

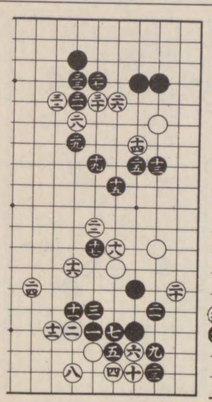
白二二、悪し。黒二三に突破す。黒二七。白は二八に打つて黒の二九と換らざるを得ず。黒の二九と換らざる形勢既に定まる。嵐の向よ、白の運命凋落を免れず。

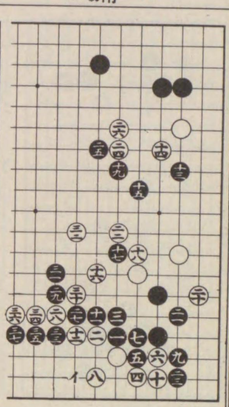
〔五七七三〕
黒の勢善し

白いま十八。黒十九に根據を作つてイの出撃を期す。白乃ち二十に備へざるを得ず。二三に先だつて黒二一、あゝ秋毫も戰機を緩うせざる黒の氣鋭、歎ずべき哉。









〔五七七四〕
黒優勢なり

白十六。黒は下隅の救援を兼ねて十七に白の十八を誘ひ、斯くて黒は十九への拍子を捉ふ。巧なり。

〔五七七五〕
黒形治まれり

四子 **太田清**（院生）

兩氏の打棋。嚴しくして宜し。十黒六、黒既に整陣し。四に至つては、黒既に張る。以下、黒甚だ打易し。

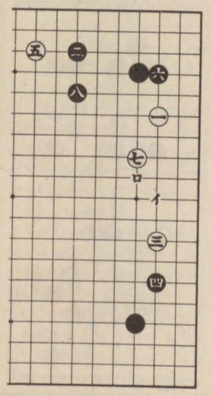
〔五七七六〕
要點約言

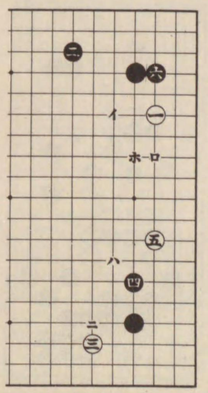
（第九三型**ハ**全部）

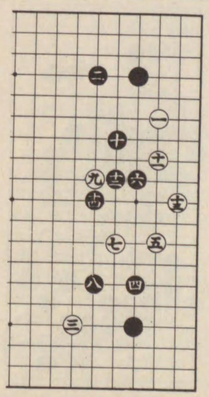
黒六、次に白**イ**なれば、黒**ロ**の打込を狙ひ、又白**イ**を**ハ**なれば、黒**ニ**、此處を厚くして後に黒**ロ**と打込むべし。又白**ハ**を**ホ**に守る變化は次圖以下。

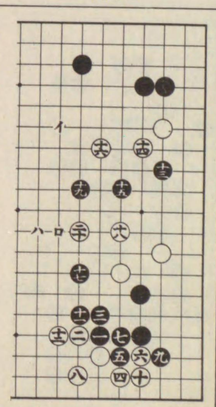
〔五七七七〕
基本圖

白七、定法。黒八の時、黒は**イ**或は**ロ**と打込む手あり。然し此打込は黒石が堅くなりし後ならざれば却て近くの黒に影響して面白からず。









〔五七七八〕
定石

㊈手抜

白十に突入す。この敵地蹂躙の手段、時に妙あり。黒十二の手順なれど、黒は、先手活なれば、白の外側厚くなる故に、得失は場合による。

〔五七七九〕
常形

黒七、九と附引く手あり。黒十一と打て、白の應答を試みし手順善し。白十二を**イ**なれば、黒十四。（**五七八一**圖參照）

〔五七八〇〕
互角の分れ

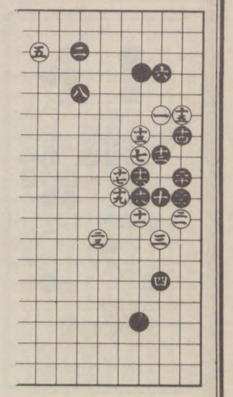
白攻合勝

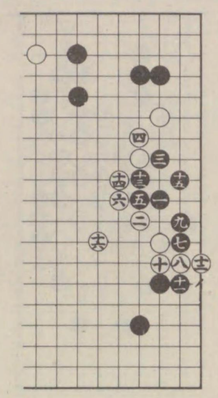
黒十三面白し。白二二、二四、二六の攻め、妙。此形は攻合黒敗なれど、黒の外圍厚き故に先づ互角の分れ。

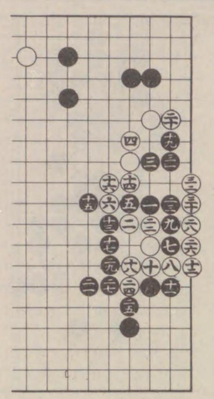
〔五七八一〕
黒悪し

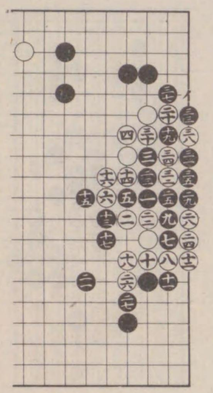
黒二三悪し。此形、黒が包圍の形狀九分ならざれば、黒が他に多少の劫替りを得るとも、白に**イ**と打抜かれて悪し。

㊎三四ノ處









〔五七八二〕
白虎口を脱す

白二二悪し。白二八、三十善し、之に因つて白漸く一手勝となり虎口を脱す。されど、黒の外勢は前圖よりも更に優れり。

〔五七八三〕
白善し

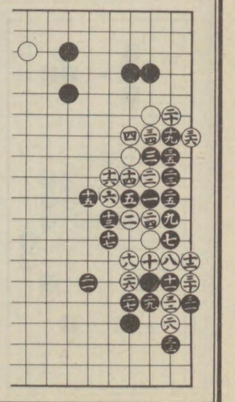
黒二一の當てを先にする手あり。黒二三、あゝ此一顧に黒が覆滅の因、萌せり。白二六は佳手、黒は地に伏して働く。哭すれども大事既に去れり。

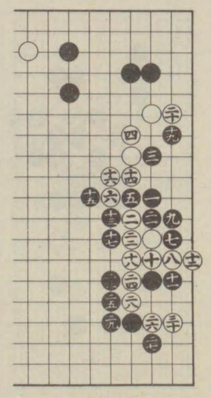
〔五七八四〕
白に稍利あり

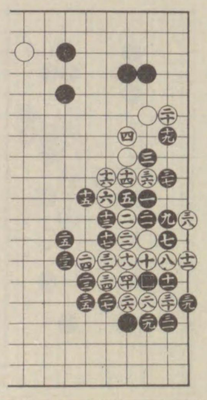
あゝ柳に風か、飛燕の輕妙か、黒二三、二五の手筋や面白し。此形、種々なる變化あれど、黒㊀十一の二目を取られては、外よりのシメツメ充分ならず、黒不利なり。

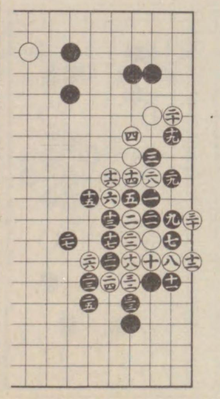
〔五七八五〕
白一擧破滅す

天か、命か、千秋の遺恨、ここに在り。白二四に覆滅す。



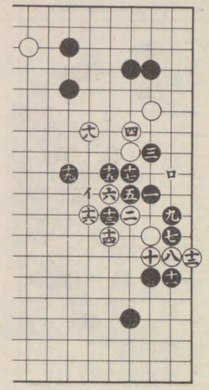






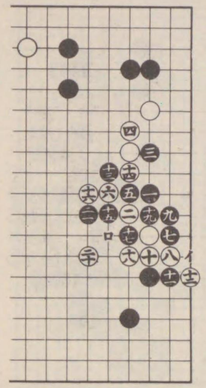
〔五七八六〕
黒の勢稍優る

白いま十四、斯く打てば變化簡明。又白十四を十五を十五を十四。又白十四を十七、白十五、黒ロと打て善し。



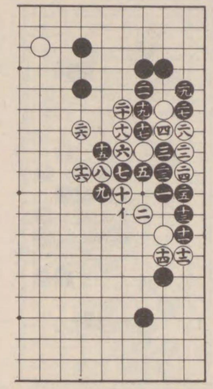
〔五七八七〕
白の形崩る

白十二、悪し。又十二を二一なれば、黒イ。白二十を二ロに當りとすれば、黒二に粘ぐも白に手無し。



〔五七八八〕
互角の分れ

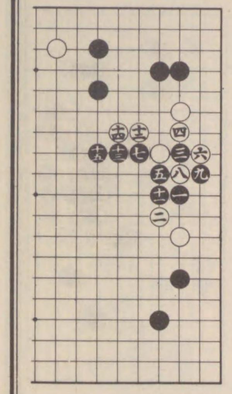
白四、六と打つ手あり。白十を十五なれば、黒イに掛粘となりて善し。此形攻合黒勝なれど、白は外勢厚き故に、必ずしも悪しからず



〔五七八九〕
黒の勢善し

白六、時機尚早。黒の猛攻に遭つて白陣の潰亂せるもの、畢竟、六と緯ねし罪なり。黒七、九、善し。

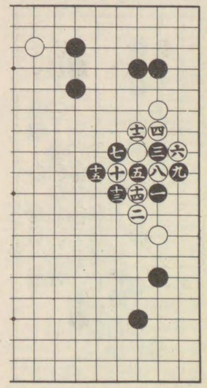
十三ノ處ッグ



〔五七九〇〕
黒善し

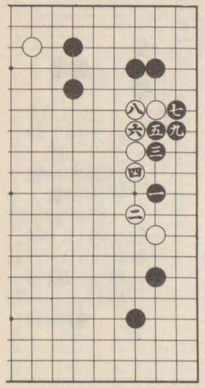
白十、十四、甚だ悪し。此形は黒十五と打抜きし後なれば、假令下の劫に負けるも他に二着を打つて黒大に善し。

士 劫トル
十一 劫トル



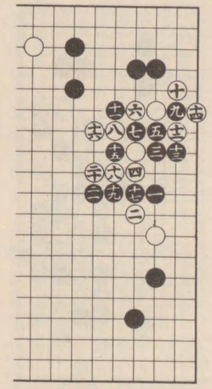
〔五七九一〕
黒有利の分れ

白四なれば、黒五、七と、坦々たる大道を歩む。九に至つては、黒有利の分れなり。



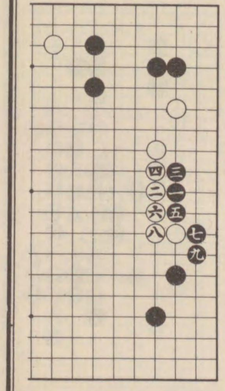
〔五七九二〕
白分裂の姿

白六、十、大に無理。二一に至つては白軍の死屍累々。夜れば鬼哭啾々、月寒くして愁ひ、風蕭々として悲しむ。



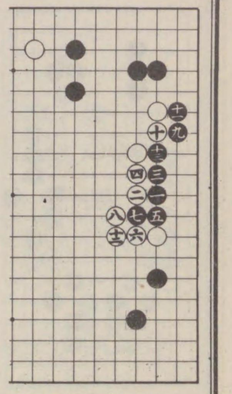
〔五七九三〕
黒有利の分れ

白二と附く、乃ち黒は三、五と盤つて善し。黒や平靜の裡に、又に血ぬらずして戰の利を收む、黒の得意想ふべし。



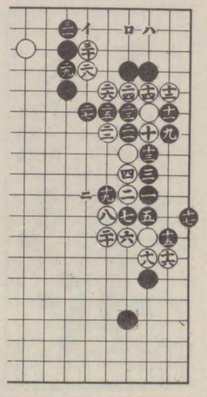
〔五七九四〕
黒有利の分れ

黒九、十一、善し。白十二、確なり。



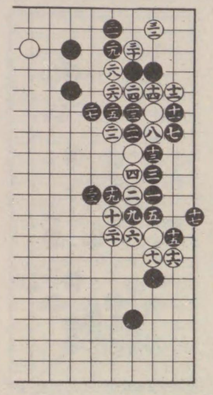
〔五七九五〕
白潰滅の悲劇

白十二、無理。黒十九、二一の逆襲に、白潰ゆ。黒三の次に白イなれば、黒ロ。又白イをハなれば黒ロ。假令、隅の白活くとも、黒ニにて必勝。



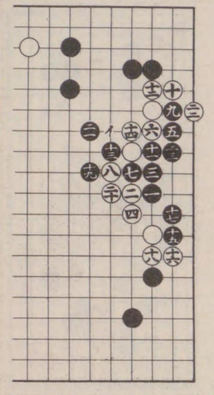
〔五七九六〕
黒優勢なり

白八を十一なれば、黒八白二一の時、黒二三に切るべし。三に至つては、黒の兵威盛んなり。天下翕然としてその威に服す。



〔五七九七〕
攻合黒勝

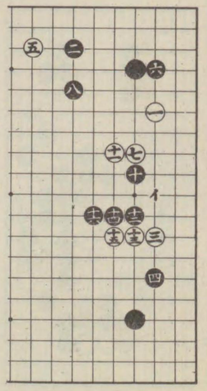
白四なれば、黒五に斜走すべし。白十、十二、打過。十はイに掛粘く位のもの。



〔五七九八〕
定　石

黒十、定法。前變化の黒イは、白の地を破る手段にて、圖の黒十は白を隔つて伐る手段なり（六二二圖以下參照）。

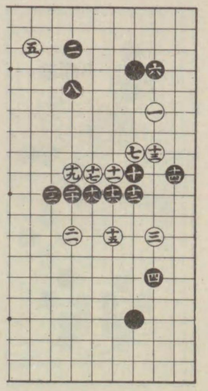
(九)手抜



〔五七九九〕
定　石

白十一なれば、黒は十二、白十三、黒十四と、白を隔て戰ふべし。

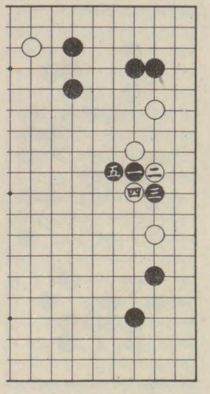
(九)手抜



〔五八〇〇〕
參考圖

此變化も六二三三圖以下にあり

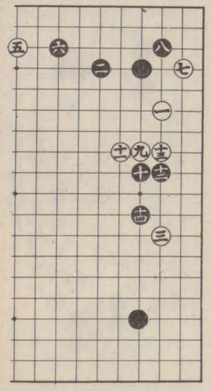
白二なれば、黒三の約へを手筋とす。



〔五八〇一〕
場合の手段也

本因坊秀哉九段
二子番
向井　一男四段
兩氏の對局。

黒四は手抜。黒六稍緩なれど、次に強く十に打込まんとす。可なり。



〔五八〇二〕
要點約言

（第九三型ニ）

此形黒よりイ、ロの打込あり。イの打込には白ハとニとあれど、ハ優る。又黒ロの打込には、白にホ、ヘ、トの應けあり。

〔五八〇三〕
基本圖

（第九三型ホ）

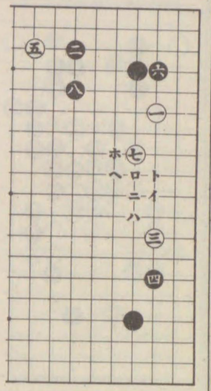
黒十は此場合イに夾み、白ロ黒ハ白ニ黒十と打つも宜し。黒十四は或る時機に打つ手にして圖の形にて直ちに斯く飛ぶ手はヌルシ。

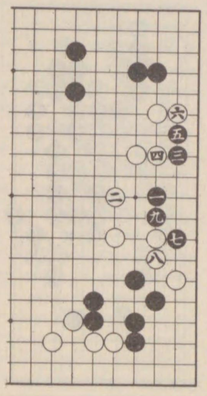
〔五八〇四〕
黒に死無し

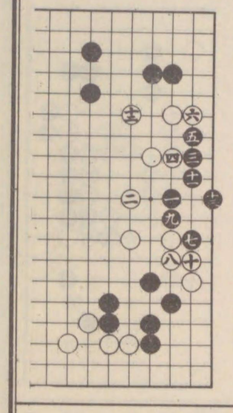
圖の如く白陣容を張るも、外側の黒確かなれば一と打込む手あり。白二なれば、黒三、以下九と打て活なり

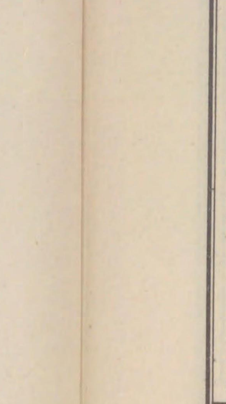
〔五八〇五〕
黒　活

白十なれば、黒十一、十三と打て活。









〔五八〇六〕
黒　活

白十を十六なれば、黒は十白イ黒ロと打て活。（黒は十十四の利きあり）

〔五八〇七〕
白八に大破す

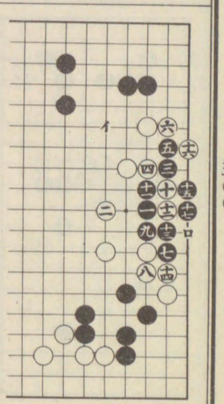
白八惡し。黒九は兩利き、白十に打てば黒十一に果敢なる出切りを行ふ。十九に至つて、白は創痍滿身、旣に業に士氣衰へ戰意喪ふ。

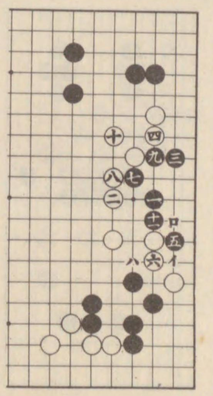
〔五八〇八〕
黒　活

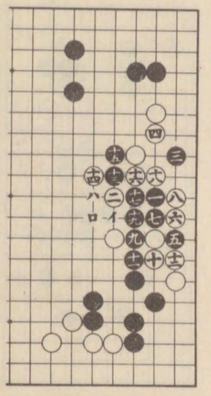
白四に打つも、黒五の附け、手筋なり。白六をイに打つも、黒ロ、白ハ、次に黒七、九の筋にて活なり。

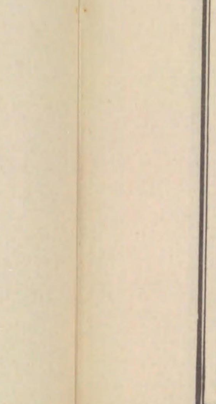
〔五八〇九〕
黒可なり

白六、八なれば、黒九、十一と打て良し。黒十三、手筋。白十四を十六なれば、黒十九、白ロ黒ハに切つて善し。白八の時、









〔五八一〇〕
互角の分れ

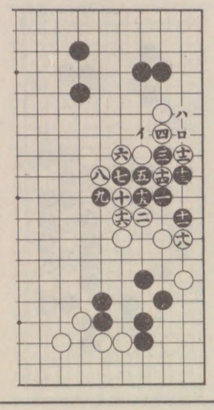
白八の時、黒は九、十一と打つ手もあり。黒の意は、先手を以て隅に地を固めに他の要點に先鞭せんとするにあり。（前圖と比較）

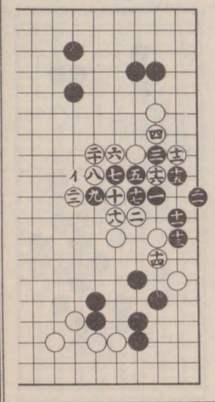
〔五八一一〕
白陣形破る

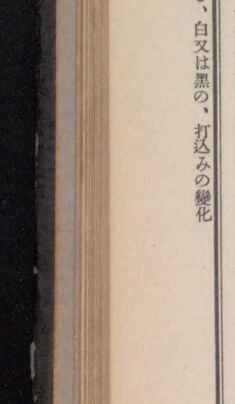
白八、惡し。白十を十二なれば黒十三と打て、圖の形より一層黒善し。

〔五八一二〕
黒輕妙を期す

白イいま二。黒乃ち三。白四をイに引けば、黒ロ白ハ黒五。白七黒十三。此形、黒は白十五の切を含み、此儘に劫作りの手段をなすに妙あり。





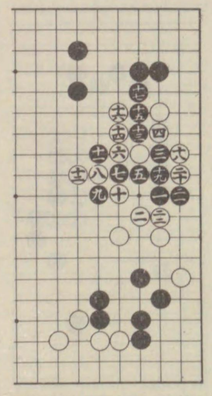


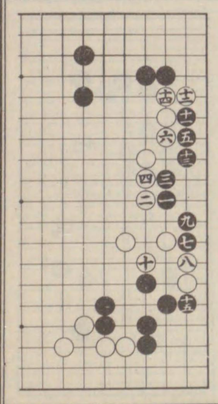
〔五八一三〕
黒　活

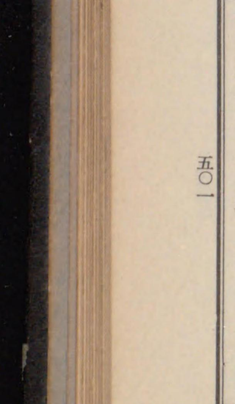
されど黒惡し。黒十九面白から ず、二十に切り白イとつ て後十九に劫を取るべし。黒二一までの小活を擇びし手段面白からず。

〔五八一四〕
場合による

此形、黒の劫拋の手順肝要なり。







〔五八一五〕
攻合黒勝

白十二惡し、前圖の如く十七に枠ねる筋なり。白二、十無理、此手は二四に守るべし。尋いで黒二十に活き、白イの提りとなる位のものにて白惡しからず。

〔五八一六〕
白攻合勝

黒十一、十三、早し。（此形五七八八圖參照）

〔五八一七〕
黒先手活

白二、四確なれど、斯く白の堅き形にて樂に黒に活きられる結果となりては、白好まず。

〔五八一八〕
白ツブレ形

白二、四、無理なり。此時、或は黒怯むかと思ひし意氣毫も衰へず、五、七の好手順を運んで十三に武功を樹つ。黒の健闘賞すべし。白六、惡し。

〔五八一九〕
白再失に大敗

白六に誤り、十と更に失を重ぬ。黒十一以下赫々たる武勳を築いて十九に凱旋す。十二までの白五子、遂に活きず。

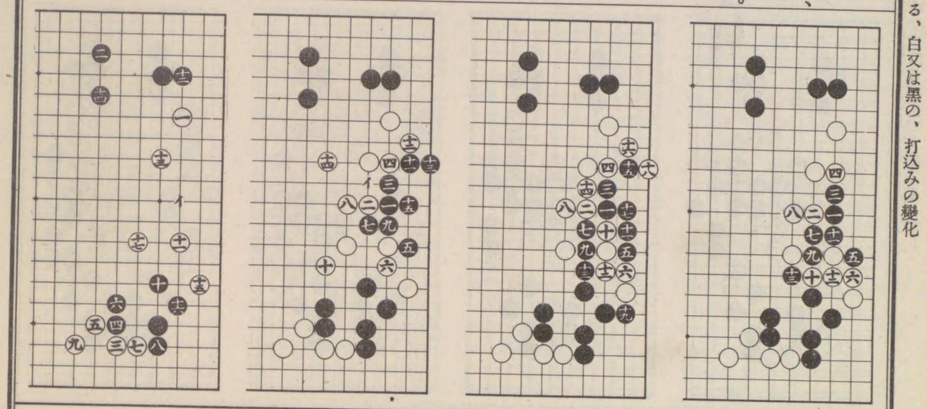
〔五八二〇〕
互角の形勢

白六、善し。白十四は蓋し已むを得ざるなり、之を以て強ひて一以下の黒を取らんとせば、黒イに出撃す。白一敗地に塗れん。

〔五八二一〕
要點約言

（第九三型ホ）

圖の白の堅陣に黒イと打込む手は、場合による手なり。時宜しきを得ば黒面白く、然らざれば外を厚くせられて黒惡し。



〔五八二二〕
基本圖

（第九三型ヘ）

此形黒は或る時機にイと打込む手面白し。

〔五八二三〕
定石

黒六には白は七が常法、他に白は十一又はイもあり。黒十、十二は、普通。白十五肝要。此形次に、黒ロに打つも宜しく、又ハも要點なり。

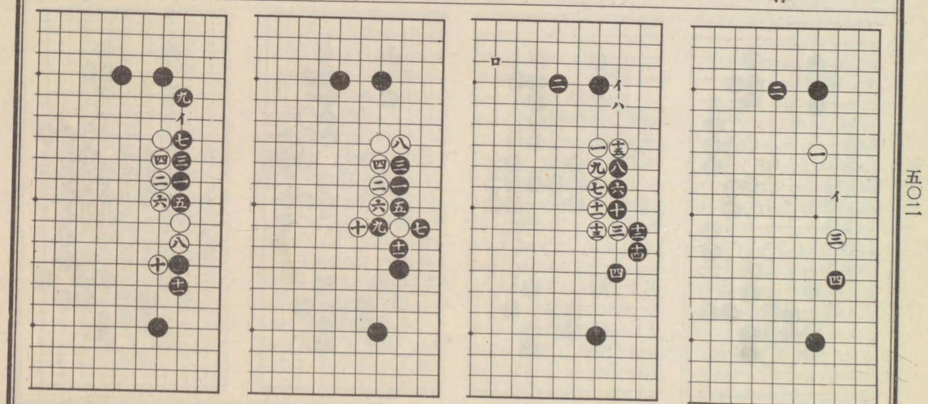
〔五八二四〕
平常の分れ

白只、八に約れば黒は、九の一目提り、厚くして善し。

〔五八二五〕
白の形稍厚し

尤も場合による

黒七なれば、白は八と●の黒に當つてイの約へを脅かす手善し。白十に壓すも善し。あゝ望み見る中原無邊際の大空に、白は煽の如き思ひを馳す。



〔五八二六〕
黒稍利勢なり

白八なれば、黒は九に盤りとなつて善し。白十をイなれば、黒十三、又白十二を十八なれば、黒は十二、白イ、黒ロと一目提りにて隅の地は確定す。

〔五八二七〕
黒好まず

黒五と斜走すれば、白直ちに六と隔て戰ふ手あり。七より二六に至る。斯くの如きは、黒の形となつては、くの場合黒好まず。多き混戰

〔五八二八〕
互角

黒七、九と打ては簡明。白十二を十三なれば、黒はイが好黒なり。十六に至つて形勢伯仲の間に在り。

〔五八二九〕
黒の形善し

白六惡し、この一且の緩急に白は千一。日の悔を遺す。黒十一なれば、手を強し。黒イに切る。白十四を十七なれば、白十四を十七なれば、白十四を十七なれば、

〔五八三四〕
黒少しく善し
白いま八。白十をイに切る手は、多くの場合白に切抛續かざれば白惡し。
㊉一ノ處ツグ

〔五八三五〕
白の形好まず
白六と粘ぐ。白十なれば黒は先づ十一に連絡を保つて、後ち黒はイ白ロ黒ハと辛辣なる切手段に訴へんとす。あゝ十一は、黒豹待機の形か。

〔五八三六〕
黒の勢確なり
白征宜しき場合八を九に逃出せば、黒は十にて善し。黒十三は、イに行びる手もあり。白十四の時、黒に切一つあらば十五は十六と二段に約へるべし。

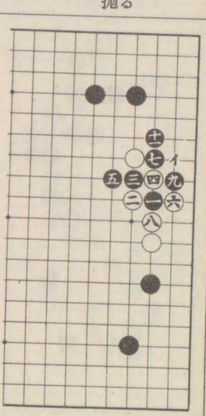
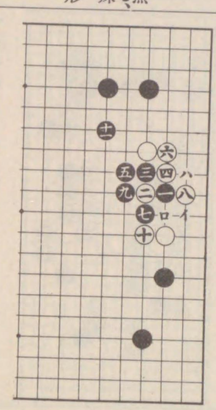
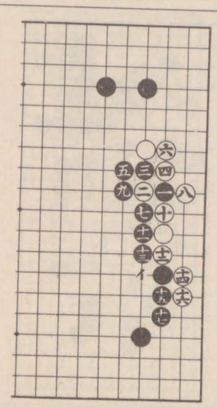
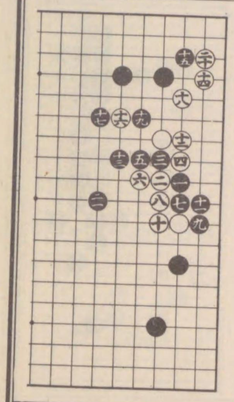
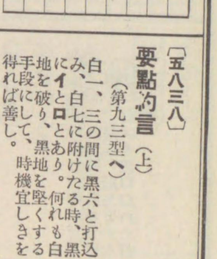
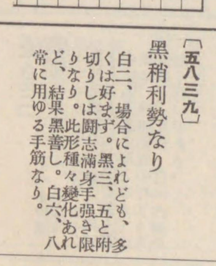
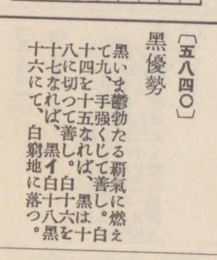
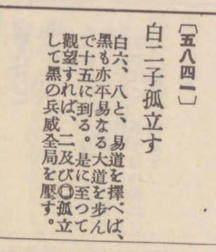
〔五八三七〕
白ッブレなり
白六惡し。此手は黒七の時、白十三と打て二目取り得る場合に打つ事あれども、圖の形にては白甚だ惡し。變化六二四七圖以下參照。

〔五八三八〕
要點約言（上）
（第九三型へ）
白一、三の間に黒六と打込みに、白七に附けたる時、黒はイとロとあり。何れも白地を破り、黒地を堅くする手段にして、時機宜しきを得れば善し。

〔五八三九〕
黒稍利勢なり
白二、場合によれども、多くは好まず。黒三、五と附切りしは闘志滿身手強き限りなり。此形種々變化あれど、結果黒善し。白六、八、常に用ゆる手筋なり。

〔五八四〇〕
黒優勢
黒いま鬱勃たる覇氣に燃えて九、手強くじて善し。白十四を十五なれば、黒は十八に切つて善し。白十六を十七なれば、白イ黒十八と落つ。白十六にて、白窮地に落つ。

〔五八四一〕
白二子孤立す
白六、八と、易道を擇べば、黒も亦平易なる大道を歩んで十五に到る。是に至つて親望すれば、二及び◎孤立して黒の兵威全局を壓す。

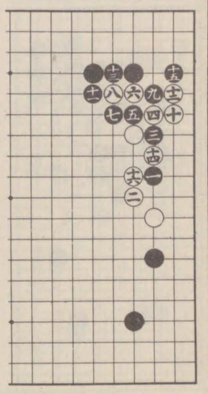
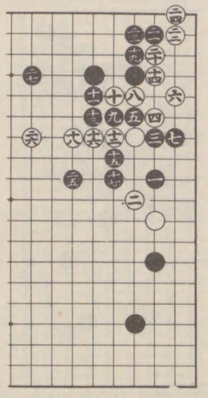
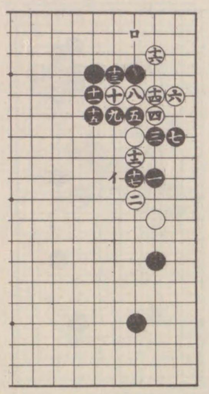
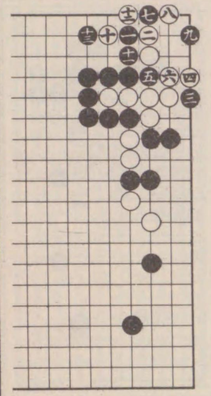
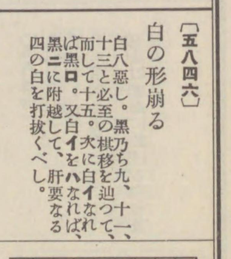
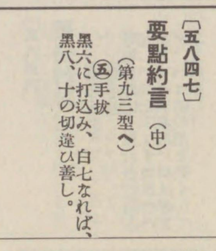
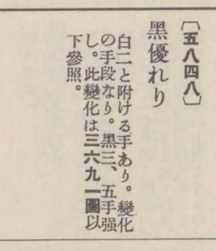
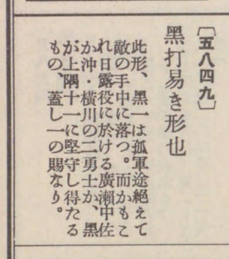









〔五八四二〕
黒地と勢あり
白既に六、八と損を先にせり。黒乃ち九に切つて十三と伐ぐ、白十五と粘ぐ、黒乃ち九、十一、十三と必至の棋移を迎へて、而して十五。次に白イなれば、黒ロに附越して、肝要なる四の白を打抜くべし。

〔五八四三〕
白薄弱なり
白六の手筋面白し。黒七は、此形に於ける最善の應けなり。

〔五八四四〕
白十二に大敗
南無三！白十二の失に黒は十三と伐ぐ、白敗戰の苦杯を嘗めたり。斯くて黒十七、白はイの約へ利かず。加之、白は黒ロにて即座に死す。（次圖）

〔五八四五〕
黒先白死
白四を九なれば、黒八にて死。

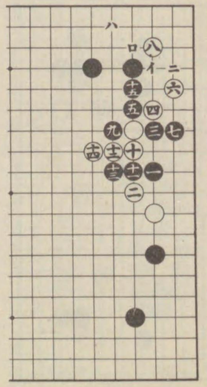
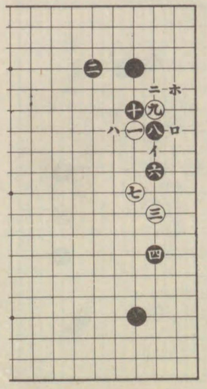
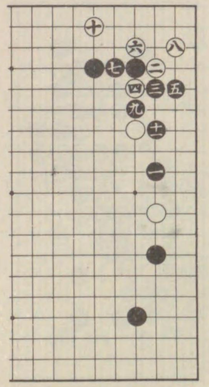
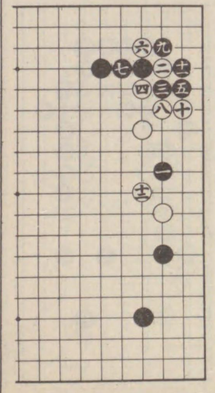









〔五八四六〕
白の形崩る
白八惡し。黒乃ち九、十一、十三と必至の棋移を迎へて、而して十五。次に白イなれば、黒ロに附越して、肝要なる四の白を打抜くべし。

〔五八四七〕
要點約言（中）
（第九三型へ）
黒六に打込み、白七なれば、黒八、十の切違ひ善し。

〔五八四八〕
黒優れり
白二と附ける手あり。變化の手段なり。黒三、五手強し。此變化は三六九一圖以下參照。

〔五八四九〕
黒打易き形也
此形、黒一は孤軍途絶えて敵の手中に落つ。而かもこれ日露役に於ける廣瀬中佐か、沖・横川の勇士か、黒が上隅十一に堅守し得たるもの、隅蓋し一の賜なり。

〔五八五〇〕
黒有利の分れ

白六、八、好まず。十四に至つて見る、隅の黒は少からぬ地を擁して幾堅の守備を誇る。而かも尚ほ、後に黒イの飛出し遺れり。

〔五八五一〕
黒確なり

黒三と應ける手あり、之も確にして黒良し。黒七と打て、一目を打抜く手、大なり。今や黒は堅且つ厚く、白は薄くして隙多し。白今や、黒鐵の前の瓦の如し。

〔五八五二〕
黒善し

白六なれば、黒は七と當てて馬首一轉鐵路勇ましく十三に㊀の白を掩撃す。黒の意氣、壯んなる哉！

〔五八五三〕
黒善し

白ま十。乃ち黒十一の粘ぎは八までの白の眼を脅かすのみならず、損得よりふも大所なり。此形黒はイ機の附越しを狙ふ。乞ふ、戰の動きを注視せよ。

〔五八五四〕
參考圖

瀬越憲作七段
某氏
四子の實戰にあり。

白五、手抜。猶黒四と打ちし後黒㊀の飛あり。黒十四はイ善し。黒二十は二一。黒二二はロ、白二七、黒八、

〔五八五五〕
黒大勢を占む

著者
二子番勝高橋重行四段の打棋。

黒二五、二七手筋。黒三一、三五等、巧に子を棄て形勢を張る所、所謂「戰はずして勝つ」兵法の上乘なるもの。

〔五八五六〕
要點約言（下）

（第九三型へ）

㊄手抜を得ば、黒六の打込み時機宜し。白七ではイロ及びハあり。イは常形。ロは好まず。ハは隅の黒を堅くして之も白悪し。

〔五八五七〕
基本圖

（第九三型への一）

白一、三、五の圍ひは、四、五目の置碁に於ける白の定型なり。

〔五八五八〕
常形互角

黒一は、此形の急所なり。白二なれば、黒イ或はロなれば、黒ハに盤る。白此手をニ或は三參照、又は黒イ。

㊉三ノ處ッグ

〔五八五九〕
黒形安全なり

白十に切つて劍華を誇りしも、黒十一以下の善戰に遭つて白は遂に矢盡き刀折る。此形二十までの四子はセントヘレナのナポレオンか、脱出難し。

㊀切トル　㊁同　㊂同
㊃切トル　㊄切粘　㊅同

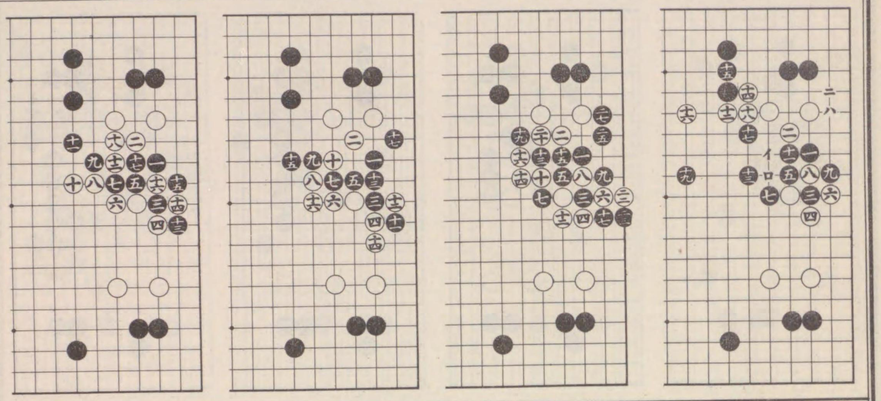
〔五八六〇〕
白軍長恨の圖

白六に緩みぬ。須らく黒は七に衝いて出づべし。白六に緩弱を示して八、十に強を用ふ、朝三暮四の嘲りを免れず。十七に至つては、白既に活きず。

〔五八六一〕
黒切勝

想へば、白は六の失に沒落の悲運早く萌しぬ。白は前圖の失に懲りて只管戰機の緩和に努め十と行びしも、黒は十一、十三、十五と攻防の精を悉す。黒善し。

㊆切トル



〔五八六二〕
場合による

黒は一の一子を犧牲として、三に轉身の策を講ず。前圖黒四の附けは劫の手段、本圖は活きに就く。結果は、前圖が優る。白六善し。黒十三、常用の手筋。

〔五八六三〕
白悪しからず

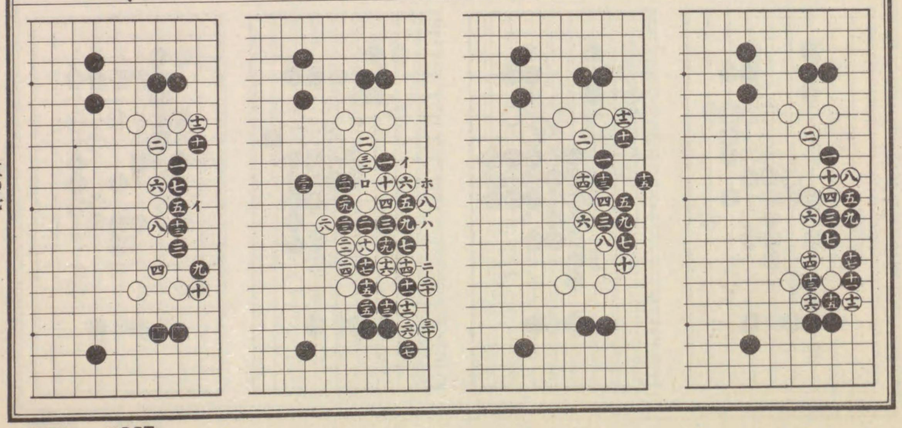
黒は前圖九までの形に於ける七の愚化せるを嫌つて、いま本圖七に掛ぐ。黒は一をも連絡して活きしも、白より十四の先手約へを喫ひしは痛撃なり。

〔五八六四〕
黒勢ひ善し

白六は前圖の如く、二一に曲る筋が最も善し。白十二と直ちに約へる手は無理なり。黒三まで となりて白悪し。此形、黒イ白ロ黒ハ白ニ黒ホの筋あり。

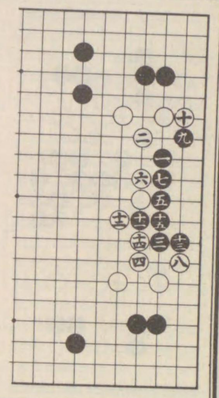
〔五八六五〕
黒の活形好し

黒三は上一と相通じ下㊉と相應ず、面白し。蓋し四通、八達の要衝に當る。白四を五或はイなれば、黒十の盤りにて宜し。



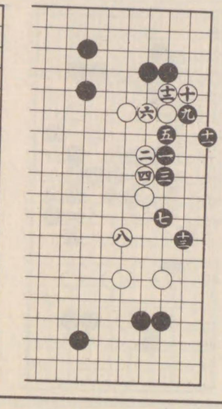
〔五八六六〕
互角の分れ

白八と、尖みを先にする手あり。結果は前圖と略同じ。



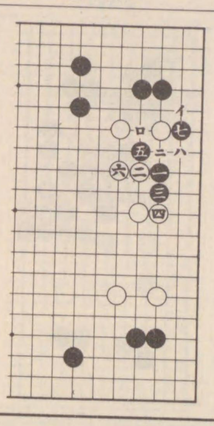
〔五八六七〕
黒緩し

あゝその昔春花秋月の遊びに明かし暮せし、平家の公達の如きか。讀者よ、白二、四の無氣力、緩弱を笑へ。



〔五八六八〕
黒活形至上なり

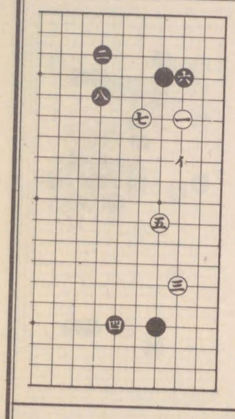
白は四に因つて黒の二子を取り得べしと思ひしか、兵機に暗し。黒七の時、次に白イなれば黒ロ。又白イを白ハなれば黒ニにて簡單に黒善し。



〔五八六九〕
黒の形善し

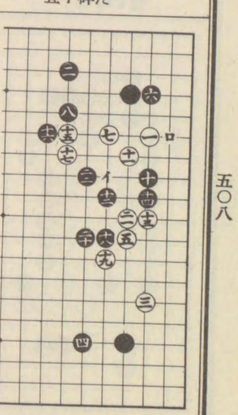
（第九三型への二）

黒は一方二と大斜走に、一方は四と一間に應けし形。黒八、次に白手を抜きし形此場合も、黒イの打込急所なり。



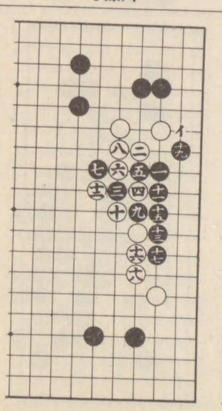
〔五八七〇〕
定石

㊈手抜・黒十に爆彈を投ず。轟然たる炸裂。天も覆り地も碎くべし。白十一をイ又は十三なれば、黒ロに盤つて宜し。黒十八、二十、二二、形なり。



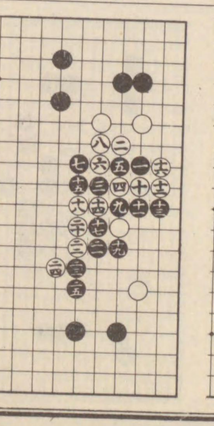
〔五八七一〕
黒利勢

白四、六と、黒の中原進出を阻みしも、黒は右邊を餘裕綽々と活き、上下兩隅も亦整陣を張る。是に至つては中央白の厚味も效果大ならず。㊉切トル



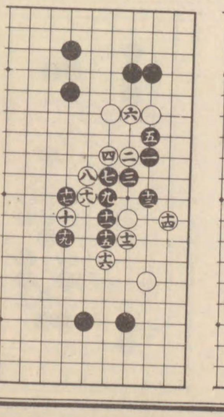
〔五八七二〕
黒大に利勢也

白十と出て非運定まる。轉落する右の如し。白は一、五の二子を取りしも、右下隅の黒地厚大、二四まで白は喪家の狗に似たり。白甚だ不利。



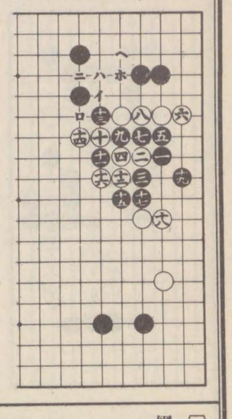
〔五八七三〕
黒の勢確なり

白二。以下十九に至つて黒軍の勢、壯んなり。光の闇を衝いて出づる概あり。黒七を十四に走れば確かなれど、其形低く、多く黒好まず。



〔五八七四〕
白急攻に敗る

白六、十は、豺狼が飽くなく貪婪の手。六は前圖の如く十三に打つべし。猶ほ圖の如くなりし形次に白イなれば、黒ロ白ハ黒ニ。又白ハをホに打つも、黒ヘ。

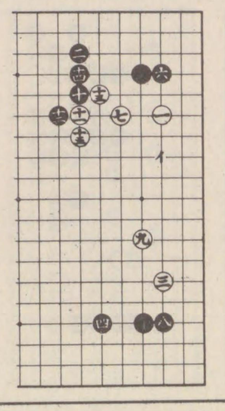


〔五八七五〕
基本圖

（第九三型への三）

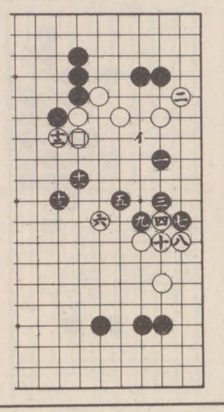
㊄手抜

此形にも、黒イが打込みの急所なり。



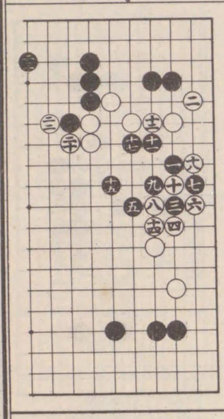
〔五八七六〕
常形

白二に尖變化を揭ぐ、其他は前圖と略同じ。白二をイに尖む手は、○の白と重複の意味あり、白好まず。



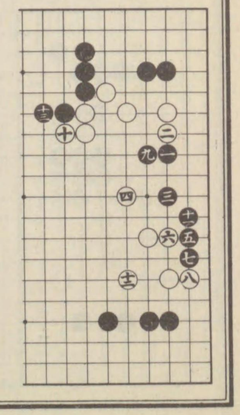
〔五八七七〕
黒堅實善し

黒いま敵の圍中にあり、兵寡れば、乃ちと輕飛して好形に就かんとす。巧なり。白六、八は、敵の術中に落つ。白十八、早し。㊂切トル　㊁同　㊀同　㊂切ッグ



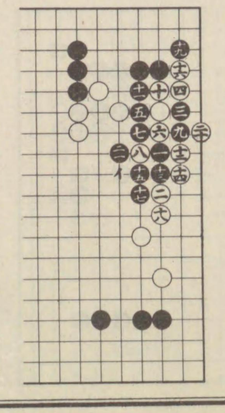
〔五八七八〕
黒好形

白二、四、惡し。見よ、黒五に至つて、白の陣地悉く敵の馬脚に蹂躙され畢ぬ。白十二、而も一以下の黒は既に活く。乃ち、黒十三と上邊に覇を唱ふ。



〔五八七九〕
白嵌手に罹る

黒三、五、常用の手筋大に善し。白六、惡し。五八六の如く打つ位のもの。白十六は十七に押し、黒二、白イ、黒八に粘き、其時白十六に打つべし。

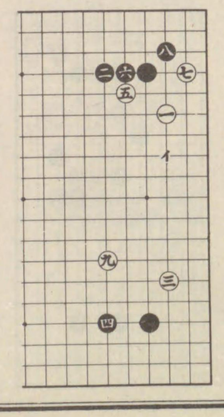


〔五八八〇〕
基本圖

（第九三型への四）

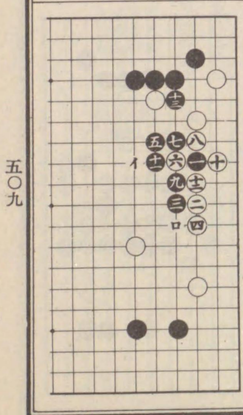
黒二、四と双方一間に廠けし形

白九は擬兵か虚勢か、地を守るには殆ど寸効無し。此形。黒イの打込み、急所なり。



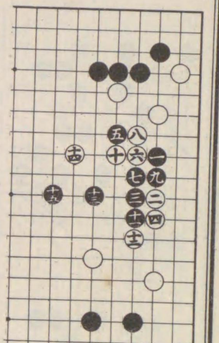
〔五八八一〕
黒厚壯なり

黒三は常用の手筋、白の四を見て敵は本能寺と五に襲ふ。黒の手段、順に從ひ序を踏む、甚だ善し。白十なれば黒十二白イ黒ロにて宜し。



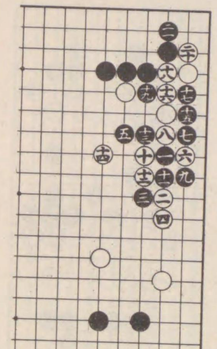
〔五八八二〕
黒の勢稍可也

黒七に綰ねる手もあり。十五に至つては、黒軍の旗幟中原にトップを切つて進む



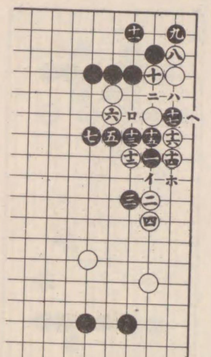
〔五八八三〕
白 敗

白六、八。乃ち、黒三の伏兵、鋏を執り鼓譟して起つ。白八を十なれば黒十一、結果は前圖及び、本圖と略同じ。白十二打過ぎ、十五に約へる位のもの。



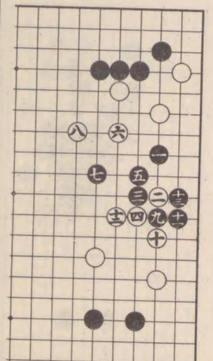
〔五八八四〕
白の形拙し

六に突當るも黒七にて、白は通路無し。白十四を十五に遮るも黒十七善し。此時白ロなれば黒ハ、白ニ、黒ホ。又白ロをヘなれば、黒ロ。



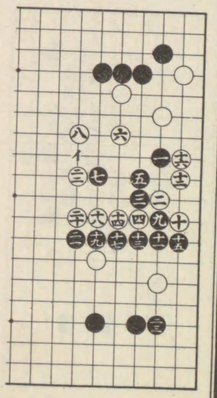
〔五八八五〕
黒確なり

白いま四、而して八に至る。九と切り十三と至るに及んで、此黒不抜の堅塁を誇る。



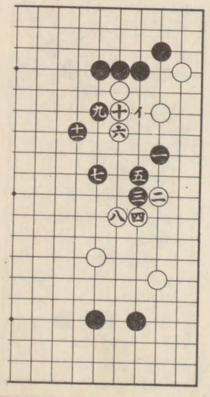
〔五八八六〕
替り黒に利あり

白十、十二は、普通無理なれど、此場合厳しき手段なり。白二十を二一なれば黒二十、結果本圖より黒良し。此形、黒よりイと捲込む味遺れり。



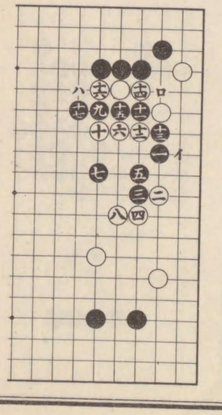
〔五八八七〕
白窮す

黒は炯眼蒼隼の如し、イの狙ひを含んで九に衝く。イの十に屈服せざるを得ず、乃ち十一に至つて天下既に黒に歸す。又始に、白六を八なれば、黒六にて善し。



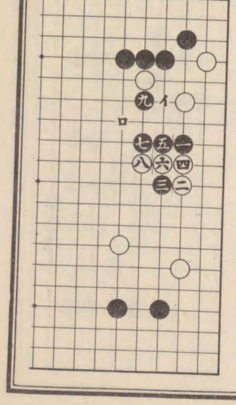
〔五八八八〕
白陥穽に落つ

白十なれば、黒十一にて善し。白十二イ黒十二を十三なれば、黒ロ。又白十二を十四なれば、黒十五白十六黒ハ白十二黒ロ。何れも黒優勢。



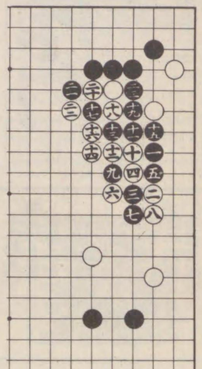
〔五八八九〕
黒善し

白四なれば、黒五にて宜し。白八を九に打てば黒八、斯くなれば白の四、六はダメ詰りの惡手に化す。黒九善し。此時白イなれば、黒ロ、此形。白に手段無し。



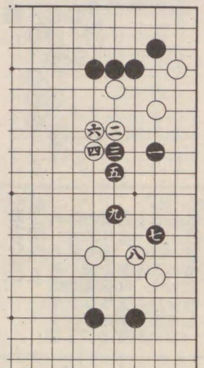
〔五八九〇〕
黒堅地打易し

白四、六、此場合打過なり黒九に切つて白の十を導き、逃ぐるを逐つて黒十五に至り、遂に二三に鍬柵の堅を築く。黒はシザイか項羽か楠公か、兵神に入る。



〔五八九一〕
活の形善し

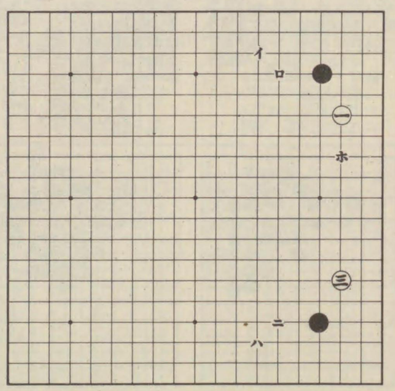
白二なれば、黒三、五に北門を築き、また轉じて七に南門の守備を固う。七は要衝、導いて黒八を黒の形善し。



〔五八九二〕
要點約言

（第九三型ヘ全部）

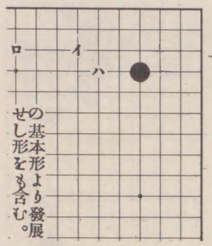
白一、黒イ又はロ。白三、黒ハ或はニ。此時白は一と三の間に一、二着を費すも、黒よりホの急所を衝けば、白地は容易に蹂躙さる。



〔五八九三〕
基本圖

（第九四型）

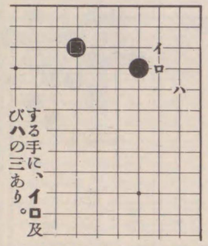
黒守り、白打込みの變化。黒守りの形は、黒イ、ロ、ハ及び其他の變形及び四種。但しイロの基本形より發展せし形をも含む。



〔五八九四〕
基本圖

（第九四型イ）

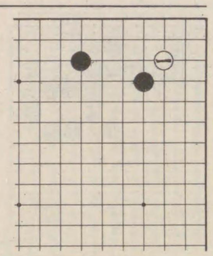
星より黒●即ち大斜走の守備は、實戰に最も多く見る圖なり（白が星打ちの時も同じ）。此締りを白より侵削する手に、イロ及びハの三あり。



〔五八九五〕
基本圖

（第九四型イの一）

白一の打込は、專ら隅の地を破らんとする手段なり。



〔五八九六〕
定 石

白一に打込めば、圖の結果となるを普通とす。然し斯くなれば、黒は厚き形にして打易し。

〔五八九七〕
白多くは惡し

白十二と劫を挑むも、黒は法ず十三に提りなり、次に白が劫抛を為すも、それ以外は、黒は斷乎イに打抜いて大いに優る。

〔五八九八〕
常形なり

五八九六圖と略同形なれど、此は黒イの下りさなり。（次圖）

〔五八九九〕
黒先白死
黒◉のある場合
黒一と打込み、次に三と黙する手順妙なり。

〔五九〇〇〕
參考圖
先勝 **飯田春治**三段 **岡原義虎**初段
常形、只白◉と黒◉の交換あり。此交換は何れかと云へば黒に利あり。

〔五九〇一〕
黒稍利勢
白十二の行びは、二四の邊に白石無き場合は無理なり。此形白イは約へるも、黒は手抜にて攻合勝なり。

〔五九〇二〕
黒稍利勢
既にして白二六に至り、黒は手を抜き、他に轉じて宜し。尤も白ハと劫を挑む時は黒ロ白イと劫れぎにて粘れども、白は四手寄せ劫なれば黒は悪し。

〔五九〇三〕
黒術中に陷る
白◉のある場合へ此形も貰戰に甚だ多し。爲に黒十三六以下二六に急に追されて遂に二六の大軍は白の伏兵◉に遭つて慘殺さる。

〔五九〇四〕
定石
白◉のある場合は、黒は一着十四に應けるが定法。黒白十六、六に至つては殆ど脱出の途を絶たれしも、此圖は五八九六圖より黒の形、稍味悪し。（次圖）

〔五九〇五〕
黒優れり
白一と逃出し甲を脱ぎ捨て、糧彈を遺棄して、繼に身を以て逃るとは、嗤乎、白が活きての恥や後見に及ぶ。白五をイになれば黒ロで善し。

〔五九〇六〕
黒善し
戰機一たび動かば、變形刻々に變ず、一歩誤れば千仞の谷！見よ、白直ちに失して、急轉奈落の淵に墮ち、此形勢逆轉たり。又後に黒イに切勝る手もあり。

〔五九〇七〕
參考圖
小野田千代太郎六段
前田陳爾五段
先番勝
兩氏の打棋。十四は、十五に打つべし。白十五は、此際單に十五に曲るべし。

〔五九〇八〕
黒の形無理
（前圖の變化）黒十五をイに打つも白十六。又黒イを十六なれば、白ロと黒ハと打て、五黒善し。（五九〇三圖參照）

〔五九〇九〕
白の大石悶死
（前圖つゞき）白二十と粘くや、黒は疾風枯葉を拂ふの概を以て二に決す。白二、八を三六四にて綿れば、黒三にて勝。

〔五九一〇〕
黒優れり
白二六、二八と損を先にし、來れば、黒九、三一、黒三三。停卽ちに白十を十六なれば、黒イを十八と白十一、五黒八を三、白二なれば、黒二十九、黒四、白五にて勝。

〔五九一一〕
場合の手段也
黒三と綿ねる手あれども、多くは六と約へるも、形厚くして優れり。

〔五九一二〕
黒先手なり
但し黒の味悪し
黒七と打てば、先手なれども、前圖に較べて黒は稍味悪し。

〔五九一三〕
黒優れり
白四、手順悪し。八を先にすべし。白イに石の有る場合の外、此形の黒九の場合の外、白悪し。黒十一確なり、又此手も十二に綿ねる手もあり。

〔五九一四〕
征如何による
既に前圖に於て、黒九の佳なるを指摘せり。但し例外あり。卽ち、黒ロの次に白十九の利かぬ場合は、黒十七なれば、又白十四と征悪し。黒十六にて善し。

〔五九一五〕
黒大に善し
黒十一と長驅して敵壘を拔く、名將が馬上の英姿悠々と蓋し紙上の躍動する尤なるもの。但し此手も、イに打つも、五圖と同じく黒優勢なり。

〔五九一六〕
定石
白五、七の手順肝要。斯くすれば、十三までは必然の棋移なり。

〔五九一七〕
黒先手、善し
白六なれば、黒は七に備へ形に申分無し。加之、黒は九一三圖と同じく先手なり。

〔五九一八〕
黒稍優れり
白七、九なれば、黒は六、此打つも、次に四と打つも、形に於て低く、他の八の後なれば、白イと這ば、黒は拔くれず、白ロを怖れ手利き。黒イの約へ先手なり。

〔五九一九〕
場合による
勝小杉丁四段
先染谷一雄二段
兩氏の打棋。
此形後に白イと附ける手あり。（九七圖參照）

〔五九二〇〕
要點約言
白一（第九四型イの二）必然（黒二を三に打つ、白は之と場合異る。黒四四〇四圖參照。黒四四では、白一と照。黒イとロとあり、ロは厚く、イは場合の手段。

〔五九二一〕
基本圖
（第九四型イの二）
白一と打つ。黒イと約へれば白は隅へ活き、黒ロと約へれば、黒イに活きず、白は邊に出づ、白一は出づ、白一は出づ、白一は

〔五九二三〕
互　角

黒十三、手筋。黒十九確なり、然し此手は手を抜いて他に轉ずるも宜し。

(大)ッグ

〔五九二四〕
白甚だ悪し

白十四は蕪雑粗笨にして手筋を知らず。黒猶ほ向ふ鼠の如しと雖も、白二十一へ白の備へなれば、黒二十釜に白の四子は中の魚をイと抜かれば、白二の十の筋あり。

〔五九二五〕
黒優れり

(前圖の一場合も同じ)十手抜イを白二十と善し。白十七の所に曲りなき場合は、黒より十七と約へる手厚くして善し。

〔五九二六〕
黒先劫

白十二と曲り、二十圖の如くに至く、黒一隅を守るも、黒はイと寄劫なり、白ロと劫ねれば渋く打つて劫を残し置く手善し。

〔五九二七〕
黒先劫

白十八も、十九も劫なれど、次に此石は全部打抜かれば、前圖に比して白悪し。

(十)手抜き悪し。之

〔五九二八〕
黒緩し

黒九面白から宋襄の仁に類す。十と打つて如くの一筋を狙ふべし。黒十を若し或る時抜き白ロの手あり。イ又は

〔五九二九〕
黒の形悪し

(前圖の變化)白一は、右邊黒地と為りし場合之を削減せんとする時に限る。黒二無理。又黒二なれば、白三。黒十六、白十七、黒十八、白ロ。

〔五九三〇〕
定　石

黒六と打つ手あり。言ふまでもなく、隅を守り白を攻め九の時黒十に夾攻して十二に竪一守す。

〔五九三一〕
常　形

白六而して乃ち敵の急所に九と側撃を加へ、十に竝べ導いで又黒七に竝べ導いで白一と飛すれば、黒四白五黒七にて、本圖と同形。

〔五九三二〕
黒優れり

白四と打つて黒五と當てを嫌ひ、七と當てを彈ひ、導いで白軍の厚壓を受く。白の陣形、精彩を失つて意氣低迷す。斯くなる場合にも悪し。如何なる

〔五九三三〕
黒の形堅實

白四、悪し。黒五の時、白六を七に粘つて、白一子を犠牲にせば、四ち、即ち白化げんと斜走の六の一子を抜いて打つは當然が、黒九との厚みの威を殺がれる。白の因もの、その失にあり。

〔五九三四〕
常　形

黒三と切り、更に五と白を追ひ、隅を地にせんとする場合、此手も此手段面白し。尤も可否は征の次圖にあり。黒十係り三、確なり。

〔五九三五〕
互　角

黒九では、十二に下る手もあり。十一に征宜しく、一を二七につて、十二と打つて、題無しへ白十七、黒十六、白イ、黒ロ、白ハ黒十一白ニ。

〔五九三六〕
白窮地に落つ

白十二に鋒を轉ぜしも、二に至つては進退思ふに委せず、所謂「兵の窮地」に落つ。白二で一は黒ロ。又白イをロなれば、黒は、黒イを白ハ黒ニにて善し。

〔五九三七〕
黒十七に覆滅

圖は白、征宜しき形としての變化にして、二八に至つては黒大敗。

(七)二ノ處

〔五九三八〕
黒甚だ優勢也

物、順に從へば、逆向へば、ふ、既に黒三、五と銀し來るは須らく隅を外に委ねて勢を張るべきなり。白の非勢は、其順の誤りに基く。

〔五九三九〕
場合の手段也

白二なれば、黒三に下るべし。白は場合により斯く打つ事普通なれど、此形は黒優れり。

〔五九四〇〕
參考圖

山口貴石五段當時二子
勝
刈谷數雄初段

〔五九四一〕
參考圖

之は前圖と略同意味の變化なり。

〔五九四二〕
參考圖

杉原愛之助二段
先番
勝
小野寺　新初段

黒十三、手筋。さりながら此手は十四に取つて、先づ此石を確にする方打易し。

〔五九四三〕
定　石

黒二に約へる手あり、無論隅を守るべし。善なり。黒六、之を怠れば、白六に附け、黒イ、白ロ黒ハとなりて黒の位低し。

〔五九四四〕
白稍優れり

黒五、七は、白の意中を往く、俗筋、甚だ悪し。白八と當て、轉じて十、再轉じて十二、三轉して十四、六。あ、右撃左伐、寧日なき白が健闘、歎ずべし。

〔五九四五〕
參考圖

木因坊秀哉名人
二子
番
勝
正義五段
白◎のある形。

〔五九四六〕
常　形

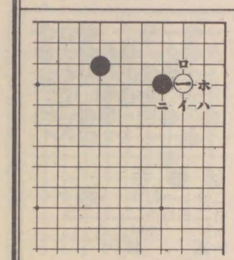
黒三圖前の變化に比して隅は損なれど其代り白イの場合に走るカズ。キは白イの場合に走るカズ。普通は三圖前の變化による。

〔五九四七〕
参考圖
二目勝
先番林有太郎六段
木谷　實五段
黒十三以下の双方の手段面白し。

〔五九四八〕
黒有利の分れ
白二なれば、黒は三の廻け最も確なり。

〔五九四九〕
黒善し
白八に亂れ來れば、黒九に打抜きて、白十の手段無し。此時、白イ或はロなれば、黒ハ。又白れば、黒ニにて勝。

〔五九五〇〕
要點約言
（第九四型イの二）
黒二では、外を厚くするイと隅の地を守るロとあり。黒はイに對しロの時には、白ハの水あり。黒はニと外を厚と志し、ホは隅を占領す。

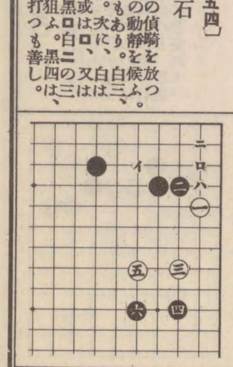


〔五九五一〕
基本圖
（第九四型イの三）
白一は場合の手段なり、時に面白し。

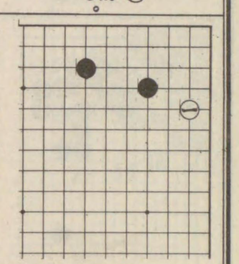
〔五九五二〕
定　石
黒二なれば、白三の結込み。手筋なり、黒四を五に切り、白四と打てば五九三四圖以下と同じ。

〔五九五三〕
場合による
白六に打てば、矢張り黒はイのナヲ此形とビ確なれど、七、九と宝もあり。黒直に七と切る手も三六三圖と稍其形異れり。

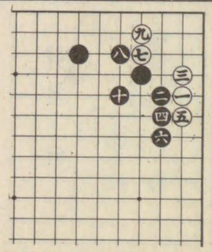
〔五九五四〕
定　石
白一の偵察を放つて敵の動靜を候ふ。黒二もあり。次に、白三、善し。白は、又はロ、白ハ、黒四は、白ニの三は、狙ふ。法に打つも善し。



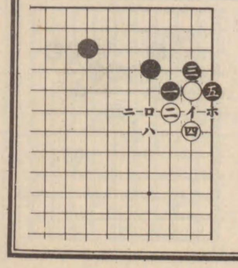
〔五九五五〕
定　石
黒二に打つ手あり、上を厚くせんとする場合此手面白し。黒十確なれど、之は手を拔くも宜し。（白一の變化大々斜走懸り四一二〇圖以下參照）



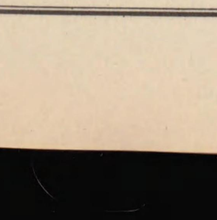
〔五九五六〕
互　角
黒九もあれど、場合による。黒十一をイに結出すは毛を吹いて傷を求むるもの。即ち、白十二黒ロ。白ハ、黒ニ。白は、是に至つては、日昇天の勢。



〔五九五七〕
黒稍優れり
白二、面白からず。爲に、白は故意に大惡手を打ちて黒に三と取らせ、黒果に結形、此形、黒イに附け、白二と黒ロ又白イにて黒ニと打つ。黒は三に約へる手もあり。（四〇四五圖參照）



〔五九五八〕
黒善し
白二なれば、黒は三でイにて善し。白六にてイに結げば、黒ニと打つ。白イに應じ劫にせば、黒は劫を提げ、白斯かる劫爭は多く、無理なり。

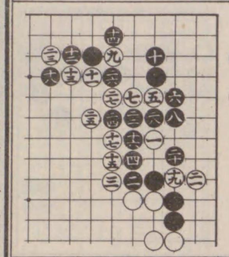


〔五九五九〕
場合の手段
勝久保松勝喜代六段
先番田正義五段
黒五を八なれば、白七黒イ、白ロで白の先手。白十四は雄豪壯、大空横絶の概あり。

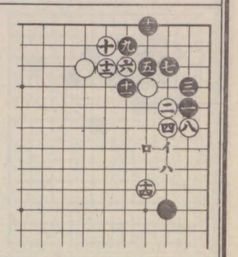
〔五九六〇〕
参考圖
勝本因坊道策名人
二子小倉道喜五段
白三、黒四なれば、白五の手筋輕妙なり。

〔五九六一〕
参考圖
本因坊喜多人、加藤七段、木谷五段、林四段、藤田兩四段、向井四段
蓮碁
岩佐、瀬越兩七段、岩本、宮坂兩六段、篠原五段、井上、關山兩四段

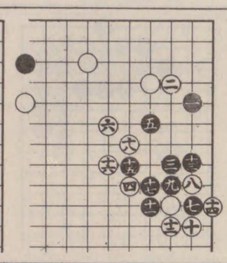
〔五九六二〕
参考圖
勝村島義勇四段
先小野寺新一段
黒十二、如何。十五に打つべき處なり。白より十五に押されて、以下十九に切られては、黒の形好まず。



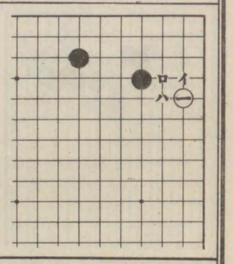
〔五九六三〕
要點約言
（第九四型イの三）
白一なれば、黒にイ及ロの廻けあり。イとロは、隅を堅くする手。ハは中を厚くする手段。五九五圖以下の變化と略同じ。



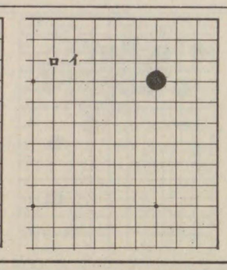
〔五九六四〕
要點約言
（第九四型イ全部）
黒●即ち大斜走の守りにはイロ及びハの白よりイロ及び何れも採否ありの段場合を得れば佳手となるなり。



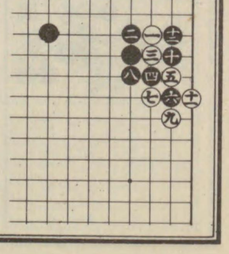
〔五九六五〕
基本圖
（第九四型ロ）
黒イ、及びロは所謂ハンバの拓にして攻守共に便なら ず。故に特別の場合の外は、好まず。



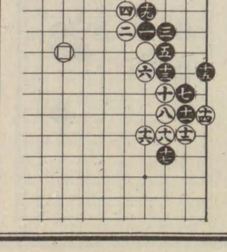
〔五九六六〕
互　角
黒●に拓きし形。白一に拔けば、黒イと約へるは矢張り二とすれど、此形黒二は三に約へる手もあり。



〔五九六七〕
互　角
白二に約へる手もあり。（四〇四五圖參照）

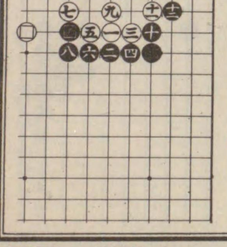


〔五九六八〕
黒好まず
黒六好まず。此形、後ち、好よりイ或はロ。黒は惡しきの筋あり。味惡しの形は、猶ほ人の惡評の如し。必ずや、之が巷の災禍其身に及ぶ。測むべからず。



〔五九六九〕
場合による
先番鈴木　秀子四段
勝加藤三七一三段
（白星打白□）
圖は白中央に大模様を張らんとする策戰なり。

〔五九七〇〕
常　形
黒●、白□にある形
此形白は一と打込む手宜し。



【五九七一】黒の形優れり

白五なれば、黒六にて良し。白十までに活きし隅の一形は稍可なれど、□の白は黒の堅厚に近接して、その全く鋒いやや始ど用ゆる途無し。此形、白好まず。

【五九七二】白　敗

白七悪し。黒は勇一奮八に切る。白二一なれば黒二一にて大勢黒に歸す。黒二二に至つて、白遂に死す。

【五九七三】黒厚、但後手

白三は、征に關係あり。即ち、黒四を五、白四黒七と征にかけし時、黒イと逃げ出す手のある場合は、白三の綻びを掴むものなり。

【五九七四】場合。黒打易

安井知得八段
二子番　奥貫智薫五段
勝
兩氏の對局。黒八は、函谷・蛸の要衝なり。ベき、

【五九七五】參考圖

中川　龜三郎八段
久保松勝喜代四段
二子　勝

此形、白一に拓きある黒㊀に對して、白之を二に約へれば、黒好まずが㊀に一路遠きだけ、五九守六に比し、攻守共に利あらず。

【五九七六】參考圖

木谷　實五段
勝
藤田豊次郎四段

兩氏の對局圖。白二、強手なり、十一までの形、先づ互角の分れ。

【五九七七】常　形

白一と低使して、黒地に攪亂を企つ。白二、強手なり、十一までの形、先づ互角の分れ。

【五九七八】白善し

黒二、形宜しからず。黒六の時、白常形を脱し、ロの嗟乎、勝利を千里の外に遠ざかる！黒八をイなれば白ロ、又黒イなれば白ニ。

【五九七九】常　形

黒㊀に拓きある此形、白一には黒二に約へれば白之を三に、黒好まずが㊀に一路六守共に遠きだけ、五九攻に比し、利あらず。

【五九八〇】常　形

白一なれば、黒は二又は三の應けあり。白一に隅を守る場合は、黒二又は邊の場合の應けも宜し。

【五九八一】黒形稍優れり

黒二に約へ、白三なれば、黒四の下りにて其形好し。

【五九八二】互角の形勢

白三なれば、黒四確なり。黒十一と此場合善し。白一と附けし時の圖は、黒五九八の下、黒は厚みか地か採否場合に應ずれば何れも可なり。

【五九八三】黒地と勢あり

白三打過ぎ。黒四、六、八の棋、簡明なり。斯くて黒十四に翼を張り、右邊の形勢に、他はの黒の虚を窺ふ。黒十四は佳手なり。

【五九八四】黒厚く、優る

古今の勇將項羽を破しめた張良も、忽の一字を最も尚びき。白七と打つて黒八と打抜かせしは、短慮、誤事を誤る。此形、白惡し。

【五九八五】黒低く好まず

先番　長谷川　章六段
勝久保松勝喜代五段

黒低く近し。黒一、三、面白からず。黒七は常形なり。

【五九八六】白善し

勝瀬越　憲作七段
先番　藤田豊次郎四段

兩氏の實戰圖。此形黒㊀にあり。放白二、四と附切りし、黒七は八に行ぶべし。

【五九八七】黒一手段なり

白一なれば、黒二と壓して外面の征壯を圖るべし。時、黒五、白三を五、白四と出られて、白イと出られて、白陣瓦解す。

【五九八八】互角の形

黒六悪しからず。黒十二をイなれば、白ロ黒十二となれば、白は本圖より優れど、恐らく乾坤一擲に出でゝ、黒イと變化多く、採らず。

【五九八九】黒利勢

黒十と切つて三目を取る手筋、黒イまでの結果を一手省略し、黒有利なり。

【五九九〇】參考圖

本因坊察元名人
二子　安井　仙角六段
番

白十三の切りは先手を取らんとするに、若し白十五と先に切れば、黒は十六に切れば、

【五九九一】黒の形優れり

白三は俗筋、好まず。黒に四と切られて、以下白十五まで小隅の強ひる厚み、白地に幾倍せり。

【五九九二】場合による

前圖は黒が上を厚く打ち、今黒二と尖附けし形、白は攻立てゝ逃ぐるを追ふて地を固めるを加へんとするなり。

【五九九三】要點約言

（第九四型ロ）

黒星より形によりイと拓き、又黒ロには白ハ、ニ。ホの打込あり。黒の應け方は、厚みを主とするとよつて異る。

【五九九四】基本圖

（第九四型ハ）

黒は、局面唯一の大場。次に白の倭削、ハ、ニ、ホ、イ。此中白ロとあり、ハとニとは五九

五二圖及び五九八〇圖と略同じ。

【五九九五】定石

白一より五、次に其の一勢力と相映して七。白九に打込めば、此場合に宜しく、黒は十四へ約束へ波を蹴破し、白陣を突破し來る鯨か、鯨か來る意氣凄愴！

【五九九六】黒稍優れり

白十三。黒乃ち十四、十六、十八と揚げて殺到。血煙を揚げて殺到。血煙を揚げて殺到。白十九を二十に粘れば、黒はイ、白はロにて善し。

【五九九七】黒厚く、善し

白先づ九、黒十、而して白十一に殺し來れば、黒十二と約束ゆるべし。入し機に臨み變を制するの途なり。

【五九九八】參考圖

黒堅く、打易し

岩佐銈七段　當時二子番勝

橋本宇太郎三段

黒十八、烟眼百歩の外を洞見す。之をイに粘げば、白ロにて、黒ハにて、黒稍凝形に陷るべし。

【五九九九】參考圖

二目勝瀬越憲作七段

二子　濱明東三段

兩氏の對局圖黒八、十と附行びる手もあり。可なり。

【六〇〇〇】定石

黒四の斜走と、前圖の如く黒イ、白ロの斜走とは、局面により多少の可否あり。白五の時、黒は左の攻め易きを看取して六と凭れ伐つ。

【六〇〇一】黒優れり

白十一は、イにあり、前圖十一と共に打過なり。白十三とは十五、黒十一となる位のもの。黒二、二の白ハ、黒ニ。或はロ、二二は手抜きも可。

【六〇〇二】常形

白五をイなれば、黒ロ、白ハ、黒六と打つべし。

【六〇〇三】白輕く好し

黒四、六、場合によれど、白に五、七と形を整は普通は好まず。黒十、堅さ手なれど、稍緩し。此形、黒二より十、重の一團は稍鈍まで。

【六〇〇四】場合による

黒十、十二は、攻勢を採る場合の用手段。黒が腰間の秋水、悚然として白を怯え、白十七を十八となれば、ハにて善し。黒イ、白ロ

【六〇〇五】黒優れり

白十五、十七過ぎ。黒十六、十八の猛襲、大に善し。白十九雲を呼び、風を捲き起して到る。白二をイとなれば、黒ロ、又白イ、黒ハと附ける筋あり。

【六〇〇六】定石

黒ロより、左二間高拓一の先に、黒二間あるまで同じ。此場合は、黒二、定型。黒六は、宜し。イも高く

【六〇一〇】常形

黒四も有り、白十一手を抜けば、黒ロ、白イ、黒ニ、白ホ、黒ヘ。白ハ。即ち、黒は白の致富の道、黒は坦々たる歩調を、垂んとす。黒の覇業に成る。此變化一八九二圖參照）

【六〇〇八】黒の形善し

白五。黒乃ち六と凭れて白を左右に隔てて伐つ。十二に至つては、八州にの威風を將も黒の草木も黒の識る。

【六〇〇七】黒稍優れり

白五。嗟乎、雨か風か、暗雲低迷す。此時、黒六、火を揚げて猛然と烽火より急なり。十一に到す。倉皇として敗走し、黒六、可なり。

【六〇〇九】常形

白三と飛ぶ手あり。此時は、黒四に應けるべし。

【六〇一四】參考圖

此變化二六二二圖以下參照

白一は、正に黒◉の伏線に陷り氣味もあり。黒乃ち二、四と、黒は二進擊するも絶好の地點にあり、白好さず。

【六〇一三】白の勢善し

（前圖の變化）

黒十一と綽れば、白十二善し。黒十三を十四。又圖の形、白は三目を捨て、外勢を張る。白の勢稍可なり。

【六〇一二】參考圖

本因坊秀哉名人

三子　苅部榮三郎二段

番勝　黒九の時、白は黒の鋭鋒を避け一轉十と附け手筋面白し。

【六〇一一】黒善し

白五、手筋に以れど、此場合無理。黒六、八、確なり。黒十三と戰を鮮せずば、イ、又堅くロ、黒ハ打つには、黒ロ、黒ニ。共に白イ、黒可なり。

【六〇一五】定石

黒◉のある場合、白一と打込めば、黒は二、四、六と應ずる常形。黒十四手を抜いて、他に打つも宜し。

【六〇一七】場合による

先番　飯田春治三段

勝　河合菊夫三段

黒六に行びる手あり。稍ヌルキ形なれど、厚き形なれば、場合により、打て黒悪しからず。

【六〇一六】黒優れり

白九は假令黒にイと征にも提られぬ場合にても、黒に十四とカケられては、白悪し。

【六〇一八】定石

黒二は、十に應ける定法。變化參照。三圖參照。一圖參照。猶黒二の附は一圖以下附定石無に有るも。黒●の有無により多少異れど、其變化略同じ。

〔六〇一九〕 常形

白七に打てば、黒八に尖附くべし。此時白イなれば黒ロにて一八三圖と同形。又白イを一八五圖と同じ。ハなれば、黒イに

〔六〇二〇〕 黒の形整ふ

黒六は、イ或はロと打つ手もあり（二〇七圖）。又黒●の六九圖）及び二〇ある場合に、白五のハなれば、黒は六白イ黒ニが常形なり。

〔六〇二一〕 場合の手段也

黒●にあれば、白は五、七と打つ手あり。（二〇九五圖）然し位低くなりて、多く白は形好まず。

〔六〇二二〕 黒有利の分れ

坂口常次郎初段　先
田中不二雄初段　番
勝

兩氏の打碁。涙萬行、一着の蹉跌に泪六惡しに。黒七と白の損失歷々。

〔六〇二三〕 黒少し好まず

黒●の時黒二と夾み白に三と侵さゝるゝ、以下十二に至つて、●の黒が閑地に遊べる形となる。（白三の變化は三間夾の中四五圖以下參照）

〔六〇二四〕 場合による

先番　篠原正美五段　勝
後番　向井一男四段

兩氏の打碁。白二の一間夾み通好まず。此時は、黒三、五の手も好し。（六の變化三三八三圖以下參照）

〔六〇二五〕 參考圖

勝木谷實當時四段
二子　瀬川真雄初段

黒十の押し好まず。三三八三圖の如く打つ形なり。

〔六〇二六〕 參考圖

中村勇太郎三段　先
刈谷敦雄初段　勝

白八と二段綿すれば、黒九と本を堅し。此くせず分れ稍黒に利あり。

〔六〇二七〕 場合による

黒いま●を望みつゝ二、四と異常に手段に訴ふ。時に白五、七。穏かにして善し。或はイに打つ變化は三一三、ロに二八三圖及び三一六四圖參照）

〔六〇二八〕 場合による

白七と接仗するや、突如劍光閃に躍り、十七に至つて十風四二圍を罩む。黒十二形惡しきも、此場合善し。斯かる形は、黒は餘程の黒の外、打過なり。

〔六〇二九〕 參考圖

自十三惡し。嗟乎、方に膺懲すべし。黒十四に白十五と打つて出づ。怒髮天を衝けり。白軍の潰亂、自業自得のみ。これ單竟、

〔六〇三〇〕 黒に稍利あり

無恥か厚顏か、白十七に盤りを策す。杯上今や殺氣籠罩、白日暗し。黒乃ち十八より二二と伐つて、二四、二六、而して二八。黒が豪快の意氣を見よ。

〔六〇三一〕 至難の形勢

白十一、黒十二。而して白十三より十五まで白十六。黒は十六は形惡しきも、此場合好手なり。此も、六二八圖と同様黒の外勢厚きの外は無理なる時の外は無理なり。

〔六〇三二〕 黒強行手段

黒八と綿出す手あり。若し白十一にてイと征に取られぬ場合は、前變化九の突當りよりも面白し。

〔六〇三三〕 互角の分れ

亂擊亂鬪、白九に端を發す。黒は十、十二と打つて宜し。此形、攻合は黒勝なれど互角の分れなり。

〔六〇三四〕 白手段を誤る

白二三、惡し。嗟乎、一旦の過に千秋の恨！黒二四、二六、二八、白の腸を斷つ。

〔六〇三五〕 白優れり

黒六、八の切違ひ、此場無理なり。白宜しけれぱ、圖の如く打つべし。征惡しき場合は次圖の如く打つべし。

〔六〇三六〕 白有利の分れ

白十一と、身を挺して衝き入る敵陣の中に。白征惡しき場合は、斯く十九に振替つて白有利なり。

〔六〇三七〕 黒大敗

黒十四に窮餘の一策を講じ來る。而かも白十五、十七と運ばれては、黒が苦心經營悉く水泡に歸す。

〔六〇三八〕 黒初一念貫徹

白五。黒乃ち六、八に附行びて、左右に急を告ぐ。白十八に至つて、黒十一に志遂げて、白十二に取れば、黒は白ハ黒ニ白ホ黒ヘ白ト黒チ白十七黒リ。

〔六〇三九〕 白甚だ惡し

白十一惡し。又黒イなれば、白十二。次に白ロ、黒ハ、白二三、黒ニに打つべし。

〔六〇四〇〕 白手段面白し

勝　岩本　薰六段　先番
林有太郎六段

兩氏の對局。白を持て星に打ち、黒九、如何圖の形となりては黒低くして惡し。

〔六〇四一〕 黒利勢なり

前圖の變化。白二好まず、前圖の如くイに打つべし。

〔六〇四二〕 白勢甚だ振ふ

黒十一に綿れば、白十二、十四と善し。二四に至つては左右皆な苦戰なり。前圖の變化。黒甚だ敢て

【六〇四三】
白嵌手に罹る

白十四、惡し。黒に十七、十九と切られ、竟に黒を突き二一、二三の突破を遂行せしむ。白は、天下の小子の形勢を獲て、三の形勢を失へり。

【六〇四四】
要點約言

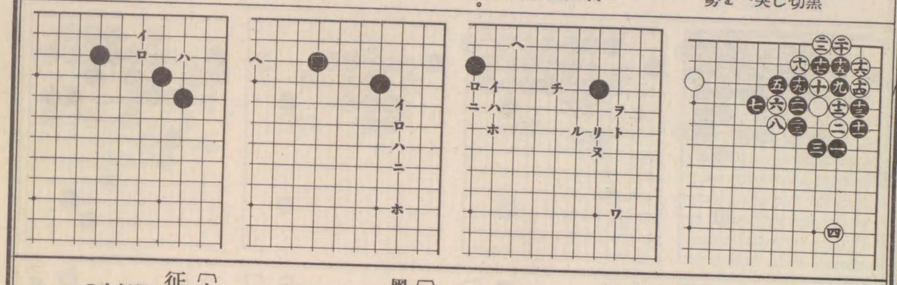
此形、白イ黒ロ、白ハ黒ニ白ホ黒ヘ、白ト黒チ、或は白ト黒リ白ヌ黒ル。以上三つが通形。尤も、白トの時、黒ヲ白リ黒ワは急劇手段好まず。

【六〇四五】
基本圖

（第九五型）星より三手或は三手以上カケ隅と逸を堅めし斜走より黒□に大形を及ぼす。白イロハニ及びホの拓き竝に、黒ホのヘと左右に拓きし形とあり。

【六〇四六】
基本圖

（第九五型イ）此形、白イよりの打込に、黒ロ、ハの三あり、而して圍みの如き、黒の圍みは、堅固なる場合には、白は捨石として輕き打込最宜し。



【六〇四七】
定石

白□のある時は、白のイの打込みは一或は惡し。黒二、黒定石は、白九の時、黒は他の好點を擇ぶべし。此形、後に黒ハと突當る手あり。（次圖）

【六〇四八】
場合による

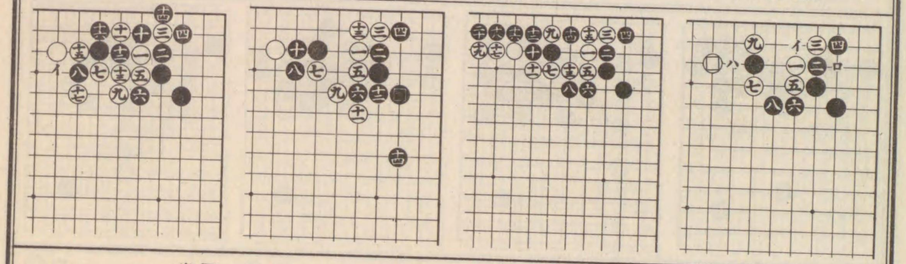
黒十は時機を見て着手すべし。白十一、黒十一、白十二なれば、白十三と打つべし。

【六〇四九】
黒好まず

黒八。而して、白九、黒十の次に白よの黒十と叩かれ、●令●の愚化す。假令上邊、黒八、十の好形を得たりとも、此形黒好まずと云へ、

【六〇五〇】
征如何による

黒十八を以てイと征を逃出し得る場合には、黒十以下の手段あり。



【六〇五一】
白善し

黒二は、初心の實戰に多く見る手、面白からず。

【六〇五二】
場合による

黒六に、白七、精華燦たる手順、白七を十二なれば、黒十一にて白活きず。（六〇六圖參照）又黒六を十二に打つも、白三にて圖の形と略同じ。

【六〇五三】
白有利の分れ

黒二、四、緩し。畢竟、紛糾を恐れて平明の途を擇びしもの。されど、白七、九、十と叩かれ、●令●の愚化す。假令上邊、黒八、十の好形を得たりとも、此形黒好まずと云へ、

【六〇五四】
常形

正々堂々、戰鬪艦を以てするも、戰ひ敗れあらむ。又た、暗夜敵艦を襲撃する、潜航艇の水雷魚雷も、あらむ。白の活躍は、後者の例か。

【六〇五五】
白活

夫れ窮寇をば追ふこと勿れと聖の敎なり。鳥窮れば則ち啄む。獸窮れば則ち攫む。黒七に強ゐる手段を以て取らんとする手眼を敎に反す。黒十三で五なれば白イ。

【六〇五六】
外形如何なり

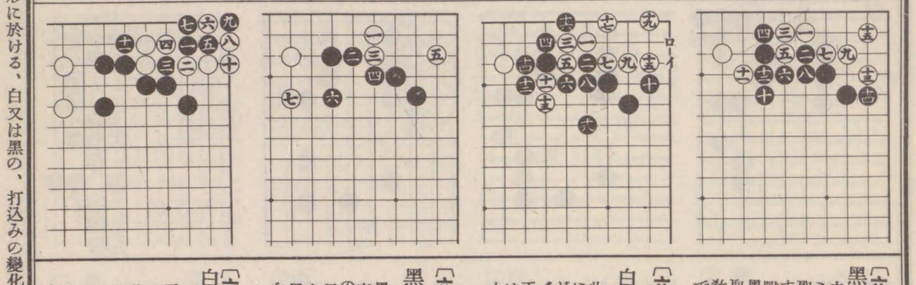
白十一は、只十五に約へるも宜し。白十九を手抜きせば、黒イ白ロ、黒十九にて白死。（五二〇〇圖參照）

【六〇五七】
白の形面白し

白一と跳入せしに、黒二と庸手を下して、白三、黒四と悠々たる足を笑ふべしは、白五に至つて長嘯するに似たり。

【六〇五八】
黒先劫

六ノ處㊟劫トル



【六〇五九】
白善し

白一、三は、正に庸手にも非ず。黒四と逃るは、その認識不足を笑ふべし。白五に至つて長嘯するに似たり。

【六〇六〇】
白小廉の形

此形黒より、無理に切とする手あれど、そのため黒が詰めらるゝ手數多ければ、白は此儘で先づ白小廉を得たる形。

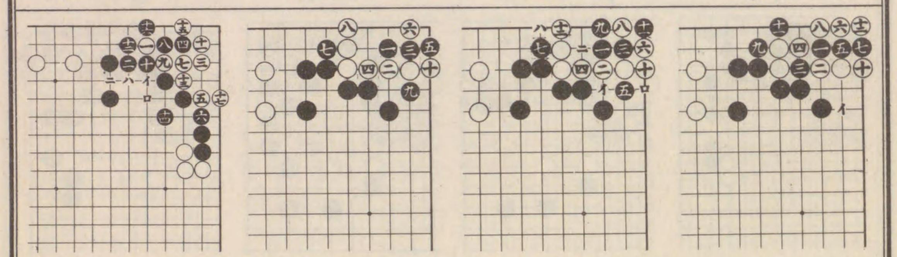
【六〇六一】
黒先白活

黒五惡し。暗中模索の如き、此段の庸劣を思ふ。又黒一を七なれば、白も、黒一を九にて活。

【六〇六二】
白活

瀬越憲作七段

三子某氏の實戰にあり。此形白三を十なれば、黒九、白イなれば、黒ロ、白ハ、黒ニにて白死。黒四惡し、七にて打つべし。



【六〇六三】
互角

黒●に一間飛のある形

白一、三は、次に白が一手削ぶ手段の果を大ならしむるための、犧牲子なり。

【六〇六四】
白ツブレ

白七、惡し。五八、七九圖と形異れり。此形次に白イなれば、黒ロなれば、又白イにて勝なり。

【六〇六五】
白死

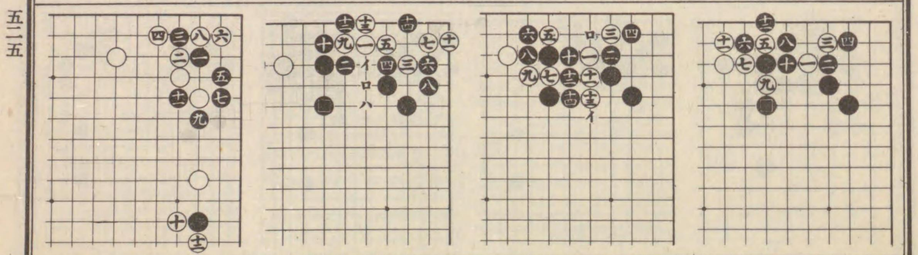
黒●にある場合白一と打込は、一群へ赤手空拳を以て飛込みしが如し。無慈悲極まる。

【六〇六六】
參考圖

黒好まず

勝篠原正美五段
先鈴木秀子三段
打掛にあり。

此場合、黒一以下の打込は稍無理なり。（次圖）



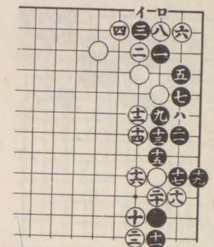
【六〇六七】
白甚だ優勢

白六を七なれば、黒七を八なれば、白七にて黒死。白八を八なれば、黒八にて遺味津々、假令黒は隅を取らるるとも、結果惡しからず。

【六〇六八】
變化多岐の形

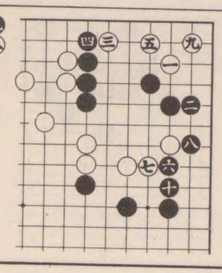
安井知得八段　二子　奥貫智策五段
番勝

兩氏の實戰圖。白一は着想輕妙。蹉乎、英雄首を回らせば、即ち神仙。棋雄が馳騁の狀、まだ仰ぐべき哉。（次圖）



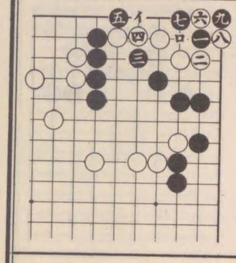
【六〇六九】
無事の分れ也

黒八手筋。次に白九に補はざれば、此形切なり。（次圖）



【六〇七〇】
黒先切

黒一を三なれば、白二にて活。白六を二に約れば、黒七にて八なれば、黒七を八にて活なり。（次圖）

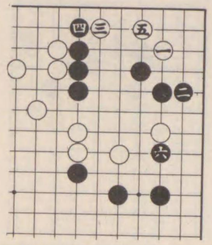


【六〇七一】
黒先白活

黒五、惡し。此形、オシップシとして、白活なり。（次圖）

【六〇七二】
白活

黒八で隅の白の眼を奪ふ手もあれど、斯く打てば、白乃ち二、黒此處に手にて、白ハ、黒ロ、白ハ、即ち、平和の裡に一隅に、白双龍を現出せん。修羅場を現せず。（次圖）



【六〇七三】
白活

白七の時、黒イなれば、白ロ。又黒イなれば、白ロ、黒ハなれば、黒ヘ、白ト、黒チ、白ホ、黒ニ、白ヘにて白善し。

【六〇七四】
場合の手段也

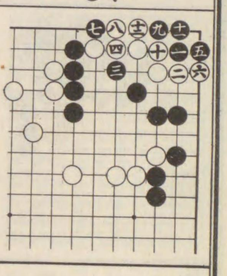
勝著　二子　番勝　加藤三七一段　者七段

黒十二を十三なれば、白イ、黒ロ、白ハ、黒十二、白ヘにて白善し。

【六〇七五】
黒善し

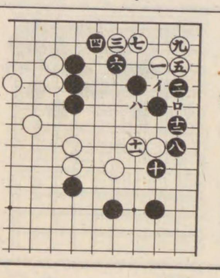
藤田豊次郎　四段　先番　五段　義正

兩氏の實戰。黒一、手筋。白し。流水落花を載せて流るゝの類か。誰も滯の跡無く、流麗なり。（次圖）



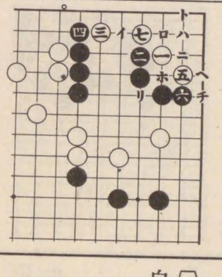
【六〇七六】
黒大に善し

黒五を七なれば、白十にて黒死。（白六を五圖參照）白十三なれば、黒イにて、白十五、黒十一、白十に活。又圖の形、假令隅を取らるゝも黒は外勢善し。（次圖）



【六〇七七】
白陷穽に落つ

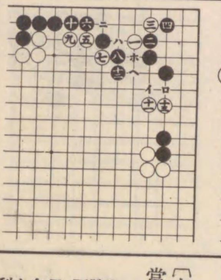
白二なれば、黒三に續出す手あり。白四悪し、五に打ち黒四、白イと盤る位のもの。然し此形となるも、白悪し。



【六〇七八】
當然の變化也

先番　關山利一　四段
勝者　高橋重行　三段　當時

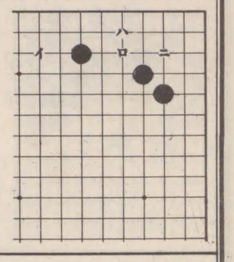
兩氏の實戰圖。黒四を五なれば、白四黒イ白十となりて、此場合白有利なり。



【六〇七九】
要點約言

（第九五型イ）

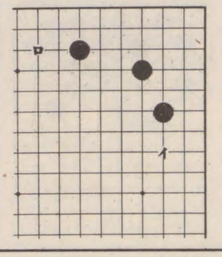
此形、白がイにあると否とによつて變化異る。又白ハと二。而して打込は、活きる目的の爲の捨石の場合とあり。



【六〇八〇】
基本圖

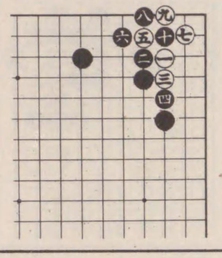
（第九五型ロ）

黒●の大斜走と●にある形、白イ、或は其の打方は多少異れり。



【六〇八一】
白稍無理形

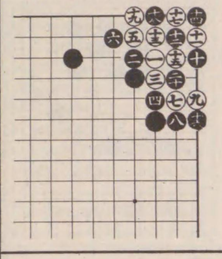
白石が黒の締りの近くに無き場合は、直ちに一と打込むに手は、切の外白豐富なる場合の外白無理なり。



【六〇八二】
白先切

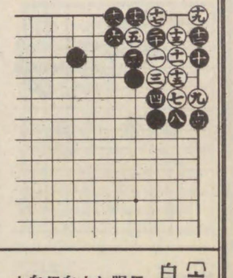
白九なれば、黒十と打込む手が最も辛辣。斯くて、此隅は切なり。

（二）切トル處



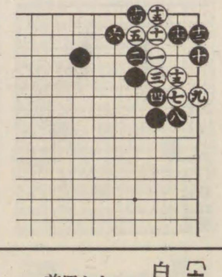
【六〇八三】
兩切白死

白十一、悪し。白、遖焉として逝きぬ。



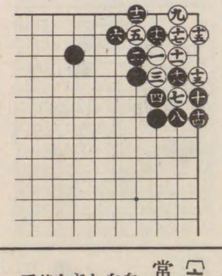
【六〇八四】
白　死

白十一、悪し。又此手を十六なれば、黒十二にて前圖と略同じ。



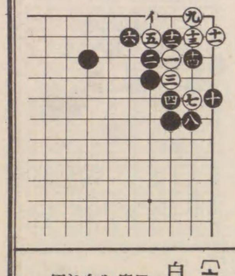
【六〇八五】
切、但白悪し

白九、奇手なり。白十善し。此形も結局切なれば、黒の外勢堅くなり。白は只活きる丈の切なれば悪し。



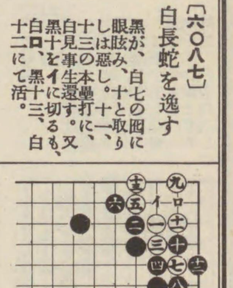
【六〇八六】
白　死

白十一、悪し。白、イに打つも、黒十四にて白死なり。



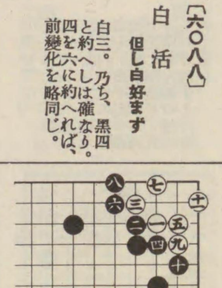
【六〇八七】
白長蛇を逸す

黒が、白七の囲に眼眩み、十と取りは悪し。十一、本圖の生還す。又、白十を事イに見切る。黒イに切るも、白ロ、黒十三、白十二にて活。



【六〇八八】
白　活
但し白好まず

白三。乃ち、黒四と約へしは確なり。四を六に約へれば、前變化を略同じ。

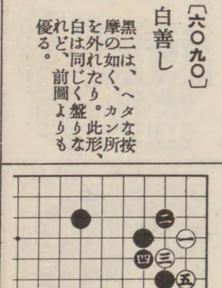


【六〇八九】
常　形

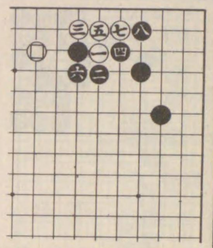
白□にある場合、白は一に打込むべし。黒四を五に約れば、白イ黒ロと、白ハの活となりて、白ニに出切る故に黒悪し。

【六〇九〇】
白善し

黒二は、ヘタな按摩の如く、ヘカン所を外れたり。此形、白は同じく盤りなれど、前圖よりも優る。

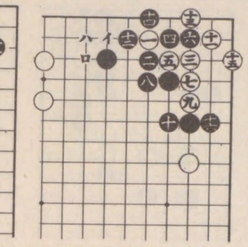


【六〇九一】
常形
白□にある場合は、白一に附ける筋なり、此變化九七六圖以下參照。又白一は、七と打込むも手もあり。



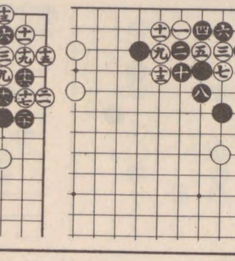
【六〇九二】
互角の分れ
瀬越憲作七段 ― 開山利一四段

白三子若し此手を十二なれば、黒四、白イ、黒ロ、白ハの時、黒は先手を取つて他に打つべし。

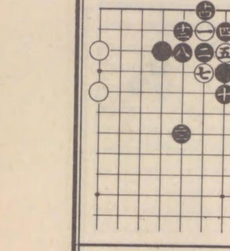


【六〇九三】
白可なり
（前變化の續き）

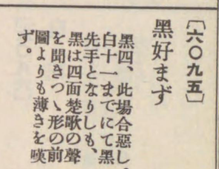
嘘乎、石火光中に輪贏を爭ふ。旦つ誤つたが最後、萬劫の恨をのむもの、何ぞ限らん。見よ、黒は八の惡手に、忽ち形勢を失ふ。（變化次圖）



【六〇九四】
黒優れり
夫れ、花見といふも、多情却て見ざるに如かず。棋歩もまた、手筋を含むを以て貴しとす。白いま七、黒九、黒は此數に反す。黒十四、十六と提るも手あり。

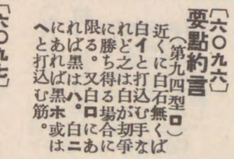


【六〇九五】
黒好まず
黒四、此場合惡し。白十一まで、先手となりしも、黒は四面楚歌の聲を聞きつゝ形の前圖よりも薄きを嘆ず。



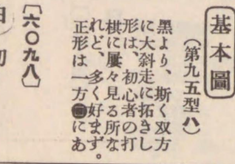
【六〇九六】
要點約言
（第九四型ロ）

近くに白石無くば白イと打込む手なれども、之れは白が劫爭ひに勝ち得る場合に限る。又白ロにあれば黒ハ。白ニにあれば黒ホ或はヘと打込む筋。

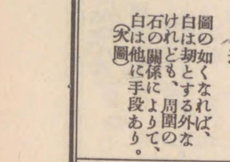


【六〇九七】
基本圖
（第九五型八）

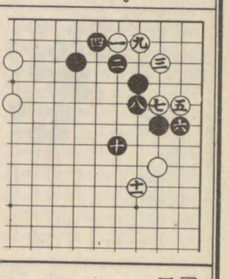
黒より、斯く双方大斜に走り、初心者の拓き打ち形に屬々見る所なれど、一方好手にあり。正形は一方●にあらず。



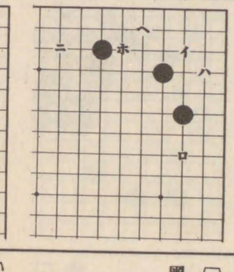
【六〇九八】
白劫
圖の如くなれば、白は劫とする外なけれども、周圍の石の關係によりて、白は他に手段あり。（次圖）



【六〇九九】
黒手段に陷る
白□にある場合は、十三宜し。黒十四、無理に粘げば、二を得る。黒ハに白ロ、イに白先にて攻合白勝。

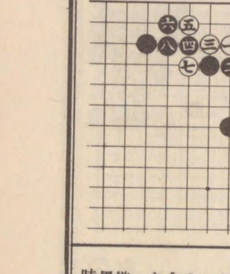


【六一〇〇】
黒稍優れり
白に劫材無き場合、白はイの切を打たずして只に九に打てば活なれど、其形白好まず。

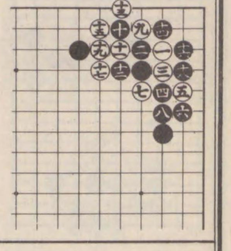


【六一〇一】
劫爭黒負なり
白單に九は、權謀を藏す。黒蓋し十一に抛ち、白の伏に陷る。即ち、白十三の劫に對して白十五と絶提り、次に白イと大抵の劫は大抵の劫は十六と劫抜にキカズにイと打抜いて宜し。

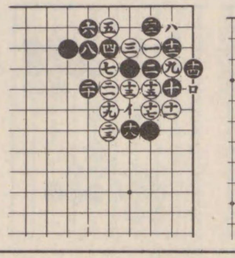
【六一〇二】
白活
白十一と切れば活なれど、普通は黒の形厚くなる故に惡形なり。黒一イと惡れば白二と死。若し黒一を二に餘儀なく白一と九を取れば、黒十一と白二と一層厚し。



【六一〇三】
場合による
圖の如く黒二と約へるも、又前圖の如くも、只此隅丈で見ても、黒十四、十六と提るも手あり。

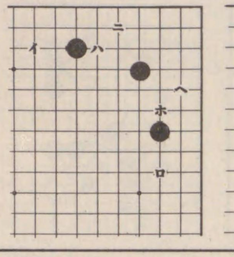


【六一〇四】
黒利勢なり
嘘乎、餘韻嫋々、白十一の警抜を見よ。黒十二なれば、白は十五、黒イ白ロ。此形、白ハにて活。普通の形勢。黒に利あり。（次ノ處）



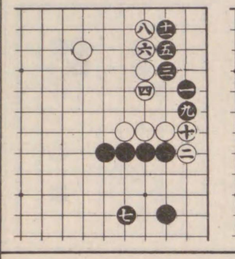
【六一〇五】
參考圖
六〇九八圖以下の變化と同じ

白イにある時は、白ハは、ニに打込む筋。又、白ロにある時は、ホより又は、ヘに打込む筋なり。



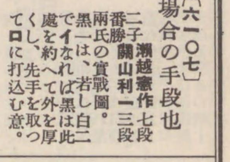
【六一〇六】
參考圖
先番勝 ― 開山利一四段 ― 橋本宇太郎五段

黒三、手筋なり。以下の活路を望み、三を繋ぎ連繋を策す。は十一までの分れ、黒一に利あり。



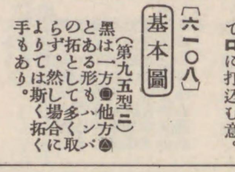
【六一〇七】
場合の手段也
二子 ― 開山利一三段 ― 瀬越憲作七段

兩氏の實戰圖。黒一は、若し白二で、イなれば黒は此處を約へて外を厚くし、先手を取つてロに打込む意。

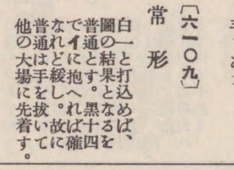


【六一〇八】
基本圖
（第九五型ニ）

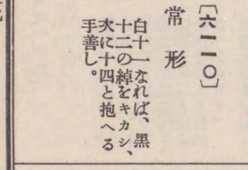
黒は一方●他方●とある形も多くバンの拓とするも多く取らず。然しては場合によりては斯く拓くも手もあり。



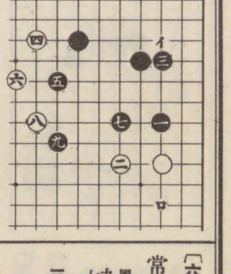
【六一〇九】
常形
白と打込めば、圖の結果となるを普通とす。黒十四と普通なれば、イに抱へ。故に確れば、普通は大場に先着す。



【六一一〇】
常形
白十一なれば、黒十二の綿をキカシ、次に十四と抱へる手善し。

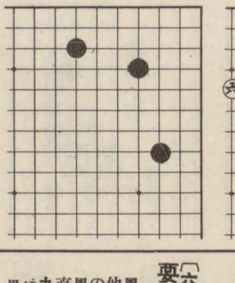


【六一一一】
常形
黒四なれば、白は九に先だつて五、七と打つべし。（猶此變化は二四三圖以下參照）



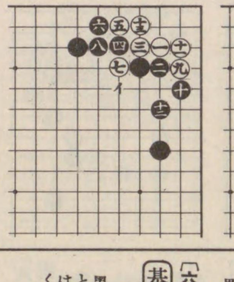
【六一一二】
要點約言
（第九五型ハ、ニ）

黒●とある形に他方●とある又はロの拓き、更にイは多くは多くも好まず。尤も白ハは、直ちに六〇九八圖以下の如く黒も其結果惡しからず。



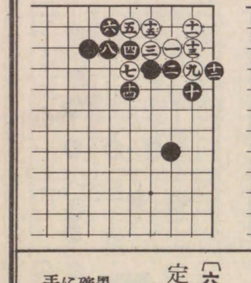
【六一一三】
基本圖
（第九五型ホ）

黒一方●、他方●と星下に拓し形は、實戰に最も多く見る圖なり。

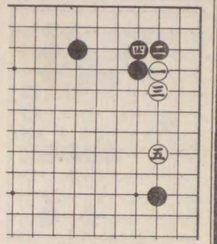


【六一一四】
定石
此變化は五八九六圖以下參照

黒十六と打てば、確なれども、黒●故に、之は手を抜くも宜し。

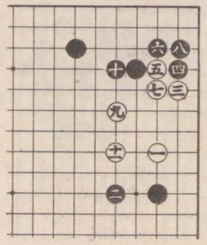


〔六一一五〕
定石



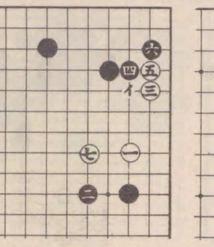
勝橋本宇太郎五段
先渡邊英夫三段
兩氏の實戰圖。
黒一も定法なれど、之は白に二と締れる故に多く黒好まず。

〔六一一六〕
常形



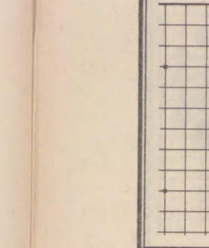
先番井上一郎四段
勝高橋重行四段
兩氏の打掛にあり。

〔六一一七〕
常形



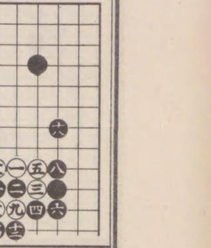
黒四、六と壁を築きて、纔の生きに比す。されど、治白も亦好。形を得ぬ物に表裏あり。一得失は免れ難し。

〔六一一八〕
常形



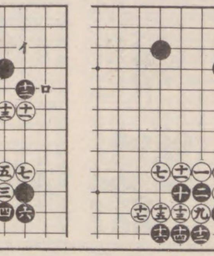
白一、三定法なり。黒二は隅を堅むるも、此形を彼我共に布いて堂々の陣を張るの一得あり。（白三にて一九圖以下參照）

〔六一一九〕
定石



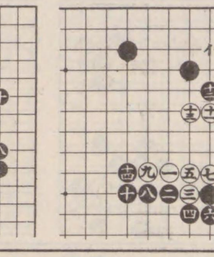
圖の黒一と約へる變化は三九四九圖以下參照。又、黒二を三に約へる變化は三九六一圖以下參照。

〔六一二〇〕
黒術中に陷る



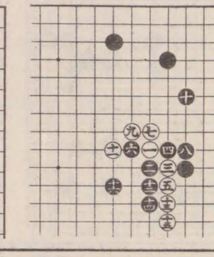
白は一と高きに據りて俯瞰す。黒二は凡庸、闘志を缺く。緩しては、黒の二に至つて重複せり。此形、白に重複せり。此形、白イ黒ロ白ハと逃出す手あり。

〔六一二一〕
白善し



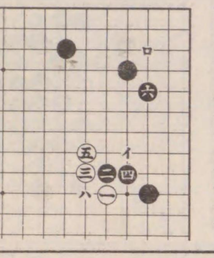
黒二と隅を防衛す。嗟乎、順みて他衛を顧みざるの態、吾れ解せざる所なり。白乃ち三に進み、黒四の時、白五に飛ぶ。鋭きこと能はず。白九と打込まれては、黒の損大なり。白一と高く構へて黒の地を制限し、白の勢力を増すこと凡そ十目以上。黒イと防ぎ得しも、その代り十まで長這を強ひらるる。加之、白ロの打込み殘れり。

〔六一二二〕
黒の形稍低し



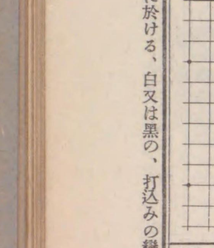
黒二の次四。即ち、白イと打込まるゝ手は防ぎ得しも、その代り十まで長這を強ひらるる。加之、白ロの打込み殘れり。

〔六一二三〕
白の形善し



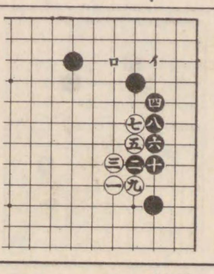
白九は十四に切て戰ふ手もあり。（次圖）

〔六一二四〕
場合による



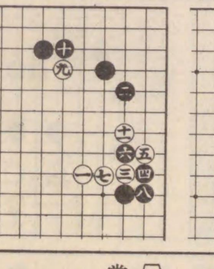
白九と強く切るや、野呂と渡る腰風一陣！叫喚の聲天地に谺して、亂撃始まる。即ち、白にイ（前圖）又は九を自由に擇ばるゝだけに、黒の六、八、面白からず。

〔六一二五〕
征如何による



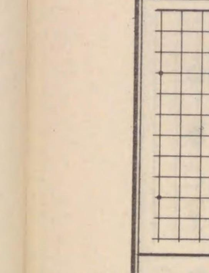
黒二、四と、蹴起して白を邀撃す、意氣や豪！蓋し、此に打ち、白イと打込まるゝや、黒は十段。但し、白ヌで一段。と逃げ得ざるに從ふべし。

〔六一二六〕
常形



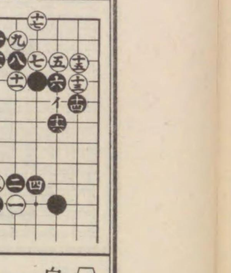
黒四は、前圖征の場合の手段にて、白イに斜走し、白を隅に打込まるゝや、黒は一段下を隔て伐つた作戰も面白し。

〔六一二七〕
劫材の如何



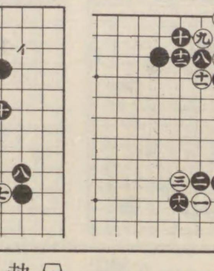
黒六、八は、稍無理筋なれど、征と劫材數に關係あり。此形、白劫材足らざれば、白ヌを九に打ち、黒イと劫ふ手段なり。

〔六一三六〕
劫材の如何



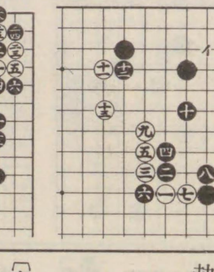
此形次に黒イに出れば白ロ。又黒イをロなれば、白イを黒ハ白ニの劫。

〔六一三七〕
白の形善し



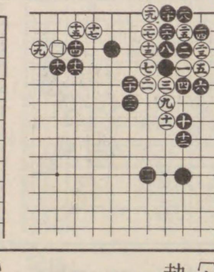
黒十六を、若しイに切れば、白十七に黒ロ、白十九、黒ニ、白ホにて大劫なり。

〔六一三八〕
白面白し



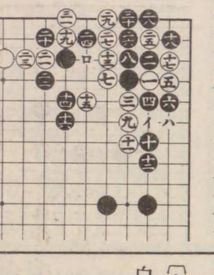
前圖を黒四より變化す。白一以下は場合による手段にて、白九以下の棋移饒麗なり。

〔六一三五〕
白手段面白し



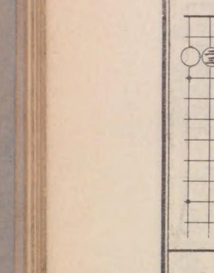
久保松勝喜代六段
井上一郎三段
二子一番
兩氏の打掛。黒四の時、白五の押し面白し。白外を厚くして後、白イの打込を狙ふ手段なり。

〔六一三三〕
白面白き形也



宮坂栄二六段
小島春一三段
二子一番
當時黒■及び白□の形。白一は、猛鷲の羽撃して下に、白一ある一三は、絶！白有終の美を濟す。

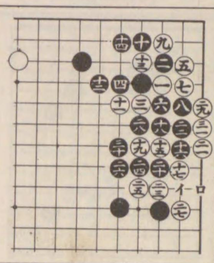
〔六一三四〕
白善し



前圖十四の變化。黒六を白七に黒イ、白ロに黒十三と切れば、白十五に黒十一、白有利。黒十を白ハなれば、白ロ。黒ニ、白ホ。黒ハ、白ロ。黒ニ、白ホ。黒ハ、白ロ。黒ニ、白ホ。黒ハ

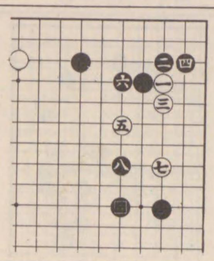
〔六一三九〕
場合による

此形若し白に劫材あれば、白二五を二八、黒イ、白ロと、前々圖の如く劫とすべし。



〔六一四〇〕
黒手段に窮す

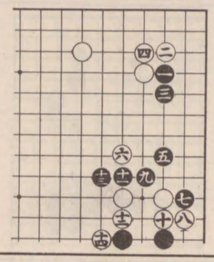
白三、此場合好まずして、圖の如くなつては、黒㊀の一子は活力躍動し、相俟つて、鈎形は高地に據つている敵陣の際を俯瞰するが如し。白、恂々たり。



〔六一四一〕
參考圖

勝瀬越憲作七段
渡邊英夫三段

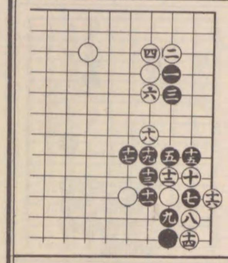
黒三の時、白四と粘く手もあり。黒七、二の弱石を救ふ應急の手段としては、此附盤十、九、手筋。白十、十二、十四と振替りしは、棋移り最も善し。



〔六一四二〕
場合の手段

勝宮坂棠二六段
先林德藏四段

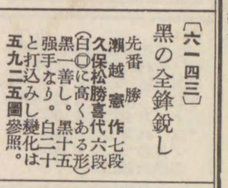
兩氏の對局。



〔六一四三〕
黒の全鋒鋭し

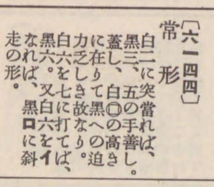
先番勝瀬越憲作七段
久保松勝喜代六段

黒一善し。白□に高く形と打込みし變化は十五圖參照。



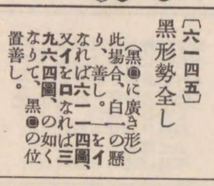
〔六一四四〕
常形

白二に突當れば、五の手當し、蓋し、白□の高きに在りて故なり。黒六を七に打てば、白六を□に斜に走の形。又白六をイとなれば、黒ロの如く置き善し。



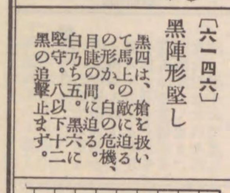
〔六一四五〕
黒形勢全し

（黒㊀に廣き形の懸り、此場合、白一をイとなれば、六一、四圖、又イと、九六、四圖、黒㊀の如くなりて善し。



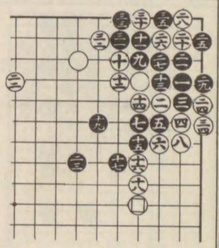
〔六一四六〕
黒陣形堅し

黒四は、捨を扱いて馬上の形か。白の目論見乃ち五の間に白の迫る。黒六に守。八以下十二に堅の追撃止まず。



〔六一四七〕
白の形好まず

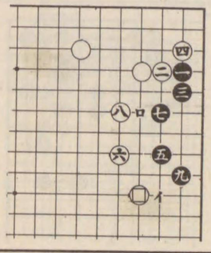
白七、九面白からず。斯かる打方は、四の一目を取つて、却て形惡し。



〔六一四八〕
白厚く善し

勝加藤信七段
先番藤田豊次郎四段

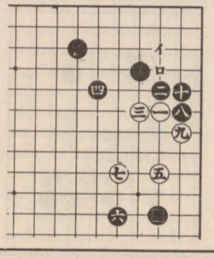
兩氏の對局。白六以下二十と綿込みまで、上を厚くする手段にて而白し。（一八〇圖參照）



〔六一四九〕
黒確なり

先鈴木知策五段
奥貫知清四段

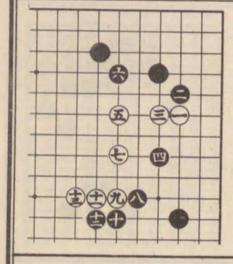
兩氏の對局。黒十六手強くして良し。（一七八二圖參照）白十九を、黒イなれば、黒ロ、次に白ハの切を狙ふ。



〔六一五〇〕
場合の手段

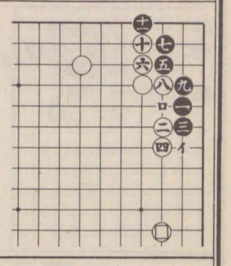
先番勝著者七段
野澤竹朝七段

黒の實戰圖。



〔六一五一〕
黒有利の分れ

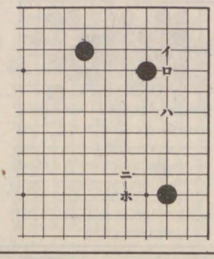
白□のある時二と掛るは、イが□の損なり。故に白二と掛明きとなりて、□の價値減ずる。又白二をロに尖附ける變化は四一二〇圖參照。



〔六一五二〕
要點約言

（第九四型ホ）

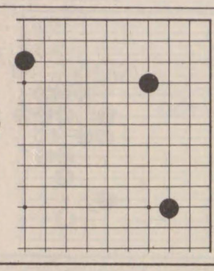
此形白イの打込は六一、四圖、ロは三九、六四圖、又ハなれば黒は□にて實に良し。但し白が□或はニと輕く放しは時は、種々の變化あり。



〔六一五三〕
基本圖

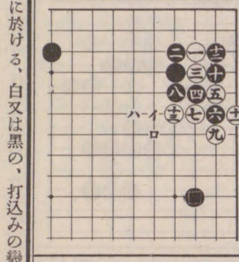
（第九五型ヘ）

黒は双方の星下に廣く拓たるを、勘翼の陣形にして、實戰に常に見る形なり。



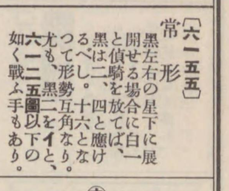
〔六一五四〕
定石

白十三までは定石。次に黒はイに綿ねる。白ロ、黒ハイと行びる。又白宜しくは黒を甚だしく碁として着手するも善し。



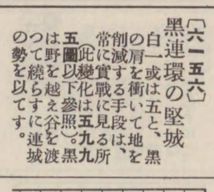
〔六一五五〕
常形

黒左右の星下に展開せる場合に、白一と黒は二、四と應けつべし。十六となつても、尤も黒二を□と、六二圖以下の如く戰ふ手もあり。



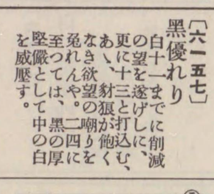
〔六一五六〕
黒連環の堅城

白一、或は五と黒の肩を衝いて地を削に減する手は、常に見る所實戰に此變化は五圖下參照。黒九、五野を越え谷を渡つて繞らすに連城の勢を以てす。



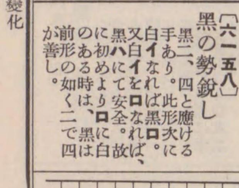
〔六一五七〕
黒優れり

白十一まで更に十三と打込むも、なき欲が狙が鉤なき望が欲しや。二四に至つては、黒の白厚を威壓す。



〔六一五八〕
黒の勢鋭し

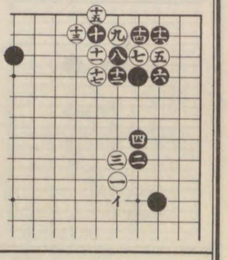
黒二、四と應ける手あり。此形次に白イなれば黒ロ。又白イなれば、黒ハにて安全。故に白は前の如く二で四が善し。



〔六一五九〕
場合による

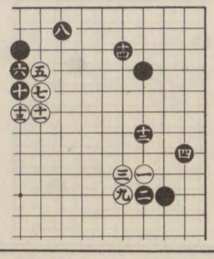
先小島春一四段
勝久保松勝喜代六段

兩氏の對局。白二、四及び十八に低く、且つ隅に打込殘れる故に好まず。



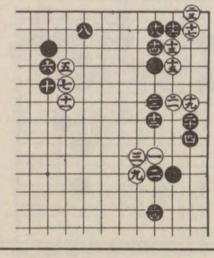
〔六一六〇〕
黒堅實但緩し

白一なれば、黒は無論●と呼應して二、四と、攻立つべし。黒十は確な攻手なれど、普通の場合は急に攻むるの厚を以て緩し。



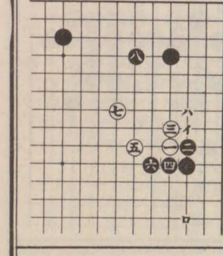
〔六一六一〕
白潰滅の形

黒十手強し。白は小活に與へて外面の厚を導きへ九に厚を十八に仰せ天一撃一、尤も善し。白は三十の場合は急に攻むるの十段に打つべし。



〔六一六二〕
白軍潰亂す

白十九と決死して出づるも、志遂げず。然かも成功作戰に因に十九に粘げば二、黒イに三に白魚遂に網に入るべし。



【六一六三】
黒實利を得
白二一を二一へなれば、黒二一、白イ、黒ロにて前圖と略同じ。

【六一六四】
場合による
勝 長谷川章當時四段
先番向井一男四段
白二、四、可。白二四となれば黒一白八黒九となる。即ち、前圖イの三間合とは形勢異れり。

【六一六五】
黒有利の分れ
三子 關山利一四段
勝 松浦某
兩氏の對局。此圖は白□の大々斜走懸り。黒◉に應けし形なり。白七は手筋なり。黒十七は手筋に似て却て好まず。

【六一六六】
互角
（前圖の變化）
黒十二をイと綰れば、白ロ、黒十四、白十二の綰、黒十七、十九善し。

【六一六七】
黒陥に落つ
白は十五の切りを含んで十一と顧みて他を伐つ。黒は十二、白は十四の失に、惜しむべし。白に名を成さしむべし。（黒八を十五に粘ぐ變化は六〇九二圖參照）

【六一六八】
白の侵略妙也
本因坊秀哉九段
柴田默庵三段
兩氏の對局に出でたり。

【六一六九】
要點約言
（第九五型ヘの打込みか、第九六型イの打ち形、白はロと打つふ隅の打込みを狙ひ、ハと肩を衝かしく、黒ホ白ヘ黒トにて、白愚し。

【六一七〇】
基本圖
（第九六型）
星より黒◉に一間に締る形は、イの大斜に走と共に、實戰には最も多し。

【六一七一】
基本圖
（第九六型イの一）
白□に懸り、黒が◉の一間應けよりイと星下に拓く定法な形は、置碁の定法なりと。次に白よりロに、圍ひに打込む手に、いろはの三點あり。

【六一七二】
基本圖
（第九六型イの一）
黒◉に拓のある場合、白は一の打込み定法なり。

【六一七三】
定石
既にして白七に至る。黒は此時、手抜きして他に打つも宜しく、又イに打つも宜しく、大腹の翼を擴げて中原の形勢を志すも善し。

【六一七四】
常形
黒三に約へる變化あり。（隅の六九七圖以下參照）

【六一七五】
互角の形勢
白十四を手抜き死。黒十二に到つては、白ロ中の一眼や白ロの一眼ち。即ち黒ハ、白ニ、黒ホ、白ヘ、黒ト、白チ、黒リ、白ヌ、黒ルにて、白イ、黒ロ、白ハ、黒ニ、白ホ、黒ヘ、白ト、黒チ、白リ、黒ヌ、白ル。

【六一七六】
黒勝
白十八、無謀か無知か。爲に黒十九以下の猛撃を受けて、白惨死せり。十八位置は、然に粘ぐ、其時は黒の曲りの勢善し。

【六一七七】
黒中原を壓す
その昔、帝政ロシアがバルカン進出策を拋棄して極東に向ひ如く、黒前圖の策を棄てゝ、七に方轉換をなす。此策戰も、時に面白し。

【六一七八】
黒の形善し
白八の時、黒が後に十三と附ける便宜をかねて九一と手筋。黒十一は手善し。此形五七〇四圖以下にあり、參照。

【六一七九】
黒確なり
白十二なれば、黒は十三と、兩翼を治め起つて、猛撃を斯く打つて白を重く、十七に切る手段可なり。

【六一八〇】
定石
黒◉にある場合は、手段ぐ白五。之れ以下白九と走りては黒が七一と七四圖の如く妨げ、附け◉の黒の效果を殺ぐ手段なり。

【六一八一】
常形
白十をイと黒ロに受けば、又白十一ハ、黒ニ、白ホなれば、黒ヘ。何れも厚く黒實。此形も抱へ。白は中途の弱石を重ねむ。

【六一八二】
白術中に陥る
白十二、十四、打過ぎ。黒十五善し、此一撃に、白の陣形乱に亂れ、黒二一、二五の好順に、隅の白全に活きず。

【六一八三】
白の形崩る
黒二一は手筋、此一着にて黒の妙機。油然と七に至つては、白は生ずに似て、四分の五裂、優然と集つが如し。

【六一八四】
活形白好まず
白二悪し、前圖變化の如く四の一と打つて、而も外勢を損はざりの手段感ずべし。

【六一八五】
參考圖
先番 瀬越憲作七段
勝 小野田千代太郎六段
黒一と打込み、以下は九、十一と打つて、而も外勢を損はざりの手段感ずべし。

【六一八六】
要點約言
（第九六型イの一）
黒四で二は、先手を取つて、他に轉ずる手段と、ロより約へて白を隔てゝ外勢をみる手段とあり。但し、黒は◉のある時はイ通形なり。